

令和3年度昼間スクーリング(前期)開講講座一覧

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
火	1	AB11	心理学 A	白川 真裕	2	B12100	心理学	×		1年	
		AB12	社会学 A	服部 慶亘	2	B11600	社会学	×		1年	
		AB13	英語 A	塚田 英博	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
	AB14	経営学 A	山田 敏之	2	S20200	経営学	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。・上記以外は2学年以上申込可。	
	2	AB21	心理学 B	白川 真裕	2	B12100	心理学	×		1年	
		AB22	日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史	×		2年	
		AB23	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	佐藤 高尚	2	L311S0	政治学特殊講義Ⅰ	×		2年	・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						L312S0	政治学特殊講義Ⅱ				
		AB24	国文学基礎演習	野口 恵子	1	M317S0	国文学基礎演習	×	○	2年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。
		AB25	英米文学演習 A	塚田 英博	1	N404S0	英米文学演習Ⅰ	×	○	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						N405S0	英米文学演習Ⅱ				
						N406S0	英米文学演習Ⅲ				
		AB26	経済学概論 A	大塚 友美	2	R20300	経済学概論	×		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
		AB27	経済学史／経済学説史	塚本 隆夫	2	R30100	経済学史	×		2年	・文理学部、経済学部、商学部のみ申込可。
	L31300					経済学説史				・法学部のみ申込可。	
	AB28	中小企業論	階戸 照雄	2	S32700	中小企業論	×		2年		
	AB29	マーケティング A	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×		2年		
	3	AB31	経済学 A	大塚 友美	2	B11800	経済学	×		1年	
		AB32	英語 B	アレックス ブラウン	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AB33	日本史演習Ⅰ・Ⅱ	鍋本 由徳	1	Q401S0	日本史演習Ⅰ	×	○	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						Q402S0	日本史演習Ⅱ				
		AB34	経済原論／経済学原論 A	陸 亦群	2	R20100	経済原論	×		※	・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。
						L20200	経済学原論				・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。
		AB35	中国経済論	崔 晨	2	R313S0	中国経済論	×		2年	
		AB36	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論	×		2年	
		AB37	広告論 A	雨宮 史卓	2	S30900	広告論	×		2年	
		AB38	金融論	谷川 孝美	2	R31800	金融論	×		2年	
		AB39	国文学演習	鈴木 雅裕	1	M404S0	国文学演習Ⅰ	×		3年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅵのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
	M405S0					国文学演習Ⅱ					
	M406S0					国文学演習Ⅲ					
	M407S0					国文学演習Ⅳ					
	M408S0					国文学演習Ⅴ					
	M409S0					国文学演習Ⅵ					
	4	AB41	哲学 A	江川 晃	2	B10700	哲学	×		1年	
		AB42	文化史 A	渡邊 浩史	2	B11200	文化史	×		1年	
		AB43	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	2	M311S0	国文学特殊講義Ⅰ	×		2年	・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						M312S0	国文学特殊講義Ⅱ				
		AB44	経済史総論 A	飯島 正義	2	R20200	経済史総論	×		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
		AB45	商学総論 A	小泉 徹	2	S20100	商学総論	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
	5	AB51	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉 明子	1	F10100	中国語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						F10200	中国語Ⅱ				
		AB52	スピーチコミュニケーションⅠ	アレックス ブラウン	1	N30900	スピーチコミュニケーションⅠ	×		2年	
		AB53	哲学特殊講義	江川 晃	2	P30100	哲学特殊講義	×		2年	#N/A
		AB54	東洋史演習Ⅰ・Ⅱ	高綱 博文	1	Q403S0	東洋史演習Ⅰ	×	○	3年	・史学専攻のみ申込可。・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記
						Q404S0	東洋史演習Ⅱ				
	AB55	商学総論 B	小泉 徹	2	S20100	商学総論	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	

※「対面」欄に○が入っている講座は対面授業実施予定講座です。それ以外は全てオンデマンド配信による開講となります。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学 A〕

白川 真裕

- ◆**授業概要** 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらう。
- ◆**学習到達目標** 心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得する。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。授業動画を視聴してから、毎回の課題を提出する。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめること。アクティブ・ラーニングとして、心理学に関する実験の一部を体験してもらうことがある。課題のフィードバックや質問対応は主に Classroom 上で行う。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** **資料配布 (Classroom)** 教科書は使用しない。毎回 Classroom 上で授業資料を配布する。その他、必要に応じて Classroom 上で参考資料の案内を行う。
- ◆**参考書** **丸沼**『心理学』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第5版 東京大学出版会 2015
丸沼『心理学の基礎』山田一成・谷口明子 八千代出版 2014
丸沼『認知心理学 知のアーキテクチャを探る』道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子黒沢学 有斐閣 2003 (または、同 新版 2011)
- ◆**成績評価基準** 毎回の授業で課題を実施する (全体の 20%)。第 15 回に授業内試験を実施する (全体の 80%)。すべて出席していることを前提として評価する (課題の提出が出席を兼ねる)。
- ◆**授業相談 (連絡先)**: Classroom 上にて行う。詳細や、変更がある場合には、Classroom 上で指示する。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容	ガイダンス、心理学のさまざまな分野
	事前学修	シラバスの内容をよく確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
2 回	授業内容	心理学とは
	事前学修	心理学とはなにか、心とはなにかについて自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
3 回	授業内容	感覚・知覚 1：さまざまな感覚
	事前学修	人間の持つ感覚にはどのようなものがあるか、またその感覚から人間はどのような情報を得ているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
4 回	授業内容	感覚・知覚 2：知覚の適応性と錯視
	事前学修	錯視について、自分なりに調べておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
5 回	授業内容	感覚・知覚 3：かたちの知覚と奥行き知覚
	事前学修	第 3 回・第 4 回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
6 回	授業内容	高次知覚と初期認知
	事前学修	前回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
7 回	授業内容	注意：注意の理論とメカニズム
	事前学修	自動車等の運転中の通話や歩きスマホがなぜ危険だと考えられるのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
8 回	授業内容	記憶 1：記憶の理論とメカニズム
	事前学修	記憶とはどのようなものか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
9 回	授業内容	記憶 2：記憶の種類と特徴
	事前学修	効率よく記憶するために、どのような工夫ができるか (しているか)、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
10 回	授業内容	学習 1：学習の理論とメカニズム
	事前学修	学習にはどのようなタイプがあるか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授業内容	学習 2：効率的な学習方法
	事前学修	効率よく学習するために、どのような工夫ができるか (しているか)、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授業内容	思考・言語 1：思考の発達と言語
	事前学修	人間は、普段どのくらい論理的に思考をしているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授業内容	思考・言語 2：人間の思考の特徴
	事前学修	配布資料 3 ページ目の問題を解いておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。

14 回	授業内容	振り返りとまとめ
	事前学修	これまでの授業内容を再確認しておく。
	事後学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授業内容	理解度の確認（試験）とまとめ
	事前学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
	事後学修	これまでの授業内容を復習し、自分の回答が適切か確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔社会学 A〕

服部 慶亘

◆**授業概要** 人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。担当者が中学・高校の教員として学校生活や進路選択に悩む生徒たちに触れた経験や、担当者自身の人生経験を理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「人間とストレス」というテーマについて考えてゆく。

◆**学修到達目標** 「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？ そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会（科）学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。

◆**授業方法** GoogleClassroom を介したオンデマンド授業となるが、教科書・プリントなどを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて音楽や映像作品、マンガなど視聴覚資料を別途用意する。また、オンデマンドではあるが、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆**履修条件** 同時期（前期）開講の「社会学B」との積み重ね履修不可。

◆**教科書** 丸沼『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか）学文社 1999
丸沼『改訂ストレス・スパイラル』服部慶亘 新協（ジャパン・プレス・フォト）2020
※すでに『補強版ストレス・スパイラル』を所有している人は、それを使用します。

◆**参考書** 資料配布（Classroom）プリント配布（GoogleClassroom 使用時）

◆**成績評価基準** オンデマンド授業になるので、講義用動画の配信後に毎回「課題」の提出が求められる。（50%）
15 回の授業後、「最終課題」が提示される。（50%）
なお、「課題」の未提出があると GoogleClassroom のシステム上「相当な」減点処理が為されるので、気をつけること。

◆**授業相談（連絡先）**：オンデマンド授業の際は、GoogleClassroom の「限定公開コメント欄」を使用する。
全期間通じて E メール（hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jp）での対応も可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：前期ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する） 事前学修：シラバスと講義用資料を読んで、講義の目的・目標を理解する。 事後学修：テキストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2 回	授業内容：状況（情況）判断① 「レディネス」(readiness) について 事前学修：前回の講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3 回	授業内容：状況（情況）判断② 疑似環境と状況（情況）的影響 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4 回	授業内容：社会的自我① 鏡に映った自我 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5 回	授業内容：社会的自我② 主我と客我、そして Let It Go 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6 回	授業内容：社会的自我③ 行為と行動 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7 回	授業内容：状況（情況）判断と社会的自我 コロナ禍の世界を生きること 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8 回	授業内容：社会的動物としての人間① 「社会」とは？ 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
9 回	授業内容：社会的動物としての人間② 「福祉」的早産 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10 回	授業内容：社会的動物としての人間③ 生理的早産 事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11 回	授業内容：社会的動物としての人間（特別篇） SNS と社会問題 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12 回	授業内容：ストレスと社会① ストレス (stress) の理解 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13 回	授業内容：ストレスと社会② リセット／リロード、防衛機制 事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。 事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。

14 回	授業内容	ストレスと社会③ 日本人が好意的に受け容れる「絆」について考える
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
15 回	授業内容	理解度確認（まとめ）
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。
	事後学修	「最終課題」に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 A（初級）〕

塚田 英博

◆**授業概要** 英文法を確認しながら、英文を正確に解釈し、その事項をアウトプットとしても効果をあげられることを目的とする。英文構造を土台に、英語圏の人々の思考形式も考慮に入れながら、英文を解釈していく。

◆**学修到達目標** 1. 英文の構造を認識し、英文に込められた表現内容を習得できる。
2. 英語表現に呼応した文章のリスニングができるようになる。
3. 英文法に沿った英語表現を明記できるようになる。

◆**授業方法** オンデマンド形式により授業を実施する。ディクテーション課題を毎回提出してもらう。また、文法項目の解説を踏まえて、文法問題の課題提出も実施する。

1. 授業実施日の3日前（毎週土曜日を予定）まで、各自課題を提出。（課題は、リスニング、文法事項、内容把握等。Google Classroom 内での、Google フォームによる提出を予定）
2. 授業では、提出してもらった課題解説と次回の文法事項の解説を実施。

◆**履修条件**

◆**教科書** 丸沼 Hello New York! (『映像で学ぶはじめてのNY ホームステイ』) 土屋武久 金星堂

◆**参考書**

◆**成績評価基準** 授業参画度（10%）、文法課題提出（20%）、ディクテーション及び内容把握課題（20%）、試験（50%） 毎回参加することを前提に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス： 授業の進め方、課題に関する説明をする。 事前学修：テキスト内の 'Grammar Focus' で取り上げられている文法事項をチェックし、苦手な項目、理解できていない項目を確認すること。予め音声ファイルをダウンロードしておくこと。 事後学修：次回からの予習方法と予習箇所を確認すること。
2 回	授業内容：SCENE 1 の演習、解説。 事前学修：SCENE 1 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 1 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
3 回	授業内容：SCENE 2 の演習、解説。 事前学修：SCENE 2 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 2 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
4 回	授業内容：SCENE 4 の演習、解説。 事前学修：SCENE 4 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 4 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
5 回	授業内容：SCENE 5 の演習、解説。 事前学修：SCENE 5 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 5 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
6 回	授業内容：SCENE 7 の演習、解説。 事前学修：SCENE 7 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 8 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
7 回	授業内容：前半のまとめ 事前学修：これまでの SCENE で学んだことを復習すること 事後学修：これまでの SCENE で学んだことの中で、理解が不十分であった箇所をチェックすること
8 回	授業内容：SCENE 8 の演習、解説。 事前学修：SCENE 8 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 8 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
9 回	授業内容：SCENE 9 の演習、解説。 事前学修：SCENE 9 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 9 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
10 回	授業内容：SCENE 11 の演習、解説。 事前学修：SCENE 11 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 11 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
11 回	授業内容：SCENE 12 の演習、解説。 事前学修：SCENE 12 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 12 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
12 回	授業内容：SCENE 13 の演習、解説。 事前学修：SCENE 13 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 13 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
13 回	授業内容：SCENE 14 の演習、解説。 事前学修：SCENE 14 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 14 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。
14 回	授業内容：SCENE 15 の演習、解説。 事前学修：SCENE 15 'Grammar Focus', 'Let's Watch!', 'Check Your Understanding', に関する課題実施 事後学修：SCENE 15 において理解が不十分であった箇所をノートなどを活用し確認すること。

15 回	授業内容	後半のまとめ
	事前学修	これまでの SCENE で学んだことを復習すること
	事後学修	これまでの SCENE で学んだことの中で、理解が不十分であった個所をチェックすること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経営学 A〕

山田 敏之

◆**授業概要** 企業は我々の生活と密接に結びつく必要不可欠な存在です。本講義では、経営学の全体像と基礎的な考え方・方法論の解明に焦点を当てます。前期は企業の基本的目的や仕組み、本質的活動、経営学の特徴と発展、モチベーション、リーダーシップ、チーム・マネジメント等のテーマを取り上げます。財団法人機械振興協会経済研究所での調査研究の経験を基に、経営学の理論の理解を深めるため、具体例を用いて講義に反映させています。

◆**学修到達目標** 1. 新聞、雑誌、ニュース等で扱われる現実の企業行動を経営学の多角的な視点から分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。
2. 企業活動の本質を理解した上で、現代企業が直面する諸課題について分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。
3. モチベーション、リーダーシップ、チーム・マネジメント等の理論や手法を用いて、個人の創造性発揮、チーム業績への貢献等の問題を分析し、自分の言葉で説明しながら、討議できる。

◆**授業方法** 音声付き動画の配信によるオンデマンド授業になります。授業動画は毎回 1 テーマごとに完結しています。一度の視聴で分からなかった内容の動画は、重点的に繰り返し視聴してください。また、指定したテキストの該当箇所も提示します。それでも不明な点についての質問は随時受け付けます。私のメールアドレス zgok@ic.daito.ac.jp にお送り頂くと迅速な回答ができますと思います。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『経営学入門 [上] (第2版)』 榊原清則 日本経済新聞出版社

◆**参考書** 丸沼『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』 十川廣國 中央経済社
丸沼『経営学イノベーション3 経営組織論 第2版』 十川廣國編著 中央経済社
丸沼『経営学イノベーション2 経営戦略論 第2版』 十川廣國編著 中央経済社

◆**成績評価基準** オンデマンド授業で出される課題は評価対象ですので、全て提出してください（課題：100%）。全て出席していることを前提として評価します。なお、オンデマンド授業の場合、課題の提出が出席を兼ねています。

◆**授業相談（連絡先）**：授業等で何か分からない点、質問などあれば、zgok@ic.daito.ac.jp まで連絡してください。

◆**授業計画 [各 90 分]**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	イントロダクション：授業の進め方、評価、経営学とは何か？まずは、本授業の進め方や評価方法等について説明する。次に、経営学とはどのような学問なのか、何を知ることができるのか、等について解説する。 テキスト 13 ～ 17 頁の「企業を対象とする学」をよく読んでおくこと。 授業内容をノートにまとめ、テキストの該当部分を復習し、授業内容を理解しておくこと。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の誕生と形態（タイプ） 企業の誕生を歴史的に振り返ると同時に、様々な企業形態の特徴について説明する。 テキスト 20 ～ 28 頁を読み「組織としての企業」の性質を把握しておくこと。 具体的な企業の事例を挙げ、企業の様々な形態と特質を理解しておくこと。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の本質的活動と社会的責任 企業の基本的な目的及び本質的活動としてイノベーションの活動を説明し、その基盤となる企業の社会的責任の本質について解説する。 具体的なステークホルダーを挙げ、それぞれが企業に行う要求の内容を調べておくこと。 授業の内容をノートにまとめると共に、企業の社会的責任に関する具体的な事例を調べておくこと。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	現代企業を取り巻く環境 現代企業を取り巻くマクロ環境について、経済要因、社会的要因、政治・法律的要因、技術的要因の 4 つの観点から説明する。 企業を取り巻くマクロ環境について、具体的な事例を探しておくこと。 授業の内容をノートに整理し、企業を取り巻く 4 つのマクロ環境の現代的な特徴について確認しておくこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	企業の仕組みと運営機関：コーポレート・ガバナンス 株式会社の仕組みと運営のための機関（株主総会、取締役会、監査役会等）について解説し、コーポレート・ガバナンスのあり方を議論する。 前回の授業のノートを確認し、コーポレート・ガバナンスという言葉の意味を調べておくこと。 授業の内容をノートに整理し、株式会社の仕組みや運営機関について理解すると同時に、最近のコーポレート・ガバナンスにおける実際の企業の事例を探し問題点を説明できるようにしておくこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	経営者の仕事と役割 経営トップに固有な仕事とは何か、という点を踏まえた上で、伝統的な経営トップの役割と現代的な経営トップの役割の違いについて解説する。 前回の授業のノートを確認し、興味がある会社の経営トップの発言等を調べておくこと。 授業の内容をノートに整理し、経営トップにしかできない仕事とは何か、伝統的な経営トップと現代的な経営トップの役割の違いを説明できるようにしておくこと。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	経営学理論の歴史的変遷 経営学理論の発展について、テイラーの科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論、バーナード・サイモンの近代的組織理論を中心に概説する。 前回の授業のノートを確認し、テイラーとはどのような人物なのか調べておくこと。 授業の内容をノートに整理し、経営学の古典的な理論の流れと視点の移行について理解しておくこと。さらに、現代企業の経営において実際に使える部分とそうでない部分を議論できるようにしておくこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	モチベーションの基礎的概念とコンテンツ理論 モチベーションの定義、構成要素、研究の発展を踏まえ、コンテンツ理論として、欲求階層説、X-Y 論、二要因理論等について解説する。 前回の授業のノートを確認し、テキスト 49 ～ 58 頁をよく読んでおくこと。 授業の内容をノートに整理し、モチベーションの基礎的な概念を理解すると同時にモチベーションのコンテンツ理論の代表的理論について説明できるようにしておくこと。

9回	授業内容	モチベーションのプロセス理論 モチベーションのプロセス理論の代表的な理論として、目標管理制度、期待理論を取り上げ、内容、問題点について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト59～60頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、目標管理制度と期待理論の概要、問題点等について理解しておくこと。
10回	授業内容	集団活動の基礎概念 集団（チーム）の定義、タイプ、集団への参加の理由、集団におけるコミュニケーション等、集団活動のマネジメントの基礎的な概念について解説する。
	事前学修	テキスト60～63頁及び68～73頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、集団における活動でパフォーマンスを上げるために必要な基礎的項目について理解しておくこと。
11回	授業内容	集団の意思決定とダイナミクス 集団の意思決定の特性を個人の意思決定との対比で説明すると共に、集団のダイナミクスとして、集団凝集性、同調圧力、集団浅慮を取り上げ解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト64～68頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、集団の意思決定の特徴、集団のダイナミクスの代表的な例として集団凝集性、同調圧力、集団浅慮とはどのような現象か、具体的な事例を基に説明できるようにしておくこと。
12回	授業内容	リーダーシップの基礎的な概念と資質理論 リーダーシップの定義、リーダーシップの機能、リーダーシップの役割の変化、リーダーシップ研究の変遷等の基礎的な概念の説明を踏まえ、リーダーシップの資質理論の概要と問題点について解説する。
	事前学修	テキスト74～75頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、リーダーシップの基礎的な概念及びリーダーシップの資質理論に関する概要と問題点を説明できるようにしておくこと。
13回	授業内容	リーダーシップの行動理論 リーダーシップの行動理論の代表的な理論として、アイオワ研究、ミシガン研究、オハイオ研究を取り上げ、研究目的、結果、特徴、問題点等について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト75～76頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、リーダーシップの行動理論としてアイオワ研究、ミシガン研究、オハイオ研究の概要、問題点等を説明できるようにしておくこと。
14回	授業内容	リーダーシップのコンティンジェンシー理論 リーダーシップのコンティンジェンシー理論の代表的な理論として、フィードラー理論、SL理論、パス・ゴール理論を取り上げ、研究目的、結果、特徴、問題点等について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト76～79頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、コンティンジェンシー理論としてフィードラー理論、SL理論、パス・ゴール理論の概要、問題点等を説明できるようにしておくこと。
15回	授業内容	最終課題の提出及び解説
	事前学修	作成した授業のノート、テキストを復習し、これまでの学習内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容を再度確認・理解し、自己の学習成果を点検すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学 B〕

白川 真裕

- ◆**授業概要** 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらう。
- ◆**学習到達目標** 心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得する。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。授業動画を視聴してから、毎回の課題を提出する。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめること。アクティブ・ラーニングとして、心理学に関する実験の一部を体験してもらうことがある。課題のフィードバックや質問対応は主に Classroom 上で行う。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 資料配布 (Classroom) 教科書は使用しない。毎回 Classroom 上で授業資料を配布する。その他、必要に応じて Classroom 上で参考資料の案内を行う。
- ◆**参考書** 丸沼『心理学』鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第5版 東京大学出版会 2015
丸沼『心理学の基礎』山田一成・谷口明子 八千代出版 2014
丸沼『認知心理学 知のアーキテクチャを探る』道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子黒沢学 有斐閣 2003 (または、同 新版 2011)
- ◆**成績評価基準** 毎回の授業で課題を実施する (全体の 20%)。第 15 回に授業内試験を実施する (全体の 80%)。すべて出席していることを前提として評価する (課題の提出が出席を兼ねる)。
- ◆**授業相談 (連絡先)**: Classroom 上にて行う。詳細や、変更がある場合には、Classroom 上で指示する。
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容	ガイダンス、心理学のさまざまな分野
	事前学修	シラバスの内容をよく確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
2 回	授業内容	心理学とは
	事前学修	心理学とはなにか、心とはなにかについて自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
3 回	授業内容	感覚・知覚 1：さまざまな感覚
	事前学修	人間の持つ感覚にはどのようなものがあるか、またその感覚から人間はどのような情報を得ているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
4 回	授業内容	感覚・知覚 2：知覚の適応性と錯視
	事前学修	錯視について、自分なりに調べておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
5 回	授業内容	感覚・知覚 3：かたちの知覚と奥行き知覚
	事前学修	第 3 回・第 4 回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
6 回	授業内容	高次知覚と初期認知
	事前学修	前回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
7 回	授業内容	注意：注意の理論とメカニズム
	事前学修	自動車等の運転中の通話や歩きスマホがなぜ危険だと考えられるのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
8 回	授業内容	記憶 1：記憶の理論とメカニズム
	事前学修	記憶とはどのようなものか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
9 回	授業内容	記憶 2：記憶の種類と特徴
	事前学修	効率よく記憶するために、どのような工夫ができるか (しているか)、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
10 回	授業内容	学習 1：学習の理論とメカニズム
	事前学修	学習にはどのようなタイプがあるか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授業内容	学習 2：効率的な学習方法
	事前学修	効率よく学習するために、どのような工夫ができるか (しているか)、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授業内容	思考・言語 1：思考の発達と言語
	事前学修	人間は、普段どのくらい論理的に思考をしているのか、自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授業内容	思考・言語 2：人間の思考の特徴
	事前学修	配布資料 3 ページ目の問題を解いておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し、授業の内容をノート等に整理しておく。

14 回	授業内容	振り返りとまとめ
	事前学修	これまでの授業内容を再確認しておく。
	事後学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授業内容	理解度の確認（試験）とまとめ
	事前学修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
	事後学修	これまでの授業内容を復習し、自分の回答が適切か確認する。

〔日本政治史〕

石川 徳幸

- ◆**授業概要** 本講義では、近代日本において展開された政治を通史のかたちで学んでいく。歴史的文脈を正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは必ずしも得策ではないが、便宜上、本講義では幕末から明治前期を対象とする。史料に基づいて通説を批判的に検証しながら、日本における近代国家の形成過程に対する理解を深める。
- ◆**学習到達目標** 歴史を考察するための基本的な方法を理解し、批判的に史料を読むことができる。
幕藩体制が崩壊した過程を、内的要因と外的要因を踏まえて説明することができる。
明治新政府が進めた集権化政策・近代化政策について、具体的に説明することができる。
当時の国際情勢を踏まえて日本が抱えていた条約問題を理解し、条約改正運動の展開を説明することができる。
- ◆**授業方法** 基本的には、通信教育教材（教科書）の章立てに沿うかたちで、史料や最新の研究成果を紹介しながら講義を進める。授業の内容は、あくまでも初学者を対象として構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、かならずノートを用意すること。
- ◆**履修条件** 同じ時代区分を扱った「日本政治史」講座とは積み重ね不可。
具体的には、令和2年度昼間スクーリング（前期）および夏期スクーリング「日本政治史」とは積み重ねて履修することはできない（昼間スクーリング（後期）は扱った時代区分が異なるため、積み重ねが可能）。
- ◆**教科書** **【教材】**『日本政治史 L 30400』
- ◆**参考書** **【その他】** ※必要に応じて、授業のなかで紹介する
- ◆**成績評価基準** 小テスト等の課題に対する積極的な受講態度を加味したうえで（10%）、総括的評価のための試験結果をもとに成績をつける（90%）。授業総数のうち3分の1を超える欠席がある場合は、評価の対象にはならない。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	イントロダクション
	事前学修	シラバスを確認してくること。
	事後学修	ノートの取り方を確認すること。
2 回	授業内容	幕藩体制の動揺
	事前学修	教科書第 1 章第 1 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、幕末期の対外的危機や藩政改革について理解する。
3 回	授業内容	開国
	事前学修	教科書第 1 章第 2 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、安政の五力国条約の歴史的意義を理解する。
4 回	授業内容	尊王攘夷運動
	事前学修	教科書第 2 章第 1 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、尊王攘夷や公武合体の論理を理解する。
5 回	授業内容	幕府権力の衰退
	事前学修	教科書第 2 章第 2 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、八月十八日の政変や長州征討の歴史的意義を理解する。
6 回	授業内容	幕府の終焉①
	事前学修	教科書第 2 章第 3 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、公儀政体論の論理を理解する。
7 回	授業内容	幕府の終焉②
	事前学修	教科書第 2 章第 3 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、大政奉還や王政復古の大号令の歴史的意義を理解する。
8 回	授業内容	新政権の骨格
	事前学修	教科書第 3 章第 1 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、版籍奉還や廃藩置県等の歴史的意義を理解する。
9 回	授業内容	集権化政策
	事前学修	教科書第 3 章第 2 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、藩閥有司政権の統治機構を理解する。
10 回	授業内容	近代化政策
	事前学修	教科書第 3 章第 3 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、地租改正や殖産興業政策の歴史的意義を理解する。
11 回	授業内容	反政府運動
	事前学修	教科書第 4 章第 1 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、明治六年の政変や西南戦争の歴史的意義を理解する。
12 回	授業内容	立憲政治への胎動
	事前学修	教科書第 4 章第 2 節を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、明治十四年の政変の歴史的意義を理解する。
13 回	授業内容	内閣制度の創設
	事前学修	教科書第 4 章第 3 節第 1 項～第 2 項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、内閣制度の制定過程と目的を理解する。
14 回	授業内容	条約改正交渉
	事前学修	教科書第 4 章第 3 節第 3 項～第 5 項を読んでおくこと。
	事後学修	ノートを整理し、条約改正問題と大同団結運動について理解する。

15 回	授業内容	前期の講義内容の総括
	事前学修	ノートを見返し、教科書や参考文献で補うこと。
	事後学修	日本における近代国家の形成過程についてポイントを整理しておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔政治学特殊講義 I・II〕

佐藤 高尚

- ◆**授業概要** 現代の政治を評価する際には、その評価の基礎となる判断基準が不可欠となる。では、どのような判断基準が必要とされるべきなのか——本講では、これを考える手掛かりとなる古今の政治観や政治構想を共同体や国家という政治単位の観点を中心に取り上げ、各時代の問題状況とそれに対する政治的解決策を検討する。加えて、これらの議論が現代の政治を考える上でいかなる意味を持ちうるかを考察する。
- ◆**学修到達目標** ・「政治」および「デモクラシー」の源流ともいえる古典古代の政治観を知り、説明することができる。
・近代の政治観を学び、現代につながる要素を考察することにより、眼前の政治課題や社会問題を多角的に考察できるようになる。
・既存の政治制度や政策の基盤となる考え方、およびその形成過程を知り、政治的選択の多様な可能性を考慮できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式で行う。
また授業中に意見・感想を求める場合がある。直接発言をもとめたり、資料についてペーパーに書いてもらったりすることがある。ペーパーへの講評は、翌回に実施予定。
本授業の事前学習・事後学習は各2時間を目安としている。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** **資料配布 (Classroom)** 講義データ・資料 (PowerPoint, Word, 動画など) を配布予定。
- ◆**参考書** **教材**『政治思想史 L30300』(通信教育教材) (教材コード 000082) *必ずしも購入の必要はないので、ガイダンス時の説明を参考にすること。
- ◆**成績評価基準** オンデマンド授業で出される課題は評価対象であるのですので提出すること (全体の 50%)。対面授業では、授業内小テストが評価対象となる (全体の 50%)。オンデマンド・対面両授業において総合的に評価する。
- ◆**授業相談 (連絡先)** : Classroom 上にて行う。
- ◆**授業計画 [各 90 分]**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス 講義の流れ、評価方法、および教科書・参考書に利用の仕方について説明する。 事前にシラバスを熟読しておくこと。履修上確認しておきたい点をチェックしておくこと。 講義内で紹介した文献を各自手に取り、内容を確認すること。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	古代ギリシャとポリスの政治学 「政治」が誕生する古代ギリシャの政治状況、およびポリスという政治単位の特殊性を考える。 ソクラテス、プラトン、アリストテレスが登場する時期の古代ギリシャの時代状況を調べておくこと。 古代ギリシャの政治の現代的意義を検討する。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	プラトンと政治 プラトンの理想の政体を『ポリテイア』を中心に説明する。 プラトンにおける正義の概念、および「哲人政治」について調べておくこと。 プラトンの議論の問題点、および理論的可能性について検討する。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	アリストテレスの国政論 アリストテレスのポリス認識とともに、彼の六政体論について講義を行う。 「人間はポリス的 (社会) 動物である」の意味を調べておくこと。 プラトンとアリストテレスとの違いを確認しておくこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	ポリスの解体と中世世界 ポリスの政治の終焉と中世キリスト教世界の誕生を、政治的な観点から説明する。 ポリスの政治が維持しえなくなった理由を、理論的側面・歴史的側面の両方から検討しておくこと。 ポリスの世界から中世に移行する際、何が引き継がれ、何が断絶したのかを確認しておくこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	アウグスティヌスと国家 アウグスティヌスの政治権力観を考察するとともに、教会との関係で説明される国家観の特徴について考える。 アウグスティヌスを考える上でのキーワードである「神の国」と「地上の国」を調べておくこと。 非西欧世界・非キリスト教文化圏で、アウグスティヌスを学ぶ意義を検討すること。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	教皇権と皇帝権 中世世界の宗教 (キリスト教) と政治の相克を、グラシウス理論を中心に考える。 「ベテロの鍵」理論と「帝国教会政策」とを調べておくこと。 6・7回の講義内容を整理し、異同を確認しておくこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	封建制と政治秩序 封建制化では「法」がどのような機能を果たしていたのかを検討するとともに、「法の支配」について考察する。 「法の支配」の意味内容について、確認しておくこと。 現代において「法の支配」の議論が再燃している理由を、講義と関連づけて検討すること。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	トマス・アクィナスと普遍世界 トマス・アクィナスの目的論的秩序観を概観し、そこから導出される彼の政体論について講義を行う。 トマス・アクィナスは「共通善」について、どのように考えていたのかを調べておくこと。 「共通善」を現代において考える意義について確認しておくこと。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	普遍的政治世界と政治的特殊性との対峙 ダンテとマルシリオの議論を手掛かりに中世末期の政治課題への対応を説明する。 ダンテとマルシリオ・バードヴァ (バドヴァのマルシリウス) について、どのような人物であったのか、出自や経歴、主要著書などについて調べておくこと。 政治が不安定になる際、どのような選択肢を立てることが可能であるのかを、現代との関連で検討しておくこと。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	公会議主義の政治思想 ローマ教会の権威の衰退を概観した上で、公会議主義が国民国家形成と立憲主義の確立に寄与した側面を検討する。 「教会のバビロン捕囚」と「教会大分裂 (シスマ)」について調べておくこと。 国民意識 (ナショナリズム) の現代的意義と課題を、講義内容と比較して検討すること。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	マキャヴェリと新しい政治観 ルネサンスの政治的意義を考察し、そのつながりのなかで権力と統治術を展開したマキャベリの意義について考察する。 マキャヴェリ『君主論』(翻訳多数あり) を読んでくること。 従来とは異なるマキャヴェリの国家観の特徴を確認しておくこと。

13 回	授業内容	宗教改革と政治 ルターとカルヴァンの政治観を比較検討した上で、「寛容」の議論の登場とその後の展開を跡付ける。
	事前学修	「寛容」の言葉の本来の意味を調べておくこと。
	事後学修	現代においても「寛容」が議論されている理由を、講義と関連づけて検討すること。
14 回	授業内容	内乱と主権の絶対性 モナルコマキとボダンの主権論を中心に考察し、秩序が混乱を極める状況下での政治的選択肢を考える。
	事前学修	「主権」の意味内容について調べておくこと。
	事後学修	「主権」の機能のプラスの面、マイナスの面を確認しておくこと。
15 回	授業内容	講義総括および試験
	事前学修	期全体の講義内容を総復習しておく。
	事後学修	これまでの講義内容を振り返り、政治を学ぶ意義について考える。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学基礎演習〕

野口 恵子

- ◆**授業概要** 国文学の作品を読むとはどのようなことか。単に言葉の意味を調べ、口語訳することではない。何をどのように表現しているのかを読み解くことである。この授業では、学生自ら作者や時代背景、語彙などを様々な読むために必要な調査をしながらそのことを学び、高校までの読みとはいかに異なるのか気付いてもらう。なお前期は、現存する最古の歌集で、「令和」の典拠でもある『万葉集』の作品を取り上げる。
- ◆**学修到達目標** 作品を読むのに必要な基本的な調査方法を取得した上で、その作品の特徴を把握し、自ら論理的に説明することができる。また、他の作品研究に応用できる力も身に付けることができる。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業では、配信している動画は必ず視聴しておくこと。対面授業では、割り当てた作品について学生が自ら調査し、レジュメにしてまとめて口頭発表する。なお、口頭発表は発表者と発表者以外との討論の場であることを理解してもらいたい。従って積極的な質疑応答を求める。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 〔丸〕『訳文 万葉集』 森淳司編 笠間書院 2007 年 1,800 円＋税
- ◆**参考書** 〔丸〕『新編日本古典文学全集』 萬葉集①～④』 小島憲之ほか校注・訳者 1996 年 小学館
- ◆**成績評価基準** 口頭発表 30%, レポート 60%, 授業参画度 10%。なお、オンデマンド授業の内容を理解した上で、対面授業で口頭発表を課すため、口頭発表とレポートは、全ての授業形式において総合的に評価する。加えて、すべて出席していることを前提として評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：メール（noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp）、もしくは classroom 上で受け付ける。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	『万葉集』と授業の進め方の説明する。
	事前学修	『万葉集』がどのような歌集か調べておく。
	事後学修	『万葉集』がどのような歌集か復習しておく。
2 回	授業内容	対象作品の概要と時代背景の説明を行う。
	事前学修	八世紀という時代と律令国家について調べておく。
	事後学修	八世紀という時代と律令国家について復習しておく。
3 回	授業内容	口頭発表にあたっての基本作業の説明 1 と担当する作品の発表を行う。
	事前学修	図書館の利用方法を確認しておく。
	事後学修	実際に図書館に行き、口頭発表に必要な資料を収集する。
4 回	授業内容	口頭発表にあたっての基本作業の説明 2 を行う。
	事前学修	図書館で収集した資料に目を通し、どのような解釈がされているのかを確認する。
	事後学修	口頭発表①担当者はレジュメを作成する。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
5 回	授業内容	受講生による口頭発表①を行う。
	事前学修	口頭発表①担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表①担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表②担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
6 回	授業内容	受講生による口頭発表②を行う。
	事前学修	口頭発表②担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表②担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表③担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
7 回	授業内容	受講生による口頭発表③を行う。
	事前学修	口頭発表③担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表③担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表④担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
8 回	授業内容	受講生による口頭発表④を行う。
	事前学修	口頭発表④担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表④担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑤担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
9 回	授業内容	受講生による口頭発表⑤を行う。
	事前学修	口頭発表⑤担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑤担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑥担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
10 回	授業内容	受講生による口頭発表⑥を行う。
	事前学修	口頭発表⑥担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑥担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑦担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
11 回	授業内容	受講生による口頭発表⑦を行う。
	事前学修	口頭発表⑦担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑦担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑧担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
12 回	授業内容	受講生による口頭発表⑧を行う。
	事前学修	口頭発表⑧担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑧担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑨担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。

13 回	授業内容	受講生による口頭発表⑨を行う。
	事前学修	口頭発表⑨担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑨担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑩担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。
14 回	授業内容	受講生による口頭発表⑩を行う。
	事前学修	口頭発表⑩担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑩担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。次回口頭発表⑪担当者はレジュメを作成し、それ以外の受講生は質問事項を作成する。なお、受講生が少数の場合口頭発表⑪は省略することがある。
15 回	授業内容	受講生による口頭発表⑪を行う。また総評と今後の学修に向けて話し合う。
	事前学修	口頭発表⑪担当箇所の予習を行う。それ以外の受講生は質問事項を作成する。
	事後学修	口頭発表⑪担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップを行う。また、総評内容を再確認して今後の学修に活用する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学演習 A〕

塚田 英博

◆**授業概要** Henry James の *Daisy Miller* を読む。まず Henry James の紹介をし、James の文学史上での位置付けを紹介する。そして難解な文章に出会った場合、英文法を駆使して内容を把握していく。その際に、内容を追うだけではなく、Henry James 流の英文構成、時代背景を考慮しながら分析し、鑑賞ポイントとなる部分の指摘を行っていく。

◆**学修到達目標** 1. 英文法を駆使しながら、文学作品を読むことが出来る。
2. 作品鑑賞ができるようになる。
3. Henry James が置かれた時代背景に触れることができる。

◆**授業方法** 学生による和訳発表、問題点の発表が中心。ハンドアウトを作成してもらい、それを土台に授業を進行していく。授業計画はおおよその目安である。進度によっては授業計画通りに進まない場合がある。翻訳でよいので『デージー・ミラー』は読んでおくこと。また、割り当て箇所以外の箇所も予習しておくこと。

◆**履修条件** 前期のみ、後期のみ受講も可能であるが、学習効果を上げるためには、前期及び後期の連続受講が望ましい。

◆**教科書** 〔丸〕『デージー・ミラー』（研究社小英文叢書）（注釈者 西川正身）研究社 2017 年

◆**参考書** 〔丸〕『デージー・ミラー』西川正身訳（新潮文庫）
英和辞書（電子辞書可）は必ず持参すること。

◆**成績評価基準** 試験（50％）発表（30％）最終レポート（20％） 毎回出席することを前提に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：Henry James の紹介及び、ハンドアウト作成箇所の割り当て。 事前学修：文学史などで <i>Daisy Miller</i> の粗筋等を確認しておくこと。 事後学修：Henry James の文学史上での位置づけを確認すること。
2 回	授業内容：Henry James 解説 ハンドアウト作成手引き <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.1- 2 事前学修：pp.1- 2 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
3 回	授業内容：原文読解の重要性解説 <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.3- 4 ハンドアウト提出開始 事前学修：pp.3- 4 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
4 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.5- 8 事前学修：pp.5- 8 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
5 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.9-12 事前学修：pp.9-12 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
6 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.13-16 事前学修：pp.13-16 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
7 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.17-20 事前学修：pp.17-20 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
8 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.21-24 事前学修：pp.21-24 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
9 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.25-28 事前学修：pp.25-28 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
10 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.29-32 事前学修：pp.29-32 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
11 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.33-36 事前学修：p.33-36 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
12 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.37-40 事前学修：pp.37-40 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
13 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.41-44 レポート提出 事前学修：pp.41-44 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
14 回	授業内容： <i>Daisy Miller</i> 読解 pp.45-48 事前学修：pp.45-48 までを文構造を把握しながら読むこと。 事後学修：授業で行った箇所を音読をしながら、内容を鑑賞すること。
15 回	授業内容：試験、及び解説 事前学修：時間を十分かけ、前回授業で扱った箇所までの英文を読んでおくこと。 事後学修：複数の解釈を考えながら、此処までの箇所を鑑賞すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学概論 A〕

大塚 友美

- ◆**授業概要** 本講義では、我々の住む経済を構成する①市場（の仕組みと働き）、②家計・企業（などの経済主体の行動）に関する基礎理論、いわゆるミクロ経済理論について概説する。これを行うに際して、経済学の歴史的発展にそって経済理論を概説すると同時に、各時代の経済状況や経済政策などを講じることを通して、現代社会を生きる上で必要な経済学の基本的知識の習得を目指す。
- ◆**学習到達目標** 経済学の基本的な理論に関する講義を通して、①人間の経済活動に関する理解を深め、②経済学の発展に関する基本的な潮流を把握することにより、③学生が自らの力で身近に起きた現実の経済問題を考えることができるようになること、を目標としている。
- ◆**授業方法** コロナ禍の影響により、オンディマンド形式の遠隔授業を行う。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**教科書** 丸沼 大塚友美 『実験で学ぶ経済学』 創成社 2005 年
丸沼 『経済学』 通信教育教材（教材コード 000450）
- ◆**参考書** 授業中に指示する。または、参考書の抜粋を資料として授業中に配布する。
- ◆**成績評価基準** レポート（100%）で評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	近代経済学（マクロ経済学とミクロ経済学）
	事前学修	教科書・インターネット等を用いて、マクロ・ミクロ経済学について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
2 回	授業内容	市場の仕組み
	事前学修	教科書を読み、市場の仕組みについて調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
3 回	授業内容	市場の働き
	事前学修	教科書を読み、市場の働きについて調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
4 回	授業内容	市場経済の特徴
	事前学修	教科書を読み、市場経済の特徴について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
5 回	授業内容	小括（市場と市場経済）
	事前学修	講義内容をもとに、市場・市場経済の課題等を調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
6 回	授業内容	家計の行動（予算の制約と効用）
	事前学修	教科書を読み、家計の行動原理について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
7 回	授業内容	家計の行動（効用の最大化）
	事前学修	教科書を読み、家計がいかにして効用の最大化を図っているかを調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
8 回	授業内容	家計の行動（労働供給）
	事前学修	教科書を読み、家計がいかに労働供給の決定を行うかを調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
9 回	授業内容	小括（家計の行動）
	事前学修	講義内容をもとに、家計の行動の特徴等をまとめておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
10 回	授業内容	完全競争企業と独占企業
	事前学修	教科書を読み、完全競争企業・独占企業について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
11 回	授業内容	完全競争企業の行動
	事前学修	教科書を読み、完全競争企業の行動について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
12 回	授業内容	独占企業の行動
	事前学修	教科書を読み、独占企業の行動について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
13 回	授業内容	小括（企業の行動）
	事前学修	講義内容をもとに、完全競争企業と独占企業との行動について概括しておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
14 回	授業内容	経済活動と自由権
	事前学修	基本的な人権の自由権と経済活動の自由との歴史的関係等について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
15 回	授業内容	まとめ（理解度の確認）
	事前学修	教科書やノートをもとに、これまでの講義内容を概観しておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。

〔経済学史 / 経済学説史〕

塚本 隆夫

◆**授業概要** 17 世紀から 19 世紀前半にかけて経済学がどのように歴史的に展開してきたのかを考察します。この考察を踏まえ、「経済学」の「科学性」とは「何か」に迫ります。「経済学の歴史」とは、時代が求める要請に応えようとした「経済学者たち」の知的反応の積み重ねの歴史です。前期の授業では、17 世紀のイギリス「重商主義」から、フランス「重農主義」を経て、アダム・スミスへ至る過程を取り上げます。この科目は「専門科目」です。ミクロ・マクロの経済理論と経済史についての基本的知見を修得していることを前提に授業を進めます。受講生の理解度に応じて、授業の進行を調節します。

◆**学修到達目標** 受講生はこの授業を通じて、「経済学」と「時代」の関係性の理解を深めることができますようになります。重商主義は、何を目標としていたのか、その限界は何か。そしてフランス「重農主義」はなぜ生まれたのか。アダム・スミスの経済学は、何を主張したのか。それぞれの経済学説は、その背後にある時代の問題に答えようとした経済学者の知的反応であることを、知ることができるようになります。

◆**授業方法** 前期と後期の授業を連続して受講することを希望します。前期は、On-line 授業、オンデマンド授業となります。授業は PPT で行います。テキストを踏まえ、参考文献の研究を求めます。毎回、「授業レジュメ」と「課題」を提示します。「授業レジュメ」を使って、授業の予習や復習をしてください。授業のフィードバックとして、提出された「課題」に対し、簡単な「講評」をお返し致したいと思います。授業内容や課題に関しての質問は、メールで対応します。

◆**履修条件** 令和 2 年度、「経済学史 / 経済学説史」（塚本隆夫）とは、積み重ね不可。

◆**教科書** **【教材】**『経済学史 0713/ 経済学説史 0714』 通信教育教材

◆**参考書** **【丸沼】**『コア・テキスト 経済学史』井上義朗、新世社、2004 年。
【丸沼】『経済思想入門』松原隆一郎、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2016 年
 これ以外の参考文献等は、授業時に指示します。

◆**成績評価基準** 「課題提出」（60%）、レポート（40%）を課し、その結果に基づき、成績評価を行う。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上で行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	「経済学史」とは、どのような学問・科学なのかを説明します。経済学の歴史は、「富」をめぐる歴史とも言えましょう。とすれば、「富」とは一体どのようなものなのでしょうか。「1 国の富の大きさ」は、どのようにして決まるのでしょうか。
	事前学修	教科書を通読しておくこと。レジュメにある不明な用語等をネット検索して調べる。経済理論の基本である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の総復習をする。「国民所得決定論」（教科書、289 – 299 ページ）を予習しておくこと。16 – 18 世紀のイギリスを中心とした経済史について自習しておく。
	事後学修	PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で問われている内容が分からなければ、再度 PPT をテキストを復習する。次回の授業内容の箇所をテキストで予習する。
2 回	授業内容	現代の経済の特質を改めて考えましょう、私たちの経済では、当たり前のように「貨幣」を使います。では「貨幣」とは一体どのようなものなのでしょうか。「貨幣」がなぜ我々の経済に存在するのかを、考えましょう。
	事前学修	「貨幣」の歴史と、その役割を調べましょう。貨幣の基本機能について、予習しておく。授業レジュメを研究する。教科書 1-42 ページを精読しておきましょう。指定した参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
3 回	授業内容	現代の経済の基本となる仕組みは、「市場経済体制」です。そこでは、分業や交換が行われています。ではなぜ、「分業」や「交換」が行われるのでしょうか。市場経済の「秘密」に迫ります。
	事前学修	「ミクロ経済学」の基礎を復習しましょう。前回の授業の PPT とテキストを復習しましょう。参考文献を使って、該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
4 回	授業内容	イギリス重商主義：その 1 W. ベティーの「財政－軍事国家」とは。17 世紀のイギリスとオランダの関係。英蘭戦争でイギリスを優位にするには、何が必要か。
	事前学修	教科書 43-65 ページを読む。「英蘭戦争」とその時代のイギリスの経済史を調べる。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
5 回	授業内容	イギリス重商主義：その 2 「重商主義」とはどのようなものなのか。その基本を考察する。「富」の獲得とそれを増加する方法とは。
	事前学修	教科書 43 – 65 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
6 回	授業内容	イギリス重商主義：その 3 トーマス・マンの「貿易差額説」
	事前学修	15 – 16 世紀のイギリスの対外政策を研究しておく。「東インド貿易会社」を調べておく。教科書 43 – 65 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
7 回	授業内容	イギリス重商主義：その 4 「重商主義の限界」 D. ヒュームの重商主義批判。
	事前学修	教科書 43 – 65 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
8 回	授業内容	フランス重商主義：コルベール主義とは なぜ、フランスで「重農主義」が提唱されたのか。その必然性を探る。
	事前学修	教科書 66 – 71 ページを学習しておく。参考文献で該当箇所を調べ、研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習したうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。

9 回	授業内容	フランス重商主義：コルベール主義の功罪 なぜフランス重農主義は失敗したのか。この謎を解く。
	事前学修	教科書 66-71 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。「ミクロ経済学」で企業行動を復習しておくこと。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習したうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
10 回	授業内容	フランス啓蒙思想：神と自然 フランス啓蒙思想は、経済学の展開にどのような影響を与えたのか。F. ケネーの思想的土台を解明する。
	事前学修	教科書 66-75 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。「ミクロ経済学」で企業行動を復習しておくこと。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
11 回	授業内容	ケネーの「経済表」を読み解く。自然秩序のもとでのフランス国民経済の姿。
	事前学修	教科書 71 - 85 ページを研究しておく。参考文献で該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
12 回	授業内容	アダム・スミスの時代背景 18 世紀のイギリス経済社会の状況。
	事前学修	教科書 86 - 106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
13 回	授業内容	スミスの「富」と「分業」
	事前学修	教科書 86 - 106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
14 回	授業内容	スミスの「交換論」と「労働価値説」
	事前学修	教科書 86 - 106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
15 回	授業内容	スミスが起こした経済学の革命とは
	事前学修	教科書 86 - 106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。「レポート課題」に取り組む。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔中小企業論〕

階戸 照雄

- ◆**授業概要** この講義では、日本の経済における中小企業の位置づけおよび中小企業の特徴等につき学ぶ。日本の法人（および個人事業）の 99.7%は中小企業である。また、日本の法人の 97%は、所謂、同族企業、オーナー企業、ファミリー企業である。この日本の法人の太宗を占めるファミリー企業に焦点を当てて、本講義を進めていく。これら企業を理解することにより、中小企業 / ファミリー企業への支援や地域経済の活性化の方策など多くを学修し、将来様々な仕事における有益な知識を修得するのが目的である。小職は銀行で実務を国内、海外に亘り、25 年間経験している。今日の中小企業 / ファミリー企業の抱える諸問題や将来的な課題等も考えられるよう授業に反映させていきたい。
- ◆**学修到達目標** 日本の中小企業について、日本経済における役割や位置づけを理解し、企業経営の課題も熟知した上で具体的に説明することができる。また、中小企業の太宗を占めるファミリー企業についても同様に、日本経済における役割や位置づけを理解し、ファミリー企業の経営の特徴・課題につき、説明することができる。
- ◆**授業方法** ファミリー企業に焦点を当てた中小企業論の基本的な考え方・理論を教科書・参考書も活用して理解できるよう、講義方式により説明する。なお、アクティブ・ラーニング方式も一部採用する。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『日本のファミリービジネス』ファミリービジネス学会編 階戸照雄他共著 中央経済社 2016 年
丸沼『中小企業白書』中小企業庁編 2020 年度版（ネットで視聴可能）
- ◆**参考書** 丸沼『ファミリーガバナンス』階戸照雄、加藤孝治編著 中央経済社 2020 年
なし
- ◆**成績評価基準** 講義で出される 2 つの課題は評価対象であるので、提出すること（40%）。対面授業の最後に最終試験（60%）を実施し、講義と合わせて評価する。授業内の発言・発表も成績に加える。毎回出席することを前提として評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：初回授業時に説明する。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	中小企業を学ぶ意義（中小企業を中心としてのファミリー企業）
	事前学修	中小企業白書の中小企業の定義等を確認のこと。ファミリー企業についても同様に定義を確認のこと。
	事後学修	中小企業やファミリー企業の定義やその意義を理解する。
2 回	授業内容	日本経済・産業における中小企業 / ファミリー企業の位置付けとその特徴
	事前学修	中小企業白書等により、日本経済における中小企業・ファミリー企業の重要性やその特徴を確認のこと。
	事後学修	中小企業・ファミリー企業の重要性やその特徴を理解する。
3 回	授業内容	日本是世界一のファミリービジネス大国
	事前学修	教科書第 1 章を参照し、日本のファミリー企業の特徴等を確認しておくこと。
	事後学修	日本のファミリー企業の世界における位置づけ等を理解する。
4 回	授業内容	ファミリービジネスの理論
	事前学修	教科書第 2 章を参照し、主なファミリービジネス理論を確認しておくこと。
	事後学修	主なファミリービジネス理論の内容等について理解する。
5 回	授業内容	PPPモデル（パラレル・プランニング・プロセス・モデル）。PPPモデルにつき小レポートを実施予定。
	事前学修	参考書第 4 章を参照し、PPPモデルの内容を確認しておくこと。
	事後学修	小レポートの課題を通して、PPPモデルの内容について理解する。
6 回	授業内容	ファミリービジネスの経営戦略
	事前学修	教科書第 4 章を参照し、ファミリービジネスの経営戦略等につき確認しておくこと。
	事後学修	ファミリービジネスの経営戦略と本章の事例について理解する。
7 回	授業内容	地域の文化とファミリービジネス
	事前学修	教科書第 9 章を参照し、地域の文化とファミリービジネスの関係について確認しておくこと。
	事後学修	地域の文化とファミリービジネスの重要性、関係性について理解する。
8 回	授業内容	ファミリービジネスと地域活性化。小レポートを実施予定。
	事前学修	教科書第 8 章を参照し、地域におけるファミリービジネスを確認すること。
	事後学修	ファミリービジネスと地域活性化に関するビデオを視聴し、小レポートを作成する。
9 回	授業内容	ファミリービジネスのガバナンス
	事前学修	教科書第 7 章、参考書第 2 章を参照し、ファミリービジネスのガバナンスの内容について確認すること。
	事後学修	ファミリービジネスのガバナンスの内容等について理解する。
10 回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業(1)（以下、中小企業白書 2020 年度版）
	事前学修	マスダックマシナリー、中山製作所、大高商事の 3 社について確認すること。
	事後学修	マスダックマシナリー、中山製作所、大高商事の 3 社の内容について理解する。
11 回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業(2)
	事前学修	吉野川タクシー、桑原電装、高木商店の 3 社について確認すること。
	事後学修	吉野川タクシー、桑原電装、高木商店の 3 社の内容について理解する。
12 回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業(3)
	事前学修	有明産業、日本ライティング、ハーツの 3 社について確認すること。
	事後学修	有明産業、日本ライティング、ハーツの 3 社の内容について理解する。
13 回	授業内容	ファミリービジネスの事業承継
	事前学修	教科書第 6 章のファミリービジネスの事業承継の内容について確認すること。
	事後学修	ファミリービジネスの事業承継の内容について理解する。
14 回	授業内容	ベンチャー企業
	事前学修	中小企業白書等により、ベンチャー企業の動向等について学び、確認すること。
	事後学修	ベンチャー企業の動向、内容について理解する。

15 回	授業内容	まとめ（期末試験）
	事前学修	学修した内容について全て復習しておくこと。
	事後学修	試験で分からなかったことを調べておくこと。

〔マーケティング A〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 製品にまつわる競争優位の源泉は、時代とともに大きく変化している。それによって、マーケティング戦略の進め方も大きく変化してきた。近年、強まっていた消費者の低価格志向による価格競争は、広告費の減少やメディア戦略の見直しを迫っているのが現状である。このような状況下で、本講義はマーケティングを深く理解するための前提となる、基礎的な知識を体系的に解説する事を目的とする。実務経験から得た知識を具体例として挙げ、できるだけ平易に分かりやすく解説する。

◆**学修到達目標** 1 マーケティング戦略の機能・役割を基礎から理解できる。
2 消費者ニーズを探り、それを満たすための企業活動が理解できる。
3 市場動向の変化を捉え、情報を収集し分析ができるようになる。
4 プロモーション戦略やブランド戦略等の戦略策定が理解できる。

◆**授業方法** 本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されている配信資料を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。テキストは事前学修に活用し、授業内容は動画を中心とする。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆**履修条件** 後期マーケティング論との継続受講を前提とする。
令和2年度のマーケティング論（夜間スクーリング）との積み重ねは不可。

◆**教科書** **【教材】** マーケティング S30500
【資料配布 (Classroom)】 必要に応じて資料を配布する

◆**参考書**

◆**成績評価基準** レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%）総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス 授業の進め方 マーケティングの基本事項について
	事前学修	テキスト9頁～19頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	マーケティング・ミックスとマーチャンダイジング
	事前学修	配信資料をよく読み、テキストの当該箇所を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
3 回	授業内容	様々なマーケティング・ミックスの考え方 製品戦略（ブランド概念「その1」）
	事前学修	テキスト23頁～32頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト28頁の図をノートに書き写し、内容を理解する。配信資料の内容を確認すること。
4 回	授業内容	製品戦略（ブランド概念「その2」 製品ライフサイクル 計画的陳腐化）
	事前学修	配布資料をよく読み、テキストの当該箇所を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	価格戦略①（価格とは？ 価格設定の考え方 価格と消費者心理）
	事前学修	テキスト第9章と配信資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	価格戦略②（心理的な価格付け 価格感度測定法 価格と消費スタイル）
	事前学修	前回のノートを確認し、テキスト該当箇所をまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、全体を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容	流通戦略①（流通の意義と基本的事項 流通間競争 小売りについて「その1」）
	事前学修	テキスト第10章をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容	流通戦略②（小売について「その2」 真空地帯の仮説 ABC 分析）
	事前学修	前回のノートを確認し、テキスト該当箇所をまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容	卸売業の特徴と役割 メーカーについて（競争戦略の四類型）
	事前学修	前回のノートを確認しておくこと。事前に配信された資料をノートにまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、全体を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックス PULL 戦略と PUSH 戦略
	事前学修	テキスト第12章をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容	プロモーションの種類①（広告の定義 広告の基本的過程 人的販売）
	事前学修	配信資料の図表をノートに書き写して、プロモーション・ミックスの相関性を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容	プロモーションの種類②（パブリック・リレーションズ セールス・プロモーション）
	事前学修	配信資料における PR 及び、SP の種類を確認しそれぞれの目的や意義を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容	マーケット・セグメンテーション
	事前学修	テキスト31頁～34頁をよく読んでおくこと。配信資料の内容も確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。

14 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘したマーケティング戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べたマーケティング戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学 A〕

大塚 友美

- ◆**授業概要** 本授業では、①経済学の歴史的発展にそってミクロ経済理論を概説し、また②各時代の経済状況や経済政策などを概観することを通じて、③各自が経済学の大枠を把握し、今日の経済問題を自ら考察する力を涵養すること、を目指す。
- ◆**学修到達目標** 本授業は、①経済学の基本理論を習得することを通して、②人間の経済活動に関する理解を深め、③これをもとに現代の経済問題を各自が自ら考察できるようになることを、を目標としている。
- ◆**授業方法** コロナ禍の影響により、オンディマンド形式の遠隔授業を行う。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**教科書** 丸沼 大塚友美 『実験で学ぶ経済学』 創成社 2005 年
- ◆**参考書** 授業中に指示する。または、参考書の抜粋を資料として授業中に配布する。
- ◆**成績評価基準** レポート（100%）で評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：人間の経済活動；経済学とは何か
	事前学修：インターネット等を用いて、人間の経済活動について調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
2 回	授業内容：近代経済学；ミクロ経済学とマクロ経済学
	事前学修：教科書・インターネット等を用いて、マクロ・ミクロ経済学について調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
3 回	授業内容：命令する者がいない経済（市場の仕組と働き）
	事前学修：教科書を読み、市場の仕組について調べておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
4 回	授業内容：市場経済の特徴
	事前学修：教科書を読み、市場経済の特徴について調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
5 回	授業内容：家計の行動（効用の最大化と労働力の再生産）
	事前学修：教科書を読み、家計がいかにして効用を最大化し、労働力の再生産を行っているかを調べておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
6 回	授業内容：家計の労働供給
	事前学修：教科書を読み、家計がいかにして労働供給を決定しているかを調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
7 回	授業内容：小括（家計の行動）
	事前学修：これまでの講義内容をもとに、家計の行動を概括しておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
8 回	授業内容：完全競争企業と独占企業
	事前学修：教科書を読み、完全競争企業・独占企業について調べておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
9 回	授業内容：完全競争企業の行動
	事前学修：教科書を読み、完全競争企業の行動について調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
10 回	授業内容：独占企業の行動
	事前学修：教科書を読み、独占企業の行動について調べておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
11 回	授業内容：小括（企業の行動）
	事前学修：教科書を読み、完全競争企業と独占企業の相違点等について調べておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
12 回	授業内容：「神の『見えざる手』」から「人の『見える手』」へ
	事前学修：教科書などを読み、19 世紀末から 20 世紀初頭における各国の経済状況について調べておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
13 回	授業内容：「有効需要の原理」の概要
	事前学修：教科書を読み、「有効需要の原理」の概要を把握しておくこと。
	事後学修：講義や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
14 回	授業内容：「有効需要の原理」の理論
	事前学修：教科書を読み、「有効需要の原理」を理論的に把握しておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
15 回	授業内容：理解度の確認
	事前学修：教科書やノートをもとに、これまでの講義を概観しておくこと。
	事後学修：講義内容や配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。

◆授業概要

Students will have the chance to listen to conversations and model them in various role play situations. Through such practices, students will exchange information and ideas with their peers. Students will be asked to hand in classwork from time to time.

◆学修到達目標

This course is aimed at giving students the tools and the opportunity to speak with other students in a friendly setting. We hope to build confidence in using English while discussing a wide range of topics.

◆授業方法

The teacher will provide a model conversation to be followed. Questions will be explained and example answers will be given for each question. Students will have the opportunity to practice tasks with various members of the class in large and small groups.

◆履修条件

This course is open to all students. The content is set at beginner levels and progresses to pre-intermediate. The course requires active participation.

◆成績評価基準

Class participation and in-class assignments (80%). 1 test (20%).

◆教科書

なし

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	1. Your Hometown. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about your hometown.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 2. Employment.
2 回	授 業 内 容	2. Employment. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about jobs.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 3. Family Ties
3 回	授 業 内 容	3. Family Ties. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about family relationships.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 4. Our Friends
4 回	授 業 内 容	4. Our Friends. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about your friends.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 5. Food For Thought
5 回	授 業 内 容	5. Food For Thought. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about food.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 6. Time And Money

◆授業計画

6 回	授 業 内 容	6. Time And Money. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about finance and time concepts.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 7. Staying Healthy
7 回	授 業 内 容	7. Staying Healthy. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about health issues.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 8. Going Traveling
8 回	授 業 内 容	8. Going Traveling. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about travel.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 9. Shop Til You Drop
9 回	授 業 内 容	9. Shop Til You Drop. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about shopping.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 10. Music
10 回	授 業 内 容	10. Music. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about different aspects of music.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 11. Sports Of Sorts

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	11. Sports Of Sorts. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about different aspects of sports.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 12. Pets And Animals
1 2 回	授 業 内 容	12. Pets And Animals. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about different types of animals.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 13. Let's Watch
1 3 回	授 業 内 容	13. Let's Watch. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about different types of television and movies.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 14. Reading
1 4 回	授 業 内 容	14. Reading. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences.
	事 前 学 修	Prepare to discuss questions about reading different types of books and materials.
	事 後 学 修	Prepare to discuss 15. Time For Holidays and prepare to review all topics for your review test.
1 5 回	授 業 内 容	15. Time For Holidays. Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences. You will also be completing a review test.
	事 前 学 修	Review all topics for your test.
	事 後 学 修	Good work on completing General English.

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文読解があります。卒業論文作成には論文としての技術を修得する必要があります。本演習では、事前学修を踏まえて、論文読解に必要な知識・技術、卒論に向かう姿勢を学びます。自治体史編さん史料専門調査員としての活動を活かし、史料の検索・収集・整理、史料から導かれる史実認定の方法を指導します。なお、科目特性上、日本史入門・日本史概説・史学概論での学修を終えていることを前提に授業進行します。最低限、日本史入門は最低限修得していることが望ましい。なお授業内容は状況に応じて変更する場合があります。

◆**学修到達目標** 1. 論文検索・目録作成・アウトライン作成の技術を身につける。
2. 論文を読む際に必要な、文章読解のための知識と技術を身につける。
3. 日本史卒業論文作成のための、資料収集法や論点整理などの基本的技術を身につける。
4. 受講生が自ら、卒業論文の作成計画を立て、作業をおこなえる技術と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 基本的に個人作業となりますが、必要に応じて協働作業をおこないます。協働作業を実施する場合は、授業当日に指示します。この演習では、事前学修で作成したシートをもとに進行します。事前学修なしでの参加や、度重なる欠席は当日の作業に多大な影響を及ぼしますので、必ず事前学修のシートを作成してくる、全 15 回出席することを強く意識して受講してください。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 随時必要な資料を配付します

◆**参考書** 配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** 最終課題レポート（50%）、授業内作成課題（30%）、授業内小テスト（20%）の総合評価
※ 15 回全出席を前提とした評価です。

◆**授業相談（連絡先）**：原則として講義終了後の休憩時間あるいはメール（初回授業で告知します）で受け付けます。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	日本史演習の計画と到達目標
	事前学修	シラバスを熟読し、自身の学修到達目標を考えておく。
	事後学修	授業方針を踏まえて、事前に考えた目標を修正し、学修方針を立てる。
2 回	授業内容	日本史研究に必要なスキル(1) 文献の区分
	事前学修	事前シートに記されている文献を区分する課題に取り組む。
	事後学修	誤った箇所を重点的に復習し、間違いなく区分できるまで繰り返す。
3 回	授業内容	日本史研究に必要なスキル(2) 文献の検索と選択
	事前学修	事前シートに記されている文献検索に関わる課題に取り組む。
	事後学修	自身の研究テーマに即した文献を検索し、文献一覧を作成してみる。
4 回	授業内容	日本史研究に必要なスキル(3) 論文の構成を知る
	事前学修	事前配布論文を読み、事前シートに記された課題に取り組む。
	事後学修	自身の研究テーマに関わる論文について、その構成をまとめてみる。
5 回	授業内容	日本史研究に必要なスキル(4) アウトラインを確認する。
	事前学修	配付論文の流れをまとめ、事前シートの課題に取り組む。
	事後学修	授業で再確認した結果を踏まえ、もう一度アウトラインを作成する
6 回	授業内容	先行研究に対する姿勢(1) なぜ先行研究が重要なのか
	事前学修	配付論文の学説史を熟読し、著者の先行研究への評価をまとめておく。
	事後学修	自身の研究テーマに関わる先行研究について調べてリストアップする。
7 回	授業内容	先行研究に対する姿勢(2) 先行研究を系統立てて整理する。
	事前学修	事前配布プリントを熟読し、当日の作業のイメージを作っておく。
	事後学修	自身の研究テーマに関するキーワードを考え、論文を分類する。
8 回	授業内容	疑問点や課題点の抽出 論じたい課題を設定してみる
	事前学修	第 7 回での成果を熟読して、テーマとしたい点を各自考えておく。
	事後学修	当日の討論などを踏まえて、課題設定の仕方を振り返る。
9 回	授業内容	課題の意義と実現可能性 適切なテーマの設定とは
	事前学修	事前配布プリントに記入し、当日の討論に備えておく。
	事後学修	章・節ごとの要旨の記述バランスに注意し、その主張の筋道をまとめる。
10 回	授業内容	史料の収集と整理(1) テーマに関わる史料をカード化して整理する
	事前学修	課題論文の全体要旨を文章化して、授業に備える。
	事後学修	授業時に検討した結果を踏まえ、再修正をおこなう。
11 回	授業内容	史料の収集と整理(2) カード化した史料の精査と選定
	事前学修	注釈から歴史資料を抜き出し、事前配布プリントに記入しておく。
	事後学修	授業時に作業した結果を踏まえ、複数の論文のカードを作成する。
12 回	授業内容	報告への準備作業(1) アウトラインの作成と討論
	事前学修	事前配布プリントやレジュメのテンプレートに必要事項を記入しておく。
	事後学修	討論した結果を通して、自身の弱点を把握し、克服につとめる。
13 回	授業内容	報告への準備作業(2) レジュメの完成
	事前学修	前回の内容を踏まえ、レジュメを書くための事前作業をおこなっておく。
	事後学修	授業時の確認事項・修正事項を踏まえて、レジュメ全体を再構成する。
14 回	授業内容	レポート作成・質疑応答
	事前学修	レジュメをもとにして、小論文としての文章を完成させてくる。
	事後学修	授業時に指摘した項目を再確認した上で、作成した文章を見直す。

15 回	授業内容	論文講読・課題発見・問題解決を振り返る
	事前学修	第 1 回から第 14 回までの学修内容を整理しなおしておく。
	事後学修	授業全体の方法を振り返り、自身の弱点克服に向けての方策を考える。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済原論 / 経済学原論 A〕

陸 亦群

- ◆**授業概要** 本講義では、市場を構成する家計・企業・政府といった各経済主体の選択行動の基礎理論を把握し、そこから導かれる市場メカニズムについて一般均衡分析の考え方を学修し、さらに価格メカニズムが機能しない市場の失敗を導く諸要因について学修する。
- ◆**学修到達目標** ミクロ経済学において、完全競争市場の下では最も効率的な資源配分が達成されることを学び、「市場の失敗」を生む諸要因を中心に学び、市場機構の限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。ミクロ経済学を通じて、経済学の「基礎知識」を身につけ、その中で「経済学的な考え方」と「分析手法」を養い、応用・展開科目を学ぶ土台を築くことができるようになり、最終的には経済の動きを客観的に説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業で講義を行う。講義動画と講義資料は掲載期間内に順に学修すること。一度の視聴では分らなかった内容については、テキストや参考書などからも学修し、繰り返し学修をすること。それでも不明な点については随時質問を受け付ける。数回の授業時課題は講義動画あるいは講義資料にて課すこととする。
- ◆**履修条件** 経済学や経済学概論でミクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。令和三年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の経済原論 / 経済学原論との積み重ねは不可。
- ◆**教科書** 丸沼『ミクロマクロ経済理論入門』 藤本訓利・陸亦群・前野高章 文眞堂 2020 年
- ◆**参考書** 丸沼『入門ミクロ経済学』 井堀利宏 第3版 新世社 2019 年
丸沼『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 2014 年
丸沼『ミクロ経済学（第3版）』 伊藤元重 日本評論社 2018 年
- ◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。
	事前学修	経済学とはどのような学問であるのかを考えておく。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2 回	授業内容	需要と供給 需要と供給の基礎理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから市場における需要と供給の関係について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要曲線と供給曲線の特徴および市場の均衡について整理する。
3 回	授業内容	家計の消費行動① 効用関数と無差別曲線の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから効用、予算制約、無差別曲線について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、効用概念および無差別曲線の特徴について整理する。
4 回	授業内容	家計の消費行動② 最適消費の決定および代替効果や所得効果について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから最適消費の条件について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、最適消費およびスルツキー分解について図を用いて整理する。
5 回	授業内容	生産要素市場と所得分配 家計の労働供給と企業の労働需要について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから生産要素市場について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、労働市場の均衡について整理する。
6 回	授業内容	企業の生産行動① 生産関数と等産出量曲線の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから生産関数、投入・産出、等産出量曲線について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、生産関数および等産出量曲線の特徴について整理する。
7 回	授業内容	企業の生産行動② 利潤最大化と最適生産について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから最適投入量と短期・長期の費用概念について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、生産要素の最適投入について図を用いて整理する。
8 回	授業内容	企業の生産行動③ 利潤最大化と短期・長期の供給曲線について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから最適生産の条件について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、利潤最大化行動について整理する。
9 回	授業内容	完全競争市場と効率性 市場均衡、経済余剰、パレート最適について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから市場の効率性とパレート最適について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、完全競争市場の均衡の特徴と効率的な資源配分条件について整理する。
10 回	授業内容	不完全競争市場① 独占市場と独占的競争市場について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから独占市場の特徴について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、完全競争市場と独占市場および独占的競争市場の特徴について整理する。
11 回	授業内容	不完全競争市場② 寡占市場について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから寡占市場の特徴について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、クールノー均衡および産業規制について整理する。

12 回	授業内容	外部性と公共財 市場の失敗および公共財の供給メカニズムについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから外部性と公共財について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、市場の失敗の諸要因について整理する。
13 回	授業内容	ゲームの理論① ゲームの理論の基本的な考え方について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などからゲーム理論とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、ナッシュ均衡について整理する。
14 回	授業内容	ゲームの理論② 展開型ゲームと繰り返しゲームについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから前講義のゲームの理論について再確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、ゲーム理論から経済分析への応用について整理する。
15 回	授業内容	情報とリスク 不確実性と情報の非対称性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから不完全情報と情報の非対称性について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、不確実性について整理する。これまでの学修から講義全体の要点を整理し、ミクロ経済学の理論について整理する。

〔中国経済論〕

崔 晨

- ◆**授業概要** 中国は改革開放政策から 40 年間、中国の経済は持続的にし得兆し続けてきた。この持続的に成長の背景には中国の特徴のある社会や経済システム、政策の実施などによるものがある。本講義では中国の経済発展の歩み、産業の発展における政府や企業の役割、経済発展を制約するを中心に取り上げる。
- ◆**学修到達目標** 本講義では中国経済を中心に、中国経済の特徴や現状と課題について理解することを目的とする。また経済問題の背景にある社会的、政治的な側面にも留意することで、包括的な理解を試みる。
- ◆**授業方法** 講義は配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業を分かりやすく理解するため、映像や写真などを取り入れることもあります。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 特になし
- ◆**参考書** ①『中国・新興国ネクサス』末廣昭・田島俊雄・丸川知雄編 東京大学出版社 2018/12/20
②『清華大学が見た先端社会、中国のリアル』夏目英男クロスメディア・パブリッシング 2020/10/ 8 第2刷
- ◆**成績評価基準** レポートや出席率、授業態度（オンデマンド授業では最終レポートや小テスト（出席となる）などの成績により総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：sai.shin2020@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：中国経済への招待 事前学修：教科書の 1-13 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
2 回	授業内容：20 世紀の中国 事前学修：教科書の 17-37 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
3 回	授業内容：社会主義模索と市場経済化 事前学修：教科書の 39-57 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
4 回	授業内容：農業・農村・農民（三農問題） 事前学修：教科書の 61-76 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
5 回	授業内容：企業体制改革とその行方 事前学修：教科書の 79-98 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
6 回	授業内容：地域発展戦略と産業・人口の集積 事前学修：教科書の 101-117 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
7 回	授業内容：財政制度改革と中央・地方関係 事前学修：教科書の 119-135 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
8 回	授業内容：世界最大の資本大国の金融システム 事前学修：教科書の 137-155 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
9 回	授業内容：貧困、失業及び所得格差 事前学修：教科書の 159-179 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
10 回	授業内容：人口と社会保障 事前学修：教科書の 183-200 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
11 回	授業内容：エネルギー問題 事前学修：教科書の 203-220 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
12 回	授業内容：経済発展と多様化する環境問題 事前学修：教科書の 223-238 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
13 回	授業内容：対外貿易と直接投資 事前学修：教科書の 241-256 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
14 回	授業内容：香港・台湾の経済と中国との関係 事前学修：教科書の 259-275 ページの内容を予習すること 事後学修：授業内容を整理し、理解しておくこと。
15 回	授業内容：授業のまとめと補充説明 事前学修：レポートの提出の準備 事後学修：全 15 回の授業内容を整理し、理解しておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国際経済論〕

前野 高章

- ◆**授業概要** グローバル化の進展に伴い、国際貿易の拡大や海外直接投資が経済に与える影響は非常に大きいものとなっている。本講義では国際経済の発展過程をたどり、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての比較優位論、貿易政策および海外直接投資の基礎理論を学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げること目標とする。
- ◆**学修到達目標** 本講義では、現実の国際経済の動きを念頭に置きながら、国際分業体制の変化・進展に沿って国際貿易理論がどのように展開されてきているのかを理論的に把握することを通じて、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解・考察し説明することができるようになる。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業で講義を行う。講義動画と講義資料は掲載期間内に順に学修すること。一度の視聴では分らなかった内容については、テキストや参考書などからも学修し、繰り返し学修をすること。それでも不明な点については随時質問を受け付ける。数回の授業時課題は講義動画あるいは講義資料にて課すこととする。
- ◆**履修条件** 経済学概論、経済原論、経済学などでミクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。
- ◆**教科書** **資料配布（Classroom）** 各回で必要な講義資料を配布する。
通材『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281）
- ◆**参考書** **丸沼**『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』若杉隆平編著 文真堂 2020 年
丸沼『国際経済学入門（第2版）日経文庫』浦田秀次郎 日本経済新聞出版社 2009 年
丸沼『国際経済学をつかむ 第2版』石川・椋・菊地 有斐閣 2013 年
- ◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	国際経済論とは何かについて 講義の進め方について確認し、国際経済論とはどのような学問であるのかなどについて学修する。
	事前学修	経済学における国際経済論の位置づけについて確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。
2 回	授業内容	現在の国際貿易の特徴 貿易データを用いて、近年の国際貿易の特徴を学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから国際貿易の拡大の要因を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに貿易の拡大要因について整理する。
3 回	授業内容	グローバル経済の成り立ち 世界経済の生成と発展について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから世界経済の生成時期を把握する。
	事後学修	講義内容をもとに世界経済の生成時期の経済について整理する。
4 回	授業内容	貿易理論① 貿易の利益について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから伝統的貿易理論について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、貿易の利益について整理する。
5 回	授業内容	貿易理論② 絶対優位論、比較優位論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから比較優位論とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、絶対優位論と比較優位論の特徴について整理する。
6 回	授業内容	新古典派の貿易理論 新古典派の貿易理論である H-O 理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから生産要素比率と比較優位について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、新古典派の貿易理論について整理する。
7 回	授業内容	近代的貿易理論 レオンチェフの逆説やリンダー理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから新貿易理論の特徴を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、産業内貿易理論について整理する。
8 回	授業内容	海外直接投資と多国籍企業① グローバル化する企業行動について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから多国籍企業の行動について確認をする。
	事後学修	講義内容をもとに企業の海外進出とその態様について整理する。
9 回	授業内容	海外直接投資と多国籍企業② 多国籍企業の行動と海外直接投資について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから OLI 理論について確認をする。
	事後学修	講義内容をもとに企業の海外進出パターンとその要因について整理する。
10 回	授業内容	貿易政策 関税政策などの保護貿易政策がもたらす影響を学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから関税政策とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、貿易政策が経済に与える影響を整理する。
11 回	授業内容	新貿易理論 貿易の成長と産業内貿易について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから新貿易理論の特徴を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、産業内貿易理論について整理する。

12 回	授業内容	国際貿易と企業 現代の国際貿易理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから企業の異質性の概念について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、伝統的貿易理論から現代の貿易理論についてそれぞれの特徴を整理する。
13 回	授業内容	東アジアの生産ネットワーク GVCs (Global Value Chains) の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから現代の国際分業の特徴について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに東アジアの生産ネットワークの特徴について整理する。
14 回	授業内容	現代の国際経済 現代の通商政策の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから通商政策における課題について確認をする。
	事後学修	講義内容をもとに 20 世紀と 21 世紀の通商政策の特徴の違いを整理する。
15 回	授業内容	試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。
	事前学修	全配布資料および教科書から講義の要点をまとめる。
	事後学修	講義および試験をふまえ、国際分業の変遷について再確認する。

〔広告論 A〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 広告及び宣伝, PR, プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。できるだけ身近な事例を用いて理論を解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。

◆**学習到達目標** 1 プロモーション活動における広告の基本的機能と役割が理解できる。
2 広告及び宣伝, PR, プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。
3 市場動向や時代背景を見極めながら、広告コンセプトがどのように立案されていくかが理解できる。
4 ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを企画・検討できるようになる。

◆**授業方法** 本授業はオンデマンド形式で実施される。第1回～第8回までの授業は動画が三分割されている。第9回～第15回は一本にまとめた動画である。各回の動画の視聴時間は45分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されているテキスト頁を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。尚、授業方法の詳細は第1回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆**履修条件** 後期：広告論との継続受講が望ましい。
令和2年度の広告論（夏期スクーリング）との積み重ねは不可

◆**教科書** 〔丸〕 雨宮史卓『広告コミュニケーション』八千代出版、2020年
〔資料配布 (Classroom)〕 必要に応じて Google classroom 上で資料を配布する。

◆**参考書** とくになし

◆**成績評価基準** レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%）総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方 オリエンテーション 広告とは何か？
	事前学修	テキスト 20～21 頁の広告の基本的な考え方をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と参考資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	広告の基本的機能と役割
	事前学修	テキスト 32～36 頁の広告コミュニケーションの基本的考え方をよく読んでおくこと。
	事後学修	配信資料をノートにまとめ、テキストの第1章を要約しておくこと。
3 回	授業内容	マーケティング戦略とプロモーション戦略
	事前学修	テキスト第1章の要約を読み返し、15 頁の図を見て、マーケティングとプロモーションの関係を把握しておくこと。
	事後学修	テキストの図と配信資料の図表を見比べて、その内容をノートに整理しておくこと。
4 回	授業内容	プロモーション戦略と広告
	事前学修	前回の授業のノートと配信資料を確認し、テキスト 19 頁の表をノートに書き写しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、プロモーション戦略の種類とその内容を確認しておくこと。
5 回	授業内容	高価格製品の広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 36～41 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、その内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	コモディティ製品の広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 41～50 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、コモディティ製品の特徴を理解し、配信資料の事例を確認しておくこと。
7 回	授業内容	広告コンセプトの考え方
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 57～63 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「広告コンセプトの考え方」「広告の3Bの法則」「色彩マーケティング」の内容をノートに要約しておくこと。
8 回	授業内容	データ分析と広告露出
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 63～67 頁をよく読んでおくこと。また、配信資料に目を通しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、定量データと定性データの違いや、ポストモダン・マーケティングの内容を理解しておくこと。
9 回	授業内容	時間の概念と広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 67～80 頁をよく読んでおくこと。また、配信資料に目を通しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	広告コンセプトとタイム・マーケット
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 83～88 頁をよく読んで、タイム・マーケットの現状を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 85 頁の表をノートに書き写しておくこと。
11 回	授業内容	タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 88～103 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 103 頁の表をノートに書き写しておくこと。
12 回	授業内容	消費者行動と商品ベネフィット
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 105～116 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「消費者シグナル」の概念を理解しておくこと。
13 回	授業内容	サービスに対する広告・プロモーションの考え方
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 120～131 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 120 頁、128～129 頁の図表をノートに書き写しておくこと。

14 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔金融論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融とは、資金を必要としている経済主体がその資金を調達し、資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することです。また、金融取引が行われる場を金融市場といいます。この講義では、貨幣の定義、金融取引、金利の決定など、金融に関する基本的な知識、理論を学び、理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** この講義では、金融、金融理論の基礎を理解することを目指し、以下を具体的な目標とする。

1. 貨幣の定義など金融に関する基本的事柄を学び、説明できる。
2. 金利がどのように決定されているのか理解し、実際の金利を計算できる。
3. 経済学における情報の非対称性問題が金融に与える影響を理解し、説明できる。

◆**授業方法** 授業計画に沿って、項目ごとに Classroom のトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。最後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。

◆**履修条件** 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（前期）『金融論』（谷川孝美）との積み重ね不可。

◆**教科書** **【教材】**『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

【資料配布（Classroom）】 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用として PDF ファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆**参考書** **【丸沼】**『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善、中央経済社、2018 年

【丸沼】『日本の金融制度 第3版』鹿野嘉昭、東洋経済新報社、2013 年
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 最終講義後に最終（期末）試験を実施します。評価は割合を 70%とします。また、オンデマンド授業で実施する小テストおよび課題の評価割合を 20%、授業への参加・貢献を 10%とします。

◆**授業相談（連絡先）**：tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・金融、金融市場とは何か
	事前学修	テキスト「はじめに」をよく読んでおくこと。また、新聞の経済欄などをよく読み、金融、経済時事問題に注目しておくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容	金融取引、決済
	事前学修	前回の講義内容を確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料を参考に、授業で取り扱った専門用語や説明を確認すること。
3 回	授業内容	貨幣の歴史
	事前学修	テキスト第1章、第1節貨幣の歴史をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4 回	授業内容	貨幣の概念的な定義
	事前学修	テキスト第1章、第2節貨幣の機能をよく読み、確認しておくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5 回	授業内容	マネースtockによる貨幣分類
	事前学修	テキスト第1章、第3節貨幣の定義をよく読み、確認しておくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
6 回	授業内容	金利とは何か・名目金利と実質金利
	事前学修	テキスト第2章、第1, 2節をよく読むこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。
7 回	授業内容	短期金利と長期金利・割引現在価値
	事前学修	テキスト第2章、第2節金利の種類をよく読むこと。また、前回の講義を確認しておくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。
8 回	授業内容	リスク資産における金利の決定
	事前学修	テキスト第2章、第3, 4節をよく読むこと。また、前回の講義を再確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	講義時に紹介する事例を実際に計算し、理解を深めること。
9 回	授業内容	情報の非対称性問題（インサイダー取引、モラルハザード問題）
	事前学修	テキスト第3章、第1, 2節をよく読むこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
10 回	授業内容	金融における情報の非対称問題（情報生産、フリーライド、重複問題）
	事前学修	前回の講義を再確認すること、また、テキスト第3章、第3, 4節をよく読み、情報生産、フリーライド、重複問題を確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
11 回	授業内容	わが国の資金の流れ、資金循環
	事前学修	テキスト第6章、第2節をよく読むこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。

12 回	授業内容	日本の金融市場（インターバンク市場、短期金融市場）
	事前学修	テキスト第5章、第1, 2節をよく読むこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
13 回	授業内容	日本の金融市場（長期金融市場）
	事前学修	テキスト第5章、第1, 2節をよく読むこと。また、前回の講義を再確認しておくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
14 回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	予め配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	前期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆授業概要

文学作品を研究するにあたり、本文の確定とそれに基づいた注釈、加えて、先行研究の検討は避けて通ることができない。本授業では、『古事記』のスサノヲを中心とした「出雲神話」の読解を通じて、研究手法を身に付けると同時に、先行諸説の扱いに関わる視野を養うことを目標にしたい。

◆学修到達目標

- ・『古事記』神話について、具体的な内容を説明できる。
- ・古典文学を読むための必要な技術の習得することができる。
- ・文学研究にあたって、先行諸説の取り扱いに関する知識を身に着けることができる。

◆授業方法

演習形式であるため、各自に発表箇所を割り当てた上で、口頭発表を行う。発表者は、担当箇所の調査、問題点等をまとめたレジュメを作成する。また、口頭発表では、参加者を含め質疑応答の時間を設け、討論を行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

発表 50% レポート 30% 授業参画度 20%

◆教科書

授業内で、適宜資料を配布する。

◆参考書

授業内で、適宜紹介する。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	ガイダンス（授業内容と進め方の説明）
	事 前 学 修	シラバスを熟読し、授業全体の大まかな流れを理解しておく。 『古事記』について、どのような書物かを調べてみる。
	事 後 学 修	授業内容についての振り返りを行っておく。 『古事記』上巻の内容を調べてみる。
2 回	授 業 内 容	『古事記』の構成と対象本文の確認
	事 前 学 修	事前に配布する資料を熟読し、自分なりに内容を理解しておく。
	事 後 学 修	授業内容についての振り返りを行っておく。 『古事記』出雲神話についての内容を調べてみる。
3 回	授 業 内 容	レジュメ作成にあたっての基本作業：本文の作成と調査方法について
	事 前 学 修	図書館に配架されている『古事記』の注釈書・研究書を調べてみる。
	事 後 学 修	可能な範囲で図書館に行き、発表に必要となる資料を収集する。
4 回	授 業 内 容	レジュメ作成にあたっての基本作業2：注釈の作成と模擬発表
	事 前 学 修	自身の担当箇所について、レジュメのアウトラインを作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 A 担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質問事項を考えておく。
5 回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 A
	事 前 学 修	口頭発表 A 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 A 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。

◆授業計画

6回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 B
	事 前 学 修	口頭発表 B 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 B 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
7回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 C
	事 前 学 修	口頭発表 C 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 C 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
8回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 D
	事 前 学 修	口頭発表 D 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 D 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
9回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 E
	事 前 学 修	口頭発表 E 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 E 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
10回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 F
	事 前 学 修	口頭発表 F 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 F 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 G
	事 前 学 修	口頭発表 G 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 G 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
12 回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 H
	事 前 学 修	口頭発表 H 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 H 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
13 回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 I
	事 前 学 修	口頭発表 I 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 I 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
14 回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 J
	事 前 学 修	口頭発表 J 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 J 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
15 回	授 業 内 容	総評と今後の学修に向けて
	事 前 学 修	これまでの発表内容を踏まえた上での提出課題を作成する。
	事 後 学 修	発表・提出課題を作成した際の反省点を考え、今後の学修に活かせるようにする。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 A〕

江川 晃

- ◆**授業概要** 私たちの生きるこの世界は、モバイル、インターネット、TV など科学・技術により支えられている。問題は、それらが人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることにあろう。いま、私たちは、経済至上主義に基づく科学・技術崇拝に偏らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする「哲学力」を養う必要がある。
- ◆**学習到達目標** 古代ギリシャ、中世哲学、近世哲学を通じて、哲学と宗教と科学の発展とそれらの深い関係を把握する。さらに、現代の科学・技術社会がどのようにして成立したかということ考察することにより、現代をより創造的に生き抜く視点（哲学力）を持つことができるようになる。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業によるパワーポイントの動画配信。授業動画（約 40 分）。学習活動（30 分）：ノート作成・整理、課題、感想、質問などを考える時間です。課題等作成・提出（20 分）。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**教科書** **通材** 嘉吉純夫、齊藤隆編著『西洋思想の要諦周覧』、北樹出版
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 課題等（5点× 10 回＝ 50 点）と最終レポート（50 点）
- ◆**授業相談（連絡先）**：『Classroom 上にて行う』
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス：「哲学とは何か」（語源と意味） 事前学修：シラバスをよく読んでおくこと。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
2 回	授業内容：神話から理性へ 事前学修：テキスト 13-18 頁の自然哲学について読んでおくこと。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
3 回	授業内容：哲学は「対話」から始まる。 事前学修：テキスト 22-24 頁を読んでおくこと。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
4 回	授業内容：現象の背後には何があるのか？ 事前学修：テキスト 25 頁を読んでおくこと。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
5 回	授業内容：「現実存在しているもの」と「存在そのもの」 事前学修：テキスト 32-35 頁を読んでおくこと。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
6 回	授業内容：神とは何ですか？ 事前学修：テキスト 32-35 頁を読んでおくこと。 事後学修：配布プリントで復習する。
7 回	授業内容：宇宙と地球について考えよう！ 事前学修：配布されたパワポ動画を予習すること。 事後学修：配布されたパワポ動画を復習すること。
8 回	授業内容：疑っている自分の存在は確かなものか？ 事前学修：テキスト 64-66 頁を読んでおくこと。 事後学修：「われ思う、ゆえにわれあり」を説明できるようにする。
9 回	授業内容：われわれは心に悪い習慣を持っている。 事前学修：テキスト 118-119 頁を読んでおくこと。 事後学修：「4つのイドラ」を説明できるようにしておくこと。
10 回	授業内容：われわれの心は「白紙」だ！ 事前学修：テキスト 120-121 頁を読んでおくこと。 事後学修：「感覚」と「反省」について説明できるようにしておくこと。
11 回	授業内容：いま、目の前に見えるものは、われわれが作り出した現象だ！ 事前学修：テキスト 126-128 頁を読んでおくこと。 事後学修：認識の「コペルニクス的転回」を説明できるようにしておくこと。
12 回	授業内容：精神は弁証法的に発展する。 事前学修：テキスト 80-81 頁を読んでおくこと。 事後学修：「即自存在」「対自存在」「即自対自存在」について復習する。
13 回	授業内容：君は人生で「血が騒ぐもの」を見つけれられるか？ 事前学修：テキスト 80-82 頁を読んでおくこと。 事後学修：実存の三段階には「挫折」が必要であることを確認しよう。
14 回	授業内容：まとめと課題レポートの説明。 事前学修：2 回～ 13 回の復習 事後学修：課題レポートの構想を練る。
15 回	授業内容：課題レポートの提出と解説 事前学修：課題レポートの作成 事後学修：内容の反省

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文化史 A〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** はじめに原始から古代までの各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後中世の各時代の文化の概観を述べ、同じく各論的にいくつかのトピックについて講義する。
- ◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもらう場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：はじめに 近代文化とアニメ 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
2 回	授業内容：古代の文化（旧石器～古墳文化までの概要） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
3 回	授業内容：古代の文化（飛鳥～国風文化までの概要） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
4 回	授業内容：古墳文化（死者の行方） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
5 回	授業内容：かぐや姫（かぐや姫とは） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
6 回	授業内容：かぐや姫（月と極楽浄土） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
7 回	授業内容：かぐや姫（富士山） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
8 回	授業内容：地獄 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
9 回	授業内容：極楽 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
10 回	授業内容：中世の文化（院政期） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
11 回	授業内容：中世の文化（鎌倉） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
12 回	授業内容：中世の文化（室町） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
13 回	授業内容：絵巻物（道成寺縁起絵巻） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
14 回	授業内容：能・狂言 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
15 回	授業内容：まとめと試験 事前学修：1～14 回の内容をよく復習すること 事後学修：試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

近藤 健史

- ◆**授業概要** 北海道をめざした宮沢賢治の作品について講義する。具体的には、北海道という風土は賢治の文学にどのような影響を与えているのか。また、妹トシの死後に訪れた賢治はなぜ「北」をめざしたのか。旅程に従いながら北海道を素材とした賢治の作品を読み解く。
- ◆**学修到達目標** 文学作品を読み解くうえで必要な基礎的知識や方法を学修し、文学への接し方を身につけ、文学作品を理解する力を養うことを目標とする。
- ◆**授業方法** 基本的には、講義形式である。オンデマンド授業を実施、授業動画と学生の学修活動の組み合わせで行う。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 特になし
- ◆**参考書** 丸沼『宮沢賢治（年表作家読本）』山内修 河出書房新社 1989 年
丸沼『新編 宮沢賢治詩集』天沢退二郎編 新潮文庫 1991 年
丸沼『新編 宮沢賢治詩集』改訂 中村稔編 角川文庫クラシックス 1997 年
- ◆**成績評価基準** 試験 90%、授業への参画度 10%
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：授業の進め方、オリエンテーション。 事前学修：北海道の歴史について調べておくこと。 事後学修：授業計画について再確認する。
2 回	授業内容：北海道の風土や文学的風環境について学ぶ。 事前学修：北海道の気候・風土の特徴について調べておくこと。 事後学修：地図で花巻から函館、札幌までのコースを確認して理解を深める。
3 回	授業内容：北海道ゆかりの文学者と作品の特徴について学ぶ。 事前学修：北海道ゆかり、出身者の文学者や作品を調べておくこと。 事後学修：文学作品と風土の特徴の関わりを確認して理解を深める。
4 回	授業内容：宮沢賢治のひとと文学について学ぶ。 事前学修：「年譜」などで賢治の生涯と作品を調べておくこと。 事後学修：事前学修と授業内容について確認して理解を深める。
5 回	授業内容：賢治の北海道の旅と作品の概要について学ぶ。 事前学修：賢治が北海道に3度旅をしたことについて調べておくこと。 事後学修：旅と作品の関わりについて確認して理解を深める。
6 回	授業内容：『春と修羅 第三集』所収の詩篇「札幌市」を読む。 事前学修：『春と修羅』の第二集・三集の背景について調べておくこと。 事後学修：詩の内容と詩作事情などについて確認して理解を深める。
7 回	授業内容：『春と修羅』の「無声慟哭」三部作の詩について学ぶ。 事前学修：三部作「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」の詩について調べておくこと。 事後学修：三部作成立の背景について確認し理解を深める。
8 回	授業内容：三部作を読解鑑賞する。 事前学修：挽歌であることを理解して読んでおくこと。 事後学修：賢治の心情を確認し、理解を深める。
9 回	授業内容：『春と修羅』の「オホーツク挽歌」詩群について学ぶ。 事前学修：第2回目の旅、樺太への旅行について調べておくこと。 事後学修：旅と作品について理解を深める。
10 回	授業内容：『春と修羅』の「青森挽歌」、『春と修羅』の補遺「青森挽歌」を読む。 事前学修：二つの詩を比較して読んでおくこと。 事後学修：賢治の心情を理解する。
11 回	授業内容：「オホーツク挽歌」詩群について学ぶ。 事前学修：詩「オホーツク挽歌」「樺太鉄道」「鈴谷平原」「噴火湾」について学ぶ。 事後学修：賢治の心情を理解する。
12 回	授業内容：3回目の旅、修学旅行引率における詩について学ぶ。 事前学修：『春と修羅 第二集』にある旅程における詩を調べておくこと。 事後学修：賢治の心情を理解する。
13 回	授業内容：ふたつの「津軽海峡」の詩を学ぶ。 事前学修：「津軽海峡」の詩を読んでおくこと。 事後学修：賢治の心情の変化を理解する。
14 回	授業内容：賢治は、なぜ「北」をめざしたのか。 事前学修：北海道の詩を読み、「北」について再確認しておくこと。 事後学修：妹トシと「北」の関わりについて確認し、理解を深める。
15 回	授業内容：まとめ。 事前学修：これまでの授業を振り返って、内容を確認しておくこと。 事後学修：課題によるレポート作成の準備。

〔経済史総論 A〕

飯島 正義

◆**授業概要** 近代資本主義社会に先立つ封建制社会の構造と特徴、封建制社会から近代資本制社会への移行について西ヨーロッパを中心に学んでいきます。

◆**学修到達目標** 1. 封建制社会の構造と特徴について説明することができる。
2. 封建制社会の変質・崩壊過程と絶対王政成立の意義について説明することができる。
3. 封建制社会を打倒した市民革命（ブルジョア革命）の意義について説明することができる。

◆**授業方法** オンデマンド方式で授業を行います。授業動画とは別に授業資料（PDF）を Classroom 内で配布します。1 回の授業で授業動画を 2 本配信する予定です。また、ZOOM が使用可能な場合には、それも組み合わせていきたいと考えています。ZOOM を利用する場合には、改めて Classroom で連絡します。授業の基本的なことが理解できているかを確認するために授業資料に「確認問題」が添付されています。「確認問題」の解答は、期限までに Classroom に提出してください（その提出が出席確認を兼ねます）。解答と解説は次の授業の中で行います。授業内容（確認問題含む）や不明な点についての質問は、Gmail あるいは Classroom で受け付けます。

◆**履修条件** 令和 2 年度（前期）昼間スクーリング「経済史総論 A」、同夏期スクーリング（第 4 期）「経済史総論」との積み重ね不可

◆**教科書** 資料配布（Classroom） 授業資料（PDF）は Classroom 内で配布します。

◆**参考書** 丸沼『エレメンタル欧米経済史』馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著 晃洋書房 2012 年
丸沼『新ヨーロッパ経済史』Ⅱ 中川洋一郎著 学文社 2017 年

◆**成績評価基準** 授業資料の「確認問題」（課題）の提出（30%）とレポート試験（最終課題）（70%）で総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：ecma90182@g.nihon-u.ac.jp

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済史を学ぶ目的、授業内容、授業の進め方、成績評価等について説明します。
	事前学修	シラバスでこのスクーリングの授業内容の全体を確認しておくこと。
	事後学修	経済史の課題は何かについてまとめておくこと。
2 回	授業内容	経済史研究がこれまでどのような方法・視点から行われてきたのかを学びます。今回は、F. リスト、K. マルクス、W.W. ロストウを取り上げます。
	事前学修	今回の授業内容の資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	今回説明した人たちのポイントを整理し、まとめておくこと。
3 回	授業内容	前回に引き続き、経済史研究がどのような方法・視点で行われてきたのかを学びます。今回は、M. ウェーバー、ウォーラースタイン等を取り上げます。
	事前学修	今回の授業内容の資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	前回同様、今回説明した人たちのポイントを整理、まとめておくこと。
4 回	授業内容	民族大移動前のゲルマン人の社会（古ゲルマン社会）がどのような社会であったかについて学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	古ゲルマン社会の特徴を整理し、まとめておくこと。
5 回	授業内容	封建制社会とはどのような社会なのか、またいつ頃成立したのか、封建制社会の特徴、古典荘園制の成立とその変質について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	封建制社会の特徴、古典荘園制の特徴とその変質した背景（理由）について整理し、まとめておくこと。
6 回	授業内容	古典荘園制から純粋荘園制への移行とその背景、純粋荘園制の特徴、14 世紀の領主制の危機について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	古典荘園制と純粋荘園制の違い、14 世紀の領主制の危機について整理し、まとめておくこと。
7 回	授業内容	中世の遠隔地商業としての東方貿易と北海・バルト海貿易、中継都市の成立について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	東方貿易と北海・バルト海貿易の内容等を整理し、まとめておくこと。
8 回	授業内容	西欧における中世都市がどのように成立してきたのか、さらに都市の発展について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	中世都市の成立と都市における自治権獲得の過程について整理し、まとめておくこと。
9 回	授業内容	中世における商業・都市の発展が農村・農業にどのような影響をもたらしたのかについて学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	中世における商業・都市の発展が農村にどのような変化をもたらしたのかについてまとめておくこと。
10 回	授業内容	遠隔地商業・都市の発展が農村工業の発展とどのように関係していたのかを学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	封建制社会の中で農村工業がどのように発展してきたのかについてまとめておくこと。
11 回	授業内容	「地理上の発見」以後の大航海時代の東インド貿易と大西洋貿易について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	東インド貿易と大西洋貿易の内容についてそれぞれ整理し、まとめておくこと。
12 回	授業内容	大航海時代以後の世界市場の拡大と農村工業の発展（プロト工業化）について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	プロト工業化の背景とその特徴について整理し、まとめておくこと。
13 回	授業内容	14 世紀以後の領主制の危機と絶対王政の成立、絶対王政の経済政策について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	絶対王政の成立事情と絶対王政の経済政策の内容・特徴について整理し、まとめておくこと。

14 回	授業内容	市民革命の意義と産業革命前のイギリスの経済状況について学びます。
	事前学修	今回の授業内容の資料を中心に、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事後学修	市民革命が起こる背景、その後の経済政策、産業革命前のイギリス経済についてまとめておくこと。
15 回	授業内容	総まとめと試験
	事前学修	これまでの授業内容のポイントを全体的に確認しておくこと。
	事後学修	設題に対して、重要事項を落とさず論理的に記述ができたかどうかを確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商学総論 A〕

小泉 徹

◆**授業概要** 商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、商品（財、サービス、アイデア）の取引と卸・小売システムの基礎的・体系的知識の習得を目指す。この講義では、前期に続き、おもに流通・マーケティングの仕組みをビジネス基礎・経済の観点で学習する。なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説する。

◆**学修到達目標** 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。
2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

◆**授業方法** 商学を初めて学ぶ学生向けに、基礎知識を習得することを目的に授業を行う。そのためにテキスト以外の入門書や解説書を読むことと、テキストの予習と復習を欠かさないことが重要である。また理解を深めるためにプリントを配布するので、それを使って予習と復習を必ず行うこと。

◆**履修条件** 後期商学総論との継続受講が望ましい。

◆**教科書** 丸沼『商学通論』久保村隆祐編〔九訂版〕同文館出版 平成 29 年
資料配布（Classroom）事前にプリント配布

◆**参考書** 通材『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356）

◆**成績評価基準** 期末課題（80%）、課題・授業への取り組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス 授業の概要、目的、到達目標、および授業の方法などについて
	事前学修	テキスト 2～7 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
2 回	授業内容	商業の対象－流通とは何か、現代市場とマーケティング
	事前学修	テキスト 7～8 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
3 回	授業内容	流通とマーケティング－広告と販売促進、顧客満足の実現
	事前学修	テキスト 9～11 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
4 回	授業内容	流通の機能と機関－企業の責任・取引に関する法
	事前学修	テキスト 11～16 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
5 回	授業内容	流通・商業の生成と発達
	事前学修	テキスト 18～21 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
6 回	授業内容	経済の成長と流通・商業－ビジネス基礎、経済と流通の基礎
	事前学修	テキスト 22～26 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
7 回	授業内容	生産の高度化と流通－商品と商品開発の仕組み
	事前学修	テキスト 27～32 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
8 回	授業内容	商業と小売業－価格決定と市場の役割
	事前学修	テキスト 34～39 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
9 回	授業内容	小売機構と小売業
	事前学修	テキスト 40～43 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
10 回	授業内容	小売業の営業形態
	事前学修	テキスト 44～62 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
11 回	授業内容	小売市場と競争構造－ビジネス経済、経済の国際化
	事前学修	テキスト 62～66 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
12 回	授業内容	小売業の営業形態の特質
	事前学修	テキスト 67～74 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
13 回	授業内容	わが国小売機構の展望
	事前学修	テキスト 74～76 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
14 回	授業内容	授業の総復習
	事前学修	配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。
	事後学修	要点項目をノートや配布資料をよく読んで確認しておくこと
15 回	授業内容	復習及びテスト
	事前学修	配布資料の項目をテキスト、ノートで学習
	事後学修	テキストの前期箇所を読み返し、ノートを確認し、配布資料をよく読んで授業内容の全体像を理解すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

稲葉 明子

- ◆**授業概要** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の関門を越えるためには足枷になります。前期の学習の主眼は、中国語の音を音節表によって物理的に把握し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ることです。
- ◆**学修到達目標** 冒頭4回で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってから新出単語を用いて大量の発音練習をすることによって、漢字を見ても日本語の音読み訓読みではなく中国語の音がでてくるまでもっていきます。発音体系と、中国語音声による発想は必須ですので、先入観をもたず、柔軟な姿勢で臨んでください。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立した言語習得に繋がります。
- ◆**授業方法** 毎回動画学習の後に、指定内容を発音し音声ファイルを提出いただきます。課題は小綺麗に纏めるのではなく、元々よく自分の現状をぶつけてください。大きな声で間違えてくれたほうが問題点を指摘しやすく、結果上達が速くなります。常に文字の前に音を把握し、体得する形で語彙を積み上げていかないと、後期にかけて全く聞き取れなくなります。学習の基礎ができるとふっと負荷が減りますが、それまでは勢いが大切です。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『協同学習で学ぶ中国語ビギニング』李偉 他 三修社 2020 年第5版
(第5版で改訂があるので、かならず指定書店から最新版を購入すること)
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 毎回の音声課題、特に最後2週分の朗読課題で実力を判断します。(50%) 他に数字学習後の数字・時計小テスト 30%、あらかじめサイトで練習して臨む学期末リスニングテスト課題 20%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	中国語とは？・声調・基本母音
	事前学修	印刷物・紙の提出・音の提出方法を確認
	事後学修	声調・基本母音について、Google「質問」にまとめを投稿
2 回	授業内容	子音
	事前学修	ノート・紙媒体ファイリングの確立・赤青黄のペンを準備
	事後学修	子音について、Google「質問」にまとめを投稿
3 回	授業内容	音節総合
	事前学修	基本母音・子音の基本をおさらい
	事後学修	音節について、Google「質問」にまとめを投稿
4 回	授業内容	プレ本文：文型・疑問文
	事前学修	画像ファイル音声ファイル提出の準備
	事後学修	単語シート徹底反復練習、音声課題・手書き課題提出
5 回	授業内容	第3課：自己紹介・中国人の姓／動詞「是」・疑問詞
	事前学修	音節表のおさらい
	事後学修	数字導入・数字特訓、朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
6 回	授業内容	第4課：家族・年齢／動詞「有」・完了相
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
7 回	授業内容	第5課：日付と時刻／動詞述語文・名詞述語文・連体修飾
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	時量と時点把握・数字小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
8 回	授業内容	第6課：番号表現・WeChat/ 省略疑問文・進行相・復習①
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
9 回	授業内容	第7課：買物の表現／量詞・金額・指示代名詞
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
10 回	授業内容	第8課：病気の表現／不～了・副詞「也」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
11 回	授業内容	第9課：場所の表現／存在文・介詞「在」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	方位・数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
12 回	授業内容	第10課：関心の表現／動詞「喜歡」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
13 回	授業内容	第11課：可能の表現／助動詞「会」「能」「可以」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
14 回	授業内容	第12課：願望の表現／助動詞「想」「打算」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	リスニングテスト1・数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿

15 回	授業内容	復習②
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	リスニングテスト2・数字時計小テスト・朗読課題提出

◆授業概要

This course offers students an opportunity to communicate with other students in an open setting. We will model various language structures throughout the course and practice using the target language with other groups.

◆学修到達目標

Our overall objective is to accelerate students' progress in speaking and prepare for everyday communication. We also aim to master various grammatical structures and phrasal verb usage with a focus on fluency.

◆授業方法

Speech Communication 1 is a topic based course that presents objectives in a fun and interactive manner. The teacher will provide hand-outs as the course progresses and you will have the chance to practice the material with various members in the class.

◆履修条件

The course is open to all students. Activities are set at a pre-intermediate level. All students are expected to try their best to use English at all times.

◆成績評価基準

Grades are based on class work and participation (70%). A speaking test and a writing test. (30%).

◆教科書

なし

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	Orientation and Icebreakers.
	事 前 学 修	Prepare a 10 sentence student profile including hobbies and interests.
	事 後 学 修	Sound systems activity.
2 回	授 業 内 容	Write 10 activities that people do to keep fit in Japan.
	事 前 学 修	Role plays and sentence structure with a fitness theme.
	事 後 学 修	Fill in the blank activity.
3 回	授 業 内 容	Role play, Things I like Doing. Study Regular vs. Irregular verbs.
	事 前 学 修	List 5 daily routines.
	事 後 学 修	Make 3 questions about routines.
4 回	授 業 内 容	Create a survey and ask 4 students.
	事 前 学 修	Study previous lesson
	事 後 学 修	Report your findings to the teacher.
5 回	授 業 内 容	Vocabulary and Language practice for story #1.
	事 前 学 修	Read over 'Important Firsts'.
	事 後 学 修	Make 3 quiz questions that fall within the guidelines.
6 回	授 業 内 容	Complete 2 story generators.
	事 前 学 修	Prepare for QuizTime!
	事 後 学 修	Finish both stories A&B.
7 回	授 業 内 容	Create new groups for ShowTime.
	事 前 学 修	Make corresponding questions A&B.
	事 後 学 修	Review the grammar for the last 2 lessons.
8 回	授 業 内 容	Read and practice the script "Eat, Drink and Be Merry".
	事 前 学 修	Prepare to discuss your favorite restaurants.
	事 後 学 修	Finish the activity (Can, Could, Would).
9 回	授 業 内 容	ShowTime in small groups. Complete your active listening worksheets.
	事 前 学 修	Prepare your Restaurant Review.
	事 後 学 修	Read over, "Extraordinary Restaurants".
10 回	授 業 内 容	Showtime in large groups.
	事 前 学 修	Prepare for your roles as customer and server.
	事 後 学 修	Review notes on Appearance and Personality.

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	Brainstorm vocabulary and apply words and phrases to people you know.
	事 前 学 修	Prepare a self-description.
	事 後 学 修	Finish the previous activity.
1 2 回	授 業 内 容	Comparatives vs Superlatives.
	事 前 学 修	Read the story, "What's She Like?"
	事 後 学 修	Finish the previous activities.
1 3 回	授 業 内 容	Check the vocabulary meanings and their opposites.
	事 前 学 修	Read over the role play, "My Family"
	事 後 学 修	Make 10 sentences with the previous vocabulary.
1 4 回	授 業 内 容	Test review; complete your checklist.
	事 前 学 修	Review the previous topics.
	事 後 学 修	Study the checklist for the Speaking Test.
1 5 回	授 業 内 容	Final Exams
	事 前 学 修	Study the grammar for the Writing Test.
	事 後 学 修	Speech Communication 1 is complete.

〔哲学特殊講義〕

江川 晃

- ◆**授業概要** 記号論は哲学の歴史の中から生まれてきた新たな学問である。この授業では、さらに現代の情報学の知見を取り入れた「情報記号論」という観点から、新聞、テレビ、広告、アート、モード、写真、シネマ、報道、VR、ロボット…、さまざまなメディアや文化を通してつくりだされる世界の意味について、ビジュアルに具体的に、考察する。前期はソシュール、バルト、後期は、パースの記号論を中心に展開する。
- ◆**学修到達目標** 私たちの身のまわりに見られる意味のメカニズムを解き明かし、情報の呪縛から自由になるための英知を獲得することができるようになる。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業によるパワーポイントの動画配信。授業動画（約 40 分）。学習活動（30 分）：ノート作成・整理、課題、感想、質問などを考える時間です。課題等作成・提出（20 分）。2 回ほど、皆さんから提出された課題・感想・質問に対するコメントを配信いたします。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom） パワーポイントの動画を配信いたします。
その他 適宜、文書資料等（新聞・雑誌・論文）の p d f ファイルを配信いたします。
その他
- ◆**参考書** 丸沼 石田英敬著『記号論―日常生活批判のためのレッスン講義』、ちくま学芸文庫、2020 年
丸沼 笠松幸一・江川晃著『プラグマティズムと記号学』、勁草書房、2002 年
- ◆**成績評価基準** 課題等（5 点× 10 回＝ 50 点）と最終レポート（50 点）
- ◆**授業相談（連絡先）**：「Classroom 上にて行う」
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス「情報記号論」とは何か？ 事前学修：シラバスをよく読んでおく。 事後学修：パワポ動画をまとめておこう。
2 回	授業内容：「記号」について考えてみよう。 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：パワポ動画をまとめておこう。
3 回	授業内容：記号論の歴史 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：“sign” という語はどのようにして生まれたかをまとめておこう。
4 回	授業内容：「モノと記号 1」 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：ゴッホ、マグリット、ウォーホルの絵画の違いを理解する。
5 回	授業内容：「モノと記号 2」 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：物の記号化＝「モノ」を理解する。
6 回	授業内容：記号と意味について（キュビズム・アートを読む） 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：認識の実体論と関係論をまとめよう。
7 回	授業内容：課題コメント 1 事前学修：2～6 回の授業を復習しておこう。 事後学修：コメント内容について把握する。
8 回	授業内容：ソシュールの記号論 1 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：記号表現と記号内容、記号の意味作用について把握する。
9 回	授業内容：ソシュールの記号論 2 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：記号のシステム、差異と分節の理解。
10 回	授業内容：バルトの記号論 1：メディアの神話作用 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：メディアの神話作用を復習する。
11 回	授業内容：バルトの記号論 2：衣服の記号論 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：衣服が言語であることを復習する。
12 回	授業内容：バルトの記号論 3：モードの記号論 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：流行はどう作られるかを理解しよう。
13 回	授業内容：広告の記号論（マーケティング記号論） 事前学修：パワポ動画を予習しておこう。 事後学修：ポスターの二重の声を把握しよう。
14 回	授業内容：課題コメント 2 事前学修：8～13 回の授業を復習しておこう。 事後学修：コメント内容について把握する。

15 回	授業内容	まとめとレポート提出
	事前学修	パワポ動画を予習しておこう。
	事後学修	最終課題レポートの作成・提出

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 「アジア主義」対「脱亜論」と近代日本の外交が何故ブレ続けたのか、その由来を歴史的に検証した名著である坂野潤治『近代日本とアジア』を皆さんと一緒に講読します。併せて卒論中間発表会も行い、論文を作成する実践的な力を養成する。
- ◆**学修到達目標** 近代日本外交を規定する構造とその変化を明らかにした記念碑的論考を精読することより、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を修得する。
- ◆**授業方法** テキスト『近代日本とアジア』を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『近代日本とアジア』坂野潤治、ちくま学芸文庫、2013年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み（発表・討論等）により総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）** takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp （連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス
	事前学修：テキスト『近代日本とアジア』の通読しておくこと
	事後学修：ガイダンスの要点を確認しておくこと
2 回	授業内容：講義：近代日本とアジアについて
	事前学修：テキスト『近代日本とアジア』の通読しておくこと
	事後学修：講義の要点を確認しておくこと
3 回	授業内容：卒業論文中間発表と討論
	事前学修：卒業論文構想レジュメを作成しておくこと
	事後学修：発表についてのコメントを確認しておくこと
4 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストの予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
5 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
6 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
7 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと。
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
8 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
9 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
10 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
11 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
12 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
13 回	授業内容：テキスト『近代日本とアジア』の講読・報告・討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
14 回	授業内容：「アジア主義」対「脱亜論」をめぐる討論
	事前学修：テキストを予習しておくこと
	事後学修：演習内容の要点を確認しておくこと
15 回	授業内容：卒業論文中間発表と討論
	事前学修：卒業論文中間発表と討論
	事後学修：発表へのコメントを確認しておくこと

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商学総論 B〕

小泉 徹

◆**授業概要** 商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、商品（財、サービス、アイデア）の取引と卸・小売システムの基礎的・体系的知識の習得を目指す。この講義では、前期に続き、おもに流通・マーケティングの仕組みをビジネス基礎・経済の観点で学習する。なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説する。

◆**学修到達目標** 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。
2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

◆**授業方法** 商学を初めて学ぶ学生向けに、基礎知識を習得することを目的に授業を行う。そのためにテキスト以外の入門書や解説書を読むことと、テキストの予習と復習を欠かさないことが重要である。また理解を深めるためにプリントを配布するので、それを使って予習と復習を必ず行うこと。

◆**履修条件** 後期商学総論との継続受講が望ましい。

◆**教科書** 丸沼『商学通論』久保村隆祐編〔九訂版〕同文館出版 平成 29 年
資料配布（Classroom）事前にプリント配布

◆**参考書** 通材『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356）

◆**成績評価基準** 期末課題（80%）、課題・授業への取組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス 授業の概要、目的、到達目標、および授業の方法などについて
	事前学修	テキスト 2～7 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
2 回	授業内容	商業の対象－流通とは何か、現代市場とマーケティング
	事前学修	テキスト 7～8 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
3 回	授業内容	流通とマーケティング－広告と販売促進、顧客満足の実現
	事前学修	テキスト 9～11 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
4 回	授業内容	流通の機能と機関－企業の責任・取引に関する法
	事前学修	テキスト 11～16 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
5 回	授業内容	流通・商業の生成と発達
	事前学修	テキスト 18～21 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
6 回	授業内容	経済の成長と流通・商業－ビジネス基礎、経済と流通の基礎
	事前学修	テキスト 22～26 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
7 回	授業内容	生産の高度化と流通－商品と商品開発の仕組み
	事前学修	テキスト 27～32 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
8 回	授業内容	商業と小売業－価格決定と市場の役割
	事前学修	テキスト 34～39 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
9 回	授業内容	小売機構と小売業
	事前学修	テキスト 40～43 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
10 回	授業内容	小売業の営業形態
	事前学修	テキスト 44～62 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
11 回	授業内容	小売市場と競争構造－ビジネス経済、経済の国際化
	事前学修	テキスト 62～66 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
12 回	授業内容	小売業の営業形態の特質
	事前学修	テキスト 67～74 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
13 回	授業内容	わが国小売機構の展望
	事前学修	テキスト 74～76 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
14 回	授業内容	授業の総復習
	事前学修	配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。
	事後学修	要点項目をノートや配布資料をよく読んで確認しておくこと
15 回	授業内容	復習及びテスト
	事前学修	配布資料の項目をテキスト、ノートで学習
	事後学修	テキストの前期箇所を読み返し、ノートを確認し、配布資料をよく読んで授業内容の全体像を理解すること。

令和3年度昼間スクーリング(前期)開講講座一覧

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
水	1	AC11	政治学	関根 二三夫	2	B11700	政治学	×		1年	
		AC12	商法Ⅱ	宮崎 裕介	2	K30600	商法Ⅱ			2年	
		AC13	日本史入門	鍋本 由徳	2	Q20100	日本史入門	×	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
		AC14	経済学概論 B	前野 高章	2	R20300	経済学概論		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。	
		AC15	マーケティング B	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×		2年	
		AC16	英語 N	トーマス ロックリー	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		2	AC21	英語 C	和泉 周子	1	C10100	英語Ⅰ	×	○	1年
	C10200						英語Ⅱ	2年			
	C10300						英語Ⅲ				
	C10400						英語Ⅳ				
	AC22		英語 D	森 晴代	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
	AC23		イギリス文学史Ⅰ	野呂 有子	2	N20100	イギリス文学史Ⅰ	×		※	・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
	AC24		東洋史特講Ⅱ	高綱 博文	2	Q31100	東洋史特講Ⅱ	×		2年	
	AC25	西洋史演習Ⅰ・Ⅱ	藤井 信行	1	Q405S0	西洋史演習Ⅰ	×	○	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q406S0	西洋史演習Ⅱ					
	3	AC31	法学 A	武田 茂樹	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×		1年	
		AC32	英語 E	北原 安治	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AC33	英語基礎 A	和泉 周子	1	C10600	英語基礎	×	○	1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。
		AC34	英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×		2年	
		AC35	貨幣経済論	続橋 孝行	2	R31900	貨幣経済論	×		2年	
	AC36	アメリカ経済論	羽田 翔	2	R312S0	アメリカ経済論	×		2年		
	4	AC41	歴史学 A	渡邊 浩史	2	B11100	歴史学	×		1年	
		AC42	日本思想史Ⅰ	島田 健太郎	2	P30800	日本思想史Ⅰ	×		2年	
		AC43	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	Q202S0	東洋史入門	×		2年	
		AC44	考古学概説	濱田 晋介	2	Q30500	考古学概説	×		2年	
	5	AC51	歴史学 B	堀井 弘一郎	2	B11100	歴史学	×		1年	
		AC52	文化史 B	渡邊 浩史	2	B11200	文化史	×		1年	
		AC53	国語学概論	保科 恵	2	M20300	国語学概論	×		※	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AC54	東洋史概説／東洋史概論	塚本 剛	2	Q30300	東洋史概説	×		2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。
						K32300	東洋史概論				・法学部のみ申込可。
		AC55	刑法Ⅰ	南 由介	2	K20300	刑法Ⅰ	×		※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。 ・ポータルサイト上では南部篤先生担当で表示されますが、実際に担当されるのは南由介先生です。

※「対面」欄に○が入っている講座は対面授業実施予定講座です。それ以外は全てオンデマンド配信による開講となります。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔政治学〕

関根 二三夫

- ◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念や本質、政治権力、国家と国家機関、議会政治、立法部と行政部、大統領拒否権や議会拒否権など、主に政治学に関する思想的変遷や制度面について学びます。
- ◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会や個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容の説明を致します。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 〔丸〕『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード 000279）2,100 円（送料込）
- ◆**参考書** 〔丸〕『教養政治学』岩井奉信、黒川貢三郎、関根二三夫他 南窓社 3,132 円（税込）（送料 350 円）
- ◆**成績評価基準** 試験 70%、平常点 30%、※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席しないように注意して下さい。
- ◆**授業相談（連絡先）**：sekine.fumio@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：講義全体の概要の説明
	事前学修：テキストを熟読し、概要を理解すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2 回	授業内容：政治学の変遷
	事前学修：参考書の第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3 回	授業内容：政治の概念
	事前学修：参考書の第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4 回	授業内容：政治の本質
	事前学修：テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5 回	授業内容：政治権力（概念及び構造）
	事前学修：テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6 回	授業内容：政治権力（支配の手段）
	事前学修：参考書の第 2 節第 4 章を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7 回	授業内容：国家の概念及び国家成立の要素
	事前学修：参考書の第 3 章を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8 回	授業内容：国家の分類
	事前学修：参考書の第 3 章を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9 回	授業内容：国家機関
	事前学修：参考書の第 3 章を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10 回	授業内容：議会政治の原理
	事前学修：参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
11 回	授業内容：議会の構成
	事前学修：テキストの第 5 章及び参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12 回	授業内容：議院内閣制
	事前学修：テキストの第 5 章及び参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
13 回	授業内容：大統領制
	事前学修：テキストの第 5 章及び参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授業内容：大統領拒否権
	事前学修：テキストの第 5 章及び参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授業内容：議会拒否権
	事前学修：テキストの第 5 章及び参考書の第 4 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修：講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商法Ⅱ〕

宮崎 裕介

- ◆**授業概要** 我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。そのビジネスの主たるアクターが株式会社であることは疑いはない。本講義では、この株式会社について規律する会社法について基本事項を学ぶことによって、会社に関する法的知識を身に付ける者を育成する。本講義では主に機関を扱う。後期に開講される商法Ⅱについても併せて受講することが望まれる。
- ◆**学修到達目標** 会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について Classroom を用いて質疑応答を行うので、学修者一人一人が会社法の基本問題の内容を知り、それについて適切な解答を導き出すことができるようにする。Classroom を利用して小テスト等の問題を出し、その解説や講評も配信するため、それを入手し、課題を提出することができるようになる。
- ◆**授業方法** オンデマンド形式で行う。授業では、会社法の基本的問題を幅広く講義する。その理解のためには、事前にテキストを熟読することで予習し、講義動画を視聴してから、知識を身に付けることが肝要である。毎回の小テストで理解度をチェックするとともに、期末レポートで全体的な講義への理解度を確認する。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 〔丸〕 松嶋隆弘＝大久保拓也編『商事法講義Ⅰ』（中央経済社、令和2年） 3500 円
〔丸〕 六法（会社法令和元年改正に対応したもの）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 小テスト（60 点）・期末レポート（40 点）
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容	会社法総論を学ぶ
	事前学修	教科書第 1 編を通読しておくこと。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
2 回	授業内容	機関総論を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 1 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
3 回	授業内容	株主総会を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 2 章第 1 節～第 3 節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
4 回	授業内容	株主総会を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 2 章第 4 節～第 6 節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
5 回	授業内容	株主総会を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 2 章第 7 節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
6 回	授業内容	役員等の選任などのルールを学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 4 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
7 回	授業内容	取締役会を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 4 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
8 回	授業内容	役員等の義務を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 5 章第 1 節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
9 回	授業内容	役員等の義務を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 5 章第 2 節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
10 回	授業内容	取締役の報酬を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 6 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
11 回	授業内容	監査機関・会計参与を学ぶ
	事前学修	教科書第 3 編第 7 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
12 回	授業内容	株主代表訴訟を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 8 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
13 回	授業内容	対第三者責任を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 9 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
14 回	授業内容	委員会型の会社を学ぶ。
	事前学修	教科書第 3 編第 10 章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
15 回	授業内容	講義の総復習
	事前学修	教科書の該当部分を読み返す。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史入門〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 本科目は、今後、主に史学専攻での研究方法を学ぶ専門性の高い科目です。①日本史学修の意義、②原始・古代～現代へのアプローチ、③資料による学修・研究方法を通じて、日本史を学修し、また研究するための方法を学びます。日本史に関わるさまざまなテーマについて、身近な生活からアプローチし、教科書内容の更なる理解へと導いていきます。史料専門調査員としての経験を活かし、史料の収集・整理、歴史学的考察の方法について指導します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合もあります。

◆**学修到達目標** 1. 日本史に関する広い知識を得るため、各時代の特徴を説明できるようにする。
2. テーマ学修から幅広いジャンルへ展開できる能力を身につける。
3. 史料調査・収集・整理の方法や、歴史学的考察の基礎を身につける。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 原則として教科書を使います（事前に読んでいることが前提です）。授業動画は開講曜日・時限に公開し、短期間で視聴できなくなります。授業曜日・時限の受講に努めてください。動画は内容に沿って分割配信します。適宜動画を一時停止してノートを取りながら学修してください。質問については小テストフォームにて受け付けます。各回の最後は小テスト・自己評価となります（開講曜日のみ回答可）。小テスト・自己評価講評は翌週冒頭で実施します。

◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）「日本史入門」修得済の学生は履修不可

◆**教科書** 丸沼『方法 教養の日本史 Q20100』通信教育教材（教材コード 000484）
参照プリントを Classroom にて各回で配布

◆**参考書** 配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** 最終課題リポート（70%）、授業内小テスト（出欠確認含 30%）、授業参画・リアクションなど（10%）の総合評価
※ 15 回全出席を前提とした評価です。

◆**授業相談（連絡先）**：原則として、Classroom 上で実施する小テストフォームの質問欄にて受け付けます。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	日本史を学ぶための基礎道具 基本入門書（概説書）と基本辞書の読み方・使い方を学びます。
	事前学修	日本史の概要を知るための概説書・辞典類を図書館などで調べておく。
	事後学修	紹介本の数冊を読んで、文献一覧を確認する。辞典で歴史用語を調べる。
2 回	授業内容	村と租税（古代・中世・近世）「領収書」の歴史の変遷から、日本の税制の特徴を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅲの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3 回	授業内容	期間限定の売買（古代・中世・近世）近代と前近代との「売買契約」の違いから、商慣行の特徴を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅲの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4 回	授業内容	文学にみられる感性（中世）歴史小説と歴史学文献を比較して、科学としての日本史を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅰの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5 回	授業内容	災害と「ユーモア」（中世・近世）「彗星」「地震」などの天文・災害認識の変遷を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅳの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6 回	授業内容	職業と「伝統」の根拠（中世・近世）建築に関わる歴史から、由緒や技術の伝播について学びます。
	事前学修	教科書「Ⅲの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7 回	授業内容	近世にみる祭と外国人（近世）「祭礼」の持つ意味を国内外の視点から学びます。
	事前学修	教科書「Ⅱの1」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8 回	授業内容	勧善懲悪の時代劇（幕末維新）「水戸黄門」「大岡越前」から、史実と虚構の関係を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅰの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9 回	授業内容	盛り場と都市論（幕末維新）浅草・新京極・新宿の成立を比較しながら都市の成立を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅱの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
10 回	授業内容	都市開発と鉄道（近代）鉄道の発展と都市開発との関係を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅱの3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。

11 回	授業内容	近代教育と音楽（近世・近代） 唱歌教育の展開から、近代日本の国策（教育）について学びます。
	事前学修	教科書「Ⅳの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12 回	授業内容	歴史映画による刷り込み（近代） 映像による刷り込みから来る歴史学修の危険性について学びます。
	事前学修	教科書「Ⅰの2」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13 回	授業内容	生活空間からみた日本史（中世～近代） 中世から現代の住宅事情から、男女認識の変化について学びます。
	事前学修	教科書「Ⅲの4」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14 回	授業内容	人生儀礼（民俗）「通過儀礼」を通して、誕生と死の歴史の変遷を学びます。
	事前学修	教科書「Ⅴの1・2・3」を読み、内容をまとめておく。事前シートへの記入。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15 回	授業内容	講義総括 日本史の学修と研究視点 第1回から第14回を総括して、自己理解度を改めて振り返ります。
	事前学修	第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。
	事後学修	当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学概論 B〕

前野 高章

- ◆**授業概要** 本講義は市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論と、そこから導かれる市場メカニズムについて説明し、完全競争市場における経済主体の行動、市場メカニズム、資源配分の効率性に関する問題の学修を主とする。
- ◆**学修到達目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、入門編として位置付けをし、ミクロ経済学の理論と方法、消費者行動、生産者行動ならびに市場の効率性の4つの部分から構成されている。この講義では、ミクロ経済学における必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を学修し、ミクロ経済学の基本的な知識を修得することから、経済の動きを客観的に説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業で講義を行う。講義動画と講義資料は掲載期間内に順に学修すること。一度の視聴では分からなかった内容については、テキストや参考書などからも学修し、繰り返し学修をすること。それでも不明な点については随時質問を受け付ける。数回の授業時課題は講義動画あるいは講義資料にて課すこととする。
- ◆**履修条件** 令和三年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の経済学概論との積み重ねは不可。
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom）各回で必要な講義資料を配布する。
- ◆**参考書** 丸沼『ミクロ経済学（第3版）』伊藤元重 日本評論社 2018年
丸沼『経済学の教科書』川野祐司 文真堂 2020年
丸沼『ミクロマクロ経済理論入門』藤本訓利・陸亦群・前野高章 文真堂 2020年
丸沼『ベーシック経済学』古沢泰治・塩路悦郎 有斐閣 2012年
- ◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。
	事前学修	経済学とはどのような学問であるのかを考慮しておく。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2 回	授業内容	経済の循環構造 経済主体間の相互依存関係について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから経済主体とは何かを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、経済主体の関係性や市場の特徴を整理する。
3 回	授業内容	経済体制と市場機構の仕組み 経済の成り立ちに関する歴史の変遷をふまえ、市場経済について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから市場機構の仕組みを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、市場経済の特徴を整理する。
4 回	授業内容	経済学の歴史と基本問題 経済学の歴史について概観し、経済学の課題と基本問題について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから前回までの重要なポイントを整理しておく。
	事後学修	講義内容をもとに、経済学の歴史の変遷を整理する。
5 回	授業内容	ミクロ経済学の理論と方法 経済学におけるミクロ経済学の位置づけについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから経済学でのミクロ経済学の位置づけを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、経済学の基本原則について整理する。
6 回	授業内容	需要と供給の理論 ー 需要曲線と供給曲線の基礎的知識 ー 需要曲線と供給曲線を用いて、市場メカニズムの基本的な知識について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから需要と供給の基本的な関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要曲線と供給曲線の特徴を整理する。
7 回	授業内容	需要と供給の理論 ー 需要・供給曲線のシフト ー 経済的な出来事が需要と供給にもたらす影響について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから需要と供給の決定要因を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要・供給曲線のシフトについて整理する。
8 回	授業内容	消費者行動 ー 需要曲線の構造 ー 需要曲線の構造や需要の価格弾力性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから価格と需要量の関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、需要の価格弾力性について整理する。
9 回	授業内容	消費者行動 ー 消費者行動と需要曲線 ー 需要曲線の構造をもとに、効用の概念と消費者余剰について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから効用の概念について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、消費者行動について整理する。
10 回	授業内容	生産者行動 ー 供給曲線の構造 ー 供給曲線を用いて、供給の価格弾力性、費用の諸概念について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから価格と供給量の関係を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、供給の価格弾力性と費用の諸概念について整理する。
11 回	授業内容	生産者行動 ー 生産者行動と供給曲線 ー 供給曲線の構造をもとに、短期と長期の費用概念と生産者余剰について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから経済学での短期と長期の概念、生産者余剰について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、生産者行動について整理する。

12 回	授業内容	消費者行動の理論① 一般均衡分析の考え方から消費者行動について学修する。
	事前学修	配布資料，教科書・参考書などから無差別曲線，予算制約，限界代替率について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに，効用最大化について整理する。
13 回	授業内容	消費者行動の理論② 消費者行動の理論からスルツキー分解について学修する。
	事前学修	配布資料，教科書・参考書などから代替効果，所得効果，上級財，下級財について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに，スルツキー分解について整理する。
14 回	授業内容	生産者行動の理論① 一般均衡分析の考え方から生産者行動について学修する。
	事前学修	配布資料，教科書・参考書などから生産関数，等量曲線，等費用線について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに，利潤最大化について整理する。
15 回	授業内容	生産者行動の理論② 生産者行動の理論から最適生産について学修する。
	事前学修	配布資料，教科書・参考書などから前回までの生産者行動について確認する。
	事後学修	これまでの講義内容をもとに，講義全体の要点を整理し，ミクロ経済学の基礎理論について整理する。

〔マーケティング B〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 製品にまつわる競争優位の源泉は、時代とともに大きく変化している。それによって、マーケティング戦略の進め方も大きく変化してきた。近年、強まっていた消費者の低価格志向による価格競争は、広告費の減少やメディア戦略の見直しを迫っているのが現状である。このような状況下で、本講義はマーケティングを深く理解するための前提となる、基礎的な知識を体系的に解説する事を目的とする。実務経験から得た知識を具体例として挙げ、できるだけ平易に分かりやすく解説する。

◆**学修到達目標** 1 マーケティング戦略の機能・役割を基礎から理解できる。
2 消費者ニーズを探り、それを満たすための企業活動が理解できる。
3 市場動向の変化を捉え、情報を収集し分析ができるようになる。
4 プロモーション戦略やブランド戦略等の戦略策定が理解できる。

◆**授業方法** 本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されている配信資料を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。テキストは事前学修に活用し、授業内容は動画を中心とする。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆**履修条件** 後期マーケティング論との継続受講が望ましい。
令和 2 年度のマーケティング論（夜間スクーリング）との積み重ねは不可。

◆**教科書** **【教材】** マーケティング S30500
【資料配布 (Classroom)】 必要に応じて資料を配布する

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%）総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス 授業の進め方 マーケティングの基本事項について
	事前学修	テキスト 9 頁～ 19 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	マーケティング・ミックスとマーチャンダイジング
	事前学修	配信資料をよく読み、テキストの当該箇所を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめること。
3 回	授業内容	様々なマーケティング・ミックスの考え方 製品戦略（ブランド概念「その 1」）
	事前学修	テキスト 23 頁～ 32 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト 28 頁の図をノートに書き写し、内容を理解する。配信資料の内容を確認すること。
4 回	授業内容	製品戦略（ブランド概念「その 2」 製品ライフサイクル 計画的陳腐化）
	事前学修	配布資料をよく読み、テキストの当該箇所を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	価格戦略①（価格とは？ 価格設定の考え方 価格と消費者心理）
	事前学修	テキスト第 9 章と配信資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	価格戦略②（心理的な価格付け 価格感度測定法 価格と消費スタイル）
	事前学修	前回のノートを確認し、テキスト当該箇所をまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、全体を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容	流通戦略①（流通の意義と基本的事項 流通間競争 小売りについて「その 1」）
	事前学修	テキスト第 10 章をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容	流通戦略②（小売について「その 2」 真空地帯の仮説 ABC 分析）
	事前学修	前回のノートを確認し、テキスト当該箇所をまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容	卸売業の特徴と役割 メーカーについて（競争戦略の四類型）
	事前学修	前回のノートを確認しておくこと。事前に配信された資料をノートにまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、全体を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックス PULL 戦略と PUSH 戦略
	事前学修	テキスト第 12 章をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容	プロモーションの種類①（広告の定義 広告の基本的過程 人的販売）
	事前学修	配信資料の図表をノートに書き写して、プロモーション・ミックスの相関性を確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容	プロモーションの種類②（パブリック・リレーションズ セールス・プロモーション）
	事前学修	配信資料における PR 及び、SP の種類を確認しそれぞれの目的や意義を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容	マーケット・セグメンテーション
	事前学修	テキスト 31 頁～ 34 頁をよく読んでおくこと。配信資料の内容も確認しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体を確認し理解しておくこと。

14 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘したマーケティング戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べたマーケティング戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

The aim of this course is for students to be able to develop the vocabulary, phrases and knowledge to be able to explain Japanese history and culture in English.

◆学修到達目標

Through reading, listening, and discussing the stories in the textbook about Japanese culture and history, you will learn to be able to explain and discuss the topics in English.

◆授業方法

This class will be taught on demand via YouTube video and Google Classroom. Active learning will be in the form of students' questions and answers on the 'Discussion Board.' At the end of the class, students will reflect on their learning.

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

- 26% - 点数がある課題 (Vocabulary test, Quiz 等) の平均点
- 26% - 点数がない課題 (Comprehension, Discussion, Reflection 等)
- 10% - Final Reflection
- 30% - セメスター試験 (15週目にあるテスト)
- 8% - 授業に関する態度

◆教科書

丸沼 「英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー トーマス 東京書籍 2019年

◆参考書

なし

◆授業相談先 (連絡先)

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	Learn about the objectives of the class
	事 前 学 修	Read the syllabus and the introduction to the textbook, pages 1-22
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
2 回	授 業 内 容	Learn about the history of Edo to Tokyo
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
3 回	授 業 内 容	Learn about the story of Kimono
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
4 回	授 業 内 容	Learn about the story of Kabuki
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
5 回	授 業 内 容	Learn about the story of Sumo
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
6 回	授 業 内 容	Learn about the story of Shinkansen
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
7 回	授 業 内 容	Learn about the story of Manga
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
8 回	授 業 内 容	Learn about the story of Akihabara
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
9 回	授 業 内 容	Learn about the story of Yamanote
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
10 回	授 業 内 容	Learn about the story of the Imperial Palace
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	Learn about the story of Asakusa
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
1 2 回	授 業 内 容	Learn about the story of Meiji Jingu
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
1 3 回	授 業 内 容	Learn about the story of Sushi and Tempura
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Learn new words and complete reflections
1 4 回	授 業 内 容	Learn about the story of Noodle Culture
	事 前 学 修	Prctice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事 後 学 修	Revise for the semester test
1 5 回	授 業 内 容	Semester test
	事 前 学 修	Revise for the semester test
	事 後 学 修	Reflect upon the semester and prepare for semester 2

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 C（初級）〕

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や文構造、語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになることを目指します。

【後期開講の昼間スクーリング「英語Ⅰ～Ⅳ」（和泉周子担当）と併せて受講することが望ましい】

◆**学修到達目標** 1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できる。
2. 英文の内容を正確に把握することができる。

◆**授業方法** 各ユニットを Grammar Point + Grammar Exercise → Vocabulary Quiz → Reading → True or False → Collocation → Reading Summary の順番で学習していきます。

設問への解答に加え、Reading と Reading Summary は 1 文ずつ（文章が短い場合には 2 文）、True or False・Collocation・Vocabulary Quiz・Grammar Exercise は問題ごとにすべての英文を音読し和訳していただきます（教科書に和訳が記載されている Vocabulary Quiz と Grammar Exercise の一部の問題については、記載されている和訳と英文の音読をしていただきます）。用いられている文法や文構造、語彙について答えていただいたり、解答の根拠を説明していただいたりすることもありますので、事前学修（予習）を丁寧に行ってください。

授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度で進まない場合があります。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸函『[入門] 考える基礎英語読本（Read on, Think on [Ultra-basic Level]）』Jonathan Lynch / 山本厚子 / 渡辺香名子 三修社 2021 年 2 月 20 日
教科書は初回授業日までに入手してください。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業への参加度（30%）
毎回出席することを前提とします。また、授業への参加度には教科書の予習状況が含まれます。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス：授業の内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 Shop Names : Grammar Point + Grammar Exercise
	事前学修	①シラバスを読む。 ② Grammar Point + Grammar Exercise の文法の説明部分を読み、その下の問題を解く。
	事後学修	Grammar Point + Grammar Exercise の学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心に復習する。
2 回	授業内容	Unit 1 Shop Names : Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Vocabulary Quiz の問題を解く。 ② Reading の英文を読む。
	事後学修	① Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
3 回	授業内容	Unit 1 Shop Names : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心に Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心に適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
4 回	授業内容	Unit 2 How to Get a Seat on a Train : Grammar Point + Grammar Exercise・Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Grammar Point + Grammar Exercise の文法の説明部分を読み、その下の問題を解く。 ② Vocabulary Quiz の問題を解く。 ③ Reading の英文を読む。
	事後学修	① Grammar Point + Grammar Exercise は学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心に復習する。その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。② Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
5 回	授業内容	Unit 2 How to Get a Seat on a Train : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心に Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心に適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
6 回	授業内容	Unit 3 False Rumors and Panic Buying : Grammar Point + Grammar Exercise・Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Grammar Point + Grammar Exercise の文法の説明部分を読み、その下の問題を解く。 ② Vocabulary Quiz の問題を解く。 ③ Reading の英文を読む。
	事後学修	① Grammar Point + Grammar Exercise は学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心に復習する。その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。② Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
7 回	授業内容	Unit 3 False Rumors and Panic Buying : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心に Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心に復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心に適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。

8回	授業内容	Unit 4 Keeping Your Smartphone Clean : Grammar Point + Grammar Exercise・Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Grammar Point + Grammar Exercise の文法の部分を読み、その下の問題を解く。 ② Vocabulary Quiz の問題を解く。 ③ Reading の英文を読む。
	事後学修	① Grammar Point + Grammar Exercise は学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心にして復習する。 ② Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
9回	授業内容	Unit 4 Keeping Your Smartphone Clean : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心にして Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心にして適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
10回	授業内容	Unit 5 Staying Safe While Walking : Grammar Point + Grammar Exercise・Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Grammar Point + Grammar Exercise の文法の部分を読み、その下の問題を解く。 ② Vocabulary Quiz の問題を解く。 ③ Reading の英文を読む。
	事後学修	① Grammar Point + Grammar Exercise は学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心にして復習する。その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。② Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
11回	授業内容	Unit 5 Staying Safe While Walking : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心にして Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心にして適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
12回	授業内容	Unit 6 Colorful Hairstyles : Grammar Point + Grammar Exercise・Vocabulary Quiz・Reading
	事前学修	① Grammar Point + Grammar Exercise の文法の説明部分を読み、その下の問題を解く。 ② Vocabulary Quiz の問題を解く。 ③ Reading の英文を読む。
	事後学修	① Grammar Point + Grammar Exercise は学習内容をノート等にまとめ、間違えた問題を中心にして復習する。その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。② Vocabulary Quiz は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら、全体の内容を理解する。
13回	授業内容	Unit 6 Colorful Hairstyles : True or False・Collocation・Reading Summary
	事前学修	① True or False の問題を解く。 ② Collocation の問題を解く。 ③ Reading Summary の問題を解く。
	事後学修	① True or False は間違えた問題を中心にして Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ② Collocation は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 ③ Reading Summary は間違えた問題を中心にして適宜 Reading の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
14回	授業内容	13回目までの授業内容の復習及び試験
	事前学修	13回目までの学習内容を理解する。
	事後学修	試験で解けなかった問題を中心にして復習する。
15回	授業内容	総まとめ
	事前学修	14回目までの学習内容を確認する。
	事後学修	全学習内容をノート等にまとめ、復習する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 D（中級）〕

森 晴代

◆**授業概要** CNN ニュースを使用してアンカーや特派員の生きた英語の直聴直解を目指します。英語の4技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、自然とシャドーイングができるようにします。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが上達の前提となりますので、扱うニュースについて事前に調べておき、周辺の言葉はある程度知っておく必要があります。

◆**学修到達目標** 1. ネイティブスピーカーが日常使用する 5000 語を身につける。スペルのミスをなくす。
2. 1 分間に 150 語の音読ができる。棒読みではなく、自分の言葉として英語が出るようにする。
3. 音読文章の内容を正確に把握することができる。

◆**授業方法** 動画授業となります。2回の授業で 1 unit 進めます。本文のリスニングを中心に、語彙問題、質疑応答問題、音読練習（オーバーラッピング、シャドーイング）を、テキストに沿って行います。毎回視聴したかどうかの確認として、リアクションペーパーの提出をしてもらいます。Google Classroom を使用します。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN Vol. 22』関西大学 CNN 英語研究会 朝日出版社

◆**参考書** 丸沼『CNN ENGLISH EXPRESS』朝日出版社

◆**成績評価基準** リアクションペーパーの提出（40%）、レポート2種類（60%）

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて受け付けます

◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容	ガイダンス。リスニングと音読の関係性の説明。 Unit 1 : A Matter of Time (1～7ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。Unit 1 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
2 回	授業内容	Unit 1 : A Matter of Time (5～9ページ) リスニング解答、質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
3 回	授業内容	Unit 2 : Japan's Royal Dilemma (10～16ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 2 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
4 回	授業内容	Unit 2 : Japan's Royal Dilemma (14～18ページ) リスニング解答、質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
5 回	授業内容	Unit 3 : Doing It Right (19～25ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 3 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
6 回	授業内容	Unit 3 : Doing It Right (23～27ページ) リスニング解答、質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
7 回	授業内容	第一回 レポート提出
	事前学修	Unit 1～3の内容を復習しておくこと
	事後学修	Unit 1～3の内容が定着しているか、単語や文章を聞いて確認すること
8 回	授業内容	Unit 4 : From the Comfort of Home (28～34ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 4 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
9 回	授業内容	Unit 4 : From the Comfort of Home (32～36ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
10 回	授業内容	Unit 5 : No Age Barrier (37～43ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 5 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
11 回	授業内容	Unit 5 : No Age Barrier (41～45ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
12 回	授業内容	Unit 6 : Royal Split (46～52ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 6 の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
13 回	授業内容	Unit 6 : Royal Split (50～54ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと

14 回	授業内容	Unit 1～6のリスニング及び内容の復習
	事前学修	Unit 1～6のリスニングを復習して、内容を確認してくること
	事後学修	最終レポート作成に向けて内容を理解しておくこと
15 回	授業内容	これまでの振り返り 理解度確認 第二回レポート提出
	事前学修	これまでの音読訓練の成果を確認、単語の暗記、直聴直解ができているかを確認しておくこと
	事後学修	これまでのトピックの内容、スムーズなシャドーイング、単語のスペルの再確認をしておくこと

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔イギリス文学史Ⅰ〕

野呂 有子

- ◆**授業概要** 指定テキストおよび配付資料を基盤とし以下を目的とする。1. ベイオウルフから 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学Ⅰの全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。
- ◆**学修到達目標** 1. 受講学生が、『ベイオウルフ』から始まり 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。
- ◆**授業方法** ターム9回目まではテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的知識を解説する。10 回目からは必要に応じて資料を提示して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。基本的に、各授業の後半では、当該授業の主要テーマに関するリアクションペーパーの提出を毎回求める。また、その内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。
- ◆**履修条件** 2020 年度夏季スクーリング「イギリス文学史Ⅰ」との積み重ねは不可
- ◆**教科書** 丸沼『映画で楽しむイギリスの歴史』吉田徹夫他 金星堂 2400 円（税別）
資料配布（Classroom）授業の進捗や受講学生の興味の有り様に従って、適宜、授業担当教師が適切だと判断した資料を提示する
その他 フリーウェブサイト「野呂有子の研究ウェブサイト」
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 授業参加意識の高さ（10%）、授業時に行うミニ・レポート（40%）、受講学生自身による手書きノート（50%：コピー類は一切不可）の三点を基にして総合的に評価する。ノートは授業終了直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。
- ◆**授業相談（連絡先）**：E-mail： yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。教科書は授業時に指導教師と受講学生が一緒に読みながら授業を進める上、内容をノートに転記してもらうので必ず購入しておくこと。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方、オリエンテーション、英文学と英文学史の意義を説明し、その背景を解説する。導入を行う。たとえば、『アーサー王の死』において重要な役割を果たす魔剣エクスカリバーが、『ハリー・ポッター』作品に継承されていること、『楽園の喪失』最終場面のアダムとイブの姿が多くの恋愛作品や映画に継承されていることを明らかにして、『英文学史Ⅰ』で扱われる文学作品が現代のわれわれにいかに関与しているかを理解してもらう。
	事前学修	教科書の最初から 136 頁まで、さらに 243 から 247 頁までを概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
2 回	授業内容	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）と一緒に読みながら、文学作品としての『ベオウルフ』と七王国時代について学ぶ。
	事前学修	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容	「アーサー王」（教科書 28 から 32 頁）と一緒に読みながら、トマス・マーロリー作『アーサー王の死』について学ぶ。さらに、「バラ戦争—王権をめぐる戦い」（教科書 70 から 74 頁）と一緒に読みながら中世後期の、バラ戦争の中で誕生した理由について考察し、理解する。
	事前学修	「アーサー王」（教科書 28 から 32 頁）と「バラ戦争—王権をめぐる戦い」（教科書 70 から 74 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容	教科書 33 頁の「中世前期」の年表を確認しながら、「ヘンリー二世」（教科書 35 から 50 頁）と「リチャード二世」（教科書 55 から 58 頁）と一緒に読みながら、1066 年のノルマン・コンクエストとそれに続く、大きな英語の変容について理解する。その上で、ジェフリー・チョーサー作『カンタベリー物語』の歴史的、社会的、言語学的、市民的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 33 頁の「中世前期」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー二世」（教科書 35 から 50 頁）と「リチャード二世」（教科書 55 から 58 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	教科書 59 頁の「中世後期」の年表を確認しながら、「ヘンリー五世」（教科書 61 から 65 頁）と一緒に読む。さらに、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表を確認しながら、「ヘンリー八世」（教科書 77 から 80 頁）、「トマス・モア」（教科書 81 から 85 頁）と一緒に読む。その上で、ヘンリー八世が樹立した「英国国教会」の意味について宗教的、政治的、文学的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 59 頁の「中世後期」の年表と、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー五世」（教科書 61 から 65 頁）と「ヘンリー八世」（教科書 77 から 80 頁）、「トマス・モア」（教科書 81 から 85 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

6回	授業内容	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁), 「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁), 「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁), 「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁) を一緒に読む。その上で、文学者としてのエリザベス女王と英国が世界に誇る劇作家ウィリアム・シェイクスピアについて考察し、理解する。英国で公式には、ウィクリフより行われ、『欽定英訳聖書』において、一定の決着を見る、聖書の英語翻訳の歴史について整理し、理解する。
	事前学修	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁), 「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁), 「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁), 「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表を確認しながら、「植民地」(教科書 109 から 112 頁), 「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁), 「チャールズ2世」(教科書 118 から 122 頁) を一緒に読む。その上で、これらの時代を代表する文学作品とその特徴について概観し、理解する。英国の複雑な宗教事情、すなわちカトリック→英国国教会→カトリック→英国国教会という大まかな図式があることを理解する。そして、その原因がヘンリー八世の離婚問題に端を発していることを理解し、迫害と宗教的闘争の中で、スペンサー、シェイクスピア、ミルトンといった偉大な文学者が誕生してくるようになった経緯を把握する。
	事前学修	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表をノートに写すこと。さらに、「植民地」(教科書 109 から 112 頁), 「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁), 「チャールズ2世」(教科書 118 から 122 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁) を読み、教科書 129 頁の「18 世紀」の年表を確認しながら、「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁) ままで読む。その上で、市民階層の教育、小説の誕生、挿絵文化の発展について考察し、理解する。
	事前学修	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。教科書 129 頁の「18 世紀」の年表をノートに転記しておくこと。「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁) ままで読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	Classroom から配信した資料をもとにしながら、市民階層の教育、小説の誕生、挿絵文化の発展についてさらに考察し、理解する。
	事前学修	配付資料を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	授業第 10 回目からは第 9 回までに理解した英国の歴史を背景にして、より一層専門的に英文学の内容について考察していく。第 10 回では、エリザベス女王の統治のもとで、優れた作家が台頭してきた事実を確認する。また、国王が女性であったことから、文学作品にフェミニズム的要素が多く認められること、さらに、すぐれた女性の文学者たちが舞台の表に登場した事実についても考察し、理解する。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	英詩の土台となるソネット(14 行詩)について学ぶ。サー・トマス・ワイアットやサレー伯、エリザベス女王、シェイクスピア作のソネットも鑑賞する。さらにその基底をなす弱強五歩脚(アイアンビク・ペンタミター)のリズムを習得する。これが現在に至る、英語の抑揚の基本となるからである。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容	弱強五歩脚のリズムを踏まえて、シェイクスピアの劇作品について学ぶ。悲劇と喜劇、歴史劇についてそれぞれ一部を取り上げて鑑賞する。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容	エリザベス女王亡き後の英国の政治的風土について、ジェームズ一世、チャールズ一世に焦点を当てて考察する。この風土からジャコビアンドラマと呼ばれる退廃的演劇が台頭し、人心を退廃させたこと、それとは対照的に、宮廷仮面劇が隆盛を極め、国庫を食いつぶし、やがて両者が相まってイングランド革命へと繋がっていくことを理解する。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンとその作品『楽園の喪失』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

15 回	授業内容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンと、彼が当時の国際共通語ラテン語で執筆した『イングランド国民のための弁護論』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事前学修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史特講Ⅱ〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 近代中国を代表する革命政治家・孫文は、1924 年 11 月最後の訪日において有名な「大アジア主義」講演を行った。本講義では同講演を彼の対外戦略論の視点から読み解き、複雑な日中関係史を理解する。
- ◆**学修到達目標** テキストを講読するとともに、孫文関係の映像資料を視聴し日中関係史への理解を深める。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業及び Google Classroom を使用。
- ◆**履修条件** 令和2年度夏期スクーリング『東洋史特講Ⅱ』（高綱博文）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書 教材** 『東洋史特講Ⅱ』Q31100
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 毎回提出のリアクションペーパー及び最終レポート試験
- ◆**授業相談（連絡先）** : t akatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp （連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容	ガイダンス
	事前学修	テキスト序章を学習
	事後学修	ガイダンスの要点を確認
2 回	授業内容	孫文と中国革命（映像資料を視聴）
	事前学修	孫文について調べておくこと
	事後学修	リアクションペーパーの作成
3 回	授業内容	テキスト序章の講読
	事前学修	テキスト序章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
4 回	授業内容	テキスト第 1 章の講読
	事前学修	テキスト第 1 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
5 回	授業内容	テキスト第 2 章の講読(1)
	事前学修	テキスト第 2 章の講読予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
6 回	授業内容	テキスト第 2 章の講読(2)
	事前学修	テキスト第 2 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
7 回	授業内容	孫文と中国革命を支援した日本人（映像資料を視聴）
	事前学修	孫文を支援した日本人について調べておくこと
	事後学修	リアクションペーパーの作成
8 回	授業内容	孫文「大アジア主義」講演を講読
	事前学修	テキスト 250 ～ 271 頁を予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
9 回	授業内容	テキスト第 4 章を講読
	事前学修	テキスト第 4 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
10 回	授業内容	テキスト第 5 章の講読(1)
	事前学修	テキスト第 5 章の講読予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
11 回	授業内容	テキスト第 5 章の講読(2)
	事前学修	テキスト第 5 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
12 回	授業内容	映像資料「100 年先を見た男・孫文」を視聴
	事前学修	孫文について調べておくこと
	事後学修	リアクションペーパーの作成
13 回	授業内容	テキスト第 6 章の講読(1)
	事前学修	テキスト第 6 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
14 回	授業内容	テキスト第 6 章の講読(2)
	事前学修	テキスト第 6 章の予習
	事後学修	リアクションペーパーの作成
15 回	授業内容	レポート試験
	事前学修	テキスト及び講義の復習
	事後学修	日中関係史を理解を再確認すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

藤井 信行

- ◆**授業概要** 歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。そのため、授業をととして「卒業論文のテーマ決定」「歴史学の論文とは?」「論証とは?」「文献目録の作成」「文献の解説」「事実と解釈」(以上、前期)について、および「研究史の整理」「資料の収集」(以上、後期)など1つ1つステップを積み重ね、歴史学の論文を書くことへとつながっていきます。授業内でプレゼンテーションとディスカッションを行います。
- ◆**学修到達目標** 歴史とは、事実の積み重ねがおのずから歴史を作っていくのではなく、歴史家がいくつもの事実を解釈することをおして創られていくものであることを学ぶ。そして学生各自が自己のテーマについて、こうしたことを積み重ねることにより、論文としてまとめる(歴史を書く)ことができる。
- ◆**授業方法** 歴史学の卒業論文を完成させるためのステップを、1つずつゼミナール形式で進めます。3年次生は、これをモデルにして同じステップを各自の論文テーマで行います。4年次生は、これを今一度自分の論文で確認しつつ論文を完成させてください。3年・4年次生ともに授業内でのそれまでの研究成果を報告してもらうとともに、報告内容についてディスカッションを行います。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**教科書** 丸沼 通信教育教材 『西洋史入門 Q20300』(000047)
- ◆**参考書** 丸沼 通信教育教材 『西洋史特講Ⅰ Q31200』(000156)
丸沼 通信教育教材 『歴史学 B11100』(000393)
- ◆**成績評価基準** レポート2回(授業中・前期最終授業時)各30%×2、報告40% 毎回出席することを前提に評価します。
- ◆**授業相談(連絡先)**: 配信授業は、通信教育部の Classroom を使用します。連絡先などは、授業初回時にお知らせします。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	歴史学の論文を書く: まずこの授業の全体像と具体的な進め方を説明する。この授業での共通テーマ(「第一次世界大戦開戦原因論」)を設定し、このテーマで卒業論文の作成を進めていくという前提で、その過程を一つずつゼミナール形式で実践する。その際のキーワードは「事実」と「論証」である。(市ヶ谷校舎/対面授業)
	事前学修	テキスト第3章(79~126頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、2つのキーワード「事実」と「解釈」を理解する。
2回	授業内容	4年次生(今年度、卒業論文提出予定者)の卒業論文中間報告とディスカッション(1): 今年度、卒業論文提出予定学生の報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。(市ヶ谷校舎/対面授業)
	事前学修	報告予定者は報告を準備する。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
3回	授業内容	4年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(2): 学生の報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。(市ヶ谷校舎/対面授業)
	事前学修	報告予定者は報告を準備する。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
4回	授業内容	歴史学とは?: 歴史学(歴史)を構成している2つの重要なキーワードとして「事実」と「解釈」を挙げることが出来る。新しい「事実」が発見されれば、つねにそれに従って新しい「解釈」が生まれる。歴史学はその積み重ねであることを説明する。(配信授業)
	事前学修	テキスト第3章(79~126頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、2つのキーワード「事実」と「解釈」を理解する。
5回	授業内容	「事実」について: 事実の積み重ねがおのずから歴史を作っていくのではなく、歴史とは歴史家による「事実」の「解釈」であり、歴史家がいくつもの事実を解釈することをおして創られていくものであることを解説する。(配信授業)
	事前学修	テキスト第1章(1~40頁)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、2つのキーワード「事実」と「解釈」を理解する。
6回	授業内容	一般的事実と歴史的事実(1): 一般的事実と歴史的事実の違いについて説明するとともに、歴史学の論文(プリントを配布)を読んで、一般的事実を拾い集めリストアップする。(配信授業)
	事前学修	配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業で作成した事実のリストアップ表を(授業中に未完の学生は完成させる)、配布資料と照らし合わせて確認する。
7回	授業内容	一般的事実と歴史的事実(2): リストアップした一般的事実の中から、自己の解釈を証明してくれる事実(歴史的事実)をピックアップして、レポートにまとめる。(配信授業)
	事前学修	作成したリストアップ表をよく読んでおくこと。
	事後学修	まとめたレポートを提出用に完成させる→次回授業時に提出。
8回	授業内容	参考文献目録の作成(1): 共通テーマ「第1次世界大戦原因論」で参考文献の検索・目録の作成を行う。(配信授業/各自、パソコンやタブレット・スマホを使用)
	事前学修	参考書『歴史学』第8部をよく読んでおくこと。
	事後学修	ネットを利用した検索方法を各自で再確認する。
9回	授業内容	参考文献目録の作成(2): 各自の卒業論文のテーマ(まだテーマ未決定の学生は関心のあるテーマ)で参考文献の検索・目録の作成を行う。(配信授業/各自でパソコンを使用)
	事前学修	各自、参考文献を1つ選び、よく読んでおくこと。
	事後学修	授業の時間内では取り上げられなかったキーワードの組み合わせで、さらに検索をかけてみる。
10回	授業内容	編年表を作る(1): 共通テーマとして歴史学の関連図書(通信教材『歴史学』)を読んで、出来事を編年形式でまとめる。(配信授業)
	事前学修	第6回・7回授業で作成したリストアップ表をいま1度よく読んでおくこと。
	事後学修	テーマについての出来事の経緯(編年表)を(未完の学生は完成させ)確認し理解する。
11回	授業内容	編年表を作る(2): 各自のテーマに関する論文を読み、出来事を編年形式でまとめる。(配信授業)
	事前学修	各自、参考文献を1つ選び、よく読んでおくこと。
	事後学修	テーマについての出来事の経緯(編年表)を(未完の学生は完成させ)確認し理解する。

12 回	授業内容	3 年次生（4 年次生以外）の卒業論文中間報告とディスカッション(1)： 学生それぞれの報告と報告内容（テーマ・章立て・論証内容など）についてのディスカッションを行う。（市ヶ谷校舎／対面授業）
	事前学修	各自の報告を準備する。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
13 回	授業内容	3 年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(2)： 学生それぞれの報告と報告内容（テーマ・章立て・論証内容など）についてのディスカッションを行う。（市ヶ谷校舎／対面授業）
	事前学修	各自の報告を準備する。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
14 回	授業内容	4 年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(3)： 学生それぞれの報告と報告内容（テーマ・章立て・論証内容など）についてのディスカッションを行う。（市ヶ谷校舎／対面授業）
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨（第 2・3 回目授業で配布されたもの）をもう 1 度読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
15 回	授業内容	4 年次生の卒業論文中間報告とディスカッション(4)： 学生それぞれの報告と報告内容（テーマ・章立て・論証内容など）についてのディスカッションを行う。（市ヶ谷校舎／対面授業）
	事前学修	各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨（第 2・3 回目授業で配布されたもの）をもう 1 度読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。
	事後学修	報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学 A〕

武田 茂樹

- ◆**授業概要** 法学の基本的理解を深める。法の歴史を学びながら法とは何かを学問的に考えていく。
- ◆**学修到達目標** 基本的な法学の理解を学問的に確立する。
古代法、中世法、近代法、現代法という歴史的な法の流れを理解する。
- ◆**授業方法** オンデマンドで授業の動画を配信する。質問等ある場合は、第 14 回目の動画にて、回答する。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** **通材** 『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）
その他、授業内で紹介します。
- ◆**成績評価基準** 試験（100%）
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	法学の学び方、法とは何かを学問的に考える
	事前学修	色々なジャンルの本を自由に読んでみてください
	事後学修	講義の感想や質問をノートにメモしてください
2 回	授業内容	法の歴史を学ぶ。古代、中世、近代、現代という歴史軸のもとに法の歴史的流れを考えていきます
	事前学修	關愛氏の全体像が分かりやすく書かれている本を読んでください 大学受験の参考書でもよいと思います
	事後学修	歴史を慌てずに読んで学んでください 法学・社会科学の基本です
3 回	授業内容	古代法を学びます。法がどのように成立したのか、考えて理解を深めてください まずは、法の成立前史としてハムラビ法典について話します
	事前学修	古代社会はどんな社会だったのか、歴史を学んでください
	事後学修	古代社会において法はどのように成立し、どのような役割を果たしたのか考えてみましょう
4 回	授業内容	古代社会の代表であり、今日の法の源流である古代ローマ法について考えます なぜ、古代ローマ法が生まれたのか、その役割は何かを考えてみましょう
	事前学修	古代ギリシア・ローマの歴史を学びましょう、とてもおもしろいです
	事後学修	古代ローマ法について深く考え、ノートしてみましょう
5 回	授業内容	中世法を学びます、古代法が変容していきます。 その歴史的要因はキリスト教と資本主義経済の発展です。
	事前学修	キリスト教について学問的に学んでみましょう
	事後学修	法と宗教の関係について考え、ノートしてみましょう
6 回	授業内容	中世法から近代法に至る人間の考え方（精神史）について学びましょう。 近代精神はどのように生まれてきたのか。
	事前学修	近代精神の成立について、ルネッサンスの歴史を学びましょう。
	事後学修	近代精神と法の関係についてノートしてみましょう。
7 回	授業内容	近代法の成立こそ、今日の法システムの基本的な成立です。その歴史的過程を考えます。
	事前学修	歴史的な近代社会について学びましょう。
	事後学修	近代法の体系について考え、大まかにノートしてみましょう
8 回	授業内容	近代法と資本主義経済の関係について、とても難しいのですが非常に大切です。 ぜひチャレンジしましょう。
	事前学修	資本主義経済について考えてみましょう
	事後学修	近代法の資本主義的構造についてノートしてみてください
9 回	授業内容	近代市民革命と近代法の関係について 法と政治の関係について考えます
	事前学修	法と政治（政治権力）の関係についての歴史的な流れを考えてみましょう
	事後学修	法と政治の関係をノートしてみましょう
10 回	授業内容	近代立憲主義について学びます 非常に大切なテーマです
	事前学修	近代憲法の意義について考えましょう
	事後学修	近代立憲主義についてノートにまとめてみましょう
11 回	授業内容	近代法システムの社会的矛盾が資本主義の産業革命による発展の中で顕在化していきます
	事前学修	近代社会に内在する“ひずみ”について歴史的に考えよう
	事後学修	近代法問題点についてノートしてみてください
12 回	授業内容	近代法から現代法への変容過程について語ります
	事前学修	現代という時代についてイメージを考えてください
	事後学修	“現代”というテーマでノートしてみてください
13 回	授業内容	現代法の構造とその課題について話します
	事前学修	現代世界のイメージを考えてみてください
	事後学修	現代世界の法的問題についてノートしてみてください
14 回	授業内容	講義のまとめと質問に対する返答をしたいと思います
	事前学修	質問を考えてください
	事後学修	質問をノートしてください

15 回	授業内容	試験
	事前学修	試験準備の学習を自分でしてください
	事後学修	試験で感じたことを考えてみてください

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 E（初級）〕

北原 安治

- ◆**授業概要** 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになる。
前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**学修到達目標** 全体的に英文の構造が理解できるようになり、文の構造に基づいた正しい和訳ができるようになる。五文型の基本理解、自動詞と他動詞の区別、目的語と補語の区別、完了形の理解、仮定法の理解など基本文法が理解できるようになる。
- ◆**授業方法** この昼間の英語の講義はオンデマンド授業で行う。前半は英語関連の動画を視聴する。英文法、発音、英会話、英米文化に関する動画を見る。後半は指定範囲の英文の音読、文法解説、構文解説、和訳などをテキストに即して学習する。課題の正解と解説は講義動画で行う。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**教科書** 丸沼『Major Countries in the World ～世界の主要国～』
小泉和弘編、鳳書房（Tel/Fax (03) 3483 - 3723）この本は講義で使う。
- ◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』綿貫陽 旺文社 2000 年 1,890 円。この本は講義では使わない推薦英文法書。
- ◆**成績評価基準** オンデマンド授業で出される課題は評価対象であるのですべて提出すること（全体の 40%）。最終レポート（全体の 60%）。
- ◆**授業相談（連絡先）**：fra3in5@yahoo.co.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	講義の進め方の説明。英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。
	事前学修	第 4 章の英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。
	事後学修	予習段階の和訳と講義の和訳を比べてどこが間違ったか確認する。課題がある場合は課題をやる。
2 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。5 文型の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。5 文型の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。5 文型の復習。
3 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。文の種類の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。文の種類の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。文の種類の復習。
4 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。句と節の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。句と節の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。句と節の復習。
5 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。動詞の種類の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。動詞の種類の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。動詞の種類の復習。
6 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。目的語と補語の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。目的語と補語の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。目的語と補語の復習。
7 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。群動詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。群動詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。群動詞の復習。
8 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。前置詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。前置詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。前置詞の復習。
9 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。二重前置詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。二重前置詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。二重前置詞の復習。
10 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。関係代名詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。関係代名詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。関係代名詞の復習。
11 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。前置詞＋関係代名詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。前置詞＋関係代名詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。前置詞＋関係代名詞の復習。
12 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。複合関係代名詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。複合関係代名詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。複合関係代名詞の復習。
13 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。関係副詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。関係副詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。関係副詞の復習。
14 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。関係詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す（8 行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。関係詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。関係詞の復習。
15 回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第 4 章の英文構造と和訳の説明動画視聴。まとめ。最終課題。
	事前学修	学習した構文・基本文法事項のまとめ。
	事後学修	学んだ文法事項を参考書などで再確認する。最終課題をやる。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語基礎 A】

和泉 周子

◆**授業概要** 本授業では文法を基礎から学びます。実践的な演習問題に取り組み、確実な文法・語法を身につけることで基礎力を養成し、英語 4 技能の中では特に「リーディング」の技能の向上を目指します。

【後期開講の昼間スクーリング「英語基礎」（和泉周子担当）と併せて受講することが望ましい】

◆**学修到達目標** 文法を理解し、その知識を運用して英文を和訳できるようになる。

◆**授業方法** 該当ユニットの文法事項を解説した後、A 基本問題から答えを確認していきます。その際、A 基本問題と B 発展問題は問題ごとにすべての英文を、C 長文問題は問題文の英文を 1 文ずつ（文章が短い場合には 2 文、あるいは複数文）音読し和訳していただきます（教科書に和訳が記載されている問題については、記載されている和訳と英文の音読をしていただきます）。文法事項及び長文問題の内容の理解を中心にして授業を行いますので、文法や語彙について答えていただいたり、文構造や解答の根拠を説明していただいたりすることがあります。事前学修（予習）を丁寧に行ってください。

授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度で進まない場合があります。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『English Primer (Revised Edition)（大学生の英語入門〈改訂新版〉）』佐藤哲三 / 愛甲ゆかり 南雲堂 2019 年
教科書は初回授業日までに入手してください。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業への参加度（30%）
毎回出席することを前提とします。また、授業への参加度には教科書の予習状況が含まれます。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス：授業の内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 be 動詞：文法解説 事前学修：①シラバスを読む。 ② P.6 の説明を読む。 事後学修：P.6 の学習内容をノート等にまとめ、復習する。
2 回	授業内容：Unit 1 be 動詞：演習問題と Unit 2 一般動詞（現在）：文法解説 事前学修：① P.7-9 の問題を解く。 ② P.10 の説明を読む。 事後学修：① P.7-8 は間違えた問題を中心にして P.6 の説明や P.6 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.9 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.6 の説明や P.6 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。 ② P.10 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。
3 回	授業内容：Unit 2 一般動詞（現在）：演習問題 事前学修：P.11-13 の問題を解く。 事後学修：P.11-12 は間違えた問題を中心にして P.10 の説明や P.10 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.13 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.10 の説明や P.10 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
4 回	授業内容：Unit 3 一般動詞（過去）：文法解説と演習問題 事前学修：① P.14 の説明を読む。 ② P.15-17 の問題を解く。 事後学修：① P.14 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.15-16 は間違えた問題を中心にして P.14 の説明や P.14 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.17 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.14 の説明や P.14 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
5 回	授業内容：Unit 4 進行形：文法解説と演習問題 事前学修：① P.18 の説明を読む。 ② P.19-21 の問題を解く。 事後学修：① P.18 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.19-20 は間違えた問題を中心にして P.18 の説明や P.18 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.21 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.18 の説明や P.18 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
6 回	授業内容：Unit 5 未来形：文法解説と演習問題 事前学修：① P.22 の説明を読む。 ② P.23-25 の問題を解く。 事後学修：① P.22 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.23-24 は間違えた問題を中心にして P.22 の説明や P.22 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.25 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所や教科書記載の図と照らし合わせたり、P.22 の説明や P.22 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
7 回	授業内容：Unit 18 5つの基本文型：文法解説 事前学修：P.74 の説明を読む。 事後学修：P.74 の学習内容をノート等にまとめ、復習する。
8 回	授業内容：Unit 18 5つの基本文型：演習問題 事前学修：P.75-77 の問題を解く。 事後学修：P.75-76 は間違えた問題を中心にして P.74 の説明や P.74 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.77 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.74 の説明や P.74 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
9 回	授業内容：Unit 6 助動詞：文法解説と演習問題（A 基本問題） 事前学修：① P.26 の説明を読む。 ② P.27 の問題を解く。 事後学修：① P.26 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.27 は間違えた問題を中心にして P.26 の説明や P.26 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。

10 回	授業内容	Unit 6 助動詞：演習問題（B 発展問題・C 長文問題）
	事前学修	P.28-29 の問題を解く。
	事後学修	P.28 は間違えた問題を中心にして P.26 の説明や P.26 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.29 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.26 の説明や P.26 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
11 回	授業内容	Unit 8 代名詞：文法解説と演習問題（A 基本問題）
	事前学修	① P.34 の説明を読む。 ② P.35 の問題を解く。
	事後学修	① P.34 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.35 は間違えた問題を中心にして P.34 の説明や P.34 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
12 回	授業内容	Unit 8 代名詞：演習問題（B 発展問題・C 長文問題）
	事前学修	P.36-37 の問題を解く。
	事後学修	P.36 は間違えた問題を中心にして P.34 の説明や P.34 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P.37 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.34 の説明や P.34 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
13 回	授業内容	Unit 9 前置詞：文法解説と演習問題
	事前学修	① P.38 の説明を読む。 ② P.39-41 の問題を解く。
	事後学修	① P.38 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.39-40 は、間違えた問題を中心にして P.38 の説明や P.38 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。 P.41 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.38 の説明や P.38 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
14 回	授業内容	13 回目までの授業内容の復習及び試験
	事前学修	13 回目までの学習内容を理解する。
	事後学修	13 回目までの学習内容を総復習する。
15 回	授業内容	Unit 12 命令文・感嘆文：文法解説と演習問題
	事前学修	① P.50 の説明を読む。 ② P.51-53 の問題を解く。
	事後学修	① P.50 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ② P.51-52 は、間違えた問題を中心にして P.50 の説明や P.50 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。 P.53 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P.50 の説明や P.50 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語音声学〕

森 晴代

- ◆**授業概要** 発声器官の説明から始めて、母音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは音節理論、英語と日本語のリズム構造について説明し、総合的な発音練習を行います。テキストには専門用語が多数出てくるので、前もって配布されたプリントを読んでください。
- ◆**学修到達目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を実現することができる。
- ◆**授業方法** 動画授業となります。前半は音声現象の理論の説明を行い、後半は発音練習、リスニング演習を行います。理論内容のまとめとして4回、練習問題を配布し、学期末に提出していただきます。最終授業では発音テストを実施します。出席の確認として、毎回リアクションペーパーの提出を要求します。一斉連絡、動画配信、リアクションペーパーの提出は、Google Classroom を使用します。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** テキスト用資料、発音練習プリント、Phonetic Practice プリントを Google Classroom 上で配布
- ◆**参考書** ①『英語の音声を科学する』川越いつえ著 大修館書店
②『基礎から学ぶ音声学講義』加藤重広・安藤智子著 研究者
- ◆**成績評価基準** リアクションペーパー（30%）、発音テスト（20%）、Practice プリント（20%）、最終レポート（30%）
- ◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom 上にて行います
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス。音声学とは？発声器官の名称説明（練習問題配布）
	事前学修	音声学の学問領域について、参考書を読んで各自調べておくこと
	事後学修	学問分野、発声器官の名称を覚えること
2 回	授業内容	発音記号に慣れよう！（練習問題配布）及び解答、発音記号の見方
	事前学修	発声器官のそれぞれの役割を見返しておくこと。発音記号を書けるようにしておくこと
	事後学修	学問分野、発声器官の名称を覚えること
3 回	授業内容	基本母音の説明
	事前学修	基本母音について、参考書を調べておくこと
	事後学修	基本母音について、整理しておくこと
4 回	授業内容	英語の母音の分類、前舌母音の説明及び発音練習
	事前学修	英語の母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	英語の母音の分類基準と前舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
5 回	授業内容	後舌母音の説明及び発音練習
	事前学修	英語の後舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	後舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
6 回	授業内容	中舌母音の説明及び発音練習
	事前学修	英語の中舌母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	中舌母音の発音練習をしておくこと。日本語との違いを意識すること
7 回	授業内容	二重母音の説明及び発音練習
	事前学修	英語の二重母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	英語と日本語の二重母音に対する認識の違いを理解しておくこと。二重母音の発音記号が書けるようにしておくこと
8 回	授業内容	母音、二重母音の演習問題配布及び解答
	事前学修	英語の母音、二重母音の理論及び発音を理解しておくこと
	事後学修	解答したプリントの復習をしておくこと
9 回	授業内容	音節、語強勢の説明、演習
	事前学修	音節、強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	音節理論や語強勢を正確に理解できたか確認・復習すること
10 回	授業内容	句強勢の説明、演習（練習問題配布）
	事前学修	句強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	句強勢規則について、正確に理解できたか確認・復習すること
11 回	授業内容	文強勢の説明、演習
	事前学修	文強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	文強勢規則について、正確に理解できたか確認・復習すること
12 回	授業内容	通常強勢と対比強勢についての説明、演習
	事前学修	通常強勢と対比強勢について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	文強勢規則全般を正しく理解できたか、確認・復習すること
13 回	授業内容	英語のリズムと日本語のリズムの説明、演習
	事前学修	リズムについて、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	英語と日本語のリズムの基本単位の違いを理解できたか確認・復習すること
14 回	授業内容	これまでの振り返り 発音・リスニング演習 Phonetic Practice のプリント提出
	事前学修	Phonetic Practice を仕上げておくこと
	事後学修	Phonetic Practice の難しいポイントを理解しておくこと
15 回	授業内容	発音試験及びレポート提出 理解度確認
	事前学修	発音試験やレポート提出に備え、総復習をしておくこと
	事後学修	英語音声学における諸事情を理解できたか復習すること

〔貨幣経済論〕

続橋 孝行

- ◆**授業概要** 貨幣と国内総生産（GDP）の関係について学んでいきます。具体的には、世の中に出回るおカネの量が増えるので GDP が増えるのか、あるいは GDP が増えるので世の中に出回るおカネの量が増える、いずれが正しいのかについて考察したいと思います。
- ◆**学修到達目標** 「景気の悪化」の原因と対策について知り、「景気の現状」の分析と予測をできるようにすることが目標です。
- ◆**授業方法** 授業は黒板を使って説明を行っていきます。しかし、教師が一方的に授業を進めていくことはしません。ときおり、学生から質問を受けますし、逆に教師から学生に質問したりして課題の理解を深めたいと考えております。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『マクロ経済学と貨幣』藤本訓利・関谷喜三郎・八千代出版・2012 年
- ◆**参考書** 必要に応じて資料を配布します。
- ◆**成績評価基準** 小テスト（50%）及び期末テスト（50%）で成績を評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：『Classroom 上にて行う』
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：貨幣経済論とはどういう学問なのかについて学習する。 事前学修：教科書 35-47 ページを読んでおくこと。 事後学修：とくに貨幣の役割について復習しておくこと。
2 回	授業内容：経済主体について学習する。 事前学修：経済の仕組みについて事前に調べておくこと。 事後学修：とくに生産者の行動に関してノートを整理しておくこと。
3 回	授業内容：株式会社とはどういう組織かを学習する。 事前学修：合資会社と合名会社について事前に調べておくこと。 事後学修：株式会社の資金調達の方法について復習しておくこと。
4 回	授業内容：家計、生産者、国の関係について学習する。 事前学修：国の果たす役割について事前に調べておくこと。 事後学修：特に国債の発行市場と流通市場について復習しておくこと。
5 回	授業内容：日銀の果たす役割について学習する。 事前学修：教科書 51-56 ページを読んでおくこと。 事後学修：日銀の貨幣供給の方法についてノートを整理しておくこと。
6 回	授業内容：民間銀行の果たす役割について学習する。 事前学修：教科書 56-59 ページを事前に読んでおくこと。 事後学修：短期金融市場の役割について復習しておくこと。
7 回	授業内容：日銀と民間銀行の関係について学習する。 事前学修：教科書 59-65 ページを事前に読んでおくこと。 事後学修：とくに公開市場操作について復習しておくこと。
8 回	授業内容：国内総生産（GDP）とは何かについて学習する。 事前学修：アメリカ、中国の国内総生産の額を事前に調べておくこと。 事後学修：財・サービスの付加価値について復習しておくこと。
9 回	授業内容：GDP の計算法について学習する。 事前学修：内閣府の統計データにアクセスして GDP のデータを事前に取得しておくこと。 事後学修：GDP の計算法についてノートを整理しておくこと。
10 回	授業内容：三面等価の法則について学習する。 事前学修：経済の仕組みについて復習して理解を深めておくこと。 事後学修：生産、分配、支出国民所得についてノートを整理しておくこと。
11 回	授業内容：GDP の決定に関して学習する。 事前学修：前回の三面等価の法則について復習して理解を深めておくこと。 事後学修：総供給と総需要に関して復習しておくこと。
12 回	授業内容：有効需要の原理について学習する。 事前学修：教科書 99-105 ページを事前に読んでおくこと。 事後学修：需要の不足についてノートを整理しておくこと。
13 回	授業内容：利子率がどのようにして決定するか学習する。 事前学修：金融市場に関して事前に調べておくこと。 事後学修：マーケートの果たす役割について復習しておくこと。
14 回	授業内容：利子率と国内総生産の関係について学習する。 事前学修：前回の授業を復習して理解を深めておくこと。 事後学修：金融政策の有効性についてノートを整理しておくこと。
15 回	授業内容：前期の授業のまとめを行う。 事前学修：利子率、投資、GDP の関係について復習して理解を深めておくこと。 事後学修：第 1 回から 15 回までのノートを整理すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔アメリカ経済論〕

羽田 翔

- ◆**授業概要** 本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。
- ◆**学修到達目標** アメリカ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とアメリカに関係する経済的問題及び解決策を提示して相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、アメリカ経済の歩んできた道に関する経済学及び政治学の考えを理解する。
- ◆**授業方法** 教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。また、可能であればセメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『アメリカ経済の歩み』 榊原胖夫・加藤一誠 文眞堂 2011 年
資料配布 (Classroom) 教科書の内容に沿って作成したパワーポイント資料を配布する。
- ◆**参考書** 丸沼『現代アメリカ経済』 河村哲二 有斐閣アルマ 2003 年
丸沼『現代アメリカ経済分析』 中本悟・宮崎礼二 日本評論社 2013 年
- ◆**成績評価基準** 最終課題 (60%)、小テストおよびレポート (20%)、授業への積極的参加 (質問や意見) (20%) により、総合的に評価する。
- ◆**授業相談 (連絡先)** : Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容	アメリカ経済論を学ぶ意味：アメリカ経済論の枠組みと授業概要について 講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、アメリカ経済論を学ぶ意味について考える。
	事前学修	シラバス及び教科書の第 1 章を熟読し、アメリカ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、アメリカ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにアメリカの特徴もまとめること。
2 回	授業内容	戦後の好況とアメリカの「ルール」：第一次世界大戦後のアメリカにおける好況について 第一次世界大戦の背景とアメリカ経済に与えた影響について説明する。
	事前学修	教科書第 2 章を熟読しておくこと。特に、第一次世界大戦の基本的内容とアメリカ経済に与えた影響について理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、第一次世界大戦後のアメリカ経済の好況及び減速の理由をそれぞれまとめること。
3 回	授業内容	大不況とニューディール政策 1：大不況発生とその原因 戦間期における大不況発生とその原因について、株式ブームの崩壊を中心に説明する。
	事前学修	教科書第 3 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような経緯で大不況が発生したかについて理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、大不況が発生した原因についてまとめること。また、次回使用するケインズの有効需要の原理についてもまとめておくこと。
4 回	授業内容	大不況とニューディール政策 2：大不況への処方箋とケインズ ニューディール政策及びケインズの有効需要の原則に関して説明する。
	事前学修	教科書第 3 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、大不況への処方箋として登場したニューディール政策について理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、ニューディール政策の内容とその効果についてまとめておくこと。また、ケインズの考え方についても再度理解を深めること。
5 回	授業内容	第二次世界大戦とアメリカ経済における「供給」側の変化 第二次世界大戦の背景とアメリカ経済、特に「供給」システムに与えた影響を説明する。
	事前学修	教科書第 4 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、第二次世界大戦が企業及び生産システムに与えた影響について理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、第二次世界大戦時の「供給」システムについて理解を深めること。また、このシステムが経済成長とどのように関わっているかもまとめること。
6 回	授業内容	ゆたかな社会の確立へ向けて 1：アイゼンハワー政権が目指した「安定」 アイゼンハワー政権が行った主要な政策と「安定化」について説明を行う。
	事前学修	教科書第 5 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、アイゼンハワー政権時の政策について理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、人口増加及び朝鮮戦争が経済成長に与えた影響及びアイゼンハワー政権についてまとめること。
7 回	授業内容	ゆたかな社会の確立へ向けて 2：戦後の成長及びその成長をもたらした変化 戦後経済の成長と、その結果としてアメリカ経済に発生した社会的変化について説明する。
	事前学修	教科書第 5 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、戦後の成長がアメリカ経済「全体」に与えた影響について、その意味を理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、戦後経済成長がアメリカに与えた影響及び解決策について、項目ごとにまとめること。
8 回	授業内容	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済 1：ケネディとジョンソン ケネディ政権及びジョンソン政権の政策について説明を行う。
	事前学修	教科書第 6 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ニューフロンティアの考え方について理解すること。
	事後学修	講義資料を確認し、ケネディ及びジョンソン政権におけるそれぞれの政策についてまとめること。
9 回	授業内容	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済 2：国際的な相互依存体制の枠組みについて 国際的為替・貿易システム及びアメリカ経済の問題であったスタグフレーションと貿易赤字について説明する。
	事前学修	教科書第 6 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、スタグフレーションと貿易赤字について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、ニクソンショック、スタグフレーション、財政赤字など重要なキーワードについてまとめること。
10 回	授業内容	アメリカ経済と「規制」撤廃 1：カーター政権と規制撤廃 アメリカ経済の主要な問題の 1 つであった規制とカーター政権の政策について説明する。
	事前学修	教科書第 7 章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、カーター政権が行なった政策について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、規制が撤廃されることによりアメリカ経済がどのような状況になったかについてまとめること。

11 回	授業内容	アメリカ経済と「規制」撤廃2：レーガノミクスからブッシュ政権まで レーガン大統領及びブッシュ（ババ）政権の主要な政策について説明を行う。
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、レーガノミクスの内容について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、レーガノミクスが問題視した点とのレーガノミクスの効果についてまとめること。
12 回	授業内容	繁栄が続いた 1990 年代のアメリカ経済：クリントン政権の活躍 アメリカ経済の救世主と言われたクリントン政権の主要な政策に関して説明する。
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、クリントン政権が行なった政策等の内容について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、クリントン政権がどのように財政赤字解消等を達成したのかについてまとめること。
13 回	授業内容	21 世紀のアメリカ経済：ブッシュ政権およびオバマ政権の政策 ブッシュ政権とオバマ政権時の政策を比較し、その違いについて説明を行う。
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ブッシュ政権及びオバマ政権が行なった政策等の内容について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、それぞれの政権の政策がどのように連鎖しているかについてまとめること。
14 回	授業内容	現代のアメリカ経済とトランプ大統領：大統領選挙、中間選挙、そして経済政策 トランプ政権とバイデン政権の政策を比較し、その違いについて説明を行う。
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、直近の大統領選挙の結果と投票者の特徴について確認すること。
	事後学修	講義資料を確認し、トランプ政権がこれまで行なってきた政策について、政策ごとに経済学的な意味をまとめること。
15 回	授業内容	アメリカ経済論のまとめ及び定期試験の説明 アメリカ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。
	事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。
	事後学修	これまでの講義資料を確認し、最終課題の準備を進めること。

〔歴史学 A〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** スタジオジブリのアニメ作品『千と千尋の神隠し』を題材として日本の歴史を学ぶ。宮崎駿監督の作品である『千と千尋の神隠し』は、日本だけでなく広く世界に受け入れられた。それはある意味不思議な国日本の不思議な話であるからという側面は否定出来ない。しかしそこに日本の歴史の特色が現されているのではないだろうか。そこでこの作品を手がかりにして、いくつかのテーマに沿って日本の歴史について考えてみたい。
- ◆**学修到達目標** 『千と千尋の神隠し』には歴史学だけでなく、多くの周辺諸分野の成果が反映されていると言われている。そこでこの作品を通して歴史学や周辺諸分野の最新の成果を学び、その結果として歴史学という学問は何かを理解できるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもらう場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** 前年度の履修者は履修不可。
- ◆**教科書** 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	はじめに
	事前学修	『千と千尋の神隠し』を見ていることが望ましい
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2 回	授業内容	あの世への入口 トンネル以前
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3 回	授業内容	あの世への入口 トンネル
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4 回	授業内容	不思議な町
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5 回	授業内容	油屋の謎
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6 回	授業内容	神々が疲れを癒やす
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7 回	授業内容	沼の底 六つ目の駅
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8 回	授業内容	六道
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9 回	授業内容	六道輪廻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10 回	授業内容	酒呑童子と竜宮
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11 回	授業内容	頼光の四天王
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12 回	授業内容	黄泉がえり
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
13 回	授業内容	あの世めぐりの旅
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授業内容	宝物
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授業内容	まとめと試験
	事前学修	これまでの授業内容をまとめておくこと
	事後学修	試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本思想史 I〕

島田 健太郎

- ◆**授業概要** 本年度は「鎌倉時代の浄土教」をテーマに、前期は法然の思想を、後期は法然の弟子たち（証空、親鸞）の思想を扱います。前期は、法然が主張した専修念仏の内容とその特徴を、それまでの浄土教との違いに焦点をあてて検討し、続いて法然の主張に対する南都仏教側の批判（『興福寺奏状』、『摧邪輪』）と彼らの思想を見ていきます。これらの検討を通して、当時の仏教者の「念仏」観や「修行」観、さらにはその主体たる「人間」について彼らがどのように考えていたのか見ていきたいと考えています。
- ◆**学修到達目標**
 1. 鎌倉時代の仏教者の思想を学ぶことで、当時の思想的営為についての理解を深めるとともに、人間の思想や日本文化に対するより広い視野を獲得することができる。
 2. 浄土信仰について学ぶことで、現代日本の宗教に対する一つの視点を獲得することができる。
 3. 日本文化・日本の宗教・人間観などに対する自己の哲学的・思想的問題意識をより明らかにし、それについて主体的に考察することを目標とする。
- ◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。プリントには読みと現代語訳を付けるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。また話の内容が多少前後することや、授業計画の回数通りに進まないことがあります。質問については随時対応いたしますが、返信が遅れることがありますので、ご承知おきください。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom）授業動画配信時に配布。授業内容に合わせて、何回かに分けて配布する予定。
- ◆**参考書** その他 授業中適宜指示します。
- ◆**成績評価基準** 3回の「レポート」によって評価します。第1回は1200字以上、第2回と第3回は1800字以上を予定しています。評価割合は第1回（20%）、第2回（40%）、第3回（40%）です。授業計画に時期を記しましたが、授業の内容によって多少時期がずれることもあります。一応の目安としてください。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンスと前期の授業内容の概説
	事前学修	平安時代の歴史の大まかな流れを把握しておくこと。
	事後学修	授業内容の確認と自分の問題関心について再考しておくこと。
2 回	授業内容	浄土教について 仏教における浄土思想の概要（阿弥陀仏、浄土三部経、極楽浄土、念仏）について説明する。
	事前学修	浄土教の概要についてある程度調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と疑問点の整理。授業中に出てきた用語のうち、わからないものについては調べておくこと。
3 回	授業内容	平安時代の浄土教① 空也・良源・源信の思想を概観する。
	事前学修	空也・良源・源信がどのような人物か調べておく。
	事後学修	授業内容の確認と疑問点の整理。
4 回	授業内容	平安時代の浄土教②・院政期の浄土教① 源信の思想、院政期という時代、末法について
	事前学修	『往生要集』の内容と末法思想について調べておく。
	事後学修	源信の念仏の特徴について確認。
5 回	授業内容	院政期の浄土教② 往生伝、永観・良忍の念仏について概観。第1回レポートを予定。
	事前学修	往生伝がどのようなものか、永観・良忍がどのような人物か調べておく。
	事後学修	往生伝、永観、良忍のそれぞれの念仏思想について、その特徴を確認する。
6 回	授業内容	法然の思想① 法然の生涯について
	事前学修	法然の生きた時代についての大まかな知識を得ておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、疑問点があれば調べておく。
7 回	授業内容	法然の思想② 浄土門と聖道門、選択について
	事前学修	法然以前の念仏思想について復習しておくこと。
	事後学修	授業中に出てきた用語の確認。
8 回	授業内容	法然の思想③ 念仏の勝劣について
	事前学修	法然に影響を与えた善導について調べておくことよい。
	事後学修	授業内容の確認と疑問点の整理。
9 回	授業内容	法然の思想④ 「専修」について
	事前学修	これまでの授業内容の復習と、今回の授業範囲の資料に目を通しておく。
	事後学修	法然の念仏の特徴について、気づいた点をまとめておく。
10 回	授業内容	法然の思想⑤ 念仏の「心」について。第2回レポートを予定。
	事前学修	今回の授業範囲の資料に目を通しておく。
	事後学修	法然の「心」理解について、考えたことをまとめておく。
11 回	授業内容	専修念仏に対する批判① 『興福寺奏状』の批判
	事前学修	中世の興福寺の動向について調べておく。
	事後学修	念仏をめぐる法然と南都の思想的対立点についてまとめておく。

12 回	授業内容	専修念仏に対する批判② 貞慶の思想
	事前学修	貞慶という人物について調べておく。
	事後学修	貞慶の問題意識がどこにあったのか、考えた所をまとめてみる。
13 回	授業内容	専修念仏に対する批判③ 明恵『摧邪輪』の批判
	事前学修	明恵について、どのような人物か調べておく。
	事後学修	授業で出てきた用語の確認。法然と明恵の対立点についてまとめておく。
14 回	授業内容	専修念仏に対する批判④ 明恵の批判・明恵の思想について
	事前学修	この時期の禅宗と春日神について調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と疑問点の整理。授業中に出てきた用語のうち、わからないものについては調べておくこと。
15 回	授業内容	専修念仏に対する批判⑤ 明恵の思想について。第3回レポート予定。
	事前学修	分からない仏教用語があったら調べておくこと。
	事後学修	明恵の思想について、自分なりにまとめてみる。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史入門〕

綿貫 哲郎

- ◆**授業概要** 本科目では、東洋の地理的特徴を踏まえながら、①「外国史（東洋史）」学修の意義、②原始・古代から現代に至る史実や解釈へのアプローチ、③資料を使った「外国史（東洋史）」学修と研究方法の知識の習得を通じて、「外国史（東洋史）」研究に対する知識や態度を身につけます。
- ◆**学修到達目標** 受講者自身の感心がある時代や地域に関して、過去や最新の研究成果及び検索方法を学んだり、研究史を整理することを通じて、史実や解釈へのさまざまなアプローチが身につくようになります。また、東洋史の卒業論文やレポート・教材研究の資料集めやアウトプットの基礎的な技術が身につくようになります。
- ◆**授業方法** Google Classroom を使った授業をおこなう。毎回、動画を閲覧してから、学んだことを振り返る「小テスト」をおこなう。実習形式で課題を提出してもらう。「小テスト」や課題の提出は出欠確認を兼ね、また提出後にはフィードバックをおこなう。
- ◆**履修条件** 令和元年度および二年度の昼間スクーリング（前期）「東洋史入門」（綿貫哲郎）との積み重ね不可。
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom） 毎回、Google Classroom にて資料を配付します。
- ◆**参考書** 丸沼『わかる・身につく歴史学の学び方：歴史学がわかると世界が見える』大学の歴史教育を考える会〔編〕、大月書店、2016 年（2,160 円税込）【購入義務はありません】
- ◆**成績評価基準** 最終レポート（50%）・「小テスト」と実習での理解度（50%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：watanuki.tetsuro2020@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス（授業の進め方・評価方法など）、導入
	事前学修：シラバスをよく読んでおくこと
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
2 回	授業内容：「東洋史」とは何か
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
3 回	授業内容：近代日本のナショナリズムと「東洋」
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
4 回	授業内容：「東洋史」の「史料」に対する探求
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
5 回	授業内容：内藤湖南と「東洋史学」
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
6 回	授業内容：那珂通世と「モンゴル史」研究
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
7 回	授業内容：朝鮮史像の形成
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
8 回	授業内容：「レポート」と「卒業論文」の違い
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
9 回	授業内容：卒業論文執筆の流れ・図書館の有効利用
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
10 回	授業内容：「東洋史」関連の工具書・概説書
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
11 回	授業内容：「東洋史」研究とインターネット利用
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
12 回	授業内容：「私語り」からの脱却
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
13 回	授業内容：文献目録の表記(1) - 書籍
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
14 回	授業内容：文献目録の表記(2) - 論文
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：授業の内容をノートなどに整理しておくこと
15 回	授業内容：文献目録の表記(3) - 書籍と論文
	事前学修：授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修：自分がまとめた内容を再確認しておくこと

〔考古学概説〕

浜田 晋介

◆**授業概要** 考古学は過去の人びとが製作し、使用したものを材料に、その当時の人びとの社会・文化・交流・集団組織など解明していく学問である。そのため文献の有無にかかわらず、モノ資料が存在すれば成立する学問であり、発掘調査によって研究材料を得るとことに特徴がある。こうした特徴を持つ日本考古学研究のこれまでの成果の概要を、旧石器時代から弥生時代までを対象に紹介する。また、国内の発掘調査の経験をもとに、時代ごとの遺跡の特色も解説していく。

◆**学修到達目標** (1)日本における考古学の方法とその研究理論を学ぶことによって、旧石器時代、縄文時代、弥生時代が、これまでどのように研究されてきたか。これらの遺跡から何が導き出されてきたのか。遺跡の発掘調査から、各時代の社会をどのように推測しているのか、について、調査の具体的な事例を通して、その概要を理解・説明することができる。(2)学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、人文学・考古学の役割を解説することができる。(3)現代社会における人文学・考古学の役割を説明することができる。

◆**授業方法** 毎回 Googleclassroom にアップするプリントと動画をもとに、説明を加えて必要な箇所をノートに取らせる授業形態をとる。授業内容に関する質問はメールを通してやり取りを行う。また、数回分の授業をまとめたテストの提出を最低 2 回行う。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** **資料配布 (Classroom)** 各回の授業内容に見合った資料を、動画とともに Googleclassroom にアップします。

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 数回分の授業内容をまとめたテストを 2 回行う（それぞれ 50%）。また、すべての回を視聴したことを前提に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業のテーマや到達目標及び授業の方法について説明し、考古学という学問の特性を解説する。
	事前学修	【事前学習】第 1 回目のプリントを読むこと。「考古学」という学問がどのようなことを行うのか、事前に調べておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
2 回	授業内容	年代の推定方法（どのような方法で年代の判らないものに年代を与えているのかを解説する）
	事前学修	【事前学習】第 2 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
3 回	授業内容	日本の旧石器時代像（日本における旧石器時代研究の歴史を解説する）
	事前学修	【事前学習】第 3 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
4 回	授業内容	旧石器時代の生活（日本での旧石器時代の遺跡の発掘事例から、当時のことをどのように復原しているかを理解する）
	事前学修	【事前学習】第 4 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
5 回	授業内容	縄文時代像（縄文時代の研究成果から、縄文時代はどのような時代であったのかを理解する）
	事前学修	【事前学習】第 5 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
6 回	授業内容	縄文時代研究史（縄文時代の研究の歴史を知り、縄文時代の研究がどのように解釈されてきたのかを把握する）
	事前学修	【事前学習】第 6 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
7 回	授業内容	縄文時代の生業をさぐる（縄文時代の食に関わる活動は、どのようなものであったか、を遺跡の調査資料から推測し、理解する）
	事前学修	【事前学習】第 7 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
8 回	授業内容	縄文時代の集落と墓（縄文時代の人びとの住まいである集落と、死後に葬られる墓を素材に、縄文時代の社会を理解する）
	事前学修	【事前学習】第 8 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
9 回	授業内容	第 1 回目から第 8 回目までの授業内容を整理したのち、その内容について総合的なテストを行う。
	事前学修	【事前学習】指示された内容の回答を作成する。（3 時間）
	事後学修	【事後学習】総評の内容を復習する。（1 時間）
10 回	授業内容	弥生時代研究史（弥生時代の研究、弥生時代の認識がどのように変化してきたのかを、研究史を題材に理解する）
	事前学修	【事前学習】第 9 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
11 回	授業内容	弥生時代像（弥生時代の研究成果から、弥生時代がどのような時代であったかを理解する）
	事前学修	【事前学習】第 10 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
12 回	授業内容	弥生時代の生業（弥生時代の食に関わる活動は、どのようなものであったか、を遺跡の調査資料から推測し、理解する）
	事前学修	【事前学習】第 11 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
13 回	授業内容	弥生時代の集落と墓（弥生時代の人びとの住まいである集落と、死後に葬られる墓を素材に、弥生時代の社会を理解する）
	事前学修	【事前学習】第 12 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）

14 回	授業内容	理解度の確認と解説（これまで行ってきた旧石器時代から弥生時代の内容を振り返り、それぞれの時代の内容や特性を理解する）
	事前学修	【事前学習】第 1 ～ 13 回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べてしておくこと。（2 時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2 時間）
15 回	授業内容	第 10 回目から第 14 回目までの授業内容を整理したのち、その内容について総合的なテストを行う。
	事前学修	【事前学習】指示された内容の回答を作成する。（3 時間）
	事後学修	【事後学習】総評の内容を復習する。（1 時間）

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔歴史学 B〕

堀井 弘一郎

- ◆**授業概要** 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代を生きた日中両国民の足跡をたどりながら、世界史、東アジア史の中に日中関係史を位置づけて考察する。歴史を先入観でとらえるのではなく、史資料の収集と読解によって確かな史実にもとづく歴史像を自ら描くことができることを心がける（前期はアヘン戦争～満洲事変の時期）。
- ◆**学修到達目標** 「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カー）。戦後 76 年を迎えた今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態が続いている。そんな今日にあって、日本・中国の近現代史や日中関係に関する書物・新聞記事・ニュースを読み解き、自らの歴史像と確かな歴史的教養をもって現代の日中関係を考え語れるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** オンデマンド（動画配信）での授業形態となる。毎回レジュメや資料プリントを配信し、それに沿って講義をすすめる。その際、受講生からの質問にも対応する。受講生は毎回一定期間内に配信された動画を視聴し、授業参加確認表を提出する。新しい研究成果を紹介したり、一次史料を含む史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。
- ◆**履修条件** 令和元年度、2 年度昼間スクーリング（前期）『歴史学』（堀井弘一郎担当）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** 丸沼『シリーズ中国近現代史① 清朝と近代世界 19 世紀』吉澤誠一郎 岩波新書 2010 年
丸沼『シリーズ中国近現代史② 近代国家への模索』川島真 岩波新書 2010 年
丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川貞浩 岩波新書 2010 年
資料配布（Classroom） 毎授業ごとに、事前にレジュメと資料を配信する。
- ◆**成績評価基準** 課題レポートの提出状況やその内容で 70%、授業への参画度 30%で総合評価する。毎回オンライン出席することを前提として評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（日中関係は今どうなっているのか？）
	事前学修	最近の日中関係に関する新聞記事などに目を通しておこう。
	事後学修	中国や日中関係の現状について、授業内容をノートに整理しておこう。
2 回	授業内容	中国の近現代史を眺める
	事前学修	高校の教科書や参考書指定の本で、中国近現代史の復習をしておこう。
	事後学修	中国近現代史の流れをおおよそ理解できるようにまとめておこう。
3 回	授業内容	「西洋の衝撃」と日本
	事前学修	「西洋の衝撃」とは何か、その意味や影響について調べておこう。
	事後学修	「西洋の衝撃」が東アジア諸国にもたらした影響について確認しておこう。
4 回	授業内容	琉球処分と現代
	事前学修	沖縄の近現代史について、その概要を調べておこう。
	事後学修	沖縄と日本との関係について、現代的問題をも含めてまとめておこう。
5 回	授業内容	「からゆきさん」と近代の移民
	事前学修	「からゆきさん」の意味や日本の移民の歴史をおおよそ把握しておこう。
	事後学修	日本の移民や中国との関わりについて理解を深めておこう。
6 回	授業内容	大日本帝国憲法とアジア
	事前学修	大日本帝国憲法制定の経緯や内容について、概略をまとめておこう。
	事後学修	大日本帝国憲法制定がアジア、特に中国に与えた影響を整理しておこう。
7 回	授業内容	日清戦争と朝鮮
	事前学修	日清戦争とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。
	事後学修	日清戦争が東アジア、特に朝鮮にもたらした影響についてまとめておこう。
8 回	授業内容	日露戦争と中国
	事前学修	日露戦争とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。
	事後学修	日露戦争が東アジア、特に中国にもたらした影響についてまとめておこう。
9 回	授業内容	中国人留学生と日本
	事前学修	戦前、中国人留学生としてどのような人物がいたかを調べておこう。
	事後学修	中国人留学生と近代中国史の関連についてまとめておこう。
10 回	授業内容	台湾統治 50 年と現代
	事前学修	台湾とは国なのか何なのか、国際社会における位置づけを調べておこう。
	事後学修	近現代史における台湾と日本、中国との関係をまとめておこう。
11 回	授業内容	第 1 次世界大戦と日中両国
	事前学修	第 1 次世界大戦とはどのような戦争であったのか、その経緯を調べておこう。
	事後学修	第 1 次世界大戦に日本と中国はどのように関わったのか、整理してみよう。
12 回	授業内容	辛亥革命から「南京の 10 年」へ
	事前学修	辛亥革命とは何か、その後中国はどうなったのか、把握しておこう。
	事後学修	「南京の 10 年」を通じた中国の国民国家形成の歩みを理解しよう。
13 回	授業内容	満洲事変から「満洲国」建国へ
	事前学修	満洲事変、「満洲国」とは何なのか、その概略を調べておこう。
	事後学修	この間の日中関係史について、世界史的視野の中で整理しておこう。

14 回	授業内容	「魔都上海」に暮らす日本人
	事前学修	上海はなぜ「魔都」と呼ばれるのか、その理由を調べておこう。
	事後学修	上海の歴史やそこに暮らした日本人社会の様子について整理しておこう。
15 回	授業内容	日中戦争の勃発、前期のまとめ
	事前学修	日中戦争のきっかけ、背景、経緯などを調べておこう。
	事後学修	前期全体の授業内容を整理、理解し、後期の学習につなげよう。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文化史B〕

渡邊 浩史

- ◆**授業概要** はじめに原始から古代までの各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後中世の各時代の文化の概観を述べ、同じく各論的にいくつかのトピックについて講義する。
- ◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもらう場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 適宜授業中に資料プリントを配布する。
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：はじめに 近代文化とアニメ 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
2 回	授業内容：古代の文化（旧石器～古墳文化までの概要） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
3 回	授業内容：古代の文化（飛鳥～国風文化までの概要） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
4 回	授業内容：古墳文化（死者の行方） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
5 回	授業内容：かぐや姫（かぐや姫とは） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
6 回	授業内容：かぐや姫（月と極楽浄土） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
7 回	授業内容：かぐや姫（富士山） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
8 回	授業内容：地獄 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
9 回	授業内容：極楽 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
10 回	授業内容：中世の文化（院政期） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
11 回	授業内容：中世の文化（鎌倉） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
12 回	授業内容：中世の文化（室町） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
13 回	授業内容：絵巻物（道成寺縁起絵巻） 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
14 回	授業内容：能・狂言 事前学修：高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと 事後学修：授業内容を自分でまとめること
15 回	授業内容：まとめと試験 事前学修：1～14 回の内容をよく復習すること 事後学修：試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

◆授業概要

ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆学修到達目標

国語（日本語）とはどのような言語であるのか。歴史的にどのような変遷をたどり、どのように用いられているのか。普段国語（日本語）を使用しているにもかかわらず意識することの少ない様々な事象を知ること、その特質を理解できるようになる。

◆授業方法

講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行ったりします。受講者数や各自の興味の持ち方によって変更する適宜場合があります。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験 80%。平常点 20%。

◆教科書

丸沼 『国語学要論』 福島邦道 笠間書院 昭和 48 年

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス（国語学概論の概要）
	事 前 学 修	特になし。
	事 後 学 修	授業内容の復習。
2回	授 業 内 容	ガイダンス（国語の諸現象）
	事 前 学 修	特になし。
	事 後 学 修	授業内容の復習。
3回	授 業 内 容	序説（国語学とは）
	事 前 学 修	特になし。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における序説についての復習。
4回	授 業 内 容	序説（国語学とその関係諸学／国語学の研究領域と研究法）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における序説についての復習。
5回	授 業 内 容	音韻（音声・音韻）
	事 前 学 修	回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
6回	授 業 内 容	音韻（国語の音韻）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
7回	授 業 内 容	音韻（音韻史）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
8回	授 業 内 容	音韻（五十音図・いろは歌）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
9回	授 業 内 容	音韻（アクセント）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
10回	授 業 内 容	文字（文字・日本の文字）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	文字（漢字）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
1 2 回	授 業 内 容	文字（万葉仮名・片仮名）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
1 3 回	授 業 内 容	文字（平仮名）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
1 4 回	授 業 内 容	文字（かなづかい・ローマ字）
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
1 5 回	授 業 内 容	まとめ，試験
	事 前 学 修	前期授業範囲の復習。
	事 後 学 修	授業内容の復習。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史概説 / 東洋史概論〕

塚本 剛

- ◆**授業概要** 「東洋史」を、歴史的空間概念として古代は東アジア世界、中世は東部ユーラシア世界、近世は世界の一体化という観点より中国を文明中核地帯として概説する。多種多様な民族と地域、特に黄河流域と長江流域で明確に異なる文化をもちながらなぜ統一されたのか、所謂「水の理論」は妥当なのか、環境や世界観の変化はどのように東洋の歴史に影響したのか理解できるように心掛ける。高校教育の現場での経験を活用する。
- ◆**学修到達目標** ①日本を含む「東洋史」、歴史的空間概念としての東アジア世界史・東部ユーラシア世界史とは何か、世界史構想上で東洋史はどのように位置づけられるのかを説明できる。②資料解釈による「歴史的事実」の解釈の多様性、そこから生じる様々な歴史認識、歴史観、ひいてはグローバル世界において東洋を比較相対して位置づけ、俯瞰的に捉える学問的アプローチと態度を学修することにより、固有の世界観を形成することが出来る。
- ◆**授業方法** 東洋史で常識（特に中高の歴史教育）とされている歴史事象についての誤解とそれが形成された理由を浮き彫りにして、現在の学問水準でのコンセンサスを講義する。まずは全体を順に受講すること。一度でわからないところは繰り返し受講できるのがオンデマンドのメリットでもある。是非活用してもらいたい。なお回線の混み具合などで上手く受講できない場合などは時間を変えてみるなど試してもらいたい。不明な点については問い合わせ頂きたい。
- ◆**履修条件** 学修効果を上げるため、前期後期連続受講が望ましい。後期高綱博文先生の東洋史概説東洋史概説履修を強く勧める。
- ◆**教科書** **丸沼**『中国の歴史』 岸本美緒 ちくま学芸文庫 筑摩書房 2015 年
通材『東洋史概説 Q30300』 通信教育教材（教材コード 000523）
- ◆**参考書** **その他** 配信教材 音声もしくは動画、テキスト史料などを適宜配信
- ◆**成績評価基準** オンデマンドで課す課題レポート（100%）。課した分は全て提出して下さい。毎回出席することを前提として評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上で行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	講義の進め方・オリエンテーション・東洋史とは何か？ 本講義の進め方を説明し、東洋史を学修する意義を概説する。
	事前学修	高校世界史で学習した知見を整理しておくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、確認して理解しておくこと。
2 回	授業内容	原始文化 中国文明の文化的多様性、特に黄河流域文化と長江流域文化との質的差を解説する。
	事前学修	文化とは一言で言えばライフスタイル。それは衣食住に如実に表れる。中華料理といっても地域によってその実態は、多彩である。それぞれの地域に根ざした料理の特徴を調べておくこと。
	事後学修	米作文化と雑穀文化の相違など文化の違いを良く整理しておくこと。
3 回	授業内容	邑の統合と初期王権 都市国家である邑の出現と、それを統合する王権の仕組みについて解説する。
	事前学修	高校世界史の知識を確認しておくこと。
	事後学修	神の直系子孫である王の王権構造と黄河・長江流域のそれぞれの王権の特徴について整理しておくこと。
4 回	授業内容	殷周革命と天 殷周革命により王権の正統観念が一変し、青銅器に文字を鑄込む技術を独占的に握り、天と交信できる唯一の祭祀者としての王の性格を解説する。
	事前学修	お祭りにおける祭祀・儀礼の意義を考えてくること。
	事後学修	王権の正統性は背景にある思想の属性によって規定されるが、中国の場合について確認した上で、本来目に見えない思想を可視化する装置として機能する文化についてまとめておくこと。
5 回	授業内容	春秋戦国時代における天体観の変化 都市国家から領域国家への発展を解説する。
	事前学修	高校歴史教育における中国と日本の改元の違いを調べてみる。
	事後学修	改元法の違いが、王権の正統観の相違を表し、領域国家の有り様は環境によって多様であることを良く整理すること。
6 回	授業内容	秦の統一 領域国家から帝国への発展を解説する。
	事前学修	高校教育の該当部分について良く復習しておくこと。
	事後学修	
7 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
8 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
9 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
10 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
11 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
12 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	

13 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
14 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	
15 回	授業内容	
	事前学修	
	事後学修	

◆授業概要

刑法総論の学修を行う。刑法総論とは、犯罪と刑罰の基礎理論、各犯罪に共通する一般的成立要件などを内容とする学問であり、抽象度の高いところに特徴がある。もともと、難解さゆえの消化不良を回避し、確実に知識・理解の定着を促進するため、本講義においては、多用される具体例を前提に、判例および通説を理解することを主眼とし、刑法総論の概要、基本的部分の学修を図る。

具体的には、罪刑法定主義などの刑法の基礎理論のほか、犯罪の成立要件となる、構成要件要素（因果関係、故意・過失など）、違法性（正当防衛）、責任（責任能力）、また、未遂犯論、共犯論を学修する。

◆学修到達目標

刑法総論の基本的部分に関する判例や通説についての知識を涵養し、簡単な事例において、結論を導くことができるようになる。刑法総論の全体像を把握することができる。体系的思考に基づき、論理的な結論を導くことができるようになる。

◆授業方法

オンデマンドで授業を行う。受講者は、六法や指定された教科書を手もとに用意して動画を視聴する。授業は教科書に沿って進行するので、教科書の参照は必須である。リアクションペーパーを作成して、グーグルクラスルームに提出する。フィードバックもグーグルクラスルームにて行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

リアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

◆教科書

市販本『刑法の時間』 佐久間修・橋本正博編 有斐閣 2021 年

◆参考書

市販本『よくわかる刑法〔第3版〕』 井田良・佐藤拓磨編 ミネルヴァ書房 2018 年

◆授業相談先（連絡先）

グーグルクラスルーム上にて行う。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	罪刑法定主義
	事 前 学 修	教科書第 1 話を読んでおく。
	事 後 学 修	罪刑法定主義について理解する。
2 回	授 業 内 容	刑法の見取り図
	事 前 学 修	教科書第 2 話を読んでおく。
	事 後 学 修	刑法の三分体系について理解する。
3 回	授 業 内 容	実行行為と結果
	事 前 学 修	教科書第 3 話を読んでおく。
	事 後 学 修	実行行為と結果の機能について理解し、また、既遂・未遂、不能犯の概要を把握する。
4 回	授 業 内 容	因果関係
	事 前 学 修	教科書第 4 話を読んでおく。
	事 後 学 修	条件関係と相当因果関係について理解する。
5 回	授 業 内 容	不作為犯
	事 前 学 修	教科書第 5 話を読んでおく。
	事 後 学 修	不作為犯の成立要件について理解する。

◆授業計画

6回	授 業 内 容	故意・錯誤
	事 前 学 修	教科書第6話を読んでおく。
	事 後 学 修	未必の故意、意味の認識、事実の錯誤について理解する。
7回	授 業 内 容	過失犯
	事 前 学 修	教科書第7話を読んでおく。
	事 後 学 修	注意義務違反とは何か、および、信頼の原則について理解する。
8回	授 業 内 容	正当防衛
	事 前 学 修	教科書第8話を読んでおく。
	事 後 学 修	正当防衛について理解する。
9回	授 業 内 容	責任能力
	事 前 学 修	教科書第9話を読んでおく。
	事 後 学 修	責任主義、責任能力、原因において自由な行為について理解する。
10回	授 業 内 容	違法性の錯誤
	事 前 学 修	教科書第10話を読んでおく。
	事 後 学 修	違法性の錯誤とは何か、および、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解する。

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	未遂犯
	事 前 学 修	教科書第 11 話を読んでおく。
	事 後 学 修	実行の着手について理解する。
1 2 回	授 業 内 容	正犯と共犯
	事 前 学 修	教科書第 12 話を読んでおく。
	事 後 学 修	間接正犯、共同正犯について理解する。
1 3 回	授 業 内 容	教唆・幫助
	事 前 学 修	教科書第 13 話 1～3 を読んでおく。
	事 後 学 修	狭義の共犯、共犯の従属性について理解する。
1 4 回	授 業 内 容	共犯をめぐる諸問題
	事 前 学 修	教科書第 13 話 4～8 を読んでおく。
	事 後 学 修	承継的共同正犯、共同正犯からの離脱、共犯と身分について理解する。
1 5 回	授 業 内 容	刑法の目的と機能・犯罪の個数
	事 前 学 修	教科書コラム②、コラム③を読んでおく。
	事 後 学 修	刑罰の目的・機能、罪数について理解する。

令和3年度屋間スクーリング(前期)開講講座一覧

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
木	1	AD11	民法Ⅰ A	根本 晋一	2	K20200	民法Ⅰ	×		※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AD12	行政学 A	関根 二三夫	2	L30100	行政学	×		2年	
		AD13	英米文学概説／英語文学概説	鈴木 ふさ子	2	N20300	英米文学概説	×		※	・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可, それ以外は2学年以上申込可。 ・平成30年度以前入学学生のみ履修可。
						N20400	英語文学概説				・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可, それ以外は2学年以上申込可。 ・令和元年度以降入学学生のみ履修可。
		AD14	情報概論 A	中村 典裕	2	R32300	情報概論	×		2年	
	2	AD21	哲学 B	中澤 瞳	2	B10700	哲学	×		1年	
		AD22	英語 F	鈴木 ふさ子	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AD23	行政学 B	関根 二三夫	2	L30100	行政学	×		2年	
		AD24	民法Ⅲ A	根本 晋一	2	K30200	民法Ⅲ	×		2年	
		AD25	国文学基礎講義	近藤 健史	2	M20100	国文学基礎講義	×		※	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AD26	情報概論 B	荒関 仁志	2	R32300	情報概論	×		2年	
		AD27	経済原論／経済学原論 B	前野 高章	2	R20100	経済原論	×		※	・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。
						L20200	経済学原論				・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。
		AD28	広告論 B	雨宮 史卓	2	S30900	広告論	×		2年	
		AD29	心理学 C	芳賀 道匡	2	B12100	心理学			1年	
	3	AD31	英語 G	中村 則子	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					1	C10200	英語Ⅱ			2年	
					1	C10300	英語Ⅲ				
					1	C10400	英語Ⅳ				
		AD32	TOEIC A	町田 純子	1	C108S0	TOEIC	×		1年	
		AD33	法学 B	根本 晋一	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×		1年	
		AD34	英語学概説	真野 一雄	2	N30700	英語学概説	×		2年	
		AD35	史学概論	高綱 博文	2	Q30100	史学概論	×		2年	
		AD36	現代教職論	古賀 徹	2	T10100	現代教職論	×	○	2年	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
	4	AD41	英語 H	町田 純子	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AD42	英語基礎 B	中村 則子	1	C10600	英語基礎	×		1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。
		AD43	TOEIC B	八木 茂那子	1	C108S0	TOEIC	×		1年	
		AD44	民法Ⅰ B	根本 晋一	2	K20200	民法Ⅰ	×		※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AD45	西洋史特講Ⅰ	青山 由美子	2	Q31200	西洋史特講Ⅰ	×		2年	
		AD46	経済史総論 B	下斗米 秀之	2	R20200	経済史総論	×		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。
	AD47	英語科教育法Ⅰ	小澤 賢司	2	T20900	英語科教育法Ⅰ	×	○	2年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
					T23800	英語科教育法Ⅰ					
	5	AD51	英語 J	八木 茂那子	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AD52	民法Ⅲ B	根本 晋一	2	K30200	民法Ⅲ	×		2年	
		AD53	哲学演習 A	中澤 瞳	1	P401S0	哲学演習Ⅰ	×		3年	・哲学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ,Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						P402S0	哲学演習Ⅱ				
	AD54	教育の方法・技術論 A	古賀 徹	2	T21700	教育の方法・技術論	×	○	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
	AD55	憲法	田上 雄大	2	K20100	憲法			※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。 ・ポータルサイト上では名雪健二先生担当で表示されますが,実際に担当されるのは田上雄大先生です。	

※「対面」欄に○が入っている講座は対面授業実施予定講座です。それ以外は全てオンデマンド配信による開講となります。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅰ A〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 民法総則の前半部分を学修する。具体的には、民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、のうち、私権の客体あたりまでを学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式（オンデマンド）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅰ、および根本の民法Ⅰ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 〔丸〕民法Ⅰ（通信教育教材）
- ◆**成績評価基準** 全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	GD、民法の意義
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2 回	授業内容	民法の基本原則
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3 回	授業内容	私権の社会性
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4 回	授業内容	民法の法源
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
5 回	授業内容	法の沿革など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6 回	授業内容	権利能力の意義、自然人と法人など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7 回	授業内容	権利能力の始期、出生の概念、胎児の例外など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8 回	授業内容	権利能力の終期、死亡の概念、権利能力の終期と関わる制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9 回	授業内容	認定死亡、不在者財産管理と失踪宣告、同時死亡の推定など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10 回	授業内容	意思能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11 回	授業内容	行為能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	制限行為能力者制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授業内容	制限行為能力者の相手方の保護など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	私権の客体、物の概念、有体物とは
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	不動産と動産、主物と従物、元物と果実
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔行政学 A〕

関根 二三夫

- ◆**授業概要** 行政の概念、行政学の変遷、ロレンツ・フォン・シュタインの行政学、科学的管理法と行政学、政治と行政との関係、国家概念と国家機関、国家成立の要素、現代国家と行政、行政組織の原則及び部門化、ラインとスタッフ、官僚制、公務員制など、行政に関する制度的側面を学びます。
- ◆**学修到達目標** 20 世紀に入り顕著になってきた行政の多様化や複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。政策の執行を本来的に扱うとされた行政が、政策の立案や決定に大きな影響力を持つことになって、議会政治との関係が問題になっています。行政の制度面を学ぶことにより、行政が国家と如何なる関係にあるのかを理解できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容の説明を致します。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 00084）3,000 円（送料込）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。
- ◆**授業相談（連絡先）**：sekine.fumio@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	講義全体の概要の説明
	事前学修	テキストを熟読し、概要を理解すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2 回	授業内容	行政の概念
	事前学修	テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3 回	授業内容	行政学の変遷
	事前学修	テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4 回	授業内容	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学
	事前学修	テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5 回	授業内容	科学的管理法と行政学
	事前学修	テキストの第 1 章第 3 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6 回	授業内容	政治と行政との関係
	事前学修	テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7 回	授業内容	国家概念と国家機関
	事前学修	テキストの 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8 回	授業内容	国家成立の要素
	事前学修	テキストの第 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9 回	授業内容	現代国家と行政
	事前学修	テキストの第 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10 回	授業内容	行政機関（組織原則及び部門化）
	事前学修	テキストの第 4 章第 1 節から第 3 節までを熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
11 回	授業内容	行政機関（ラインとスタッフ）
	事前学修	テキストの第 4 章第 4 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12 回	授業内容	官僚制（概念及び特徴）
	事前学修	テキストの第 5 章第 1 節及び第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
13 回	授業内容	官僚制（発達の根拠）
	事前学修	テキストの第 5 章第 1 節及び第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授業内容	公務員制
	事前学修	テキストの第 5 章第 4 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授業内容	講義全体の総括
	事前学修	学修した内容を再度確認すること。
	事後学修	テキストの記述とノートの記述とを比較し、内容の理解を深めること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学概説 / 英語文学概説〕

鈴木 ふさ子

- ◆**授業概要** イギリスにおいて近代小説の祖とされる Samuel Richardson から Horace Walpole, Ann Radcliffe らゴシック小説の作家を経て Jane Austen などイギリス小説を代表する作家、現代的な問題をはらんだ作品を書いた Mary Shelley にいたるまでを概観する。18 世紀、19 世紀前半の代表的な作家の生涯や作品の概要や作品のハイライトを抜粋して読み、小説の黄金期であるヴィクトリア時代を迎えるまでの小説の発展の過程を辿る。
- ◆**学修到達目標** イギリス小説の黎明期から近代小説の成立、ゴシック小説を経て写実主義や歴史小説などに発展していった過程について知り、説明できるようになる事を目的とする。代表的作家の生涯と作品について知識を身につけ、説明できるようになる事を目的とする。作品の内容について考察し、コメントを書くことで簡単な文学の批評ができるようになる事を目的とする。
- ◆**授業方法** テキストとプリント、映像を用いて 18 世紀、19 世紀前半の代表的な作家の生涯と作品の概要を紹介する。代表作の原文のハイライトを抜粋して読む。重要な作品は映像で作品を鑑賞する。作品についてコメントを書いてもらって提出してもらうこともある。原文を読むのに必要な英語の辞書は必ず持参するようにすること。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『たのしく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

◆**参考書** 丸沼『英語文学事典』（ミネルヴァ書房）
丸沼 The Oxford Literary Terms (Oxford Quick Reference)
※参考文献は自習用であり、授業では使用しません。

◆**成績評価基準** コメントシート (30%)、試験 (70%)
授業には毎回出席することを前提として評価を行います。

◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom のストリームでご質問下さい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス、オリエンテーション、授業の進め方、講義内容に記載されている成績評価方法などの確認、イギリス文学のどの作品に興味があるのか。
	事前学修	自分が興味のあるイギリス文学を考えてくる。
	事後学修	18 世紀以降のイギリス文学について調べてくる。
2 回	授業内容	近代小説が誕生するまでのイギリス文学を概観する。
	事前学修	18 世紀以前のイギリス文学にはどのような作家がいるのか調べる。
	事後学修	近代小説が生まれる以前のイギリス文学について調べる。
3 回	授業内容	近代小説 ⁽¹⁾ イギリスの近代小説について解説。Samuel Richardson の Pamela について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 56, 57 頁を読み、Richardson, Pamela について調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Pamela の原文を読んでみる。
4 回	授業内容	近代小説 ⁽²⁾ Henry Fielding の Shamela, The History of Tom Jones, a Foundling について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 58, 59 頁を読み、Henry Fielding の The History of Tom Jones, a Foundling について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Shamela と The History of Tom Jones, a Foundling の原文を読んでみる。
5 回	授業内容	近代小説 ⁽³⁾ Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 60, 61 頁を読み、Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Laurence Sterne の The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman の原文を読んでみる。
6 回	授業内容	ゴシック小説 ⁽¹⁾ ゴシック小説とは何かをピックアップの問題と絡めて解説。Horace Walpole の The Castle of Otranto について解説。テキストと英文を読む。
	事前学修	テキストの 62, 63 頁を読み、Horace Walpole の The Castle of Otranto について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Horace Walpole の The Castle of Otranto の原文を読んでみる。
7 回	授業内容	ゴシック小説 ⁽²⁾ 大流行したゴシック小説 Ann Radcliffe の The Mysteries of Udolpho, The Italian について解説。英文を読む。
	事前学修	ゴシック小説と Anne Radcliffe について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Ann Radcliffe の The Mysteries of Udolpho, The Italian の原文を読んでみる。
8 回	授業内容	ゴシック小説 ⁽³⁾ その他の様々なゴシック小説を概観する。William Beckford の Vathek と Matthew Gregory Lewis の The Monk と Charles Robert Maturin の Melmoth, The Wanderer について解説。
	事前学修	テキストの 64, 65, 70, 71, 88, 89 頁を読み、William Beckford の Vathek と Matthew Gregory Lewis の The Monk と Charles Robert Maturin の Melmoth, The Wanderer について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、ゴシック小説にはどのようなものがあるのかまとめる。
9 回	授業内容	ゴシック小説からの発展 ⁽¹⁾ 歴史小説 (Sir Walter Scott) と写実主義の小説 (Jane Austen) の解説。Austen の Northanger Abbey を映像で鑑賞する。
	事前学修	テキストの 84, 85 頁を読み、Walter Scott と Jane Austen について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、ゴシック小説がどのように発展していったかをまとめる。
10 回	授業内容	ゴシック小説からの発展 ⁽²⁾ Jane Austen の生涯と作品を概観する。
	事前学修	Jane Austen の作品の内容や特徴を調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Jane Austen の生涯や作品の内容などをまとめる。
11 回	授業内容	ゴシック小説からの発展 ⁽³⁾ Jane Austen の Pride and Prejudice の英文を読む。
	事前学修	テキストの 78, 79 頁を読み、Austen の Pride and Prejudice について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを確認し、Austen の Pride and Prejudice の原文を読んでみる。

12 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(4) Jane Austen の Pride and Prejudice の映像を鑑賞する。
	事前学修	Austen の Pride and Prejudice の原文を読む。
	事後学修	Austen の Pride and Prejudice の原文と映像の相違について考える。
13 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(5) 現代的なテーマを孕むゴシック小説 Mary Shelley の Frankenstein の解説と英文を読む。
	事前学修	テキストの 82, 83 頁を読み、Mary Shelley の Frankenstein について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Mary Shelley の Frankenstein の原文を読む。
14 回	授業内容	ゴシック小説からの発展(6) と前期の総まとめ Mary Shelley の Frankenstein から生まれた映像を紹介する。前期に学んだことの総復習。試験について。
	事前学修	これまで学んだことを復習しておく。
	事後学修	Mary Shelley の Frankenstein と現代のつながりを考える。前期の総復習をする。
15 回	授業内容	試験とその解説を行う。
	事前学修	前期に学んだこと、読んだ英文を復習する。
	事後学修	試験でできなかったところを確認し、できなかった部分を復習する。

〔情報概論 A〕

中村 典裕

◆**授業概要** 情報機器の基本的な活用能力は Computer Literacy と呼ばれるが、本講義では文字・文章処理、即ち「ワードプロセッシング」技術を学習する。教員はソフトウェア開発と情報通信設備の整備の経験を踏まえて、実務的なワープロ技術の使いこなし方を講義する。また、プレゼンテーションソフトについての学習も行う。

◆**学修到達目標** 文書処理能力は知的活動の基礎である。最終的に次の内容を習得することを目標とする。

1. 情報機器による文書作成、編集能力を習得する。
2. 発信する情報の種類に応じた適切な表現手法を習得する。
3. 更に文書作成を通じた自己表現技術を習得する。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの歴史、構造、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し、提出する。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 資料配布（Classroom）

◆**参考書** 授業時に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、平常課題（30%）、最終課題レポート（50%）。毎回出席する事を前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス・情報通信技術（ICT）の基礎 事前学修：日頃から情報通信技術（ICT）に関わるテレビ報道や新聞記事などに興味や関心を持って接する態度を期待する。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
2 回	授業内容：ビットと情報量 タイピング入門 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
3 回	授業内容：Google ドキュメントの基礎 文字飾りの練習 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
4 回	授業内容：コピー&ペースト 文字コードの話 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
5 回	授業内容：CPU 開発の歴史 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
6 回	授業内容：表現力のある文章 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
7 回	授業内容：コンピュータのハードウェアの構成 コンピュータの 5 大要素に関する課題 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
8 回	授業内容：コンピュータのソフトウェア ビジネス文書の作成 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
9 回	授業内容：Google ドキュメント応用 1、ワードアートと図形 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
10 回	授業内容：Google ドキュメント応用 2、文書レイアウト、縦書き、横書き 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
11 回	授業内容：Google ドキュメント応用 2、文書レイアウト、縦書き、横書き 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
12 回	授業内容：Google スライド入門 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
13 回	授業内容：Google スライドの応用 事前学修：授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。 事後学修：授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。

14 回	授業内容	Google ドキュメント応用 3, 索引, 脚注, 目次
	事前学修	授業 Web の内容を事前に閲覧し, 授業内容への理解を深めておく。
	事後学修	授業の内容をノートに整理する。また, 自宅でも授業 Web にアクセスし, 授業内容を確認する。
15 回	授業内容	最終課題
	事前学修	前回までの授業内容を確認し, 最終課題に備える。
	事後学修	最終課題の結果を整理し, 結果について再確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 B〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本授業は、古代ギリシャの哲学者の思想を通して、古代西洋哲学についての一般的な知識を修得することを目的とする。
- ◆**学修到達目標** この授業の目標は、古代ギリシャの哲学者を代表する、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの基本的な考え方を説明することができるようになることである。また、哲学者の考え方を理解し、自分ひとりでも考えることができるようになることも目標とする。授業計画の事後学修の個所に、授業内容に関連する参考文献を挙げているので、自分ひとりで考える際には参照してほしい（なお、授業回の内容と参考文献が直接対応しているわけではない）。
- ◆**授業方法** 本授業は講義形式で行う。受講者は各自で事前に教科書を読んでおくこと。授業計画を目安にして読み、一度に教科書すべてを読まなくてもよい。また、複数回の課題に取り組んでもらう。
- ◆**履修条件** 令和 2 年度昼間スクーリング（前期）『哲学』とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 丸沼『初級者のためのギリシャ哲学の読み方・考え方』左近司祥子 大和書房 1997 年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 課題の提出（40%）、レポート試験（60%）により総合的に評価する。なお、評価を行う際には、毎回出席票を提出していることを前提とする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業相談は、Google Classroom にて受け付ける。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（授業の内容の概要の説明、最終日に行う授業内試験の説明）、哲学とはどのような学問なのかについての説明
	事前学修	教科書 pp. 3-13（プロローグ）に目を通す。また時間に余裕があれば、教科書 pp. 22-44（第 1 章いちばんさいしょの哲学者）にも目を通す。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2 回	授業内容	自然哲学について（自然哲学とはどのような背景のもと生まれたのか、自然哲学者たちにはどのような人たちがいるのか、どのようなことを考えていたのかを説明する。）
	事前学修	教科書 pp. 22-44（第 1 章いちばんさいしょの哲学者）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ギリシア哲学者列伝』や『ソクラテス以前の哲学者』などを読み、自然哲学について説明できるようにする。
3 回	授業内容	ソクラテスについて 1（ソクラテス 1, 2 を通じて、ソクラテスの思想の背景と、その内容を説明する。参考文献はソクラテス 2 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第 2 章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテス』、『ソフィストとは誰か』、『哲学の饗宴』、『ギリシア哲学入門』などを読み、ソフィストやソクラテスの人物像について説明できるようにする。
4 回	授業内容	ソクラテスについて 2（参考文献はソクラテス 1 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第 2 章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテスの弁明』や『クリトン』、『パイドン』、『ソクラテスの思い出』などを読み、ソクラテスの思想について説明できるようにする。
5 回	授業内容	プラトンについて 1（プラトン 1～4 を通じて、プラトンの思想の背景、プラトンの徳倫理、イデア論について説明する。参考文献はプラトン 2, 3, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン』やプラトンの著作を読み、ソクラテスとの関係や、プラトンの思想の背景を説明できるようにする。
6 回	授業内容	プラトンについて 2（参考文献はプラトン 1, 3, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『現代思想としてのギリシア哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
7 回	授業内容	プラトンについて 3（参考文献はプラトン 1, 2, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトンの哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
8 回	授業内容	プラトンについて 4（参考文献はプラトン 1, 2, 3 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン哲学への旅』、『プラトンを学ぶ人のために』やプラトンの著作を読み、プラトンのイデア論について説明できるようにする。
9 回	授業内容	アリストテレスについて 1（アリストテレス 2～6 を通じて、アリストテレスの思想の背景、自然学、倫理学について説明する。参考文献はアリストテレス 2～6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
10 回	授業内容	アリストテレスについて 2（参考文献はアリストテレス 1, 3, 4, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『ヨーロッパ思想入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
11 回	授業内容	アリストテレスについて 3（参考文献はアリストテレス 1, 2, 4, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学の 10 冊』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
12 回	授業内容	アリストテレスについて 4（参考文献はアリストテレス 1, 2, 3, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。

13 回	授業内容	アリストテレスについて5（参考文献はアリストテレス1, 2, 3, 4, 6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学史』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
14 回	授業内容	アリストテレスについて6（参考文献はアリストテレス1, 2, 3, 4, 5にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス倫理学入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスとプラトンの違いについて説明できるようにする。
15 回	授業内容	レポート作成・提出
	事前学修	これまでの授業を振り返り、古代ギリシャの代表的な哲学者たちの考え方を整理する。
	事後学修	古代ギリシャ哲学の概説書を通読し、それぞれの哲学者の要点を復習する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 F（初級）〕

鈴木 ふさ子

- ◆**授業概要** TOEIC スコア 550 点相応の英語力を目指すクラスです。TOEIC の教材を用いて、基本的な文法の復習、場面に応じたボキャブラリーや表現を紹介し、リスニングの練習、英語の文章を読み、内容を短時間で把握する練習をします。TOEIC の形式や出題傾向を紹介し、授業で学んだことを実践で生かせるように応用問題も行う。
- ◆**学習到達目標** TOEIC スコア 600 点を目標に、TOEIC に出やすい基本的な文法事項、場面に応じたボキャブラリーや表現を覚え、リスニングの概要、英語の文章を短時間で把握することができるようになる。TOEIC の形式や出題傾向、コツを身につけることができる。応用問題を解いて、実際の試験に対応できるようになる。
- ◆**授業方法** テキストを用いて授業を進行するので、必ず授業開始時までにテキストを揃えておくこと。オンデマンド型の授業なので、動画で各 Unit を 2 回に分け、1 回目は Step 1 と Step 2 を一緒に解き、次回までにテスト付き課題で Step 3 を受けてもらいます。その翌週の 2 回目は Step 3 の解説を動画で行い、復習テストとして課題付きテストを受けてもらいます。適宜、関連する課題も出します。最終週には全体の復習の試験を行います。指示や変更は Classroom のストリームでお伝えするので、必ず確認して下さい。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE』 番場直之、小山克明 金星堂 2019 年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** テスト付き課題の提出状況とスコア（50%）、最終試験（50%）
- ◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom のストリームでご質問下さい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	Unit 1 ① 授業の進め方、TOEIC テストの説明をしながら、Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	TOEIC とはどのようなテストなのか調べておく。Unit 1 の Step 1 のボキャブラリーを見ておく。
	事後学修	TOEIC がどのようなテストなのか確認をし、それぞれの Part の特徴をつかむ。Unit 1 Step 1 と 2 の復習、課題。
2 回	授業内容	Unit 1 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 1 の Step 3 をテスト付き課題で行う。旅に関する表現と名詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
3 回	授業内容	Unit 2 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	食事に関するボキャブラリーと形容詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit 1 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
4 回	授業内容	Unit 2 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 2 の Step 3 をテスト付き課題で行う。食事に関する表現と形容詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
5 回	授業内容	Unit 3 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	メディアに関するボキャブラリーと副詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit 3 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
6 回	授業内容	Unit 3 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 3 の Step 3 をテスト付き課題で行う。メディアに関する表現と副詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
7 回	授業内容	Unit 4 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	エンターテインメントに関するボキャブラリーと時制の用法を復習する。
	事後学修	Unit 4 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
8 回	授業内容	Unit 4 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 4 の Step 3 をテスト付き課題で行う。エンターテインメントに関する表現と時制の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
9 回	授業内容	Unit 5 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	買い物に関するボキャブラリーと主語と動詞の一致について復習する。
	事後学修	Unit 5 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
10 回	授業内容	Unit 5 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 5 の Step 3 をテスト付き課題で行う。買い物に関する表現と主語と動詞の一致の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
11 回	授業内容	Unit 6 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	顧客との取引に関するボキャブラリーと能動態・受動態の用法を復習する。
	事後学修	Unit 6 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
12 回	授業内容	Unit 6 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 6 の Step 3 をテスト付き課題で行う。顧客との取引に関する表現と能動態・受動態の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
13 回	授業内容	Unit 7 ① Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	求人・採用に関するボキャブラリーと動名詞・不定詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit 7 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
14 回	授業内容	Unit 7 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 7 の Step 3 をテスト付き課題で行う。求人・採用に関する表現と動名詞・不定詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。

15 回	授業内容	前期のまとめと試験
	事前学修	前期の授業全体に学んだことを復習する。
	事後学修	最終試験を受けて、できなかった部分を確認し、全体をふりかえる。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔行政学 B〕

関根 二三夫

- ◆**授業概要** 行政の概念、行政学の変遷、ロレンツ・フォン・シュタインの行政学、科学的管理法と行政学、政治と行政との関係、国家概念と国家機関、国家成立の要素、現代国家と行政、行政組織の原則及び部門化、ラインとスタッフ、官僚制、公務員制など、行政に関する制度的側面を学びます。
- ◆**学修到達目標** 20 世紀に入り顕著になってきた行政の多様化や複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。政策の執行を本来的に扱うとされた行政が、政策の立案や決定に大きな影響力を持つことになって、議会政治との関係が問題になっています。行政の制度面を学ぶことにより、行政が国家と如何なる関係にあるのかを理解できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容の説明を致します。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 00084）3,000 円（送料込）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。
- ◆**授業相談（連絡先）**：sekine.fumio@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	講義全体の概要の説明
	事前学修	テキストを熟読し、概要を理解すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2 回	授業内容	行政の概念
	事前学修	テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3 回	授業内容	行政学の変遷
	事前学修	テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4 回	授業内容	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学
	事前学修	テキストの第 1 章第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5 回	授業内容	科学的管理法と行政学
	事前学修	テキストの第 1 章第 3 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6 回	授業内容	政治と行政との関係
	事前学修	テキストの第 1 章第 1 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7 回	授業内容	国家概念と国家機関
	事前学修	テキストの 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8 回	授業内容	国家成立の要素
	事前学修	テキストの第 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9 回	授業内容	現代国家と行政
	事前学修	テキストの第 2 章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10 回	授業内容	行政機関（組織原則及び部門化）
	事前学修	テキストの第 4 章第 1 節から第 3 節までを熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
11 回	授業内容	行政機関（ラインとスタッフ）
	事前学修	テキストの第 4 章第 4 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12 回	授業内容	官僚制（概念及び特徴）
	事前学修	テキストの第 5 章第 1 節及び第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
13 回	授業内容	官僚制（発達の根拠）
	事前学修	テキストの第 5 章第 1 節及び第 2 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授業内容	公務員制
	事前学修	テキストの第 5 章第 4 節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授業内容	講義全体の総括
	事前学修	学修した内容を再度確認すること。
	事後学修	テキストの記述とノートの記述とを比較し、内容の理解を深めること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅲ A〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 債権総論の前半部分を学修する。債権総論とは、債権法全体の共通の決まりごとをまとめた部分であり、債権債務の発生から消滅に至る過程、つまり、債権債務一生、生まれてから役割を終えて死ぬまでの過程を規律している。具体的には、債権の発生、目的、効力、多数当事者の債権債務関係、譲渡（引受・移転を含む）、消滅の各過程に関する条項を置いている。その主要な条項の解釈を学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所ですした専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式（オンデマンド）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅲ、および根本の民法Ⅲ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 〔丸〕民法Ⅲ（通信教育教材）
- ◆**成績評価基準** 全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	GD、財産法における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
2 回	授業内容	債権総論の全体像、その内容の概説、債権とは何か（財産権として共通する物権との比較についての総論）、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の確認
3 回	授業内容	物権の絶対性（対世的効力）と債権の相対性（相対的効力）、物権法定主義と契約自由の原則、物権における優先弁済的効力と債権における債権者平等の原則、物権における優先弁済的効力と債権における債権者平等の原則、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4 回	授業内容	債権債務の発生原因（意思に基づく発生原因としての約定債権（契約）と、意思によらない発生原因としての法定債権（寺家管理・不当利得・不法行為）、その総論
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5 回	授業内容	意思に基づく発生原因としての約定債権（契約）について。私的自治の原則に基づくこと、「契約」についての概説（詳細は民法Ⅳ、つまり債権各論の前半部分たる契約総論に譲る）など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6 回	授業内容	意思によらない発生原因としての法定債権（事務管理・不当利得・不法行為）について。私的自治ではなく立法政策に基づくこと、事務管理・不当利得・不法行為に関する概説（詳細は、民法Ⅳ、つまり債権各論の後半部分に譲る）など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7 回	授業内容	債権の目的について、与える債務、つまり特定物債権、不特定物債権、種類債権（特定・集中について）、金銭債権（金銭債務の特則について）と、為す債務、つまり作為債権と不作為債権、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8 回	授業内容	債権の効力について。対内的効力と対外的効力（広義）に区別され、後者は、狭義の対外的効力と保全的効力に区別されること、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の確認
9 回	授業内容	対内的効力とは当事者間の効力、つまり相対性を表した概念であること、その内容は、給付受領権・強制履行請求権・債務不履行責任と解除権の発生であること、その内容を順次説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10 回	授業内容	（前回授業の続き）給付受領権、強制履行請求権、債務不履行責任（債権法改正と関連する契約不適合責任との関係を含む）について説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11 回	授業内容	（前回授業の続き）債務不履行責任（その態様、損害賠償の範囲を含む）、契約の解除（詳しくは民法Ⅳ、債権各論前半の契約総論に譲る）、について説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	狭義の対外的効力について説明する。賃借権の物権化、賃借権に基づく妨害排除請求の可否、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

13 回	授業内容	保全的効力について説明する。保全的効力をとくに認める意義，債権者代位権について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	(前回授業の続き) 債権者代位権，詐害行為取消権について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	詐害行為取消権について，前半のまとめ
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学基礎講義〕

近藤 健史

- ◆**授業概要** 日本古典文学の中から代表的な作品を取りあげ、時代背景や社会的背景などを踏まえ、多様な視点から読解を行う。また、当時の建築様式や生活様式などのついで映像を利用して理解を深める。
- ◆**学修到達目標** 日本古典文学の作品を読む基礎的な知識や方法を身につけ、専門科目の学修に対応できるようにする。また、日本古典文学の背景となる文化、作品の成立事情や内容などについて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 基本的には指定の教科書に従って、作品の成立事情や時代背景、作品の特徴などについて講義形式で行う。また、古典の背景として「平安の文化と貴族」「中世の文化と武士・隠者」「近世の文化と庶民」などに関する映像を利用して理解を深める。
- ◆**履修条件** 令和2年度夏期スクーリング「国文学基礎講義」（近藤健史）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** **教材**『国文学講義M 20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350 円（送料込）この教材は市販の『日本古典文学』近藤健史編（弘文堂）と同一です。
- ◆**参考書** 教科書の各章に記載してある。
- ◆**成績評価基準** 試験 100%
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方、『日本古典文学』の概要
	事前学修	各章の冒頭にある「本章のポイント」を読み、教科書の大まかな内容を把握しておくこと。
	事後学修	各章末に付してある「理解を深めるための参考書」や「関連作品の案内」を読み、理解を深める。
2 回	授業内容	『古事記』『日本書紀』『風土記』を読み、日本の古代を考える。
	事前学修	第 1 章を読んで、各作品の成立事情などを理解しておくこと。
	事後学修	第 1 章末「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
3 回	授業内容	第 2 章の「記紀歌謡」と『万葉集』を読み、古代における歌について考える。
	事前学修	第 2 章を読んで、各作品の特徴や成立事情などについて理解しておくこと。
	事後学修	第 2 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
4 回	授業内容	『源氏物語』の世界を読む。
	事前学修	『源氏物語』の概要や成立事情などについて調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
5 回	授業内容	『源氏物語』の作品を読み解く。
	事前学修	第 3 章における「帚木巻」「若紫巻」「藤壺巻」の作品の大意を把握しておくこと。
	事後学修	第 3 章末「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
6 回	授業内容	『古今和歌集』を読む。
	事前学修	『古今和歌集』の序文、成立事情、時代背景などについて調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
7 回	授業内容	『古今和歌集』の作品を読み解く。
	事前学修	第 4 章にあげてある作品について大意を把握しておくこと。
	事後学修	第 4 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
8 回	授業内容	『方丈記』と『徒然草』の特徴と作品の時代背景を考える。
	事前学修	第 5 章を読み、それぞれの作品の作者や中世の時代について調べていくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容を確認して、理解を深める。
9 回	授業内容	『方丈記』と『徒然草』の作品を読み解く。
	事前学修	第 5 章にあげている作品について「無常」をポイントとして読んでおくこと。
	事後学修	第 5 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
10 回	授業内容	『新古今和歌集』の成立事情や特色を考える。
	事前学修	中世の時代、文人たちの生活について調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容について確認し、理解を深める。
11 回	授業内容	『新古今和歌集』の秀歌を読み解く。
	事前学修	秀歌の鑑賞の仕方などのついて調べておくこと。
	事後学修	第 6 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
12 回	授業内容	近世文学とその時代について考える。
	事前学修	中世から近世へという時代の流れや特色について調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容を確認して、理解を深める。
13 回	授業内容	井原西鶴の文学を考える。
	事前学修	西鶴の登場とその時代背景を調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業内容を確認して、理解を深める。
14 回	授業内容	近松門左衛門の文学を考える。
	事前学修	近松の登場とその時代背景を調べておくこと。
	事後学修	第 7 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。
15 回	授業内容	松尾芭蕉の文学を考える。
	事前学修	芭蕉の「不易流行」と「かるみ」という文学理念について調べておくこと。
	事後学修	第 8 章末の「知識を確認しよう」の問題を解き、理解を深める。全体の授業内容を振り返る。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔情報概論 B〕

荒関 仁志

◆授業概要 下記の項目について実習を進めていきます。

- 1) 文書作成
- 2) 表計算ソフトと統計処理
- 3) プレゼンテーション技術の基礎
- 4) インターネットとWWWの構造
- 5) インターネットとセキュリティ

◆学修到達目標 表計算ソフト、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト、インターネットの利用を通じて、コンピュータによる問題解決の方法の基礎を理解し、情報技術の基本的知識の説明をすることができる。 また、昨今問題視されているネットワークセキュリティの理解の理解も目指す。

◆授業方法 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、表計算ソフトの必要な知識については必要に応じて講義形式で学習します。また、教科書にない資料などは授業で配布します。

◆履修条件 文書作成ソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）、テキストエディタ（メモ帳）の基本的な使い方を理解していること、さらに、メールで課題提出を行うので Nu-Mail が使えることが望ましい。2021 年度昼間スクーリング「情報概論」の前期、もしくは後期のみの受講も可能ですが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。2021 年度夏期スクーリング「情報概論」との積み重ね不可。 なお、本講義では WindowsPC の利用限定とします。

◆教科書 資料配布（Classroom） Classroom 内で講義動画と講義料を配布しますので、授業を受講する際は、必ず配布資料を各自のパソコンにダウンロードしておいてください。

◆参考書 丸沼『最新情報処理概論 改訂版』 安藤 明之 実教出版；改訂版 2014 年

◆成績評価基準 授業参加度（30%）、平常課題（70%）により総合的に評価します。 ※演習形式の授業なので、毎回出席することを前提に評価します。

◆授業相談（連絡先）： 通信教育部 3 号館 3 階 302 研究室 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。 例：「日本大学通信教育部 22183999 日大通子」 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：文書作成ソフト（MSワード）の基本操作の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本（文字入力、ファイル操作等）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトの基本操作について理解すること。
2 回	授業内容：文書作成ソフトでのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成などを確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき文書作成ソフトのヘッダー／フッター設定、目次作成、参考文献作成操作について理解すること。
3 回	授業内容：表計算ソフトの基本操作の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本（相対参照・絶対参照）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき相対参照・絶対参照について理解すること。
4 回	授業内容：表計算ソフトによるグラフの作成方法の習得を目指します。 事前学修：縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフの作成について理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき各グラフの作成方法、ならびに用法について理解すること。
5 回	授業内容：表計算ソフトと文章作成ソフトによるレポート作成方法の習得を目指します。 事前学修：文書作成ソフトの基本（文字入力やファイル操作）について再確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきレポート作成方法について理解すること。
6 回	授業内容：表計算ソフトの基本関数の習得を目指します。 事前学修：表計算ソフトの基本関数（平均、合計、順位等）について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
7 回	授業内容：表計算ソフトによる度数分布表・ヒストグラムの作成の習得を目指します。 事前学修：度数分布表とヒストグラムについて理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき度数分布表・ヒストグラムの作成方法を理解すること。
8 回	授業内容：表計算ソフトを用いて定義式に基づいた基本統計量（平均、合計、分散、標準偏差）の計算方法の習得を目指します。 事前学修：平均、合計、分散、標準偏差などの基本統計量の定義式を理解しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき基本統計量の計算方法を理解すること。
9 回	授業内容：表計算ソフトを用いて散布図の作成方法、ならびに定義式に基づいた相関係数の計算方法を習得します。 事前学修：散布図や相関係数について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき散布図の作成方法と定義式に基づいた相関係数の計算方法について理解すること。
10 回	授業内容：プレゼンテーションソフトの基本的操作の習得を目指します。 事前学修：プレゼンテーションソフトの基本について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づきプレゼンテーションソフトの基本操作について理解すること。
11 回	授業内容：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成を行います。 事前学修：発表する時事問題を特定し、参考文献や論文、または Web を調べてくること。 事後学修：プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成について理解すること。
12 回	授業内容：WWW (world Wide Web) ページの基本構造を理解する。 事前学修：HTML の基本文法について確認しておくこと。 事後学修：配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。

13 回	授業内容	WWW (world Wide Web) ページの基本構造であるHTMLの基本文法を理解する。
	事前学修	HTML の基本文法について確認しておくこと。
	事後学修	配布資料に基づき HTML の基本文法について理解すること。
14 回	授業内容	インターネット上の様々なアプリケーションについての歴史の変遷と構造。
	事前学修	様々なインターネット上のアプリケーションを調べて、それらの有効性を調べて置く。
	事後学修	配布資料に基づきインターネットの歴史を理解し、その利用方法を習得する。
15 回	授業内容	インターネット上の様々なアプリケーションについて理解すると共に、セキュリティについて理解する。
	事前学修	様々なSNSについて調査する。また、そのSNS上の問題点を確認しておく。
	事後学修	配布資料に基づきインターネットのセキュリティ問題の理解と対策を習得する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済原論 / 経済学原論 B〕

前野 高章

- ◆**授業概要** 本講義では、市場を構成する家計・企業・政府といった各経済主体の選択行動の基礎理論を把握し、そこから導かれる市場メカニズムについて一般均衡分析の考え方を学修し、さらに価格メカニズムが機能しない市場の失敗を導く諸要因について学修する。
- ◆**学修到達目標** ミクロ経済学において、完全競争市場の下では最も効率的な資源配分が達成されることを学び、「市場の失敗」を生む諸要因を中心に学び、市場機構の限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。ミクロ経済学を通じて、経済学の「基礎知識」を身につけ、その中で「経済学的な考え方」と「分析手法」を養い、応用・展開科目を学ぶ土台を築くことができるようになり、最終的には経済の動きを客観的に説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業で講義を行う。講義動画と講義資料は掲載期間内に順に学修すること。一度の視聴では分らなかった内容については、テキストや参考書などからも学修し、繰り返し学修をすること。それでも不明な点については随時質問を受け付ける。数回の授業時課題は講義動画あるいは講義資料にて課すこととする。
- ◆**履修条件** 経済学や経済学概論でミクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。令和三年度昼間スクーリング（前期）に開講される他の経済原論 / 経済学原論との積み重ねは不可。
- ◆**教科書** 丸沼『ミクロマクロ経済理論入門』 藤本訓利・陸亦群・前野高章 文真堂 2020 年
- ◆**参考書** 丸沼『入門ミクロ経済学』 井堀利宏 第3版 新世社 2019 年
丸沼『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 2014 年
丸沼『ミクロ経済学（第3版）』 伊藤元重 日本評論社 2018 年
- ◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 経済学とは何かについて 講義の進め方について確認し、経済学とは何かなどについて学修する。
	事前学修 経済学とはどのような学問であるのかを考えておく。
	事後学修 講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2 回	授業内容 需要と供給 需要と供給の基礎理論について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから市場における需要と供給の関係について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、需要曲線と供給曲線の特徴および市場の均衡について整理する。
3 回	授業内容 家計の消費行動① 効用関数と無差別曲線の特徴について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから効用、予算制約、無差別曲線について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、効用概念および無差別曲線の特徴について整理する。
4 回	授業内容 家計の消費行動② 最適消費の決定および代替効果や所得効果について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから最適消費の条件について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、最適消費およびスルツキー分解について図を用いて整理する。
5 回	授業内容 生産要素市場と所得分配 家計の労働供給と企業の労働需要について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから生産要素市場について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、労働市場の均衡について整理する。
6 回	授業内容 企業の生産行動① 生産関数と等産出量曲線の特徴について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから生産関数、投入・産出、等産出量曲線について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、生産関数および等産出量曲線の特徴について整理する。
7 回	授業内容 企業の生産行動② 利潤最大化と最適生産について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから最適投入量と短期・長期の費用概念について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、生産要素の最適投入について図を用いて整理する。
8 回	授業内容 企業の生産行動③ 利潤最大化と短期・長期の供給曲線について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから最適生産の条件について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、利潤最大化行動について整理する。
9 回	授業内容 完全競争市場と効率性 市場均衡、経済余剰、パレート最適について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから市場の効率性とパレート最適について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、完全競争市場の均衡の特徴と効率的な資源配分条件について整理する。
10 回	授業内容 不完全競争市場① 独占市場と独占的競争市場について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから独占市場の特徴について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、完全競争市場と独占市場および独占的競争市場の特徴について整理する。
11 回	授業内容 不完全競争市場② 寡占市場について学修する。
	事前学修 配布資料、教科書・参考書などから寡占市場の特徴について確認する。
	事後学修 講義内容をもとに、クールノー均衡および産業規制について整理する。

12 回	授業内容	外部性と公共財 市場の失敗および公共財の供給メカニズムについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから外部性と公共財について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、市場の失敗の諸要因について整理する。
13 回	授業内容	ゲームの理論① ゲームの理論の基本的な考え方について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などからゲーム理論とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、ナッシュ均衡について整理する。
14 回	授業内容	ゲームの理論② 展開型ゲームと繰り返しゲームについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから前講義のゲームの理論について再確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、ゲーム理論から経済分析への応用について整理する。
15 回	授業内容	情報とリスク 不確実性と情報の非対称性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書・参考書などから不完全情報と情報の非対称性について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、不確実性について整理する。これまでの学修から講義全体の要点を整理し、ミクロ経済学の理論について整理する。

〔広告論 B〕

雨宮 史卓

◆**授業概要** 広告及び宣伝, PR, プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。できるだけ身近な事例を用いて理論を解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。

◆**学習到達目標** 1 プロモーション活動における広告の基本的機能と役割が理解できる。
2 広告及び宣伝, PR, プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。
3 市場動向や時代背景を見極めながら、広告コンセプトがどのように立案されていくかが理解できる。
4 ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを企画・検討できるようになる。

◆**授業方法** 本授業はオンデマンド形式で実施される。第1回～第8回までの授業は動画が三分割されている。第9回～第15回は一本にまとめた動画である。各回の動画の視聴時間は45分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されているテキスト頁を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。尚、授業方法の詳細は第1回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆**履修条件** 後期：広告論との継続受講が望ましい。
令和2年度の広告論（夏期スクーリング）との積み重ねは不可

◆**教科書** 〔丸〕 雨宮史卓『広告コミュニケーション』八千代出版
〔資料配布 (Classroom)〕 必要に応じて Google classroom 上で資料を配布する。

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%）総合的に判断します。

◆**授業相談（連絡先）**：常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方 オリエンテーション 広告とは何か？
	事前学修	テキスト 20～21 頁の広告の基本的な考え方をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と参考資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	広告の基本的機能と役割
	事前学修	テキスト 32～36 頁の広告コミュニケーションの基本的考え方をよく読んでおくこと。
	事後学修	配信資料をノートにまとめ、テキストの第1章を要約しておくこと。
3 回	授業内容	マーケティング戦略とプロモーション戦略
	事前学修	テキスト第1章の要約を読み返し、15 頁の図を見て、マーケティングとプロモーションの関係を把握しておくこと。
	事後学修	テキストの図と配信資料の図表を見比べて、その内容をノートに整理しておくこと。
4 回	授業内容	プロモーション戦略と広告
	事前学修	前回の授業のノートと配信資料を確認し、テキスト 19 頁の表をノートに書き写しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、プロモーション戦略の種類とその内容を確認しておくこと。
5 回	授業内容	高価格製品の広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 36～41 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、その内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	コモディティ製品の広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 41～50 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、コモディティ製品の特徴を理解し、配信資料の事例を確認しておくこと。
7 回	授業内容	広告コンセプトの考え方
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 57～63 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「広告コンセプトの考え方」「広告の3Bの法則」「色彩マーケティング」の内容をノートに要約しておくこと。
8 回	授業内容	データ分析と広告露出
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 63～67 頁をよく読んでおくこと。また、配信資料に目を通しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、定量データと定性データの違いや、ポストモダン・マーケティングの内容を理解しておくこと。
9 回	授業内容	時間の概念と広告戦略
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 67～80 頁をよく読んでおくこと。また、配信資料に目を通しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	広告コンセプトとタイム・マーケット
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 83～88 頁をよく読んで、タイム・マーケットの現状を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 85 頁の表をノートに書き写しておくこと。
11 回	授業内容	タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 88～103 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 103 頁の表をノートに書き写しておくこと。
12 回	授業内容	消費者行動と商品ベネフィット
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 105～116 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「消費者シグナル」の概念を理解しておくこと。
13 回	授業内容	サービスに対する広告・プロモーションの考え方
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 120～131 頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 120 頁、128～129 頁の図表をノートに書き写しておくこと。

14 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授業内容	前期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 G（初級）〕

中村 則子

- ◆**授業概要** 授業は Google Classroom 配信にて行う。当該科目は英語の初級者向けの、英文読解を中心とした科目である。今年、開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。
- ◆**学習到達目標** 英語の総合学習向けのテキストを使用し、英語の4技能（Reading, Listening, Writing, Speaking）を無理なく学習できるようにする。基本的な文法が抜け落ちていてと感じている受講者には苦手な部分を自分で補うために、簡単な文法のドリル等を授業と並行して、自宅学習することをお奨めする。授業では、短めの英文を読んでいき、日常生活に不自由しない程度の英語力（例えば、英語の広告文が理解できる、英語で書かれたマニュアルが理解できる、SNS の英文を理解できる、発信できる等）を身につけたい。
- ◆**授業方法** テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち、主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。
- ◆**履修条件** 令和2年度後期受講者は同一内容のため受講不可。
- ◆**教科書** 丸沼 Spotlight on Sports 金星堂 1900 円（税別）
- ◆**参考書** 授業ガイダンスにて指示
- ◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業配信日に Google Classroom コメント欄にて行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する）
	事前学修	シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。
	事後学修	シラバスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2 回	授業内容	Unit 1 The Long Wait
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3 回	授業内容	Unit 1 The Long Wait
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4 回	授業内容	Unit 2 Olympic Volunteers
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5 回	授業内容	Unit 2 Olympic Volunteers
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6 回	授業内容	Unit 3 Male Sports? Female Sports?
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7 回	授業内容	Unit 3 Male Sports? Female Sports?
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8 回	授業内容	Unit 4 Competition
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9 回	授業内容	Unit 4 Competition
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10 回	授業内容	Unit 5 A Glamorous?
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11 回	授業内容	Unit 5 A Glamorous?
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12 回	授業内容	Unit 6 Energy Drinks
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
13 回	授業内容	Unit 6 Energy Drinks
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
14 回	授業内容	復習、試験前準備
	事前学修	今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。
	事後学修	学習した部分のノートを確認暗記する。
15 回	授業内容	試験と解説
	事前学修	試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。
	事後学修	試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔TOEIC A（中級）〕

町田 純子

◆**授業概要** TOEIC L&R の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得するようにします。TOEIC 企業内研修講座実績や、アメリカの大学での ESL や TOEFL 講座の教育経験をもとに検定試験対策をより実践的に取り組めるよう授業に反映します。

◆**学習到達目標** TOEIC L&R の為の基礎から見直す文法、速読速聴力、読解力、語彙力強化が図れます。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れます。頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできます。

◆**授業方法** 前期後期の連続受験が望ましいです。Listening（Part 1～Part 4）及び Reading（Part 5～Part 7）の選択練習問題形式のテキストに沿い、タスクベースで進行し、毎回 Google フォームにて課題回答を提出します。難易度が徐々に実際のテストに近い問題になります。初めて TOEIC を受験する方も含め、速読速聴、英語の基礎的な運用能力の構築から始め、毎回別冊の語彙力確認テストを行います。シャドウイング練習を含む授業の事前学修、事後学修は 2 時間を目安としています。にレベルアップするべく、前期後期の連続受験が望ましいです。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 〔丸〕『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST』TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -BASIC- 成美堂 2021

〔丸〕『THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST』Revised Edition 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト単語集 改定新版 2020

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** オンデマンド授業における毎回の選択問題課題と単語集問題課題提出（56%）及び期末試験課題スコア（44%）により総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）**：Gmail にて、初回授業時にご案内します。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方、評価方法、TOEIC 概要説明。自己紹介文を提出する。
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L & R の概要について Web サイトで調べてみる。
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。14 回実施予定の英単語熟語確認テストの準備として、初回講義前にテキスト同様単語集を購入してテストに備える。
2 回	授業内容	Unit 1: Restaurants (GR: 人称代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 1 の内容を解答できる。
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
3 回	授業内容	Unit 2: Entertainment (GR: 不定代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 2 を解答できる。
	事前学修	語彙テスト 2 の準備をする。Unit 2 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
4 回	授業内容	Unit 3: Business (GR: 再帰代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 3 を解答できる。
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。 語彙テスト 3 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
5 回	授業内容	Unit 4: Office (GR: 現在完了形) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 4, CM を解答できる。
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。 語彙テスト 4 を準備する。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
6 回	授業内容	Unit 5: Telephone (GR: 動詞 [主語と動詞の一致]) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 5 を解答できる。
	事前学修	Unit 5 の問題を解いてくる。 語彙テスト 5 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
7 回	授業内容	Unit 6: Letters & E-mails (GR: 形容詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 6 を解答できる。
	事前学修	語彙テスト 6 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
8 回	授業内容	Unit 7: Health (GR: 前置詞 [時・期間]) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 7 を解答できる。
	事前学修	Unit 7 の問題を解いてくる。語彙テスト 7 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
9 回	授業内容	Unit 8: The Bank & The Post Office (GR: 前置詞 [所属・関連]) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 8 を解答できる。中間テスト課題を実施し、提出する。
	事前学修	Unit 8 の問題を解いてくる。 語彙テスト 8 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。

10 回	授業内容	Unit 9: New Products (GR: 数量形容詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト9を解答できる。
	事前学修	Unit 9 の問題を解いてくる。 語彙テスト9の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
11 回	授業内容	Unit 10: Travel (GR: 自動詞と他動詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト 10 を解答できる。
	事前学修	Unit 10 の問題を解いてくる。 語彙テスト 10 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
12 回	授業内容	Unit 11: Daily Life (GR: 接尾辞と品詞 -- 形容詞) を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト 11 を解答できる。
	事前学修	Unit 11 の問題を解いてくる。 語彙テスト 11 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
13 回	授業内容	Unit 12: Job Applications (GR: 比較) を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト 12 を解答できる。
	事前学修	Unit 12: の問題を解いてくる。 語彙テスト 12 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
14 回	授業内容	Unit 13: Shopping (GR: 受動態) /Unit 14: Education (GR: 接続詞 [相関接続詞]) を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト 13 を解答できる。
	事前学修	Unit 13・14 の問題を解いてくる。 語彙テスト 13 の準備をする。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
15 回	授業内容	期末課題試験を提出する。
	事前学修	Unit 1 ～ Unit 14 までの復習をする。
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学 B〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 法（灋）の概念、四大法圏と日本法の沿革、法と法則、法と道德、法と正義、法と強制、法源（法の存在形式）、法令の形式的効力（国法秩序）、効力同位の場合の処理 所管事項、後法優位、特別法優位、法の分類、公法と私法など、法解釈の手法（文理、反対、類推、拡張、縮小）、法的三段論法などについて学修する。
- ◆**学修到達目標** 法（灋）や法律（法学や法律学）の意義、沿革、機能、主要な法令の種類や内容がわかるようになる。併せて、社会生活において必然的に生起する諸問題の解決策を、法律を通して考えられるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の法学、および根本の法学・後半との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**教科書** 指定しない。
- ◆**参考書** 〔丸沼〕法学（通信教育教材）
- ◆**成績評価基準** 全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価点 100%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：GD、法（灋）という文言、その意味や由来 など 事前学修：必要なし 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
2 回	授業内容：ヨーロッパ大陸法圏、英米法圏、イスラム法圏、中国法圏、日本法の沿革 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
3 回	授業内容：法と法則、社会規範としての法と道德の異同 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
4 回	授業内容：法と正義、自然法、法実証主義、法と強制 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
5 回	授業内容：法の存在形式（法源）、制定法、制定法の意義、制定法の種類 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
6 回	授業内容：法令の形式的効力（国法秩序） など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
7 回	授業内容：憲法、法律、規則、命令、条例 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
8 回	授業内容：同位の場合における相互関係、所管事項や法形式の相違による区別 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
9 回	授業内容：後法優位の原則、特別法優位の原則 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
10 回	授業内容：法の分類、抵触法と実質法、国際私法、抵触法、公法と私法 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
11 回	授業内容：公法私法峻別論、市民法、私法領域の形成、私有財産制、実体法と手続法 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
12 回	授業内容：民事法と刑事法、国内法と国際法 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
13 回	授業内容：法律解釈の手法、文理、反対、類推、拡張、縮小の各解釈方法 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
14 回	授業内容：法の適用、法的三段論法、哲学・倫理学における三段論法との違い など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み
15 回	授業内容：法的三段論法の具体的な適用例、交通事故、医療過誤 など 事前学修：前回授業時の板書事項の再確認 事後学修：その日のうちの板書事項の読み込み

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学概説〕

真野 一雄

- ◆**授業概要** 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。
- ◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英語学の知識を修得し、英語学とは何か、音韻論・形態論・統語論とは何か、詳細に説明できるようになる。
- ◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。「設問」の解答は事前に準備しておいてください。また、必要に応じて担当講師が用意する練習問題も行います。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** **教材**『英語学概説』通信教育部教材（教材コード 000）（この本は『日英対照 英語学の基礎』（くろしお出版）と同じです）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験 100%で評価の予定。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom のストリームでご質問下さい。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：第 1 章 音韻論 1 母音と母音体系 2 子音と子音体系（90 分） 事前学修：テキスト p. 1 – p. 10 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
2 回	授業内容：第 1 章 音韻論 3 形態音素交替 4 音節とモーラ（90 分） 事前学修：テキスト p. 10 – p. 17 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
3 回	授業内容：第 1 章 音韻論 5 アクセント 6 文アクセントとイントネーション（90 分） 事前学修：テキスト p. 17 – p. 28 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
4 回	授業内容：第 2 章 形態論 1 形態論とは 2 派生形態論の主な仕組み（90 分） 事前学修：テキスト p. 32 – p. 41 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
5 回	授業内容：第 2 章 形態論 3 派生形態論のその他の仕組み 4 派生と複合に課される一般的な条件（90 分） 事前学修：テキスト p. 41 – p. 56 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
6 回	授業内容：第 2 章 形態論 5 複合名詞の意味について（90 分） 事前学修：テキスト p. 56 – p. 59 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
7 回	授業内容：第 3 章 統語論 生成文法 1 句構造（90 分） 事前学修：テキスト p. 62 – p. 72 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
8 回	授業内容：第 3 章 統語論 生成文法 2 名詞句（90 分） 事前学修：テキスト p. 72 – p. 78 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
9 回	授業内容：第 3 章 統語論 生成文法 3 移動（90 分） 事前学修：テキスト p. 78 – p. 85 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
10 回	授業内容：第 3 章 統語論 生成文法 4 生成文法の企て（90 分） 事前学修：テキスト p. 85 – p. 87 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
11 回	授業内容：第 4 章 統語論 機能的構文論 1 はじめに（90 分） 事前学修：テキスト p. 90 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
12 回	授業内容：第 4 章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(1) [2.1] 新情報と旧情報 [2.2] 省略（90 分） 事前学修：テキスト p. 90 – p. 97 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
13 回	授業内容：第 4 章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(2) [2.3] 基本語順と移動 [2.4] 「ハ」と「ガ」の機能（90 分） 事前学修：テキスト p. 97 – p. 103 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
14 回	授業内容：第 4 章 統語論 機能的構文論 3 視点（90 分） 事前学修：テキスト p. 103 – p. 115 を読み、問題点を整理しておく。（120 分） 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。（120 分）
15 回	授業内容：1 章～4 章の総復習、試験とその解説（90 分） 事前学修：1 章～4 章の総復習をしておく。（120 分） 事後学修：1 章～4 章のまとめをし、理解を完璧にする。（120 分）

〔史学概論〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 歴史とは何か、歴史を学ぶことはどのような意味があるのか、歴史家はどのような仕事をするのかなどの問題について、中谷功治著『歴史を冒険するために』を教材として、皆さんと一緒に考える。
- ◆**学修到達目標** 歴史学という学問の性格及びその目的について体系的に理解し、今後歴史学の方法論や史料批判を学んで行く上でウォーミングアップを行う。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業及び Google Classroom を使用。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『史学概論』（高綱博文）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 丸沼『歴史を冒険するために』中谷功治、関西学院大学出版会、2008 年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 毎回提出のリアクションペーパー及び最終レポート試験
- ◆**授業相談（連絡先）**：takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp（連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス
	事前学修：テキストの通読
	事後学修：ガイダンスの要点を確認
2 回	授業内容：特別講義（近代歴史学の父、ランケ）
	事前学修：「歴史」・「歴史学」という言葉を調べる
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
3 回	授業内容：テキスト講読（第 1 回 歴史には人間の「まなざし」がある）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
4 回	授業内容：テキスト講読（第 2 回 ヘロドトスからの考察）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
5 回	授業内容：テキスト講読（第 3 回 歴史的事実と解釈をめぐって）
	事前学修：
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
6 回	授業内容：テキスト講読（第 4 回 歴史家の仕事をめぐって）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
7 回	授業内容：テキスト講読（第 5 回 歴史学の出発点の次にあるもの）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
8 回	授業内容：テキスト講読（第 6 回 歴史についての二つの見方）
	事前学修：
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
9 回	授業内容：テキスト講読（第 7 回 歴史学は役にたつのか）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：
10 回	授業内容：テキスト講読（第 8 回 歴史学と科学のかかわり）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
11 回	授業内容：テキスト講読（第 9 回 人文学としての歴史学）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
12 回	授業内容：テキスト講読（第 10 回 歴史教育と歴史学）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
13 回	授業内容：テキスト講読（第 11 回 歴史と記憶をめぐって）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
14 回	授業内容：テキスト講読（第 12 回 歴史を生み出すもの）
	事前学修：テキストの予習
	事後学修：復習及びリアクションペーパーの作成
15 回	授業内容：最終レポート試験
	事前学修：最終レポート試験の準備
	事後学修：テキスト及び講義の復習

〔現代教職論〕

古賀 徹

◆**授業概要** 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆**学修到達目標** 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。さらに教育者としての責務を認識し、ふさわしい行動をとることができるようになる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】学修者は、以上の学びにより教員に必要とされる資質・技能が何であるかを考え深め、それを自身の課題としてとらえ、他者に説明することができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、アクティブ・ラーニング型の授業方式もとりいれるかについては検討する。アクティブ・ラーニング形式は、通常であれば個人の活動からペア学習、3人組み、4人組みと、授業回数毎に複雑さを増すようにし、取り扱う課題についても具体的に簡易なものから複雑で抽象的なものへと組み替えていく。今年度はそれがどの程度できるのかが課題となる。できる環境や条件を大学が整えることができない際はご容赦いただきたい。とにかく「教員集団としての考え方」という最終目標に近づいていけるように講義全体をデザインしていく。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバック（次の回）により、さらに学習効果があるよう試みる。事後学修では説明文を中心に人前で話すための文章作成に取り組んでもらう。その説明文をもとに最終回で仮想集団面接のような発信の機会をつくる。

◆**履修条件** なし

◆**教科書**

◆**参考書**

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：教職を履修する意味（学習指導・生活指導）。
	事前学修：自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。
	事後学修：「学校の存在意義」（教科指導・生活指導）について説明文を（短い論述で）まとめる。
2 回	授業内容：教育における「他者理解能力」とは何か。
	事前学修：「わかる」（理解する）とはどのようなことか。その説明概念を（複数）考えておく。
	事後学修：学校でのコミュニケーションの意味や意義について（短い論述で）まとめる。
3 回	授業内容：教員の一日の流れ。教員の成長を研修の記録から学ぶ。
	事前学修：教員と生徒との関係性に関するイメージすることを手元に「複数」書き出しておく。
	事後学修：生徒の成長に介入する教員の役割の重要性について、説明文を書く。
4 回	授業内容：理想の教師に関するディスカッション。
	事前学修：教員に必要な資質と能力について「複数」書き出しておく。
	事後学修：他者の意見交換から学べたこととアクティブ・ラーニングの学習効果についてまとめる。
5 回	授業内容：チーム学校（アクティブ・ラーニング形式の学習方法）。
	事前学修：チーム学校に関する文部科学大臣の文書等（資料）を読み、必要とされる理由を理解する。
	事後学修：学校という多様な教員と多様な生徒の集団（社会）での活動可能性について考える。
6 回	授業内容：最近の子ども事情（青少年の問題行動）。
	事前学修：近年における児童生徒の問題行動に関する記事を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修：青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7 回	授業内容：最近の子ども事情（いじめ問題に注目する）。
	事前学修：「いじめ」事件や対応のアクションプラン、法制度について記事を集めて読む。
	事後学修：「いじめ」への教員の立ち位置（自身の考え）をスピーチ原稿としてまとめる。
8 回	授業内容：最近の子ども事情（不登校児童への対応と理解の方法）。
	事前学修：「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修：「不登校」と「いじめ」問題を比較して、学校内外の社会事情も活かした対応を考案する。
9 回	授業内容：最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ。
	事前学修：グループで検討する前提として、事前に告知する内容について調査を行う。
	事後学修：青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
10 回	授業内容：教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降の教育）。
	事前学修：教員養成の歴史に関する文献や概説書を読んでおく。
	事後学修：教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる文章を記す。
11 回	授業内容：諸外国の教員養成の仕組み。
	事前学修：日本以外の国の「教育（学校）」についてイメージをまとめるメモを用意する。
	事後学修：欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
12 回	授業内容：法令・法制度上における教員。
	事前学修：各種文献に載っている複数の「法令」類を一読しておく。
	事後学修：教育基本法の改正前後の教育改革の流れについてまとめる文章を書く。
13 回	授業内容：現職教員の研修（向上する教員が求められる現代社会）。
	事前学修：各種審議会の答申や審議事項を（指定するので）読んでメモを作成する。
	事後学修：「教員に求められる資質・能力」の法令上における変化についてまとめる。

14 回	授業内容	教育実習において求められる教員像（教員社会に求められる教員）。
	事前学修	各々の教科ごとの授業イメージをメモとしてまとめておく。
	事後学修	教育実習での実践事例をもとに「不安と期待」に関する論述をまとめる。
15 回	授業内容	教育現場で求められる資質・技能とは何か。
	事前学修	これまでの課題を見直し、それぞれ1分間で話せるレベルでの要約を準備する。
	事後学修	学修した内容を自身で整理する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 H（中級）〕

町田 純子

- ◆**授業概要** 英文を短時間で要約しながら理解を深め、読解問題や会話問題にあたる。又、それと同時にスマホでもできる E-Learning を使用し、語彙テストを task ベースで進み、アメリカのニュースの映像と音声、語彙を E-Learning サイトにて確認する。listening の基礎を理解し運用できるようにする。
- ◆**学習到達目標** Voice of America の記事からの抜粋で、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら、問題意識を高める内容や生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得することができる。また、今までに培った基礎力を更に応用・発展的に伸ばしていく為に、listening に慣れることで英語の Communicative Competence（言語運用能力）を更に高めることができる。
- ◆**授業方法** ニュースを網羅した教科書の Reading やビジネス会話文を task ベースで進行し、昨年後期授業範囲の前半を実施する。実施の各ユニット毎の E-Learning や、語彙力確認テストを含む授業の事前学修、事後学修は、計 1 時間を目安としている。受講人数により変更があるが、課題に対するフィードバックは全体及び個別にする。質問等は Google クラウドスルーム又は、Gmail にて対応する。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼 VOA『Science & Technology Report』村尾純子・深山晶子・野口ジュディ共著 成美堂 2020 年
資料配布 (Classroom)
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 成績評価は単語テスト、中間テスト及び期末テスト課題の合計 (40%) に単語テスト (10%) 宿題等提出等 (40%) を加味して総合的に行う。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方、評価方法を説明をする。
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。テキストを購入して備える。
2 回	授業内容	Unit 1 Can Cameras and Mashines Recognize Lying in Your Face? /s/, /z/, /iz/ の発音 イントネーション Understanding what is unknown in the planning stage を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
3 回	授業内容	Unit 2 How Will Machines and AI Change the Future of Work? "th" (/ θ / / ð /) の発音 ポーズを入れて発音 Identifying sub-tasks or sub-problems of the project を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 2 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
4 回	授業内容	Unit 3 Doctors Use Virtual Reality to Prepare for Surgeries ライト L, ダーク L の発音 強弱のリズム Proposing necessary steps in performing the plan を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 3 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
5 回	授業内容	Unit 4 US Businesses Making Farming Technologies for Cities and の発音の変化 ニュアンスで変わる and の発音 Exchanging ideas at the planning stage を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 4 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
6 回	授業内容	Unit 5 Origami Space Technology Combines Art, Design, Science 日本の伝統芸が NASA で大活躍 /t/ の発音 名詞 + of のリンキングの発音 Planning a new product using origamibased technology を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 5 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 5 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
7 回	授業内容	Unit 1～5 までの中間テスト課題
	事前学修	Unit 1～5 までの中間テスト対策をする。
	事後学修	Unit 1～5 までのテストの間違いを確認する。
8 回	授業内容	Unit 1～5 までの中間テスト解説
	事前学修	Unit 6 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 1～5 までのテストの間違いを確認する。
9 回	授業内容	Unit 6 Toyota Plans to Offer a Robotic Leg to Help the Disabled "y", "y-" の発音 文中における "y-" の音の変化 Deciding on the framework of a project を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 6 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 6 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
10 回	授業内容	Unit 7 Metal Recycling Businesses Prepare for More Electric Cars/b/, /v/ の発音 口の形や舌の位置が近い単語が続く場合の発音(1) Clarifying detailed information concerning the project を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 7 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 7 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
11 回	授業内容	Unit 8 Smart Cameras to Help You Capture Better Photos /n/ の発音 弱母音 /ə/ の発音 Allotting responsibility in the project を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 8 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 8 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。

12 回	授業内容	Unit 9 Scientists Uncover Mystery of Mosquito Flight /s/, /ʃ/ の発音 リダクションの発音 Giving instructions to the members of a project を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 9の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 9の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
13 回	授業内容	Unit 10 Scientists Praise Developments in Smell Technology /ŋ/ の発音 子音と母音のリンキングの発音 Developing a new product using smell technology を理解し、問題を解答できる。
	事前学修	Unit 10の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 10の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
14 回	授業内容	Unit 6～10までの期末テスト課題を提出する。
	事前学修	Unit 6～10までの期末テスト課題対策をする。
	事後学修	Unit 6～10までの期末テスト課題の間違いを確認する。
15 回	授業内容	Unit 6～10までの期末テスト解説課題
	事前学修	Unit 6～10までの期末テストの間違いを確認する。
	事後学修	前期範囲の総復習をする。

〔英語基礎 B〕

中村 則子

- ◆**授業概要** 授業は Google Classroom 配信にて行う。当該科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。英語の基礎力を養うためには、演習問題を繰り返し解くことで、英文の構造を理解することが肝要である。英語文法の基礎的な問題を根気強く解答していく。
- ◆**学習到達目標** 英語の基礎的な文法を理解できるようにする。テキストの演習問題の中にある長文問題程度の英文であれば、読めるようにする。簡単な短文の英語であれば、ジャーナル等が書けるくらいの英語力を身につける。
- ◆**授業方法** テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。
- ◆**履修条件** 令和2年度後期受講者は同一内容のため受講不可。
- ◆**教科書** 丸沼 English Primer (Revised Edition) 南雲堂 1900 円 (税別)
- ◆**参考書** 授業ガイダンスにて指示
- ◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。
- ◆**授業相談（連絡先）**：配信日に Google Classroom 上にて行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する） 事前学修：シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。 事後学修：シラバスで指示されたとおり、次の授業に向けて準備する。
2 回	授業内容：Unit 1 be 動詞 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3 回	授業内容：Unit 1 be 動詞 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4 回	授業内容：Unit 2 一般動詞（現在） 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5 回	授業内容：Unit 2 一般動詞（現在） 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6 回	授業内容：Unit 3 一般動詞（過去） 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7 回	授業内容：Unit 3 一般動詞（過去） 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8 回	授業内容：Unit 4 進行形 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9 回	授業内容：Unit 4 進行形 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10 回	授業内容：Unit 5 未来形 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11 回	授業内容：Unit 5 未来形 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12 回	授業内容：Unit 6 助動詞 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
13 回	授業内容：Unit 6 助動詞 事前学修：上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。 事後学修：授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
14 回	授業内容：復習、試験前準備 事前学修：今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。 事後学修：学習した部分のノートを確認暗記する。
15 回	授業内容：試験と解説 事前学修：試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。 事後学修：試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔TOEIC B（初級）〕

八木 茂那子

◆**授業概要** TOEIC L&R test は global な基準で英語の運用能力を測ることができる『ものさし』である。Listening Section 45 分 100 問、Reading Section 75 分 100 問の問題を休憩なしで解くのは容易なことではないと思われる。が高等学校 1 年修了レベルの文法力と中学～高等学校 2 年レベルの語力、速読のスキルがあれば初級中級レベルの力でも正答できる問題の数は多くある。本講座では長年培ってきた TOEIC trainer としての実務経験を授業に反映させ TOEIC test は未経験、あるいは受験したことはあるが点数が伸びない初・中級者に対応可能な TOEIC Bridge L&R のテキストを使用し、将来受ける TOEIC L&R test 英語に必要な 4 技能のスキルアップを図る。またこれに効果的な種々のトレーニング方法を紹介、体得することを目指す。

◆**学修到達目標** TOEIC Bridge の演習を通して実用英語の基礎を身に付け、TOEIC L&R test で 350 点を突破できるだけの基本的英語の理解運用能力を身に付けることができる。また更に長期的な展望に立ち、4 技能（読む・聴く・話す・書く）の skill up に効果的な種々の training 方法を身に付けることができる。

◆**授業方法** オンデマンド形式演習中心の授業を行う。受講者は毎回授業回までに 予め事前学修し、学修予定のユニットの練習問題を解き、Google Classroom に課題を提出する。（期間中 テキストの全 20Units のうち第 2 回は Unit 1、第 2 回 Unit 2 をそれぞれ一回に 1 Unit ずつ、その後は 1 回につきほぼ 2 Units ずつのペースで進む予定。）動画の(1)では Listening Section、(2)では Reading Section を扱う。授業の前半で homework check、Vocabulary check を行う。次に Grammar target の解説を行う。更に skill up するのに効果的な種々の training activity を紹介する。尚、学期中に 5 回の単語テストと TOEIC Bridge の練習 test 2 回の実施を予定。

◆**履修条件** 全回出席すること、課題の提出することを前提とする。各自自分のテキストを購入すること。

◆**教科書** 〔汎用〕『Companion to TOEIC Bridge L&R tests（大学生のための TOEIC Bridge Tests 演習）』Esther Ware、内田 雅勝克、亀山博之著（株）南雲堂 2021 年

◆**参考書** 〔汎用〕『公式 TOEIC L&R 問題集 7』国際ビジネスコミュニケーションズ 2020 年

◆**成績評価基準** Quiz（5 回）20%+（レポート課題）60%+ TOEIC Bridge L&R 練習テスト 20%（換算）による総合評価（クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。）

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	(1)（動画前半）Guidance / (2)*（動画後半）Strategies
	事前学修	テキストを購入し、テキストの内容を見ておく。無料音声ダウンロードし聴いてみる。
	事後学修	既習事項の確認
2 回	授業内容	Unit 1 Friends Grammar Target: Present Tense 解答と解説 / Listening Tips
	事前学修	上記テキスト Unit 1 p.p.4 - 8 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 2 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 1 の準備
3 回	授業内容	(1) Unit 2 Hobbies Grammar Targets: Infinitive and Gerund, Adverbs of Frequency p.p.9-13 解答と解説 / (2) Quiz 1
	事前学修	上記テキスト Unit 2 p.p.9 - 13 の練習問題を解き、授業日前日までに Google Classroom の「第 3 回授業」へ提出すること。Quiz 1 の準備
	事後学修	既習事項の確認
4 回	授業内容	(1) Unit 3 Commuting Grammar Target: How Questions 解答と解説 / (2) Unit 4 Fashion Grammar Target: Present Continuous 解答と解説
	事前学修	上記テキスト Unit 3 p.p.14 - 18 / Unit 4 p.p.19 - 23 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 4 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 2 の準備
5 回	授業内容	(1) Unit 5 Personality Grammar Target: Comparative and Superlative 解答と解説 / (2) Unit 6 Sleep Grammar Target: Prepositions of Time 解答と解説 Quiz 2
	事前学修	上記テキスト Unit 5 & 6 p.p.24 - 33 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 5 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 2 の準備
	事後学修	既習事項の確認
6 回	授業内容	(1) Unit 7 Travel Grammar Target: Future Tense p.p.34-38 / (2) Unit 8 Ethnic Cultures Grammar Target: Present Perfect Tense p.p.39-43
	事前学修	上記テキスト Unit 7 & 8 p.p.34 - 43 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 6 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 3 の準備
7 回	授業内容	(1) Unit 9 Money Grammar Target: Auxiliary Verbs p.p.44-48 / (2) Unit 10 E-books Grammar Target: Inanimate Subject p.p. 49-53 Quiz 3
	事前学修	上記テキスト Unit 9 & 10 p.p.44 - 53 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 7 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 3 の準備
	事後学修	既習事項の確認
8 回	授業内容	TOEIC Bridge Sample Test (1) Listening section 解答・解説
	事前学修	TOEIC Bridge Sample Test (1) Listening section の問題を解き、授業日前日までに Google Classroom の「第 8 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
9 回	授業内容	TOEIC Bridge Test (1) Reading section 解答・解説
	事前学修	上記 TOEIC Bridge Test (1) Reading section の問題を時間を計って 2 度解き、Google Classroom の「第 9 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 4 の準備

10 回	授業内容	Unit 11 Online Friends Grammar Target: Reported Speech p.p.54-58/Unit 12 Productivity Grammar Target: Adjectives and Adverbs p.p.59-63 Quiz 4
	事前学修	上記テキスト Unit 11&12 p.p.54 - 63 の練習問題を解き, Google Classroom「第2回授業」へ提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
11 回	授業内容	Unit 13 Pets Grammar Target: Prepositions of Place p.p.64-68/ Unit 14 Made by Hand Grammar Target: Passive Voice p.p.69-73
	事前学修	上記テキスト Unit 13&14 p. p.64 - 73 の練習問題を解き, Google Classroom「第11回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 5の準備
12 回	授業内容	Unit 15 Writing Grammar Target: Conjunctions p.p.74-78/ Unit 16 Food Culture Grammar Target: Relative Pronouns p.p.79-83 Quiz 5
	事前学修	上記テキスト Unit 15 & 16 p.p.74 - 83 の練習問題を解き, Google Classroom の「第12回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 5の準備
	事後学修	既習事項の確認
13 回	授業内容	Unit 17 Stress Grammar Target: Conditional Mood p.p.84-88/ Unit 18 Ghosts Grammar Target: Past and Present Perfect Tense p.p.89-93
	事前学修	上記テキスト Unit 17 & 18 p.p.84 - 93 の練習問題を解き, Google Classroom の「第13回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
14 回	授業内容	Unit 19 Housing Grammar Target: Participial Adjectives p.p.94-98/ Unit 20 Gender Equality Grammar Target: Indirect Questions p.p.99-103
	事前学修	上記テキスト Unit 19 & 20 p.p.94 - 103 の練習問題を解き, Google Classroom「第14回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
15 回	授業内容	TOEIC Bridges Sample Test (2)解答・解説
	事前学修	TOEIC Bridge Exercise Test (2)の問題を時間を計って解き Google Classroom の「第15回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	TOEIC Bridge Exercise Test (2)答案の見直し

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅰ B〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 民法総則の前半部分を学修する。具体的には、民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、のうち、私権の客体あたりまでを学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式（オンデマンド）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅰ、および根本の民法Ⅰ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 〔丸〕民法Ⅰ（通信教育教材）
- ◆**成績評価基準** 全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	GD、民法の意義
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2 回	授業内容	民法の基本原則
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3 回	授業内容	私権の社会性
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4 回	授業内容	民法の法源
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
5 回	授業内容	法の沿革など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6 回	授業内容	権利能力の意義、自然人と法人など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7 回	授業内容	権利能力の始期、出生の概念、胎児の例外など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8 回	授業内容	権利能力の終期、死亡の概念、権利能力の終期と関わる制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9 回	授業内容	認定死亡、不在者財産管理と失踪宣告、同時死亡の推定など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10 回	授業内容	意思能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11 回	授業内容	行為能力の意義
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	制限行為能力者制度
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授業内容	制限行為能力者の相手方の保護など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	私権の客体、物の概念、有体物とは
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	不動産と動産、主物と従物、元物と果実
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

〔西洋史特講Ⅰ〕

青山 由美子

- ◆**授業概要** 私たち日本人にも大きな影響を与えてきているヨーロッパ文明のルーツは、本講義で扱う中世という時代（11世紀から15世紀末）にある。ヨーロッパ中世史の主要なトピックについて、講義を通して基本的な内容を理解してから、当時の史料の日本語訳、図像史料、または関連する映像や図版などに触れて、理解を深める。
- ◆**学修到達目標** ヨーロッパ中世前半（西暦500年から1000年まで）の歴史について、重要なテーマに関する当時の史料や関連資料に触れることによって学びを深め、各テーマのポイントを理解し、自分の感想や意見をまとめられるようになる。
- ◆**授業方法** 授業動画内容に沿って分割し、番号をつけています。まずは、全体を順に視聴して下さい。一度の視聴では分からなかった内容の動画は、重点的に繰り返し視聴して下さい。それでも不明な点については、随時質問を受け付けます。動画の中には、課題が含まれています。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom）毎回のテーマに関連する史料を配布します。
- ◆**参考書** 資料配布（Classroom）毎回のテーマに関連する参考資料を配布します。
- ◆**成績評価基準** 毎回提出してもらう課題で100%評価します。
- ◆**授業相談（連絡先）** yummyaoyama@icloud.com
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ヨーロッパ中世前半の歴史について、ポイントと特質を学びます。 事前学修：世界史の教科書や資料集を読み返して下さい。 事後学修：プリントやノートを読み返して、内容を再確認して下さい。
2回	授業内容：ヨーロッパ中世のルーツとしてケルト文明について学びます。 事前学修：ケルトについて調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、自分のケルト文明像をつくって下さい。
3回	授業内容：もうひとつのルーツとしてゲルマン民族について学びます。 事前学修：ゲルマン民族について調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、ゲルマン民族について自分のイメージをつくって下さい。
4回	授業内容：ヨーロッパへのキリスト教信仰の浸透について学びます。 事前学修：キリスト教信仰について調べて特徴をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、キリスト教の浸透について自分のイメージをつくって下さい。
5回	授業内容：いわゆる「ヴァイキング」について学びます。 事前学修：ヴァイキングについて調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、ヴァイキングの実像について自分のイメージをつくって下さい。
6回	授業内容：イスラーム教徒との関係について学びます。 事前学修：イスラームについて調べ信仰の特徴をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世ヨーロッパのイスラーム教徒について自分のイメージをつくって下さい。
7回	授業内容：ヨーロッパ統合のルーツについて学びます。 事前学修：EUについて調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、ヨーロッパ統合のルーツについて自分のイメージをつくって下さい。
8回	授業内容：封建社会の成立について学びます。 事前学修：封建制について調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世封建社会について自分のイメージをつくって下さい。
9回	授業内容：領主制の仕組みについて学びます。 事前学修：領主制について調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの領主制について自分のイメージをつくって下さい。
10回	授業内容：中世ヨーロッパ都市の誕生について学びます。 事前学修：中世ヨーロッパ都市について調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、成立期の中世ヨーロッパ都市について自分のイメージをつくって下さい。
11回	授業内容：中世初期特有のキリスト教信仰について学びます。 事前学修：キリスト教信仰について改めて調べて、一般的特徴を確認して下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世初期のキリスト教信仰について自分のイメージをつくって下さい。
12回	授業内容：中世前期の修道院について学びます。 事前学修：修道院について調べて概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世初期の修道院について自分のイメージをつくって下さい。
13回	授業内容：中世初期の文化について学びます。 事前学修：「ルネサンス」について調べて、一般的な概要をつかんで下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、中世初期の文化について自分のイメージをつくって下さい。
14回	授業内容：社会的宗教的な統合に対する反乱について学びます。 事前学修：反乱について改めて調べて、一般的定義を理解して下さい。 事後学修：授業内容を思い返して、統合に対する反乱の意味について考えて下さい。
15回	授業内容：毎回の授業内容をふり返り、まとめコメントを書きます。 事前学修：今までのプリントやノートを読み返しておいて下さい。 事後学修：中世前期ヨーロッパについて、自分の時代像をつくって下さい。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済史総論 B〕

下斗米 秀之

◆**授業概要** われわれの生きるグローバルな資本主義経済の現在の状況を的確に理解し、未来を展望するためには、経済史の知識が不可欠である。経済史とは現在と過去、そして経済と歴史を結び学問である。現在の経済は過去の遺産であり、その形成過程を知ることによって、われわれの立っている現在の位置を確かめることができる。現代の支配的な社会経済システムである近代資本主義や市場経済の成立・発展・変質の過程の把握を目指す。

◆**学修到達目標** 西洋経済史にあらわれた諸問題の過程と原因、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための鋭い洞察力と論理的思考力を身につける。西洋経済の歩みを概観しながら、現在の経済における諸問題との関連やそれらを読み解く力を身につける。

◆**授業方法** 毎回の講義ではレジュメを配布し、授業計画通りに進めていくが、適宜、映像資料や新聞・雑誌記事なども利用する。また、担当者の専門であるアメリカ経済史に関しては隣接諸分野との関連や最新の研究動向も併せて紹介していく。映像資料を鑑賞する際にはコメントペーパーを書いてもらい、翌週の授業で頂いたコメントを紹介しつつ質問に答える。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 資料配布（Classroom）

◆**参考書** 丸沼『エレメンタル欧米経済史』馬場哲・山本通・廣田功・須藤功 晃洋書店 2012 年
丸沼『あなたが歴史と出会うときー経済の視点から』堺憲一 名古屋大学出版会 2009 年
丸沼『入門アメリカ経済 Q & A 100』坂出健・秋元英一・加藤一誠 中央経済社 2019 年
丸沼『グローバル経済の歴史』河崎信樹・村上衛・山本千映 有斐閣アルマ 2020 年

◆**成績評価基準** 定期試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。毎回出席することを前提として評価する。
授業態度、提出課題（30%） 定期試験（70%）

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済史への招待
	事前学修	シラバスをよく読んで授業内容の流れを確認しておく。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
2 回	授業内容	経済史の課題と方法
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
3 回	授業内容	中世都市とギルドの世界
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
4 回	授業内容	農民の世界と封建社会の動揺
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
5 回	授業内容	近代世界の成立と大航海時代
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
6 回	授業内容	プロト工業化とヨーロッパ経済
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
7 回	授業内容	ヨーロッパの絶対主義と市民革命
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
8 回	授業内容	「最初の工業国」イギリス
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
9 回	授業内容	イギリスの工業化と人口・農業・商業
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
10 回	授業内容	イギリス産業革命とその帰結
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
11 回	授業内容	ヨーロッパ大陸の産業革命
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
12 回	授業内容	アメリカ合衆国の独立
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
13 回	授業内容	アメリカ産業革命と南北戦争
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。

14 回	授業内容	パックス・ブリタニカの時代
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
15 回	授業内容	試験と解説
	事前学修	これまでの各内容のポイントをまとめて復習しておく。
	事後学修	課題の意図を理解して論理的な記述ができていたかどうかを確認する。

〔英語科教育法Ⅰ〕

小澤 賢司

◆**授業概要** 中学校および高等学校における英語科教育を扱う本授業では、以下の点について学修します。

- ① 英語（科）教育の目的
- ② 英語指導と教科用図書
- ③ 指導計画および学習指導要領
- ④ 英語科教育の小中高連携
- ⑤ その他、授業担当の実務経験に基づいた英語科教育において必須となる諸項目

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の到達目標を設定します。

- ① 英語科教育に関する知識を身につけ、それらをわかりやすい言葉で説明することができる。
 - ② 教科用図書と連動させた効果的な指導方法を考案することができる。
 - ③ 指導計画に基づいた学習指導案を作成することができる。
 - ④ 協働作業を通して有益な案を創出することができる。
- 英語科教育に携わる者として、過去・現在・未来に渡る英語科教育に関する知識や情報、動向等には常に注意を向けるようにしよう。

◆**授業方法** 本授業では、事前学修動画を視聴したうえで授業に参加する、いわゆる「反転授業」の形式をとります。動画の内容を前提として、対面授業時に補足説明やグループ討議を行ないます。授業開始時に教科書内容および動画内容の確認テストを行ないます。事前課題を課す場合もあります。そのほか、英語力と英語学力のチェックも行ないます。英語力と英語学力については初回の授業時に説明します。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** ⅨⅨ『基礎から学ぶ英語科教育法』 岡田圭子・ブレンダハヤシ・嶋林昭治・江原美明 松拍社 2015 年
資料配布 (Classroom) 適宜、資料も配布します。

◆**参考書** ⅨⅨ『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』 文部科学省
※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能
ⅨⅨ『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編・英語編』 文部科学省
※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能

◆**成績評価基準** 課題（30%）、確認テスト（30%）、授業参画度（40%）、

◆**授業相談（連絡先）**：Google フォームにて質問を受け付け、回答は授業中に行ないます（回答時間が足りない場合は別途方法を考えます）。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 ガイダンス 英語教育の目的：講義
	事前学修 第 1 章をよく読んでおくこと
	事後学修 学習指導要領新旧対照表（配布資料）を熟読しておくこと
2 回	授業内容 学習指導要領：講義、グループ討議 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修 事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修 グループで話し合った内容を整理しておくこと
3 回	授業内容 学習者論：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修 第 3 章をよく読み、事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修 課題に取り組み、期日までに提出すること
4 回	授業内容 言語習得と言語教育：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修 第 4 章をよく読み、事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修 課題に取り組み、期日までに提出すること
5 回	授業内容 教授法：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修 第 5 章をよく読み、事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修 課題に取り組み、期日までに提出すること
6 回	授業内容 英語指導と教科用図書：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修 学修動画を視聴しておくこと
	事後学修 課題に取り組み、期日までに提出すること
7 回	授業内容 4 技能指導：講義、グループ討議
	事前学修 第 7 章から第 11 章までをよく読み、事前学修動画を視聴し、発表のための有益な案を考えておくこと
	事後学修 グループ討議で話し合った内容を整理しておくこと
8 回	授業内容 4 技能指導：グループ討議
	事前学修 前回のグループ討議を活かした修正案を考えておくこと
	事後学修 発表ハンドアウトを作り、期日までに用意すること（要提出）
9 回	授業内容 4 技能指導：発表
	事前学修 発表練習をしておくこと
	事後学修 他グループの発表内容を整理しておくこと

10 回	授業内容	指導計画：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修	学修動画を視聴しておくこと
	事後学修	課題に取り組み、期日までに提出すること
11 回	授業内容	学習指導案：講義、グループ討議
	事前学修	事前学修動画を視聴し、指導案を作成しておくこと
	事後学修	グループ討議で指摘された事項を整理しておくこと
12 回	授業内容	学習指導案：グループ討議
	事前学修	前回のグループ討議を活かした指導案（修正版）を考えておくこと
	事後学修	再度、グループ討議で指摘された事項を整理しておくこと
13 回	授業内容	学習指導案：発表
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	他グループの発表内容を整理しておくこと
14 回	授業内容	評価とテスト：講義 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修	第 15 章をよく読み、事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修	課題に取り組み、期日までに提出すること
15 回	授業内容	英語教師論：講義、グループ討議 英語力チェック and/or 英語学力チェック
	事前学修	第 2 章をよく読み、事前学修動画を視聴しておくこと
	事後学修	期日までに最終リポートを提出すること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 J（初級）〕

八木 茂那子

- ◆**授業概要** 1 Unit 4 ページ, 20 Units からなる大学初級向けのコースブックを使い, 1 回の授業回にはほぼ 2 Units のペースで進む予定。各 Unit はさらに Part 1 と Part 2 の 2 部構成となっている。Part 1 では芸術, キャリア, 文化, 環境といった多様な話題を 75 ～ 100 語の平易な英文を読み, 語彙チェック, 内容確認, グラマールチェックを行う。Part 2 では多彩な「図表」や「掲示」などの情報を読み解く力を養う。オンデマンド形式による。1 Unit 4 ページ 20 Units からなる大学初級レベル向けのコースブックを使い, 1 回にはほぼ 2 Units ずつ進む予定である。学期中に 5 回の quiz を行う予定である。
- ◆**学修到達目標** 本講座受講により受講生は基本的な英語運用能力（読む, 聴く, 書く, 話す）を総合的に高めることができる。語彙を増やし平易な英語で書かれた図や表, お知らせなどの情報を読み解く力をつけることができる。また英会話や英文読解の基本構文をマスターに効果的な training 法を体得することができる。
- ◆**授業方法** 受講者は予めシラバスに基づき, 事前学修を行う。授業回に取り上げる Unit の問題を一通り解いておく。（予習してあることを前提に授業動画は作成してある。）次に期間中週に 1 回配信される動画を視聴し, 解答解説を聴く。動画視聴後課題を作成し, Google Classroom に提出する。Quiz や資料の授受, 質疑応答などは全て Google Classroom や NUmail にて行う。
- ◆**履修条件** 全回出席（動画を視聴）すること, 課題を提出することを前提とする。各自自分のテキストを購入すること。
- ◆**教科書** 丸沼『Reading Links 1』Andrew E. Bennett 著（株）南雲堂 2021 年
- ◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法改訂新版 徹底例解』綿貫 陽著 旺文社
- ◆**成績評価基準** Quiz (5 回) 20% + (レポート課題) 60% + 授業への参加度 20% による総合評価（クラスのレベルを考慮し, 一定の基準になるよう調整を加えることがあります。）
- ◆**授業相談（連絡先）** Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	(1) (授業前半) ガイダンス / (2) (授業後半) 効果的なトレーニング方法の紹介
	事前学修	テキストを購入し, テキストの内容をざっと見ておく。無料音声をダウンロードし試聴してみる。
	事後学修	第 1 回授業での既習事項の確認
2 回	授業内容	Unit 1 The Arts p.p.8-11 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 1 p.p.8-11 の練習問題を解き, 授業日前日までに Google Classroom の「第 2 回授業」へ提出すること。
	事後学修	各 Unit の Reading の音読と既習事項の確認 Quiz 1 の準備
3 回	授業内容	Unit 2 Incredible Races p.p.12-15 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 2 p.p.12-15 の練習問題を解き, 授業日前日までに Google Classroom の「第 3 回授業」へ提出すること。Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Units の 音読既習事項の確認
4 回	授業内容	(1) Unit 3 Movies p.p. 16-19 / (2) Unit 4 Careers p.p. 20-23 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 1
	事前学修	上記テキスト Unit 3 p.p.16-19/Unit 4 p.p.20-23 の練習問題を解き, Google Classroom の「第 4 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
5 回	授業内容	(1) Unit 5 Animals p.p.24-27 / (2) Unit 6 Handmade Items p.p.28-31 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 5 & 6 p.p.24 - 31 の練習問題を解き, Google Classroom の「第 5 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Unit の Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
6 回	授業内容	Review Unit 1 ～ Unit 6 英語運用能力を高めるための Activities を行う。Quiz 2
	事前学修	Unit 1 ～ Unit 6 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業日前日までに Google Classroom の「第 8 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 2 の準備
	事後学修	既習事項の確認
7 回	授業内容	(1) Unit 7 Cooking p.p.32-35/ (2) Unit 8 Sports p.p.36-39 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 7 & 8 p.p.34 - 43 の練習問題を解き, Google Classroom の「第 7 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 3 の準備
8 回	授業内容	(1) Unit 9 Natural Places and Maps p.p.40-43/Unit 10 Dreams and Seasons p.p.44-47 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 3
	事前学修	上記テキスト Unit 9 & 10 p.p.40 - 47 の練習問題を解き, Google Classroom の「第 8 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 3 の準備
	事後学修	各 Unit の 音読と既習事項の確認
9 回	授業内容	Unit 11 Culture p.p.48-51 / Unit 12 Music p.p.52-55 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 4
	事前学修	上記テキスト Unit 11 & 12 p.p.48 - 55 の練習問題を解き, Google Classroom の「第 9 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 4 の準備
10 回	授業内容	Review Unit 7 ～ Unit 12 英語運用能力を高めるための Activities を行う。
	事前学修	Unit 7 ～ Unit 12 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を Google Classroom の「第 10 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 4 の準備
11 回	授業内容	Unit 13 Mountains p.p.56-59/Unit 14 Weekends p.p.60-63 H.W. Check その他
	事前学修	上記テキスト Unit 13 & 14 p.p.56 - 63 の練習問題を解き, Google Classroom 「第 11 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 4 の準備

12 回	授業内容	Unit 15 Transportation p.p.64-67/Unit 16 Dragons and Folktales p.p.68-71 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 4
	事前学修	上記テキスト Unit 15 & 16 p.p.64-71 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 12 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 4 の準備
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
13 回	授業内容	Unit 17 Typhoons p.p.72-75/Unit 18 Fast Food and Snacks p.p.76-79 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 17 & Unit 18 p.p.72 - 79 の練習問題を解き、Google Classroom の「第 13 回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 5 の準備
14 回	授業内容	Unit 19 Detectives p.p.80-83/Unit 20 Being Earth-Friendly p.p.84-87 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 5
	事前学修	上記テキスト Unit 19 & 20 p.p.80 - 87 の練習問題を解き、Google Classroom 「第 14 回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 5 の準備
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
15 回	授業内容	Review Unit 11 ~ Unit 20
	事前学修	Unit 11 ~ Unit 20 の振り返り 指定された Unit の英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業日前日までに Google Classroom の「第 15 回授業」へ提出すること。
	事後学修	既習事項と提出課題の確認

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅲ B〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 債権総論の前半部分を学修する。債権総論とは、債権法全体の共通の決まりごとをまとめた部分であり、債権債務の発生から消滅に至る過程、つまり、債権債務一生、生まれてから役割を終えて死ぬまでの過程を規律している。具体的には、債権の発生、目的、効力、多数当事者の債権債務関係、譲渡（引受・移転を含む）、消滅の各過程に関する条項を置いている。その主要な条項の解釈を学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所ですした専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式（オンデマンド）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 他の担当教員の民法Ⅲ、および根本の民法Ⅲ（後半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。
- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 〔丸〕民法Ⅲ（通信教育教材）
- ◆**成績評価基準** 全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	GD、財産法における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
2 回	授業内容	債権総論の全体像、その内容の概説、債権とは何か（財産権として共通する物権との比較についての総論）、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の確認
3 回	授業内容	物権の絶対性（対世的効力）と債権の相対性（相対的効力）、物権法定主義と契約自由の原則、物権における優先弁済的効力と債権における債権者平等の原則、物権における優先弁済的効力と債権における債権者平等の原則、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4 回	授業内容	債権債務の発生原因（意思に基づく発生原因としての約定債権（契約）と、意思によらない発生原因としての法定債権（寺家管理・不当利得・不法行為）、その総論
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5 回	授業内容	意思に基づく発生原因としての約定債権（契約）について。私的自治の原則に基づくこと、「契約」についての概説（詳細は民法Ⅳ、つまり債権各論の前半部分たる契約総論に譲る）など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6 回	授業内容	意思によらない発生原因としての法定債権（事務管理・不当利得・不法行為）について。私的自治ではなく立法政策に基づくこと、事務管理・不当利得・不法行為に関する概説（詳細は、民法Ⅳ、つまり債権各論の後半部分に譲る）など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7 回	授業内容	債権の目的について、与える債務、つまり特定物債権、不特定物債権、種類債権（特定・集中について）、金銭債権（金銭債務の特則について）と、為す債務、つまり作為債権と不作為債権、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8 回	授業内容	債権の効力について。対内的効力と対外的効力（広義）に区別され、後者は、狭義の対外的効力と保全的効力に区別されること、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の確認
9 回	授業内容	対内的効力とは当事者間の効力、つまり相対性を表した概念であること、その内容は、給付受領権・強制履行請求権・債務不履行責任と解除権の発生であること、その内容を順次説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10 回	授業内容	（前回授業の続き）給付受領権、強制履行請求権、債務不履行責任（債権法改正と関連する契約不適合責任との関係を含む）について説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11 回	授業内容	（前回授業の続き）債務不履行責任（その態様、損害賠償の範囲を含む）、契約の解除（詳しくは民法Ⅳ、債権各論前半の契約総論に譲る）、について説明する
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	狭義の対外的効力について説明する。賃借権の物権化、賃借権に基づく妨害排除請求の可否、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

13 回	授業内容	保全的効力について説明する。保全的効力をとくに認める意義，債権者代位権について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	(前回授業の続き) 債権者代位権，詐害行為取消権について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	詐害行為取消権について，前半のまとめ
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学演習 A〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本演習は、卒業論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を、実践を通して、修得する。
* なお、本演習はメディア授業『哲学演習 MA』と内容が重複している箇所がある。これは、どちらの授業も卒業論文の制作を行う際に、迷ったり、間違ったりする点について重点的に説明し、卒論の制作を円滑に進めることができるようにしているためである。重複している箇所は繰り返し学んでも問題ない内容である。以上の点は、受講を決める際に検討していただきたい。
- ◆**学修到達目標** この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学ぶことができる。またこの演習を通して、卒業論文の制作がよりよく進められる。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げることができる。
- ◆**授業方法** 授業動画を視聴し、課題を提出する。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『哲学演習Ⅰ、Ⅱ』とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 資料配布（Classroom）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 課題提出（100%）により総合的に評価する。なお、毎回出席票を提出することを前提として評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom において相談を受け付ける。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイダンス（授業のねらい、発表のやり方）、卒論について 事前学修：卒業論文でどのような題材を扱うかについて発表をする回があるので、内容を考えておく。 事後学修：Google Classroom の使い方を把握する。
2 回	授業内容：論文とは何か 1 事前学修：論文にはどのような特徴があるか、他の文章表現とは何が違うか考える。 事後学修：授業の内容を踏まえて、論文という文章表現の特徴についての理解を深める。
3 回	授業内容：論文とは何か 2 事前学修：前回の内容を振り返っておく。 事後学修：手近にある、論文以外の色々な文章を読んで、論文という形式について理解を深める。自分の卒業論文の問題、主張、論拠を練り上げる。
4 回	授業内容：論文の構成を理解する 事前学修：論文はどのように構成された文章か考える。 事後学修：授業を復習し、自分の卒業論文で扱う予定の題材および問題、主張、論拠を元に、論文の構成をイメージする。
5 回	授業内容：先行研究調査の方法 事前学修：先行研究の文献を探すにはどのような方法があるか考える。 事後学修：授業で取り上げた調査方法の他にも有効な方法があるか考える。また、自分の卒業論文に必要な先行研究を調べる。
6 回	授業内容：論文の整え方 1 事前学修：論文を書く際の決まりにどのようなものがあるか調べる。 事後学修：論文の決まりに即して文章を書けるようにする。
7 回	授業内容：論文の整え方 2 事前学修：引用とはどのようなものか調べる。 事後学修：決まりにしたがって、短い引用、長い引用ができるようにする。
8 回	授業内容：論文の整え方 3 事前学修：前回の授業内容を確認する。 事後学修：注や参考文献表を作成できるようにする。
9 回	授業内容：アウトラインについて 1 事前学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。 事後学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインを作成する。
10 回	授業内容：アウトラインについて 2 事前学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。 事後学修：自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインの内容を掘り下げる。
11 回	授業内容：要約について 事前学修：要約とはなにかについて調べ、自分でも手近な文章を要約してみる。 事後学修：先行研究の文献を要約してみる。
12 回	授業内容：論証について 事前学修：論証とはどのようなものか調べる。 事後学修：論証できるようにする。
13 回	授業内容：テキスト批評について 事前学修：批評はどのようにすればよいか調べる。 事後学修：テキスト批評のやり方を踏まえて、先行研究をテキスト批評してみる。
14 回	授業内容：課題についてのコメント 1 事前学修：これまで提出した課題を見直す。 事後学修：課題についてのコメントを視聴し、質問やコメントを Google Classroom から提出する。
15 回	授業内容：課題についてのコメント 2 事前学修：前回提出したコメントを見直す。 事後学修：授業全体を見直し、卒論制作を進める。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔教育の方法・技術論 A〕

古賀 徹

◆**授業概要** この授業は、教員としての授業実践力を修得することを目的としています。授業が成り立つ条件を理解するために、先ず歴史や諸外国の実践例を学ぶことから始めます。次には「読む・書く・きく・話す」等の技能を伸ばすための技術・指導法を学び、実際に活用できるレベルへ高めていく。カリキュラム構成の基礎を身につけ、指導計画をデザインできるようになるまでがゴールです。ICT 活用の学習形態についても考え深めていきます。

◆**学修到達目標** 学修者は次の事項について理解を深め、技能・指導技術を身につけることができる。①教授法の歴史の変遷を理解する。②ヴィゴツキーの「発達最近接領域」等の最新の学習概念を理解する。③アクティブ・ラーニング形式の学習について理解し、実践するアイデアを出す。④カリキュラム構成の基礎を身につけ、学習目標に沿って学習内容・活動を展開するイメージをまとめることができる。⑤ ICT 活用や e ラーニング等の学習形態について、その課題や可能性も含めて把握することができる。⑥教育評価の方法を身につける。①から⑥の知識・技能を身につけ、授業やカリキュラムをデザインすることができる。

◆**授業方法** 講義形式に加えて、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどアクティブ・ラーニング型の方式をできるだけとりいれたい。しかし「対面授業」開講すら制限される現状であるので、大学の教育環境の支援の状況次第とする。能動的学習の形式としては、通常であれば、単純グループワーク（バズ学習）、ジグソー法、シミュレーション学習、プロジェクト学習、完全修得学習、模擬授業と相互評価、ウェビングを予定しているが、学修環境に関する「大学」の支援が十分ではない場合、これらは他の方法に置き換える。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 特になし

◆**参考書** **その他** 学習指導要領

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：「教育方法」とは何か？「教える」と「学ぶ」こと。
	事前学修：教職課程における学習内容（各科目）について意味を調べておく。
	事後学修：新学習指導要領の「ねらい」について調べ、説明文としてまとめる。
2 回	授業内容：教育方法論の歴史（西洋教育方法史）。
	事前学修：コメニウス、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイについて文献を読む。
	事後学修：本日の学修内容についてレポート作成（次回提出）。
3 回	授業内容：教育方法論の歴史（日本の教育方法・内容論の変遷）。
	事前学修：日本特有の教育方法について、イメージすることを複数メモしておく。
	事後学修：日本と西洋の「近代化」の関係性について、短い文章でまとめる。
4 回	授業内容：新しい「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論と現在の学習）。
	事前学修：「PISA 型学力」等の新しい学力観について資料を通読しておく。
	事後学修：講義で体験的学習により学んだ内容を言語化して説明文としてまとめる。
5 回	授業内容：授業形態を個別化に対応させる（バズ学習、T、T、完全習得学習）。
	事前学修：個別の差（個人）への対応という難しさについて意見をまとめておく。
	事後学修：世界各国の地域差からくる教育観の違いについて説明文を書く。
6 回	授業内容：問題解決学習と系統学習。
	事前学修：自身の体験的な学びについて具体例をあげ、その効果について記す。
	事後学修：自身の担当科目における能動的な学習を設計する。
7 回	授業内容：指導技術：「はなす」ことと「きく」こと。
	事前学修：自身のキャリア教育体験について他者に説明できるようまとめておく。
	事後学修：ウェビング、KJ 法等の可視化技能を高めるよう自身で練習する。
8 回	授業内容：「はなす・きく・かく・まとめる」（言語活動・技能の習得）。
	事前学修：各科目において必須とされる技能について調べ、まとめる。
	事後学修：本を数冊読み、その内容をウェビングで記す。
9 回	授業内容：カリキュラム構成の方法（「ねらい」のある学習をつくる）。
	事前学修：学習指導要領でカリキュラムマネジメントの箇所を読んでメモしておく。
	事後学修：カリキュラム構成方法を応用して「ある学校」のプランをつくる。
10 回	授業内容：シミュレーション学習、プロジェクト学習。
	事前学修：学校数校のホームページ等をみてカリキュラム構成を確認しておく。
	事後学修：自身の科目においてどのようにプロジェクト学習が組めるか構想する。
11 回	授業内容：一時間の学習指導案を構成する。
	事前学修：自身の科目ごとに自由に範囲を選び、授業を構想しておく。
	事後学修：指導案（学習指導計画）を複数構想する（次回提出）。
12 回	授業内容：学習実践のロールプレイ。
	事前学修：一冊以上の本を読み「朝読書」指導案を考案する。
	事後学修：既習のウェビング、カリキュラム、指導案を組み合わせ授業設計を行う。
13 回	授業内容：ICT 機器を活用した新しい学習法。
	事前学修：メディア授業を試聴しレポートを用意する。
	事後学修：新しい時代のメディア教材や、その功罪についてレポートをまとめる。

14 回	授業内容	教材研究・教育評価の方法。
	事前学修	これまでの授業内容について、自身でまとめる（授業で使用する）。
	事後学修	逆向きの設計から「自身の科目で習得する力」を設定。
15 回	授業内容	「主体的・対話的で深い学び」の構成方法。
	事前学修	最終講義の課題について、自身で資料を集め、まとめておく。
	事後学修	様々な授業形態により授業をデザインできるようトレーニングを継続する。

◆授業概要

日本国憲法とこれにかかわる事項について扱う。

憲法は、国の基本法である。この憲法には日本という国家の基盤や国家が保障する基本的人権などが規定されている。これを現実の憲法問題を交えながら学修していく。これにより、社会人として憲法にかかわるさまざまな問題を考えられるようにし、さらなる知的発見を得られる場とする。

◆学修到達目標

1. 憲法の内容について論理的かつ多角的に論じることができるようになる。
2. 国の仕組みやあり方について論じることができるようになる。
3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。
4. 国ごとの違いについての理解に基づき、それぞれの文化を尊重して論じることができるようになる。

◆授業方法**【オンライン授業】**

講義の各回ごとに授業動画を視聴すること。動画は同時に配布するレジュメに沿って展開する。動画やレジュメなどで不明な点がある場合は、まずは自らで調べる。そのうえで不明であれば、質問を受け付ける。

また、各回ごとに小レポートの課題が提示される。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

評価は各回の小レポート（30％）と最終レポート（65％）の合計によって算出される。また、より良いレポートには追加点（5％）が与えられる。自主レポート（+α）については随時受け付ける。

◆教科書

資料配布（Classroom） 各回レジュメのデータを配布する。

◆参考書

市販本 「憲法入門」 東裕（編） 一藝社 2021 年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上で行う。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	憲法と国家 憲法を学ぼうえで基礎となる憲法の役割と国家について学修する。
	事 前 学 修	憲法とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	憲法の役割について整理しておくこと。
2 回	授 業 内 容	主権と国民 国家体制と主権とのかかわりなどを理解するとともに、主権の持つさまざまな意味について学修する。
	事 前 学 修	主権とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	主権のさまざまな意味を整理し、まとめておくこと。
3 回	授 業 内 容	基本的人権 基本的人権の歴史を理解するとともに、その種類や限界について学修する。
	事 前 学 修	基本的人権とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	基本的人権の歴史や特徴をまとめておくこと。
4 回	授 業 内 容	天皇と皇室 諸外国にはない日本国憲法の特徴である天皇の憲法上の地位や皇室制度について学修する。
	事 前 学 修	天皇とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	天皇や皇室制度の概要をまとめておくこと。
5 回	授 業 内 容	戦争放棄 日本国憲法に関する議論の中心にあることが少なくない憲法 9 条の成り立ちや解釈について学修する。
	事 前 学 修	平和とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	憲法 9 条の成立過程や自衛権の解釈についてまとめておくこと。

◆授業計画

6回	授 業 内 容	法の下の平等 差別と区別との違いを理解するとともに、憲法上の平等と平等の範囲外について学修する。
	事 前 学 修	平等とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	平等のあり方とその例外についてまとめておくこと。
7回	授 業 内 容	内心の自由 精神的な営みの役割を理解するとともに、内心の自由について学修する。
	事 前 学 修	内心の自由とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	内心の自由の意義についてまとめておくこと。
8回	授 業 内 容	信教の自由 精神的な営みの役割を理解するとともに、信教の自由について学修する。
	事 前 学 修	宗教の役割とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	信教の自由の意義についてまとめておくこと。
9回	授 業 内 容	政教分離精神的な営みの役割を理解するとともに、政教分離について学修する。
	事 前 学 修	政教分離とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	政教分離の形態についてまとめておくこと。
10回	授 業 内 容	表現の自由 表現の自由がさまざまな活動の根幹にあることを理解するとともに、その保障と制約の態様について学修する。
	事 前 学 修	表現の自由とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	表現の自由にかかわる問題についてまとめておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	身体的自由権 身体的自由権を理解するとともに、その特徴や事例について学修する。
	事 前 学 修	身体的自由権とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	これまで学習した各種自由権についてまとめておくこと。
12 回	授 業 内 容	参政権 参政権が国民固有の権利であることを理解するとともに、国民の主権の行使の一形態ともいえる参政権の重要性について学修する。
	事 前 学 修	参政権とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	参政権の意義についてまとめておくこと。
13 回	授 業 内 容	立法、行政 国民の代表たる機関の役割を理解するとともに、立法権、行政権の性質について学修する。
	事 前 学 修	三権の役割とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	国会や内閣の概要についてまとめておくこと。
14 回	授 業 内 容	司法 裁判員制度のシステムを理解するとともに、司法権や裁判員制度について学修する。
	事 前 学 修	裁判員制度とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	司法の役割や裁判員制度の概要についてまとめておくこと。
15 回	授 業 内 容	憲法改正 憲法改正国民投票といった国民がかかわりうる制度のシステムを理解するとともに、憲法尊重擁護義務、憲法改正について学修する。
	事 前 学 修	憲法改正とはどのようなものか考えておくこと。
	事 後 学 修	憲法改正の概要についてまとめておくこと。

令和3年度屋間スクーリング(前期)開講講座一覧

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
金	1	AE11	文学	尾形 大	2	B11300	文学	×		1年	
		AE12	英語 K	大庭 香江	1	C10100	英語Ⅰ	×		1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AE13	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史Ⅱ	×		2年	
		AE14	西洋史入門	高草木 邦人	2	Q20300	西洋史入門	×		※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AE15	日本史概説／日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説	×		2年	・文理／経済／商学部のみ申込可。
	2				K32200	日本史概論	・法学部のみ申込可。				
	AE16	東洋思想史Ⅰ	本間 直人	2	P20300	東洋思想史Ⅰ	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	2	AE21	経済学 B	谷川 孝美	2	B11800	経済学	×		1年	
		AE22	英語基礎 C	大庭 香江	1	C10600	英語基礎	×		1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。
		AE23	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	1	E10100	フランス語Ⅰ	×	○	1年	・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						E10200	フランス語Ⅱ				
		AE24	英米文学演習 B	野呂 有子	1	N404S0	英米文学演習Ⅰ	×		3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						N405S0	英米文学演習Ⅱ				
	N406S0					英米文学演習Ⅲ					
	AE25	西洋思想史Ⅰ	関谷 雄磨	2	P20200	西洋思想史Ⅰ	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	3	AE31	英語 L	石川 勝	1	C10100	英語Ⅰ	×	○	1年	・Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語Ⅱ			2年	
						C10300	英語Ⅲ				
						C10400	英語Ⅳ				
		AE32	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論	×		※	・政治経済学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AE33	国文学講義Ⅴ(近代)	榎本 正樹	2	M30900	国文学講義Ⅴ(近代)	×		2年	
		AE34	英作文Ⅱ	大庭 香江	2	N30500	英作文Ⅱ	×		2年	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
		AE35	英語学演習 A	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習Ⅰ	×	○	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						N402S0	英語学演習Ⅱ				
						N402S0	英語学演習Ⅲ				
	AE36	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AE37	商業政策 A	花田 哲郎	2	S31000	商業政策	×		2年		
	AE38	市場調査論	最上 健児	2	S317S0	市場調査論	×		2年		
	4	AE41	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	1	D10100	ドイツ語Ⅰ	×	○	1年	・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						D10200	ドイツ語Ⅱ				
		AE42	国文学概論	山崎 泉	2	M20200	国文学概論	×		※	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AE43	宗教学概論	合田 秀行	2	P30400	宗教学概論	×		2年	
		AE44	商業史	竹内 真人	2	S32100	商業史	×		2年	
		AE45	商業政策 B	花田 哲郎	2	S31000	商業政策	×		2年	
		AE46	経営学 B	所 伸之	2	S20200	経営学	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
	5	AE51	哲学 C	中澤 瞳	2	B10700	哲学	×		1年	
		AE52	社会学 B	服部 慶亘	2	B11600	社会学	×		1年	
		AE53	英語学演習 B	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習Ⅰ	×		3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						N402S0	英語学演習Ⅱ				
						N402S0	英語学演習Ⅲ				
		AE54	日本史特講Ⅱ	坂口 太助	2	Q30900	日本史特講Ⅱ	×		2年	
	AE55	簿記論Ⅰ	青木 隆	2	S20300	簿記論Ⅰ	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
土	2	AF21	財政学／財政学総論	楠谷 清	2	L31400	財政学	×		2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。
						R31500	財政学総論				・法学部のみ申込可。

※「対面」欄に○が入っている講座は対面授業実施予定講座です。それ以外は全てオンデマンド配信による開講となります。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文学〕

尾形 大

- ◆**授業概要** 「文学」とは、けっして作家個人によってのみ作られるものではありません。そこには実に多様な文化的・社会的・歴史的な背景がともないます。本授業は、明治期末の自然主義文学への反応を梃子に生み出された大正期の文学を取り上げて、それぞれが内包する諸要素を整理・分析することを通して、同時代状況と文学の交錯の実態について考察していきます。
- ◆**学修到達目標** 1. 文学を専門的に読むために必要な知識について学び、説明することができる。 2. 大正期の文学動向の中における各テキストの位置付けを説明できるようになる。
- ◆**授業方法** オンデマンド方式で行います。定期的に小レポートを課して授業内容の理解度を測り、同時に各人の考えを言葉に表してもらいます。受講生は指定されたテキストを通読した上で問題意識を持って授業に臨んでください。毎時リアクションペーパーを記入してもらい、次の時間に回答することで双方向的な授業を作っていきたいと思います。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング『文学』（担当教員：尾形大）との積み重ね不可。
- ◆**教科書** 丸沼『日本近代短編小説選 大正編』岩波書店 2012 年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 各回の課題レポートが、授業内容を踏まえられており、かつ一定の水準を越えていることをもって当該回の授業の出席と見なします（40%）。また、第9回に中間レポートを実施します（20%）。第15回目にはレポート形式の試験を実施します（40%）。毎回出席することを前提とするので、各課題を期限内にきちんと提出するようにしてください。期限後の提出は認めません。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンスー「近代文学」および「文学史」とは何か？／大正期の社会状況・文学状況について
	事前学修	大正期の文学動向について調べ、ノートにまとめておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
2 回	授業内容	自然主義文学の特徴ー島崎藤村と田山花袋の文学実践について
	事前学修	自然主義文学について調べておく
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
3 回	授業内容	「反自然主義」という立場について学ぶー夏目漱石・森鷗外・白樺派・耽美派・新思潮派の文学
	事前学修	反自然文学について調べておく
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
4 回	授業内容	佐藤春夫「西班牙犬の家」①ー作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「西班牙犬の家」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
5 回	授業内容	佐藤春夫「西班牙犬の家」②ー同時代の幻想的な小説群との比較
	事前学修	前回の授業を踏まえて「西班牙犬の家」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
6 回	授業内容	有島武郎「小さき者へ」①ー作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「小さき者へ」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
7 回	授業内容	有島武郎「小さき者へ」②ー同時代の「父と子」の物語との相違について考える
	事前学修	前回の授業を踏まえて「小さき者へ」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
8 回	授業内容	前半の授業内容の振り返り／中間レポートの作成
	事前学修	これまでの授業内容をまとめたノートを読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
9 回	授業内容	芥川龍之介「奉教人の死」①ー作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「奉教人の死」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
10 回	授業内容	芥川龍之介「奉教人の死」②ー創作における典拠の問題を考える
	事前学修	前回の授業を踏まえて「奉教人の死」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
11 回	授業内容	芥川龍之介「奉教人の死」③ー物語構造と語りの問題を分析する
	事前学修	「語り」という観点に注目して、「奉教人の死」を分析的に読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
12 回	授業内容	宇野浩二「屋根裏の法学士」①ー作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「屋根裏の法学士」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
13 回	授業内容	宇野浩二「屋根裏の法学士」②ー〈面白さ〉の根を分析する
	事前学修	前回の授業を踏まえて「屋根裏の法学士」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
14 回	授業内容	川端康成「葬式の名人」ー自伝を小説化する方法について学ぶ
	事前学修	「葬式の名人」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。

15 回	授業内容	これまでの授業のまとめ／レポート試験
	事前学修	これまでの授業内容をノートにまとめ、全体を見直しておく。試験では大正期の文学作品をひとつ選び分析を行ってもらうので、事前に候補を考えてメモをとりながら読んでおくこと（授業であつかった作品も可）。
	事後学修	これまでの授業内容を確認した上で、自身が選んだテキストの特徴について同時代状況と重ね合わせながらもう一度読み直しておく。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 K（初級）〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 西洋名がの背後にある制作過程や画家の人生を、平易な英文で読み解いていきます。食べ物や食事の情景が描かれた14の絵画を取り上げます。
- ◆**学修到達目標** テキストの英文を通じて異文化に触れ、何を、いかに伝えるか、英語で豊かな情報発信が出来るようになることを目標とします。
- ◆**授業方法** 専門用語は多くはありませんが、絵画に関連する用語が本文中に含まれますので、事前に訳を作っておくことが推奨されます。授業では文法事項等を解説しながら、精読し、関連した内容の会話練習を行います。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『英語 Q』（大庭香江）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 〔丸〕『絵画を彩る食文化』 Josh Norman 他著 朝日出版社 1,700 円（税別）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 評価は試験で行いますが、出席、授業参画度が前提となります。予習復習が行われているかどうかを、課題提出状況で確認します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	フェルメール『牛乳を注ぐ女』について読む
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
2 回	授業内容	ミレー『パンを焼く農婦』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
3 回	授業内容	ゴッホ『じゃがいもを食べる人々』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
4 回	授業内容	ゴーギャン『我々はどこから来たのか、我々は何者なのか、』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
5 回	授業内容	カラヴァッジョ『エマオの晩餐』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
6 回	授業内容	シャルダン『食前の祈り』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
7 回	授業内容	リオタール『チョコレートを運ぶ娘』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
8 回	授業内容	マネ『草上の昼食』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
9 回	授業内容	ルノワール『舟遊びをする人々の昼食』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
10 回	授業内容	歌川国芳『園中八撰花』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
11 回	授業内容	ミュシャ『ビスケット・ルフェーブル=ユティル』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
12 回	授業内容	シャガール『誕生日』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。

13 回	授業内容	ホッパー『夜更かしの人々』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
14 回	授業内容	ウォーホル『キャンベルのスープ缶』
	事前学修	註を参考に、本文を訳しておくこと
	事後学修	テキストの復習問題を全て解いておくこと。特に、リスニング問題は繰り返し聞いておくこと。次回授業時に答え合わせと解説、会話練習を行う。
15 回	授業内容	テスト及びまとめ
	事前学修	第 14 回迄に学習した内容を復習しておくこと
	事後学修	全ての学習内容を、再度復習しておくこと

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔イギリス文学史Ⅱ〕

猪野 恵也

◆**授業概要** 「イギリス文学史Ⅱ」では 18 世紀のイギリス文学から 19 世紀後半のイギリス文学すなわちヴィクトリア朝時代の後半の作家及び作品を扱う。New Critics は否定したが、時代背景と作家・作品の関係は密接であるので時代背景を確認し、無数の作家及び作品の中からいわゆる有名な作家及び作品を選択し、生涯を確認し、代表的な作品の一つを考察する。作家及び作品にはそれぞれ個性があるので、それらを理解するように心掛けること。もっと知りたいと思った場合、自分で調べてみる、あるいは読んでみるというように主体的に取り組むこと。

◆**学修到達目標** ・時代背景を知ることができる。・代表的な作家と作品について知ることができる。

◆**授業方法** 事前学修で教科書を読み、授業動画を視聴すること。毎回リアクションペーパーを書いてもらうので必ず回答して、提出してください。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『よくわかる イギリス文学史』 浦野 郁 / 奥村沙矢香 ミネルヴァ書房 2020 年
資料配布 (Classroom) 当日配布する

◆**参考書** 授業中に指示する

◆**成績評価基準** オンデマンド授業で出されるリアクションペーパーは評価対象であるので全て提出すること（全体の 50%）。最終試験はレポート方式とする（全体の 50%）。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	18 世紀のイギリス文学の概観 その 1
	事前学修	教科書 p.14 から p.17 まで読んでおくこと。教科書 p.74 から p.81 まで読んでおくこと。登場する作家と作品の確認。特に作品については初版年を確認してください。教科書の英文抜粋についても予習してください。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
2 回	授業内容	18 世紀のイギリス文学の概観 その 2
	事前学修	教科書 p.82 から p.89 まで読んでおくこと。登場する作家と作品の確認。特に作品については初版年を確認してください。教科書に載っている英文抜粋についても予習してください。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
3 回	授業内容	ロマン派詩人について
	事前学修	教科書 p.90 から p.95 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
4 回	授業内容	Jane Austen (1775-1817) と Walter Scott (1771-1832) について
	事前学修	教科書 p.96 から p.99 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
5 回	授業内容	George Gordon Byron (1788-1824) と Mary Shelley (1797-1851) について
	事前学修	教科書 p.100 から p.103 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
6 回	授業内容	John Keats (1795-1821) と Percy Bysshe Shelley (1792-1822) について
	事前学修	教科書 p.104 から p.107 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
7 回	授業内容	シャーロット・ブロンテ (1816-55) について
	事前学修	教科書 p.110 から p.111 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
8 回	授業内容	エミリー・ブロンテ (1818-48) について
	事前学修	教科書 p.112 から p.113 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品を原書で読む。
9 回	授業内容	William Makepeace Thackeray (1811-63) について その 1
	事前学修	教科書 p.114 から p.115 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品を原書で読む。
10 回	授業内容	William Makepeace Thackeray (1811-63) について その 2
	事前学修	前回の授業の復習。
	事後学修	授業で取り上げた作品を原書で読む。
11 回	授業内容	Charles Dickens (1812-70) について
	事前学修	教科書 p.116 から p.117 を読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
12 回	授業内容	George Eliot (1819-80) について
	事前学修	教科書 p.122 から p.123 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
13 回	授業内容	Thomas Hardy (1840-1928) について
	事前学修	教科書 p.126 から p.127 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。
14 回	授業内容	Oscar Wilde (1854-1900) について
	事前学修	教科書 p.128 から p.129 まで読んでおくこと。作品からの抜粋も読んでおくこと。
	事後学修	授業で取り上げた作品の一つでも良いので原書で読む。

15 回	授業内容	前期試験
	事前学修	前期で学んだ作家や作品についてよく復習すること。
	事後学修	授業で取り上げた作品を一つでも良いので原書で読む。前期で触れた作家及び作品の確認。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋史入門〕

高草木 邦人

◆**授業概要** 本科目では、西洋の地理的特徴を踏まえながら、①「外国史（西洋史）」学修の意義、②原始・古代から現代に至る史実や解釈へのさまざまなアプローチ、③資料を使った「外国史（西洋史）」学修と研究方法の知識の修得を通じて、「外国史（西洋史）」研究に対する知識や態度を身につけます。

◆**学修到達目標** 本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は主体的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。前期においては、主に古代・中世を対象とした研究や資料を素材として、この学問への接近方法について学習します。これにより、受講生は西洋史を学ぶ上での、基礎的な考え方や手法についての知識を得ることができます。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期のみ受講も可能ですが、学習効果をあげるためには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆**授業方法** 基本的に講義形式をとりますが、実践的な要素も盛り込むために、レポートを3回ほど課します。具体的には、学術論文を収集する方法や、自身の研究テーマを決めるうえで必要な考え方などに関するものです。レポートについては、「レポートの講評および解説編」（第6回および第12回）などで解説をおこなっていきます。また、学習した内容の理解度を高めるために、各講義に関する小テストを原則毎回行っています。小テストの解答などに関しては、次の講義の際に提示します。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 資料配布（Classroom） 講義に関連する資料を pdf で配布します。

◆**参考書** ① 下田淳『歴史学「外」論—いかに考え、どう書くか』青木書店、2005 年
② 小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP 研究所、2004 年
③ 中谷功治『歴史を冒険するために』関西学院大学出版会、2008 年
④ 井上浩一『私もできる西洋史研究—仮想大学に学ぶ』和泉出版、2012 年
⑤ 服部良久ほか編『人文学への接近法—西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010 年

◆**成績評価基準** 成績の評価基準は、レポート（70%）、小テスト（30%）です。レポートを3回ほど課する予定です。なお、評価にあたっては、毎回出席していることが前提になります。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にておこなう。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス：西洋史を学ぶということ
	事前学修	高等学校の世界史の教科書を復習しておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
2 回	授業内容	西洋史の文献収集①：概要編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
3 回	授業内容	西洋史の文献収集②：実演編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
4 回	授業内容	学問的性質①：「西洋史とは何か？」
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
5 回	授業内容	学問的性質②：歴史学と歴史小説との違い
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
6 回	授業内容	西洋史の文献収集③：レポートの講評および解説編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
7 回	授業内容	研究テーマの設定①：概要および実演編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
8 回	授業内容	学問的性質③：歴史の父ヘロドトスと歴史叙述
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
9 回	授業内容	学問的性質④：なぜ「学説」を巡り論争するのか
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
10 回	授業内容	研究史①：「時代別」に見た歴史学の実践の蓄積
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
11 回	授業内容	研究史②：「分野別」「地域別」に見た歴史学の実践の蓄積
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
12 回	授業内容	研究テーマの設定②：レポートの講評および解説編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと

13 回	授業内容	歴史学の根拠①：アレクサンドロス大王の歴史に関する史料の扱い
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
14 回	授業内容	歴史学の根拠②：「クレルモン演説」を巡る史料の扱い
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
15 回	授業内容	歴史学の根拠③：西洋古代・中世史と「教会文書」
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史概説 / 日本史概論〕

鍋本 由徳

◆**授業概要** 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史の変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。社会経済や文化を中心に据えながら、政治・外交の影響に関わる理解を深めます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、各時代の史料を使った歴史復原や意義付けの方法について指導します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆**学修到達目標** 1. 日本史を知るため、全時代を通じた時代の流れを説明できるようにする。
2. 各時代の主な政治・外交の背景や意義、着眼点について説明できるようにする。
3. 各時代の歴史事実を裏づける歴史資料の読解や歴史学的考察の成果を理解できるようにする。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆**授業方法** 原則として教科書を使い、その内容の一部を採り上げてプリント内容で詳述します。授業動画は開講曜日・時限に公開し、短期間で視聴できなくなります。授業曜日・時限の受講に努めてください。動画は内容に沿って分割配信します。適宜動画を一時停止してノートを取りながら学修してください。質問については小テストフォームにて受け付けます。各回の最後は小テスト・自己評価となります（開講曜日のみ回答可）。小テスト・自己評価講評は翌週冒頭で実施します。

◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）・夏期スクーリング「日本史概説」修得済の学生は履修不可

◆**教科書** 丸沼『概論 日本歴史 Q30200』通信教育教材（教材コード 000382）
参照プリントを Classroom にて各回で配布

◆**参考書** 配布プリントで適宜紹介します

◆**成績評価基準** 最終課題レポート（70%）、授業内小テスト（出欠確認含 30%）、授業参画・リアクションなど（10%）の総合評価
※ 15 回全出席を前提とした評価です。

◆**授業相談（連絡先）**：原則として、Classroom 上で実施する小テストフォームの質問欄にて受け付けます。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	日本史概説の特性と学びの意味
	事前学修	シラバスを熟読し、講義全体の流れをおさえておく。
	事後学修	各回の意図を振り返り、今後の自身の学修目標を立てる。
2 回	授業内容	先史時代の特徴 ～旧石器から弥生時代～
	事前学修	教科書の先史時代の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3 回	授業内容	ヤマト王権 ～倭王武から推古朝～
	事前学修	教科書の古墳～飛鳥時代の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4 回	授業内容	奈良時代の政治 ～政争～
	事前学修	教科書の奈良時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5 回	授業内容	平安時代の政治 ～遷都と聖俗～
	事前学修	教科書の平安時代政治史を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6 回	授業内容	鎌倉幕府の成立 ～東国王権と西国王権～
	事前学修	教科書の鎌倉時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7 回	授業内容	室町幕府の特徴 ～建武新政から観応の擾乱～
	事前学修	教科書の室町時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8 回	授業内容	戦国時代の様相 ～統一政権への布石～
	事前学修	教科書の戦国・織田政権の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9 回	授業内容	天下統一と徳川政権 ～朝廷との関係～
	事前学修	教科書の近世朝廷に関わる範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
10 回	授業内容	明治新政府の施政方針 ～江戸幕府の遺制～
	事前学修	教科書の幕末維新期の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11 回	授業内容	条約改正問題と帝国議会 ～成果と課題～
	事前学修	教科書の幕末開国と条約改正の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12 回	授業内容	大正デモクラシー ～政変と普選～
	事前学修	教科書の大正政変に関わる範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13 回	授業内容	太平洋戦争と国際関係 ～日本の対米英意識～
	事前学修	教科書の昭和外交と太平洋戦争の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。

14 回	授業内容	戦後日本の歩み ～戦後改革と歴史学～
	事前学修	教科書の戦後改革の範囲を読み，事前シートの課題に取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し，概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15 回	授業内容	講義総括 日本史概説の振り返りと今後の課題
	事前学修	第 1 回から第 14 回の学修内容の要点をまとめておく。
	事後学修	当日配付されたプリントから自身の弱点を知り，重点復習箇所を確認する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋思想史Ⅰ〕

本間 直人

- ◆**授業概要** 中国古代の哲学思想について概観します。授業で取り上げる書物は、中国古代の哲学思想において、極めて重要な思想を展開しています。また、それぞれの哲学思想相互の内容的なつながりに留意しつつ、それぞれの哲学思想の特質を理解できることを心掛けます。
- ◆**学習到達目標** 中国古代の哲学思想を概観しながら、孔子、孟子、墨子の思想を中心に理解を深めることを目指します。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え、時代を超え、現代を生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などの習得も目標とします。
- ◆**授業方法** 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら授業を行います。漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**教科書** **【教材】**『東洋思想史Ⅰ P 20300』 通信教育教材（教材コード 000392）
【その他】 漢和辞典を用意してください。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** オンデマンド授業で出される課題（レポート）で評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（研究の意義、必要性）、東洋思想史とは何か
	事前学修	テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
2 回	授業内容	孔子の思想について（人物・生涯）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
3 回	授業内容	孔子の思想について（『論語』）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
4 回	授業内容	孔子の思想について（宗教観、殷周革命）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
5 回	授業内容	孔子の思想について（宗教観、『論語』）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
6 回	授業内容	孔子の思想について（儒教）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
7 回	授業内容	孔子の思想について（『詩経』）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
8 回	授業内容	孔子の思想について（運命観）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト、ノート、プリントなどで、孔子の思想についてまとめておくこと。
9 回	授業内容	孟子の思想について（人物・生涯）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
10 回	授業内容	孟子の思想について（人性論）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
11 回	授業内容	孟子の思想について（運命論）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト、ノート、プリントなどで、孟子の思想についてまとめておくこと。
12 回	授業内容	墨子の思想について（人物・年代）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
13 回	授業内容	墨子の思想について（非命説）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
14 回	授業内容	墨子の思想について（〈天〉と〈命〉）
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト、ノート、プリントなどで、墨子の思想についてまとめておくこと。
15 回	授業内容	まとめ（東洋思想史を学ぶ意義について）
	事前学修	これまでにまとめた、孔子の思想、孟子の思想、墨子の思想について再確認すること。
	事後学修	改めて、東洋思想史を学ぶ意義について考えてみること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学 B〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 私たちの日常生活は、景気、雇用、失業、租税、株価など、さまざまな経済に関するニュースであふれています。この講義では、経済学概論などの経済学関連科目の入門および基礎として、市場の働きを中心に、消費者（家計）、企業の行動に関する経済分析について、基本的な事柄や内容および基礎理論を理解し、現代の社会問題について、経済を通して考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** 経済学関連の基礎および入門として、ミクロ経済学に関する基本的な事柄や基礎理論に関連する以下のことを目標とする。

1. 経済学の基本的な見方、考え方を理解し、説明できるようになる。
2. 需要、供給および市場の働きを理解し、説明できるようになる。
3. 企業や消費者の行動について経済的な見方の基礎を理解し、説明できるようになる。
4. 情報の非対称性などの不完全市場に対する基本的な考えを理解し、説明できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画に沿って、項目ごとに Classroom のトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。最後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示すること。

◆**履修条件** 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（前期）『経済学』（谷川孝美）との積み重ね不可。

◆**教科書** **資料配布（Classroom）** 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用として PDF ファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆**参考書** **丸沼**『ミクロ・マクロ経済理論入門』
藤本 訓利、陸 亦群、前野 高章、文眞堂、2020 年
丸沼『スティグリッツ入門経済学第4版』
ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ著、数下史郎訳、東洋経済新報社、2012 年

◆**成績評価基準** 最終講義後に最終（期末）試験を実施します。評価は割合を 70%とします。また、オンデマンド授業で実施する小テストおよび課題の評価割合を 20%、授業への参加・貢献を 10%とします。

◆**授業相談（連絡先）**：tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・経済学の対象と課題
	事前学修	新聞の経済欄などをよく読み、経済時事問題に注目しておくこと。また、参考書に指定している『スティグリッツ入門経済学第4版』の第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容	経済学の主要な概念 トレードオフ、インセンティブ、交換
	事前学修	参考書の第1章第1節をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、授業で説明した専門用語などを確認すること。
3 回	授業内容	経済学の主要な概念 情報、機会集合、費用
	事前学修	参考書の第2章をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4 回	授業内容	経済学におけるミクロ的な見方とマクロ的な見方
	事前学修	参考書第1章第2、3節をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5 回	授業内容	経済学の考え方、科学としての経済学
	事前学修	事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6 回	授業内容	需要と需要曲線
	事前学修	参考書の第3章をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7 回	授業内容	供給と供給曲線
	事前学修	参考書の第3章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
8 回	授業内容	需要と供給の法則、価格、費用、価格弾力性
	事前学修	参考書第4章をよく読んでおくこと。また、第4、5回の講義を再確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する問題を解くこと。
9 回	授業内容	市場と効率性、消費者余剰と生産者余剰
	事前学修	参考書第5章をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
10 回	授業内容	不完全市場と不完全情報
	事前学修	参考書第6章をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
11 回	授業内容	不完全市場と外部性、公共財
	事前学修	参考書第6章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
12 回	授業内容	公共部門 政府の役割
	事前学修	参考書第7章をよく読んでおくこと。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。

13 回	授業内容	政府の失敗
	事前学修	参考書第7章をよく読んでおくこと。また、前回の講義を再確認すること。事前配付資料をよく読み確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
14 回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	予め配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	前期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語基礎 C〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 本授業では、英語学修の基礎・基本を学習します。中学校卒業程度の文法事項を、一つ一つ丁寧に解説致します。テキストには、平易な語彙が用いられたポピュラーソングが収録されています。英語に苦手意識を持つ方にも、自然に親しんで頂ける内容となります。今後の英語学習の土台を築くべく、予習復習を怠らず、多くの練習問題を解いて頂きます。
- ◆**学習到達目標** 曲の歌詞を聞くことで、オーセンティックな、実際に使われる英語に触れ、学習者自身が英語を使えるようになることを目標とします。
- ◆**授業方法** 毎回品詞を一つ、文法事項を一つ、のペースで進めます。予習復習の仕方について、詳しく指示しますので、毎回事前学習事後学習を必ず行い、授業の理解度を深めて頂きます。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『英語 Q』（大庭香江）とは積み重ね不可
- ◆**教科書** 丸沼『ポップスでスタート！基礎英語』角山他著 成美堂 2,300 円（税別）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 評価は試験で行いますが、前提として、出席、授業への参画度を満たすことが必要となります。予習復習、授業への取り組みがしっかりと行われているかを課題提出状況で確認し、授業への参画度をみます。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	be 動詞
	事前学修	テキスト p.6 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.13 の復習問題を解く
2 回	授業内容	一般動詞（現在形）
	事前学修	テキスト p.14 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.21 の復習問題を解く
3 回	授業内容	一般動詞（過去形）
	事前学修	テキスト p.22 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.29 の練習問題を解く
4 回	授業内容	進行形
	事前学修	テキスト p.29 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.37 の練習問題を解く
5 回	授業内容	未来形
	事前学修	テキスト p.39 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.45 の復習問題を解く
6 回	授業内容	助動詞
	事前学修	テキスト p.47 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.53 の復習問題を解く
7 回	授業内容	受動態
	事前学修	テキスト p.55 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.66 の復習問題を解く
8 回	授業内容	現在完了形
	事前学修	テキスト p.63 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.69 の復習問題を解く
9 回	授業内容	比較
	事前学修	テキスト p.71 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.77 の復習問題を解く
10 回	授業内容	分詞
	事前学修	テキスト p.79 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.85 の復習問題を解く
11 回	授業内容	不定詞
	事前学修	テキスト p.87 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.93 の復習問題を解く
12 回	授業内容	関係詞
	事前学修	テキスト p.95 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.101 の復習問題を解く
13 回	授業内容	接続詞・前置詞
	事前学修	テキスト p.103 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.109 の復習問題を解く
14 回	授業内容	動名詞
	事前学修	テキスト p.111 の表を完成させておく
	事後学修	テキスト p.117 の復習問題を解く
15 回	授業内容	テスト及びまとめ
	事前学修	第 14 回迄に学習した内容を復習しておく
	事後学修	全ての学習内容を再度復習する

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

大庭 克夫

- ◆**授業概要** 前期はまず、仏語のアルファベと発音の規則（＝綴り字と発音との関係）をしっかりと習得することから始まり、その後基本的な名詞、冠詞の使い分け、提示の仕方、形容詞の変化、3種類の動詞の活用（＝人称変化）を身に付けて、簡単な文章が作れるようにします。
- ◆**学修到達目標** 単にフランス語の基礎的な知識の習得に留まらず、将来的なフランス語学習のベースとなる、「発音の規則」「綴り字と発音との関係」を徹底して身に付けます。ただし前期 15 回の授業が終わった時点でも、きちんと取り組まれた方であれば、英語にすれば中 1 レベルの内容が、言えて・書けて・聞き取れるようになるはずです。
- ◆**授業方法** 中学の英語をベースに、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化などを学習します。なお授業は＜講義形式＞ではなく＜ゼミ形式＞で進めていきます。1 回の授業で最低 4～5 回は当てて答えてもらいます。また当然の話ですが、授業は＜説明＞することしかできません。仏語習得には授業で習った事柄を、翌週までに徹底してインプットする努力が必要不可欠です（＜覚える努力＞を伴わない出席は全く無意味です）。
- ◆**履修条件** 履修する可能性のある学生は必ず 1 回目の授業から出席すること。第 2 外国語に「ガイダンス」＝＜大まかな全体像の説明＞など存在しません：初回から即実際の授業（＝フランス語の＜アルファベ＞、発音と綴り字との関係）に入っていきます。初回を欠席した人は絶対に授業についてこれないのでそのつもりで。
- ◆**教科書** **資料配布（Classroom）** 初回に、フランス語の綴り字と発音との関係を分かりやすくまとめた B 4 判青色プリントを配布します：初學者にとっては大切なフランス語学習の原点です。
資料配布（Classroom） 4 回目授業時に、前期の学習内容をまとめた B 4 判 10P のプリント（CD 付き）を配布します：市販の教科書よりはずっとよくできているという自負はあります。
丸刈 履修が確定したなら、授業時には仏和辞典を必ず 1 冊用意してください。現在お持ちの方はそれで結構ですが、新しく購入される方には 4～5 回目の授業時に使いやすいものを何冊か紹介します。
- ◆**参考書** **通材**『フランス語Ⅰ E10100』通信教育教材（教材コード 000372）※この教材は市販の『新・ゼフィール』E.E.F.L.E.U.K（早美出版社）と同一です。スクーリングの授業レベルを超えて＜仏検 4 級＞以上を目指そうとする人には文法面で薦めます。
通材『フランス語Ⅱ E10200』通信教育教材（教材コード 000373）※この教材は市販の『フランス語基本 500 語』（財）フランス語教育振興協会（朝日出版社）と同一です。同じく＜仏検 4 級＞以上を目指そうとする人には単語面で非常に有用な参考書です〔添えられたイラストがとても可愛い〕。
- ◆**成績評価基準** 試験は中間と期末の 2 回行い、成績はこの試験の結果＝努力の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（＝原文を書き取ったのち和訳する）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一などは一切出題しません。

◆**授業相談（連絡先）**：E-Mail：katsuofrancois@mug.biglobe.ne.jp

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	フランス語のアルファベ、綴り字と発音との関係 1（青色プリント配布）
	事前学修	
	事後学修	まずはフランス語のアルファベを徹底して覚えること（英語式の「エー」「ビー」「シー」は全く問題外）
2 回	授業内容	綴り字と発音との関係 2：青色プリント左側を使って具体例とともに説明します。
	事前学修	青色プリントの左側のページに目を通してくること。
	事後学修	青色プリント左側の具体例の単語を、その「発音」「綴り」「意味」とともに覚える。
3 回	授業内容	綴り字と発音との関係 3：母音と母音の特別な組み合わせ（＝「複合母音」）は 5 種類、これを青色プリントの右側上半分を使って具体例とともに説明します。
	事前学修	青色プリントの右側のページ上段（「複合母音」の部分）に目を通してくること。
	事後学修	5 種類の「複合母音」をその具体例とともに徹底して覚えること。
4 回	授業内容	綴り字と発音との関係 4：母音と＜n＞との特別な組み合わせ（＝「鼻母音」）は 2 種類、これを青色プリントの右側下半分を使って具体例とともに説明します。
	事前学修	青色プリントの右側のページ下段（「鼻母音」の部分）に目を通してくること。
	事後学修	2 種類の「鼻母音」をその具体例とともに徹底して覚えること。
5 回	授業内容	B 4 判 10 ページから成るプリント集と CD を配布：そのプリントの 1P～2P 目を説明します。
	事前学修	
	事後学修	授業で具体例として挙げた名詞の「発音」「綴り」「意味」「性別」を覚えること。
6 回	授業内容	プリント 3P 目：3 種類の「冠詞」の使い分けをその具体例とともに説明します。
	事前学修	プリント 3P 目（「不定冠詞」「部分冠詞」「定冠詞」）に目を通してくること。
	事後学修	プリント 3P 目に具体例として挙げた「名詞」を、「冠詞」とともに覚えること。
7 回	授業内容	プリント 4P 目：数詞（1～10）と、「前置形容詞」「後置形容詞」の区別をその具体例とともに説明。また次の「中間試験」のための演習を行います。
	事前学修	プリント 4P 目（「数詞」、「前置形容詞」と「後置形容詞」）に目を通してくること。
	事後学修	プリント 4P 目に具体例として挙げた単語・表現をしっかりと身に付けること。
8 回	授業内容	前期中間試験
	事前学修	前期中間試験に向け、基本的な「名詞」「形容詞」などをしっかりと身に付けること。
	事後学修	試験終了後「解答」を配布するので、間違えた箇所を各自しっかりフォローすること。
9 回	授業内容	中間試験返却／解説。プリント 5P 目：「指示形容詞」と「所有形容詞」、3 種類の「提示の仕方」を、配布した CD を使いながら説明します。
	事前学修	プリント 5P 目（「指示形容詞」と「所有形容詞」、3 種類の＜提示の仕方＞）に目を通してくること。
	事後学修	プリント 5P 目の内容を、その具体的な用例・例文とともに覚えること。
10 回	授業内容	プリント 6P 目：フランス語の＜人称代名詞＞と、「動詞」＜être＞（＝be 動詞）の活用と用例を説明します。
	事前学修	配布した CD を聞きながら、プリント 6P 目の＜être＞の活用を目を通すこと。
	事後学修	「動詞」＜être＞の活用（「肯定形」と「否定形」）とその用例を徹底して覚えること。

11 回	授業内容	プリント7P目：「動詞」＜avoir＞（＝have）の活用と用例を説明します。
	事前学修	配布したCDを聞きながら、プリント7P目の＜avoir＞の活用と用例に目を通すこと。
	事後学修	「動詞」＜avoir＞の活用（「肯定形」と「否定形」）とその用例を徹底して覚えること。
12 回	授業内容	プリント7P～8P目：「第1群規則動詞」の活用と用例を説明します。
	事前学修	配布したCDを聞きながら、「第1群規則動詞」の活用と用例に目を通すこと。
	事後学修	「第1群規則動詞」の活用と用例をしっかりと覚えること。
13 回	授業内容	プリント9P～10P目：「基本的な前置詞の整理」とヒヤリング演習14題。
	事前学修	10P目の＜ヒヤリング演習＞用の14題を、自宅ですっかり取り組んでくること。
	事後学修	プリント9P～10P目の内容をしっかりと身に付けること。
14 回	授業内容	前期期末試験
	事前学修	前期期末試験に向け、3種類の動詞の活用・用例などをしっかりと覚えること。
	事後学修	試験終了後「解答」を配布するので、間違えた箇所を各自しっかりフォローすること。
15 回	授業内容	期末試験返却／解説。成績の開示。後期の学習内容を簡単に概括します。
	事前学修	
	事後学修	期末試験で間違えた箇所・できなかった箇所を徹底してフォローすること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学演習 B〕

野呂 有子

◆授業概要

- ◆**学修到達目標** 1. 受講学生が英米の文学作品について、偉大な先達（ミルトンやシェイクスピアなど）や書籍（英語訳聖書など）から継承した伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、テキストで扱われた個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英米文学や英語文学の全体像を把握し、英米文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品の位置を理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能を取得できる。

- ◆**授業方法** 指定テキスト『The Poetry of Film（英詩で味わう映画）』を基にしながら、教師が個々の作家と作品について、伝統と作家個人の独創性について説明する。特に個々の作家および作品の特徴的な部分を具体的に提示し、それを音読・吟味しながら理解を深める。比較的簡単な内容説明の英文を読み込みながら、英詩の真髄に触れる。必要に応じて配付資料を使用して、内容説明を補う。個々の作品について、生きた作家、と、生きた時代から＜生命＞を与えられて誕生した作品として捉え、その生命的躍動の流れを追うことを主眼とする。

- ◆**履修条件** なし。

- ◆**教科書** 丸沼 The Poetry of Film（英詩で味わう映画） Philip Zitowitz 他 7 名 金星堂 1900 円（税別）
資料配布（Classroom） Classroom を通して適宜配信する配付資料
その他 フリーウェブサイト 「野呂有子の研究ウェブサイト」

- ◆**参考書** 特になし

- ◆**成績評価基準** 授業参加意識の高さ（10%）、毎授業時に提出を要求する課題（40%）、受講学生自身による手書きノート（50%：コピー類は一切不可）の三点を基にして総合的に評価する。ノートは授業終了直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。

- ◆**授業相談（連絡先）**：E-mail：yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。教科書は授業時に指導教師と受講学生が一緒に読みながら授業を進める上、内容をノートに転記してもらうので必ず購入しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	授業の進め方、オリエンテーション、英米文学と英語文学の意義を説明し、その背景を解説する。導入（偉大な先達：Milton, Spenser, Shakespeare, Malory, Queen Elizabeth 偉大な書物：英語訳聖書）を行う。
	事前学修	テキストを最初から最後まで概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
2 回	授業内容	Chapter 1 映画『ローマの休日』を通して学ぶ、ロマン派詩人シェリーとキーツ、さらにワーズワスについても触れる
	事前学修	テキスト 6 から 9 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って課題提出が可能な状態にしておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
3 回	授業内容	Chapter 2 映画『オーランド』を通して、エリザベス朝の詩人たち、スペンサーとシェイクスピアが、20 世紀の女性作家ヴァージニア・ウルフに与えた影響について理解する。
	事前学修	テキスト 10 から 13 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
4 回	授業内容	Chapter 3 映画『理性と感情』を通して、19 世紀の女性作家ジェーン・オースティンの結婚観と当時の女性の置かれた社会的地位について考察・理解する。
	事前学修	テキスト 14 から 17 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
5 回	授業内容	Chapter 4 映画『ダラウェイ夫人』を通して、戦争（第一次世界大戦）による後遺症の問題、同性愛と異性愛、精神と生死の問題について学ぶ。さらにそこにシェイクスピアの影が射していることについても考察する。
	事前学修	テキスト 18 から 21 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
6 回	授業内容	Chapter 5 映画『明日をつかめ』を通して、第二次世界大戦後のエリート養成高校に現れた人間疎外の問題を考える。そこに 16 世紀英文学を風靡したカルピ・デイエムの思想が流れて生き続け、若者の精神を鼓舞していることをロバート・ヘリックの詩を手がかりに考察する。
	事前学修	テキスト 22 から 25 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

7回	授業内容	Chapter 6 映画『蛇の接吻』を通して、現代にもなお、英国の誇る革命叙事詩人ジョン・ミルトンの主張した結婚愛と「あるべき夫婦像」の問題が庭の文化の中に流れていることを確認する。
	事前学修	テキスト 26 から 29 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
8回	授業内容	Chapter 7 映画『死んだ男』を通して、開拓時代のアメリカ西部の荒涼たる風景の中にまで、ミルトンの楽園観とミルトンから大きな影響を受けた詩人ジョン・キーツの詩が生き続けて、極限所状態におかれた人間を励ます力を持っていることを確認する。
	事前学修	テキスト 30 から 33 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
9回	授業内容	Chapter 12 映画『赤毛のアン』を通して、20 世紀初頭のカナダ文学にまで、19 世紀英国の桂冠詩人アルフレッド・テニソンの影響があることを確認する。さらに、テニソン作『国王牧歌』に認められる、サー・トマス・マロリー作『アーサー王の死』の影響と、『赤毛のアン』に認められるフェミニズム的要素についても考察する。
	事前学修	テキスト 50 から 53 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
10回	授業内容	Chapter 14 映画『マディソン郡の橋』を通して、20 世紀最大の詩人と言われるウィリアム・バトラー・イエイツの詩について考察する。さらに、英国におけるアイルランド問題およびカトリック教の問題についても理解を深める。
	事前学修	テキスト 58 から 61 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
11回	授業内容	Chapter 16 映画『酒と薔薇の日々』を通して、英国 19 世紀末の詩人アーネスト・クリストファー・ダウソンの詩に触れる。「世紀末の退廃的デカダンス」について、オスカー・ワイルドについても考察しつつ、理解を深める。
	事前学修	テキスト 66 から 69 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
12回	授業内容	Chapter 18 映画『地獄の黙示録』を通して、20 世紀英国の誇るノーベル賞作家 T. S. エリオットの詩「虚ろな男」について考察する。さらに、19 世紀後半から 20 世紀前半の英国の誇る、海洋冒険小説作家ジョゼフ・コンラッド作『闇の奥』との関連についても解明する。時間に余裕があれば、ミュージカル『キャッツ』の原作となるエリオットの詩群を鑑賞する。
	事前学修	テキスト 74 から 77 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
13回	授業内容	Chapter 19 映画『四つの結婚と一つの葬儀』を通して、W. H. オーデンの詩「葬送ブルース」を鑑賞する。さらにオーデンの生き方を通して、「イギリス文学」と英国の文学作家たちの領域がイギリス国内にのみ留まるものではなく、広く世界に伝播し、国際性を帯びたものとなっていることを再確認する。
	事前学修	テキスト 78 から 81 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
14回	授業内容	Chapter 20 映画『卒業』を通して、ポール・サイモン作「サウンド オブ サイレンス」を鑑賞し、この楽曲が実は、1611 年英国のジェームズ一世の命により出版された『欽定英訳聖書』などイギリスの歴代の英語訳聖書の「詩篇」から大きなインスピレーションを得て作成されたものであることを明らかにする。併せて、すぐれた英米のポピュラー・ミュージックの多くが、「英語訳聖書」から影響を受けて作成されていることを確認する。
	事前学修	テキスト 82 から 85 頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
15回	授業内容	配付資料を基にして、『Paradise Lost』（『楽園の喪失』）と『The Phantom of the Opera』（『オペラ座の怪人』）等について比較・考察する。現代の映画作品にも様々な面で 17 世紀とそれ以前の英文学作品の影響が認められることを確認する。
	事前学修	配付資料を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋思想史Ⅰ〕

関谷 雄磨

- ◆**授業概要** 「西洋思想史Ⅰ」では、西洋の学問の原点ともいえる古代ギリシア・ローマの思想、およびそれと密接な関連にある中世の思想を歴史的展開に沿って学びます。それらの思想の担い手たちが一体どのような問題意識を持ち、どのような答えを見出してきたのかを学びます。なお、それらの思想は西洋文化全般の要となる基礎的な教養となっており、それらを学ぶことによって、価値観やライフスタイルが多様化する現代を見つめるヒントが得られるでしょう。
- ◆**学修到達目標** 前期には、「ギリシア神話」や「英雄物語」を通じてギリシア人の思考の文化的背景を学んだ後に、古代ギリシアの思想（古典期まで）を、歴史的展開に沿いながら主に「存在」の問題を軸にして学びます。「自己をとりまく世界は一体どのようなものか」、「世界には一体何が存在するのか」、「存在するとは一体どのようなことなのか」といった問題に対して、思想家たちがどのような答えを見出してきたのかを体系的に理解できるようになることを目標とします。
- ◆**授業方法** 授業は配布プリントを用いて講義形式で行います。基本的に毎回約45分の動画を二本ずつ配信します。休憩を入れたつ、なるべくリラックスして受講してください。なお、本講座では、いわゆるギリシア古典期までのさまざまな思想家（さらには神々や英雄たち）が登場しますが、理論としての思想だけでなく、彼らのエピソードや人物像、時代背景などもできるかぎり紹介し、なるべくリアリティのある授業を行いたいと思います。
- ◆**履修条件** 前期のみ、後期のみを受講も認めますが、学習効果を上げるため、なるべく前期・後期と通して受講してください。また、令和2年度前期昼間スクーリング「西洋思想史Ⅰ」（関谷担当）との積み重ねを不可とします。
- ◆**教科書** **資料配布（Classroom）** 毎回、授業の流れを簡潔にまとめたプリントと、必要な場合は追加資料をPDFで配布します。**通材**『西洋思想史Ⅰ P20200』通信教育教材（教材コード000569）
- ◆**参考書** **通材**『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード000404）
- ◆**成績評価基準** 期末レポート100%
- ◆**授業相談（連絡先）**：sekiya.yuma2020@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	ガイダンスおよび古代ギリシアについての一般的説明
	事前学修	通信教育教材『西洋思想史Ⅰ』pp.1～6を読むこと、また、図書館等を利用し、古代ギリシアの歴史について調べておくこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、紀元前8～6世紀ごろまでのギリシアの歴史を振り返ること
2回	授業内容	古代ギリシア神話<宇宙生成の物語（ヘシオドス『神統記』）、神々のプロフィール>
	事前学修	図書館等を利用し、オリンポス12神が、それぞれ何を象徴しどのような性格付けがなされた神々なのかを調べておくこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、神々の物語とそこに現れる人間観・世界観を振り返ること
3回	授業内容	英雄物語<トロイア戦争の物語（ホメロス『イーリアス』など）>
	事前学修	図書館等を利用し、トロイア戦争の大まかなストーリーを把握しておくこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、英雄たちの物語とそこに現れる人間観・世界観を振り返ること
4回	授業内容	古代ギリシア文字の読み方
	事前学修	配布プリントに基づいて、古代ギリシア語のアルファベットとローマンアルファベットの対応を見ておくこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、古代ギリシア語の音読を復習しておくこと
5回	授業内容	ミレトス学派<万物の「アルケー」は何か>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ミレトス学派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ミレトス学派の思想を振り返ること
6回	授業内容	ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団<数と数の比例による世界>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団の思想を振り返ること
7回	授業内容	ヘラクレイトス<「万物は流れる」>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ヘラクレイトス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ヘラクレイトスの思想を振り返ること
8回	授業内容	エレア学派<生成消滅・運動はあり得ない>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「エレア学派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、エレア学派の思想を振り返ること
9回	授業内容	多元論者とデモクリトス<古代原子論へ>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「多元論者とデモクリトス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、多元論者とデモクリトスの思想を振り返ること
10回	授業内容	ソフィストたち<「〇〇であると思われる」と「〇〇である」>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ソフィスト」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ソフィストの思想を振り返ること
11回	授業内容	ソクラテス<無知の自覚と主知主義>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ソクラテス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ソクラテスの思想を振り返ること
12回	授業内容	プラトン<永遠に変わらず、なくならない世界>
	事前学修	指定教科書もしくは参考書の「プラトン」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、プラトンの思想を振り返ること
13回	授業内容	アリストテレス<四原因説と目的論的世界観>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「アリストテレス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、アリストテレスの思想を振り返ること

14 回	授業内容	終講レポート課題の説明
	事前学修	全回を振り返り、授業内容を整理しておくこと
	事後学修	課題に取り組むこと
15 回	授業内容	総まとめ（質問コーナー）
	事前学修	全回を振り返り、疑問点を整理しておくこと
	事後学修	話題になったことがらを振り返り、理解を深めておくこと

〔英語 L（初級）〕

石川 勝

- ◆**授業概要** 基本的な文法の理解をもとにして、内容を理解してから和訳を行う。テキストはヨーロッパの歴史と文化に関するものなので興味が持てると思う。レベルとしては、初級としては難しいほうである。
- ◆**学修到達目標** 基本的な文法から始め、文法の知識を基ついで平易な英文が読めるようになる。それができたらさらに具体的な文法事項を理解し、やや難しい英文を読めるようになることを目標にする。
- ◆**授業方法** 対面授業で行う。最初に文法の説明をし、そのあと教科書を訳していく。授業中はアトラダムに指名するので、必ず予習をしておくこと。2回予習していないと不可にする。教科書は Chapter 2 から始める。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼「ヨーロッパの国と人々」金星堂
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 皆出席を前提とし、2回の小テストの結果で決める。
- ◆**授業相談（連絡先）**：classroom でメールでの質問に答える。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：ガイドランスと品詞の説明 事前学修：テキストを購入し、Chapter 2 をざっと見ておく。 事後学修：文法の復習
2 回	授業内容：五文型と教科書の訳 事前学修：課題を行い提出する。 事後学修：訳を訂正し間違っている箇所を復習する。
3 回	授業内容：五文型の続きと教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：五文型を理解する。
4 回	授業内容：不定詞の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：訳を訂正し間違っている箇所を復習する
5 回	授業内容：ing の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：現在分詞の内容を理解する。
6 回	授業内容：五文型の復習 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：訳を訂正し誤った箇所を復習する。
7 回	授業内容：発音記号の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：発音記号を覚える。
8 回	授業内容：小テストと教科書の訳 事前学修：試験勉強 事後学修：試験でできなかったところを復習する。
9 回	授業内容：試験の解説 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：試験で間違っていたところを復習する。
10 回	授業内容：関係代名詞の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：関係代名詞について理解する。
11 回	授業内容：五文型の復習 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：訳を訂正し間違っている箇所を復習する。
12 回	授業内容：仮定法の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：仮定法の内容を理解する。
13 回	授業内容：過去分詞の説明と教科書の訳 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：過去分詞について理解する。
14 回	授業内容：小テストと教科書の訳 事前学修：試験勉強 事後学修：小テストの復習
15 回	授業内容：小テストの解説 事前学修：指示された箇所を訳しておく。 事後学修：文法のおさらい

〔政治学原論〕

吉野 篤

- ◆**授業概要** 政治概念の歴史の変容を概観することを通じて、政治という現象の特質を把握する。
- ◆**学修到達目標** 政治とはどのような営みなのかを過去の学問的営為を振り返ることで把握できるようにする。
- ◆**授業方法** 基本的に講義形式で行う。また、ジャーナルな政治問題を考えるために主として新聞報道を素材としてコピーを配布し、授業の材料としたい。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）「政治学原論」（吉野篤）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 丸沼 吉野篤編『政治学 第2版』弘文堂 2018年
- ◆**参考書** 講義の際に指示する。
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み・最終試験により総合的に評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容	オリエンテーションとして前期の全体像を示す
	事前学修	テキストに目を通すこと
	事後学修	内容を確認すること
2 回	授業内容	古典古代の政治概念：プラトン
	事前学修	テキストの該当箇所をチェックすること
	事後学修	ノートを整理し、論点を確認すること
3 回	授業内容	古典古代の政治概念：アリストテレス
	事前学修	テキストで内容を事前にチェックすること
	事後学修	ノートを整理して論点を確認すること
4 回	授業内容	中世の政治像
	事前学修	中世の政治状況について事前に概要を把握すること
	事後学修	ノートを整理するとともに論点を確認すること
5 回	授業内容	マキャベリの画期的概念
	事前学修	ルネサンスの意義について学習しておくこと
	事後学修	ノートを改めて整理して論点を明確化すること
6 回	授業内容	社会契約説の歴史的意義
	事前学修	該当箇所をチェックすること
	事後学修	ノートを改めて整理し論点を明確化すること
7 回	授業内容	古典的自由主義の政治概念
	事前学修	市民革命の概要を学習すること
	事後学修	論点を改めて整理すること
8 回	授業内容	市民革命の政治過程：イギリス革命
	事前学修	17 世紀のイギリスの状況を事前にチェックすること
	事後学修	改めて論点を整理すること
9 回	授業内容	アメリカ独立革命の意義
	事前学修	18 世紀のアメリカ植民地の状況を調べること
	事後学修	論点を改めて整理すること
10 回	授業内容	フランス革命の政治過程
	事前学修	革命の位置づけについて事前に調べておくこと
	事後学修	論点を改めて整理すること
11 回	授業内容	保守主義の歴史的意義
	事前学修	保守という概念について事前に確認すること
	事後学修	論点を改めて整理すること
12 回	授業内容	19 世紀の政治概念 マルクスの政治理論
	事前学修	テキストで事前にチェックすること
	事後学修	論点を改めて整理すること
13 回	授業内容	20 世紀の政治概念 国家像の変遷
	事前学修	大衆社会の政治状況について事前に学習すること
	事後学修	論点を改めて整理すること
14 回	授業内容	丸山眞男の政治概念
	事前学修	丸山について事前に調べること
	事後学修	論点を再整理すること
15 回	授業内容	1980 年代の政治潮流、最終試験
	事前学修	1980 年代の政治的特質について事前に調べておくこと
	事後学修	改めて論点を確認・整理すること

〔国文学講義Ⅴ（近代）〕

榎本 正樹

- ◆**授業概要** 現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を鑑賞した上で、原作の小説を講読します。2020 年に劇場公開された作品から厳選して、6～7 作品をとりあげる予定です。文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。
- ◆**学修到達目標** 現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、作品の中核となる要素を抽出し、整理し、分析し、論述することができるようになります。個人の生き方や、個人と社会の関係について考える力が備わります。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性について理解を深めることができます。
- ◆**授業方法** 授業はオンデマンド形式で行います。Google Classroom で映像コンテンツを視聴してください。履修者は授業で取りあげる小説と映画を、あらかじめ読み、鑑賞しておくことが望ましいです（必須の要件ではありません）。小説を購読し、作品分析を行った後で、映画作品について検討を加えていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、人物設定や物語構成や叙述の方法の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。質疑応答は Google Classroom のコメント欄を使用して行います。
- ◆**履修条件** なし。
- ◆**教科書** ① 授業で取りあげる各小説の文庫本。初回の授業で詳説します。
② その他 授業で取りあげる各映画（DVD レンタルや各種ストリーミングサービスで鑑賞してください）。
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** レポート提出（100%）。授業で取りあげた作品（小説）から一作を選び、2,000 字以上で作品論を展開してください。詳細は、初回の講義時にお話しします。
- ◆**授業相談（連絡先）**：ツイッター（@enmt） メール（eno@mar.email.ne.jp）
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	イントロダクション（前期授業の内容説明）
	事前学修	改めて「講義内容」を熟読し、授業に備えてください。
	事後学修	授業で扱う作家・作品をリストアップし、来週からの授業に備えましょう。
2 回	授業内容	野中ともそ『宇宙でいちばんあかるい屋根』を読む。
	事前学修	作家の履歴や過去作について調べてみましょう。
	事後学修	印象に残ったシーンや作中の言葉を書き留めてみましょう。
3 回	授業内容	藤井道人監督『宇宙でいちばんあかるい屋根』を観る。
	事前学修	監督やキャストについて調べましょう。
	事後学修	印象に残ったシーンを書き留めておきましょう。
4 回	授業内容	今村夏子『星の子』を読む。
	事前学修	今村夏子の作品世界について整理しておきましょう。
	事後学修	『星の子』が芥川賞を受賞した際の状況について調べてみましょう。
5 回	授業内容	大森立嗣監督『星の子』を観る。
	事前学修	大森立嗣監督および、キャストについて調べましょう。
	事後学修	小説と映画の違い（内容、人物配置、時間構成）について整理しましょう。
6 回	授業内容	辻村深月『朝が来る』を読む。
	事前学修	辻村深月という作家について調べましょう。
	事後学修	「ミステリ」という枠組みで作家が提示したかったものは何だったのか考えましょう。
7 回	授業内容	河瀬直美監督『朝が来る』を観る。
	事前学修	河瀬直美監督とフィルモグラフィについて調べましょう。
	事後学修	映画と小説の違いが際立ったシーンを抜きだしてみましょう。
8 回	授業内容	前半三作品についてのまとめ。
	事前学修	前半に取りあげた三作品の中で、もっとも印象に残った小説をあげてみましょう。
	事後学修	もっとも印象に残った小説の、登場人物と物語内容をまとめてみましょう。
9 回	授業内容	塩田武士『罪の声』を読む。
	事前学修	グリコ・森永事件について調べましょう。
	事後学修	事件というできごとが、小説空間の中でいかにフィクション化されているのか考えてみましょう。
10 回	授業内容	土井裕泰監督『罪の声』を観る。
	事前学修	監督とキャストについて調べましょう。
	事後学修	タイトルの意味について考えてみましょう。
11 回	授業内容	若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』を読む。
	事前学修	作者について調べましょう。
	事後学修	作品の「語り口」の特徴についてまとめましょう。
12 回	授業内容	沖田修一監督『おらおらでひとりいぐも』を観る。
	事前学修	監督とキャストについて調べましょう。
	事後学修	宮澤賢治『永訣の朝』を読み直し、本作との関連性を確認しましょう。
13 回	授業内容	田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』を読む。
	事前学修	田辺聖子について調べましょう。
	事後学修	印象に残ったシーンや言葉を抜きだしてみましょう。
14 回	授業内容	タムラコータロー監督『ジョゼと虎と魚たち』を観る。
	事前学修	監督とキャストについて調べましょう。
	事後学修	2003 年に公開された実写版（犬童一心監督）を鑑賞しましょう。

15 回	授業内容	後半三作品についてのまとめ。
	事前学修	レポート執筆に向けて具体的な準備をしましょう。
	事後学修	レポートに取りあげなかった他の作家・作品について、もう一度振り返ってみましょう。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英作文Ⅱ〕

大庭 香江

- ◆**授業概要** 映画を題材として、アカデミックライティングを行う。学問的な文章を書く為に必要なスキルを、テーマの考え方、段落構成等を学習し、一定の分量の、学術的な文章を書く。
- ◆**学修到達目標** テーマを決め、段落構成（Introduction, Body, Conclusion）、正しい句読点法、引用の仕方等について学習し、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。
- ◆**授業方法** テキスト及び配布資料を用いて、アカデミックライティングについて学ぶ。実際に幾つかの映画作品を視聴し、また、その原作との比較を行うなどして、テーマを決め、作文する。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『英作文Ⅱ』（大庭香江）との積み重ね不可。
- ◆**教科書** 〔丸沼〕『名作映画で学ぶアメリカの心』 石塚他著 成美堂 2,400 円（税別）
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 授業内レポート、最終試験、授業参画度を、均等な割合で評価する
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：アカデミックライティングとはどのようなものかについての解説 事前学修：テキスト第一章全体に目を通し、映画『風と共に去りぬ』のあらすじを把握しておくこと 事後学修：テキスト付属の DVD で映画を視聴しておくこと
2 回	授業内容：構成についての解説（Introduction） 事前学修：段落構成についての配布資料に目を通しておくこと 事後学修：これまでに見た映画や文学、芸術作品等について、短い紹介文を書く
3 回	授業内容：構成についての解説（Body） 事前学修：これまでに見た映画や文学、芸術作品等について、短い紹介文を書いてみる。感想文ではない。 事後学修：選んだ作品の背景を調べる
4 回	授業内容：構成についての解説（Conclusion） 事前学修：選んだ作品の背景を調べ、要点をまとめておく 事後学修：作品の背景を、英文でまとめる
5 回	授業内容：句読点法について 事前学修：作品の背景を、英文でまとめ、句読点を打った箇所を確認しておく 事後学修：これまでに書いたものが、正しい句読点法に基づいて書かれているか、確認する
6 回	授業内容：テーマの決定 事前学修：今期の課題として提出する作文の、テーマについて考えておくこと 事後学修：選んだテーマでどの様に英文を構成するか、ドラフトを作る
7 回	授業内容：各自のテーマに基づくドラフトを読み、これまでの学習内容に沿っているかを確認する 事前学修：英文でドラフトを書いておくこと 事後学修：教員のアドバイスを元に、テーマ及びアイデアをより深め、洗練されたものにす
8 回	授業内容：引用の仕方について 事前学修：引用する文献や資料を準備しておくこと 事後学修：正しく引用がされているか、確認すること
9 回	授業内容：参考文献の書き方について 事前学修：引用する文献、参考文献を整理しておくこと 事後学修：参考文献が正しく記載されているか、確認すること
10 回	授業内容：アブストラクト、要約について 事前学修：キーワードを確認しておくこと 事後学修：アブストラクトを書く
11 回	授業内容：アブストラクトを確認する 事前学修：アブストラクトを準備しておくこと 事後学修：アブストラクトを点検し、校正する
12 回	授業内容：文体について 事前学修：改めて英作文したものを見なおし、文体について気付いた点を確認しておく 事後学修：学問的文章の文体として適当か、段落校正等を確認する
13 回	授業内容：文章を確認する 事前学修：段落構成の確認、スペルチェック等を行っておくこと 事後学修：英作文の校正を行う
14 回	授業内容：アブストラクトを確認し、提出する 事前学修：アブストラクトを読み返し、スペルチェック等を行っておくこと 事後学修：次回授業時のテストの為、作文を読み直して確認しておくこと
15 回	授業内容：テスト及びまとめ 事前学修：作文を読み返し、語彙、文法等、正しく用いられているか等を確認しておくこと 事後学修：これまで学修した内容全てを復習すること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語学演習 A】

小澤 賢司

◆**授業概要** 本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。④は時間的な余裕があれば行ないます。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② 各種文献を精読する。
- ③ 実際に論文を読む（体験する）。
- ④ 受講者同士で意見を交わし合う。

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の到達目標を設定します。④は時間的な余裕があった場合の到達目標となります。

- ① 論文の構成を理解し、説明することができる。
- ② 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- ③ 疑問を捻出することができる。
- ④ 協働作業（グループワーク）を通して、解決策（案）を創出することができる。

◆**授業方法** 本授業では、当日配布プリントおよび事前配布プリントを輪読形式で読み進めていきます。適宜、受講者を指名します。事前配布資料を配りますので、授業までに精読および自然な日本語に訳しておいてください。音読はとても重要ですので、既知の単語でも発音とアクセント（特にアクセント）はしっかり調べ、発声できるようにしておいてください。受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、全 15 回の「授業計画」はあくまで「目安」です。

◆**履修条件** 令和2年度夏期スクーリング『英語学演習』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

◆**教科書** 資料配布（Classroom） A 4版「縦」（Can と May について）の資料を配布します。

資料配布（Classroom） A 4版「横」（Had better について）の資料を配布します。

◆**参考書** その他 大学生・社会人向けの辞書を必ず持参してください。2003 年以降に発行された辞書が望ましいです。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、授業参画度（40%）

◆**授業相談（連絡先）**：Google フォームにて質問を受け付け、回答は授業中に行ないます（回答時間が足りない場合は別途方法を考えます）。

◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容	授業の進め方について、論文について、辞書について 論文を読む（その1） 序論：{Will / Can / Would / Could} you ～？の知識の確認
	事前学修	本授業のシラバスを熟読しておくこと {Will / Can / Would / Could} you ～？について手持ちの辞書や文法書で確認しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
2 回	授業内容	論文を読む（その1） 柏野（2002）：「ポライトネスの一側面」（3節「疑問文の検討」まで）
	事前学修	論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
3 回	授業内容	論文を読む（その1） 柏野（2002）：「ポライトネスの一側面」（6節「結語」まで）
	事前学修	論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
4 回	授業内容	論文を読む（その2） 序論：比較構文 as ... as の知識の確認 論文を読む（その2） 澤田（2018）：「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（3節「“x as ... as y” 構文の意味」まで）
	事前学修	比較構文 as ... as について手持ちの辞書や文法書で確認しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
5 回	授業内容	論文を読む その2 澤田（2018）：「“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって」（5節「おわりに」まで）
	事前学修	論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
6 回	授業内容	文献を読む Leech（2004）：Can と May（事前配布資料1ページ目）
	事前学修	事前配布プリント（A 4版縦）の1ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
7 回	授業内容	文献を読む Leech（2004）：Can と May（事前配布資料2ページ目）
	事前学修	事前配布プリント（A 4版縦）の2ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
8 回	授業内容	文献を読む Leech（2004）：Can と May（事前配布資料3ページ目）
	事前学修	事前配布プリント（A 4版縦）の3ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
9 回	授業内容	文献を読む Leech（2004）：Can と May（事前配布資料4ページ目）
	事前学修	事前配布プリント（A 4版縦）の4ページ目を精読し、日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
10 回	授業内容	論文を読む（その3） 柏野（2002）：「可能性を表す can と may」
	事前学修	論全体の構成、話の流れ（論理的過程）、主張の展開方法、客観性の有無など、第1回目で伝えたことを意識しながら文献を読むこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
11 回	授業内容	論文を読む（その4） Altman（1986）：“Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（IDENTIFYING THE PROBLEM まで）
	事前学修	事前配布プリント（A 4版横）の文献を精読し、日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと

12 回	授業内容	論文を読む（その4） Altman（1986）：“Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（MODAL TEST ITEMS まで）
	事前学修	事前配布プリント（A 4 版横）の文献を精読し，日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
13 回	授業内容	論文を読む（その4） Altman（1986）：“Getting the Subtle Distinctions: Should Verbus Had Better”（DISCUSSION まで）
	事前学修	事前配布プリント（A 4 版横）の文献を精読し，日本語訳を用意しておくこと
	事後学修	授業内容を復習しておくこと
14 回	授業内容	これまでの復習（予備回）
	事前学修	これまでの授業で不足と感じるものについて質問を考えておくこと
	事後学修	テストに備えて勉強しておくこと
15 回	授業内容	総括テストおよびまとめ
	事前学修	テストに備えて勉強しておくこと
	事後学修	本授業で学んだことを今後の学修に活かすこと

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学基礎講読〕

石井 友人

- ◆**授業概要** 17 世紀西洋思想の古典アルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』及び同書と関連する諸テキストを読んでいきます。デカルトからの影響下に執筆された同書第一部「観念について」の読解を通して、近代哲学の基礎概念と基本問題（主にデカルト哲学とその周辺思想）を確認し、近代哲学がその黎明期にもっていた可能性を考察していきます。
- ◆**学修到達目標** 『論理学、別名思考の技法』の読解を通して、西洋哲学の基本用語と問題意識を知り、基礎的な哲学書を読み込んでいく力を身につけていく事を目的とします。
- ◆**授業方法** 教科書と配布プリントにより講義形式で行います。最初は、内容を大づかみにしながら読んでいきます。本文が分かりにくい場合は、部分的に、デカルトたちのより分かりやすいテキストに切り替えるなど、内容把握を優先します。何回かは、教科書を離れて、哲学的な背景を説明する事にさく予定です（講読の進度によっては授業計画を変更することもある）。尚、動画の時間は、50 分から 90 分まで内容に合わせて不定です。
- ◆**履修条件** 令和2年度昼間スクーリング（前期）『哲学基礎講読』（担当者：石井友人）とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** **通材** 哲学基礎講読 P20100』通信教育教材
資料配布（Classroom）『論理学』読解に必要な哲学書の抜粋、コピー（授業のレジュメではありません）。
- ◆**参考書** なし 講義の中で紹介する。
- ◆**成績評価基準** 中間課題、最終課題の二度のレポート提出により評価する。二回とも提出する事を前提とし、各 50% で評価。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容	ガイダンス（シラバスの説明） 『論理学、別名思考の技法』『第一序説』を読み、本書の基本問題を確認する。良識について。
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	「第一序説」の範囲で、良識とは何か、そして、アルノーが、どのような人間観、問題意識でこの本を書いているのか、まとめられるようにしておくこと。
2 回	授業内容	デカルトの何が新しかったのか？『精神指導の規則』『第一規則』を読む。
	事前学修	『精神指導の規則』『第一規則』を読んでおくこと。翻訳はどの版でもかまいません。
	事後学修	デカルトとアリストテレス主義の違いを確認しておくこと。
3 回	授業内容	デカルトのアリストテレス・スコラ批判。デカルトにおける良識について。 『論理学』『前文』を読む。論理学とは何か？
	事前学修	前回の配布プリントと、『論理学』『前文』および第一部第一章冒頭部分を読んでおくこと。論理学とは何か確認しておくこと。
	事後学修	デカルトにおける良識について、『論理学』の良識の説明と比較できるようにしておくこと。 「前文」の範囲で、論理学とは何か説明ができるようにしておくこと。
4 回	授業内容	『論理学、別名思考の技法』第一部「観念について」における「観念」の定義を確認する。
	事前学修	第一部第一章「諸観念の本性と起源とについて」を読み、いくつかの話題からできているのか、段落分けをしておくこと。また、冒頭、観念は単純なものであると述べられているが、どのような意味であるか考えておくこと。
	事後学修	観念が単純であるとはどのような事か。観念とは何か、想像とどのような関係にあるのか確認しておくこと。
5 回	授業内容	前回の続き。 また、訳者解説を参照しながら、デカルトにおける観念についての議論との関係を考える。
	事前学修	教科書の訳者解説の観念についての説明（特にデカルトの観念説に関する部分）を読んでおくこと。
	事後学修	アルノーの観念についての考え方、デカルトの考え方はどのような呼応関係にあるのか、まとめられるようにしておくこと。
6 回	授業内容	観念の起源について
	事前学修	第一章「諸観念の本性と起源とについて」の後半部分を読んでおくこと。
	事後学修	アルノーの生得観念説擁護のポイントをまとめておくこと。
7 回	授業内容	観念の明晰と判明について、身心問題について
	事前学修	第九章を読んでおくこと。
	事後学修	明晰と判明の定義の確認をしておくこと。
8 回	授業内容	身心問題について、『デカルト＝エリザベト往復書簡』を読む。
	事前学修	『デカルト＝エリザベト往復書簡』第五書簡まで読んでおくこと。
	事後学修	身心の区別、また合一について、まとめておくこと。
9 回	授業内容	第十章には何が書いてあるのか
	事前学修	第十章の内容を精読し、何が問題になっているのかを考えておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
10 回	授業内容	第十章について、パスカル『パンセ』を読む。権力と真理について。
	事前学修	第十章の内容を精読し、何が問題になっているのかを考えておくこと。
	事後学修	第十章の書かれた歴史的な背景について確認しておくこと。
11 回	授業内容	第十章について、道徳的誤謬と権力批判以外の読解の可能性を考える。
	事前学修	これまでの授業内容を踏まえて、第十章の内容をもう一度考えておくこと。
	事後学修	複数の読解方法について整理しておくこと。
12 回	授業内容	再び「前文」を読む。また第四章「事物の観念と記号の観念」を読む。観念と記号の関係について。
	事前学修	「前文」と第四章について読んでおくこと。
	事後学修	言葉が思考においてどのような役割を果たすと考えられているのか、確認しておくこと。
13 回	授業内容	記号の三分類について。
	事前学修	第四章を読んでおくこと。
	事後学修	観念と記号の関係について確認しておくこと。

14 回	授業内容	観念と記号の関係について再び考える。ホッブズの唯名論について。
	事前学修	教科書第一部第一章のホッブズについての記載を読んでおくこと。
	事後学修	観念と言葉の関係についてまとめておくこと。また、ホッブズとアルノーらの論旨の違いがどこにあるのか確認しておくこと。
15 回	授業内容	まとめ（講読の進度によっては通常の講義に変更する）
	事前学修	講義で取り上げた諸章を読み直し、ノートと照らしながら内容を確認すること。
	事後学修	本講義で扱った観念説や、言語論、心身問題などの基本的な哲学の問題について、自分が興味をもてるような哲学者、哲学書を探し、理解を深めていくのが良いでしょう。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商業政策 A〕

花田 哲郎

◆**授業概要** この授業では、商業政策について、初めにその対象となる世界、および日本の商業の歴史を辿り、理解したうえで、特に日本の商業政策に絞ってその歴史を概観する。次に現在、色々な課題に直面する商業に関して、地域活性化に焦点を絞り、マーケティング、経営管理、および経営戦略の領域からその達成のために必要とされる知識や手法を習得する。その上で、2030 年と 2050 年という具体的な将来を見据えた地域活性化に関して、現在の事例や一般的に各地域に賦存する資源の利用の可能性を検討し、新たな商業政策の姿を考えていく。

◆**学修到達目標** 商業について、歴史や政策、課題などについて理解し、説明できるようにするとともに、現在直面する地域の活性化に取り組み組織における経営学的な知識を持ち、地域活性化に関する提言ができるようにする。

◆**授業方法** 主にパワーポイントで作成した教材をもとに説明する。また必要に応じて資料の配布や紹介も行う。特に学生よりの質問への回答や議論により、授業内容の幅を広げる。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『マーケティング基礎の基礎（改訂新版）』花田哲郎・瀬川順弘著 樫の木書房 2021 年
資料配布（Classroom）都度

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 各回の最後に実施する簡単な授業内レポートと試験の結果を総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom、およびメールで行う。尚、このためのメアドは初回に連絡する。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	導入（前期後期を通した本講座の構成、学修に当たっての諸注意など）
	事前学修	不要
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。
2 回	授業内容	世界の商業の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
3 回	授業内容	世界の商業の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
4 回	授業内容	日本の商業の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
5 回	授業内容	日本の商業の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
6 回	授業内容	日本の商業の歴史(3)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
7 回	授業内容	日本の商業の歴史(4)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
8 回	授業内容	日本の商業政策の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
9 回	授業内容	日本の商業政策の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
10 回	授業内容	街づくり 3 法の歴史と概要
	事前学修	事前に資料を配布するので、熟読すること。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。

11 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(1)ー従来の販売との違い
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
12 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(2)ーマーケティングミックスと戦略、STP
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
13 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(3)ーマッカーシーの4P
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
14 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(4)ーブランド
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
15 回	授業内容	前期のまとめと期末試験
	事前学修	今までの講義内容を確認したものとする。不明点があれば当日質問できるように準備しておく。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。

〔市場調査論〕

最上 健児

◆**授業概要** 線型回帰分析を踏まえ、その拡張として理解することのできる、非線型回帰分析を紹介する。具体的には累乗モデル、ロジスティック回帰分析を取り扱い、最終的にはロジットモデルを紹介する。ロジットモデルはマーケティング固有のモデルであり、市場調査において極めて重要なモデルとなる。本講義では「仮定」のもたらし「結論」への影響を意識し、ロジットモデルの優位性を確認していく。

◆**学修到達目標** 仮定により結論が異なることを知る。

指数モデルの推定を行える。

ロジスティック回帰分析の推定が行える。

ロジットモデルを数学的に理解する。

◆**授業方法** 授業は数回ごとにまとめた内容の講義となっている。ある程度区切りのいい部分で毎回の授業を構成するが、前回の内容を踏まえ当日の授業を進める形式をとるため当日の資料を入手するだけにとどまらず前回の内容を確認しておくことが好ましい。

提示している資料を配信するが、併せてノートを取ることを強く勧める。ノートは資料を写すのではなく、式の変換などを自ら行い、資料と同じ結果が導かれていることを確認していくようにしてください。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** **資料配布 (Classroom)** 授業ごとのトピックスをさせ、関連する資料へのリンクを提示します。

その他 「最上資料館」より配信。閲覧には PowerPoint Keynote を使用してください。

URL <http://mogami-labo.sakura.ne.jp/>

その他 YouTube 「ゆっくり市場調査論」

<https://www.youtube.com/channel/UCpPWPKvPt4v6d8-Ah6Mu9g>

◆**参考書** 特になし

◆**成績評価基準** 最終レポート（100%）によって評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：大学・学籍番号・氏名を、明示し、電子メールで問い合わせてください。

e-mail address : mogami.kenji@gmail.com

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容： x^n の導関数
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
2 回	授業内容： 指数と対数
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
3 回	授業内容： 仮定と結論の関係
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
4 回	授業内容： ロジスティック曲線の紹介
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
5 回	授業内容： ロジスティック曲線と線形回帰分析の関係
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
6 回	授業内容： 尤度と最尤推定
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
7 回	授業内容： ロジスティック回帰分析におけるパラメータの解釈
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
8 回	授業内容： ロジスティック回帰分析の多変数化
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
9 回	授業内容： 対数変換時の注意事項
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
10 回	授業内容： 完全分離
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
11 回	授業内容： 第一種極値分布の分布関数と密度関数
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
12 回	授業内容： ロジットモデルの確率的部分
	事前学修：「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修：「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。

13 回	授業内容	ロジットモデルの確定的部分
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
14 回	授業内容	ロジットモデルとロジスティック回帰分析の関係
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
15 回	授業内容	ロジットモデルの多変数化
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔ドイツ語Ⅰ・Ⅱ〕

中島 伸

- ◆**授業概要** ドイツ語を読むために必要な初級レベルのドイツ語文法と語順（ドイツ語の語順は日本語とよく似ています）を習得することによって、平易なドイツ語文が読めるようになることを目標とします。また、熟語表現などの語彙力の強化も目標とします。
- ◆**学修到達目標** 1. 正しいドイツ語の発音ができる。2. 語彙力が身に付くようになる。3. 基本的なドイツ語文法と語順の理解によって、平易なドイツ語文が読める。
- ◆**授業方法** オンデマンド授業で提示された動画は必ず視聴して下さい。一度の視聴で分からなかった内容の動画は繰り返し視聴し、それでも分からなかった点についての質問は随時受け付けます。対面授業では、基本的に次のような手順で進めていきます。授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題で定着させていき、ドイツ語の語順を理解するねらいとして、練習問題文の和訳を行い発表してもらいます。そして、文法事項と語順の確認の意味を込めて、学期中に数回7～10行程度の長文講読を行います。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** 丸沼『必要最低限のドイツ語文法 改訂版』中島伸著 DTP 出版 2019 年
資料配布 (Classroom) 長文テキスト資料は Classroom 内で配布いたします。
- ◆**参考書** 独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回授業時に紹介します。
- ◆**成績評価基準** 期末試験（全体の 50%）。オンデマンド授業で出される課題は評価対象となりますので全て提出するようにして下さい（全体の 50%）。対面授業では、各日の最後の時間に実施する授業内レポートが評価対象となります（全体の 50%）。オンデマンド授業、対面授業において総合的に評価します。全て出席していることを前提として評価します（オンデマンド授業の場合、課題の提出が出席を兼ねます）。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・音と文字：まず、本授業の進め方を説明する。次に、ドイツ語のアルファベットの読み方、アクセントの位置、母音の長短、そして注意すべき母音と子音の読み方について説明する。
	事前学修	教科書 1～2 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容	名詞：名詞の性の種類、そして名詞の性の識別について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 3～4 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容	動詞の現在人称変化：不定詞と動詞の形式の違い、そして動詞の現在人称変化について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 6～8 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容	定冠詞と不定冠詞：定冠詞と不定冠詞の用法、そして両者の格変化について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 10～12 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容	定冠詞類と所有冠詞：定冠詞類と所有冠詞の用法、そして両者の格変化について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 13～14 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容	定動詞の位置と疑問文：平叙文と疑問文の違い、そして両者における定動詞の位置について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 15 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容	不規則な現在人称変化をする動詞：主語の種類に応じて不規則な現在人称変化をする動詞について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 16～19 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容	長文講読①：第 3 回～第 7 回の授業時に説明した文法事項を含む長文の講読を行う。
	事前学修	第 3 回から第 7 回の授業内容を整理したノートを確認し、Classroom にアップロードされている長文の和訳をしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容	名詞の複数形：複数名詞の 6 つの種類について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 21 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容	人称代名詞：人称代名詞の形式と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 22～23 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容	命令形：動詞の命令形の作り方とそれを含む命令文の用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 25 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容	否定表現：否定表現である否定冠詞 kein と否定詞 nicht の用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 27～28 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容	前置詞：前置詞の種類と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書 29～30 頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。

14 回	授業内容	長文講読(2)：第9回～第13回の授業時に説明した文法事項を含む長文の講読を行う。
	事前学修	第9回から第13回の授業内容を整理したノートを確認し、Classroom にアップロードされている長文の和訳をしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
15 回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	予め配布された資料を熟読し、テキスト・プリントの該当箇所をまとめておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が解いた問題の解答が適切かどうかを再確認すること。

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

山崎 泉

◆**授業概要** グローバル化の中、国文学の定義も徐々に変容しつつあります。本講義では国文学とは何かに関する概説を行った後、近世小説を代表する作品の一つである上田秋成の『雨月物語』の中から「菊花の約」を講読します。一つの作品とじっくり向き合う中で、国文学の神髄に触れ、国文学とは何かについて具体的に考察することを主眼とします。

◆**学修到達目標** 古典作品の読解力が向上し、国文学に対する理解が深まります。
近世文学と先行する時代の文学との関連性が理解できるようになります。
国文学を学ぶ上での基本的なスキルが向上します。

◆**授業方法** 主に講義形式で行います。まず、国文学の定義について考察した後、近世小説のジャンルとおおまかな歴史を学びます。その上で、上田秋成と『雨月物語』に関する概説を行い、「菊花の約」の本文を読み進めていきます。一度の視聴で理解できない場合には、繰り返し動画を視聴して着実に学修を進めて下さい。開講期間中、学修状況を確認するための小テストを2回行う予定です。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『改訂版 雨月物語 現代語訳付き』 上田秋成著 鷗月洋訳注
角川学芸出版（角川ソフィア文庫）864 円（税込）
資料配布（Classroom）各授業回毎にテキスト講読のための補足資料（レジュメ）を配布します。

◆**参考書** 丸沼 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、試験（80%）により、総合的に評価します。
毎回出席すること（出席確認は Google フォームを用いる予定です）、小テスト（2 回）に回答することを前提として採点します。

◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行います。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・国文学とは何か？ 授業の進め方について説明します。その上で、国文学の定義について考察し、多様化する国文学の現在に関する解説を行います。
1回	事前学修	シラバスの内容を確認して下さい。 テキスト（現代語訳及び原文、解説部分）を通読して下さい。
	事後学修	再度テキスト（現代語訳及び原文、解説部分）を通読して下さい。 配布したレジュメの内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
2回	授業内容	近世小説 その歴史とジャンル(1) 配布したレジュメを参照しつつ、多種多様なジャンルを生み出した近世小説の流れ及び代表的な作品について解説します。
	事前学修	前回の授業内容を再確認して下さい。 レジュメを通読して下さい。
	事後学修	レジュメの内容を再確認しながら、補足事項をノートにまとめて下さい。
3回	授業内容	近世小説 その歴史とジャンル(2) 引き続き、近世小説の流れ及び代表的な作品について解説します。
	事前学修	前回の授業内容を、レジュメ及びノートを参照しながら再確認して下さい。
	事後学修	レジュメの内容を再確認しながら、補足事項をノートにまとめて下さい。
4回	授業内容	上田秋成 その生涯と作品 『雨月物語』の作者である上田秋成の人物像及び代表的な作品について解説します。
	事前学修	テキストの解説部分及び上田秋成の略年譜を通読して下さい。
	事後学修	これまでの授業内容を再確認し、ノートの整理を行って下さい。
5回	授業内容	上田秋成及び近世小説に関する小テスト これまでの学修状況を確認する小テストを行います。
	事前学修	ノートの整理を行いながら、前回までの学修内容を再確認して下さい。
	事後学修	テストの内容を振り返りながら、回答に不備がなかったか確認を行って下さい。 テストの内容をノートにまとめて下さい。
6回	授業内容	「菊花の約」講読(1) 「菊花の約」の本文を講読します。まず原文を読んだ後、現代語訳を参照、再び原文に戻って作品内容の解説を行います。
	事前学修	原文が読めるように、旧仮名遣いや文法について再確認を行って下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
7回	授業内容	「菊花の約」講読(2) 前回講読した内容を確認した後、引き続き「菊花の約」の本文を講読します。逐一、現代語訳も参照し、的確に内容を把握しながら読み進めていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
8回	授業内容	「菊花の約」講読(3) 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。講読と同時に、本文中に引用される先行文学作品に関する調査も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
9回	授業内容	「菊花の約」講読(4) 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。講読と同時に、典拠とされた先行文学作品に関する学修も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。

10 回	授業内容	「菊花の約」講読 ⁽⁵⁾ 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。現代語訳に頼る比率を少しずつ下げ、原文のみで読み進めることができるようにしていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
11 回	授業内容	これまでの学修事項に関する小テスト これまで講読してきた内容の理解度を確認するため、小テストを行います。
	事前学修	これまで講読した内容を確認した上で、テキストとレジュメを参照しながらノートの再整理を行って下さい。
	事後学修	テストの内容を振り返りながら、回答に不備がなかったか確認を行って下さい。 テストの内容をノートにまとめて下さい。
12 回	授業内容	「菊花の約」講読 ⁽⁶⁾ 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。主人公の人物造形等、作品内容の深い部分にまで考察しながら、講読を進めていきます。
	事前学修	第10回までに講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
13 回	授業内容	「菊花の約」講読 ⁽⁷⁾ 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。自分なりに疑問点、問題点を見つけ、それらについて考察しながら読み進めることができるようにしていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
14 回	授業内容	「菊花の約」講読 ⁽⁸⁾ ・まとめ 引き続き「菊花の約」の本文を講読します。最後まで講読した後、全体の内容確認を行い、これまで学修してきた内容の総括を行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	「菊花の約」全文の内容を再確認し、テキスト及びレジュメを参照しながらノートの再整理を行って下さい。 原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
15 回	授業内容	最終レポート 課題に基づいてレポートを執筆、提出して下さい。
	事前学修	レポート執筆に備えて、先行研究の調査及び資料収集を行って下さい。
	事後学修	授業で学んだことを振り返り、その内容をもう一度確認した上で、「国文学とは何か」に関する考察及び理解を深めて下さい。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔宗教学概論〕

合田 秀行

- ◆**授業概要** 異文化を理解する上で、さまざまな宗教文化を理解することは、重要な要素と言えます。この講義では世界における五大宗教の理解を軸として、それぞれの開祖・主要な教義・聖典・救いのシステム・歴史的展開を概説していきます。その過程で、諸宗教に共通して見られる概念について理解を深め、宗教学という学問の特徴や宗教学における基本的な概念・用語について取り上げます。
- ◆**学修到達目標** 世界三大宗教にも含まれ、日本とも関係の深い東洋を代表する仏教、インドの民族宗教であるヒンドゥー教の歴史と主な教義を理解し、説明することができます。さらに、その他の宗教では、日本の民族宗教である神道をはじめ、儒教・道教・アイヌの宗教など、その他の東洋の宗教についてもその特徴を知り、説明することができます。
- ◆**授業方法** 指定した市販教科書に基づいて、オンデマンド授業で進めます。適時、担当者の作成した補足資料も使用します。1回の講義につき 60 分～90 分の配信教材を視聴してもらいます。その際は、配信教材にメンバーを付して、2～3 のファイルに分け、1 ファイルが長くなりすぎないようにします。質問などは Classroom 上で随時受け付けて、速やかに回答するようにします。各章ごと、あるいは区切りのよいところで、3 回程度の課題・小テスト（穴埋め問題＋記述式）を実施しますので、締切期限を守って提出してください。
- ◆**履修条件** 令和2年度の昼間スクーリング「宗教学概論」との積み重ね不可。前期のみの受講も可能ですが、後期も同一教科書の残りの箇所を取り上げますので、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**教科書** 丸沼『図解世界5大宗教全史』 中村圭志著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2,376 円（税込）
- ◆**参考書** 通材『宗教学 B11000』 通信教育教材（教材コード 000004）
通材『宗教学概論 P30400』 通信教育教材（教材コード 000139）
- ◆**成績評価基準** 講義内で実施する課題・小テスト（40%）と前期末に講義内で提出してもらう 2000 字程度のレポート（60%）とによって総合的に評価します。レポートは、前期で取り上げた内容の中から、各自がテーマを決めて作成してもらいます。詳細は講義内（Classroom）で指示します。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	講義の進め方全般に関してガイダンスを行う。仏教① 釈迦の生涯、初期仏教と大乘仏教の歴史的展開を概説する。
	事前学修	テキストの 20 ～ 27 ページを予め読み、仏教の概観を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、釈迦伝・仏教の歴史を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
2 回	授業内容	仏教② 初期仏教における煩悩・菩提・中道・四諦・八正道等を解説する。
	事前学修	テキストの 28 ～ 29, 34 ～ 41 ページを予め読み、初期仏教の教理を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、初期仏教の教理を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
3 回	授業内容	仏教③ 大乘仏教の空・六波羅蜜の教義や大乘仏教の諸仏・諸菩薩を解説する。
	事前学修	テキストの 30 ～ 33, 42 ～ 55 ページを予め読み、大乘仏教の特徴を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏教の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
4 回	授業内容	仏教④ パーリ初期仏典の成立過程を学び、ダンマパダなどの仏典を講読する。小テスト実施。
	事前学修	テキストの 56 ～ 61 ページを予め読み、初期仏典について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、初期仏典の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
5 回	授業内容	仏教⑤ 大乘仏典の成立、特に日本人に親しまれている般若心経を概説する。
	事前学修	テキストの 62 ～ 65 ページを予め読み、大乘仏典について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏典の特徴を比較・整理してノートにまとめ確認しておくこと。
6 回	授業内容	仏教⑥ 大乘仏典で日本の宗派に影響を及ぼした法華経・浄土三部経を概説する。
	事前学修	テキストの 62 ～ 77 ページを予め読み、大乘仏典について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、大乘仏典の特徴を比較・整理してノートにまとめ確認しておくこと。
7 回	授業内容	仏教⑦ 日本仏教の特徴を概観し、南都六宗・密教（奈良・平安時代）の教義を解説する。
	事前学修	テキストの 78 ～ 83 ページを予め読み、日本仏教の特徴を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、日本仏教の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
8 回	授業内容	仏教⑧ 日本仏教の浄土信仰・法華信仰・禅の諸宗派（鎌倉時代）を概説する。小テスト実施。
	事前学修	テキストの 84 ～ 89 ページを予め読み、日本仏教の諸宗派を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、日本仏教の諸宗派の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
9 回	授業内容	ヒンドゥー教① ヒンドゥー教の特徴、その歴史的展開を概観する。
	事前学修	テキストの 92 ～ 101 ページを予め読み、ヒンドゥー教について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の歴史を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
10 回	授業内容	ヒンドゥー教② ヒンドゥー教の教義（輪廻・解脱・儀礼）を解説する。
	事前学修	テキストの 102 ～ 109 ページを予め読み、ヒンドゥー教の教義を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の教義を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
11 回	授業内容	ヒンドゥー教③ ヴィシュヌ神とシヴァ神、諸叙事詩の特徴を概説する。小テスト実施。
	事前学修	テキストの 110 ～ 119 ページを予め読み、神々と叙事詩について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、ヒンドゥー教の神々と叙事詩を整理して確認しておくこと。
12 回	授業内容	その他の宗教① ソロアスター教・ジャイナ教・シク教などの特徴について概説する。
	事前学修	テキストの 266 ～ 274 ページを予め読み、東洋の諸宗教について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、東洋の諸宗教の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
13 回	授業内容	その他の宗教② 神道における古代・中世の特徴を補足資料も併用して概説する。
	事前学修	テキストの 276 ～ 277 ページ、補足資料を予め読み、神道について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、記紀神話・本地垂迹説などを整理してノートにまとめ確認しておくこと。

14 回	授業内容	その他の宗教③ 神道における近世・近代の特徴を補足資料も併用して概説する。
	事前学修	テキストの 276 ～ 277 ページ，補足資料を予め読み，神道の展開を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，国学・教派神道・国家神道を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
15 回	授業内容	その他の宗教④ 琉球の宗教・アイヌの宗教・日本の新宗教を概説する。授業内前期末レポート提出。
	事前学修	テキストの 278 ～ 285 ページを予め読み，琉球・アイヌの宗教などを予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，その他の宗教の特徴を整理してノートにまとめ確認しておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商業史〕

竹内 真人

- ◆**授業概要** 商業史（前期）では、西洋商業史の発展について学修するが、特にイギリスで最初に確立し、その後周辺諸国に拡大した近代資本主義の世界的展開過程について考察する。イギリスで近代資本主義がどのように成立し、その後全世界に拡大したのかを解説する。グローバルな観点から、近現代の政治・経済・文化現象を総合的に把握できるようになることを目的としている。
- ◆**学修到達目標** 1. イギリスで封建制から近代資本主義がどのように成立してきたのかを歴史的観点から説明することができる。
2. 近代資本主義における資本増殖のメカニズムを説明できる。
3. 近代資本主義が周辺諸国を巻き込みながら、どのように世界的に拡大してきたのかを説明できる。
4. 近代資本主義が帝国主義とどのように関係してきたかを説明できる。
- ◆**授業方法** 授業動画を視聴し、授業内容をまとめたレポート課題を毎回提出する。第1～2回目では、世界経済を捉える視点について説明する。第3～5回目では、近代資本主義の資本増殖のメカニズムについて解説する。第6回目以降は、近代資本主義が帝国主義と関係しながら、どのように世界的に拡大してきたかを説明する。授業内容の質問については随時受け付ける。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** **【教材】**『商業史 S 32100』（通信教育教材）（教材コード 000555）
【参考】『世界流通史』 谷澤毅著 昭和堂
- ◆**成績評価基準** オンデマンド授業で課される課題は、評価対象であるのですべて提出すること（100%）。なお、課題の提出は出席を兼ねるものとする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：Classroom 上にて行う
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：「商業史（前期）」の課題と方法
	事前学修：百科事典等を活用し、産業革命について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
2 回	授業内容：大塚史学と近代世界システム論
	事前学修：大塚久雄とウォーラス・ステインについてインターネット等で調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
3 回	授業内容：産業革命と工業化(1)資本の本源の蓄積
	事前学修：資本の本源の蓄積についてインターネット等で調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
4 回	授業内容：産業革命と工業化(2)産業資本の循環
	事前学修：百科事典等を活用し、カール・マルクスについて調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
5 回	授業内容：産業革命と工業化(3)欧米諸国の産業革命
	事前学修：世界史事典等を活用し、欧米諸国の産業革命について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
6 回	授業内容：「大西洋三角貿易」の構造と展開
	事前学修：世界史事典等を活用し、奴隷貿易について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
7 回	授業内容：「アヘン三角貿易」の構造と展開
	事前学修：世界史事典等を活用し、アヘン戦争について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
8 回	授業内容：汽船ネットワークの世界的拡大
	事前学修：インターネット等を活用して、イギリスの海運会社について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
9 回	授業内容：鉄道ネットワークの世界的拡大
	事前学修：インターネット等を活用して、鉄道の歴史を調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
10 回	授業内容：アジア人移民労働者の世界的展開
	事前学修：世界史事典やインターネット等で、苦力（クーリー）について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
11 回	授業内容：福音主義と奴隷貿易規制の展開
	事前学修：世界史事典やインターネット等で、奴隷貿易廃止について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
12 回	授業内容：武器＝労働交易規制と帝国主義
	事前学修：世界史事典等で、アフリカと太平洋の分割について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
13 回	授業内容：インド大反乱と電信ネットワークの世界的拡大
	事前学修：世界史事典等で、インド大反乱について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。
14 回	授業内容：日本の近代化、帝国主義、戦後経済
	事前学修：世界史事典等で、日本の帝国主義について調べておくこと。
	事後学修：授業内容をノートに整理し、理解しておくこと。

15 回	授業内容	まとめ
	事前学修	これまでの授業内容を確認し、ノートをよく復習しておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解すること。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商業政策 B〕

花田 哲郎

◆**授業概要** この授業では、商業政策について、初めにその対象となる世界、および日本の商業の歴史を辿り、理解したうえで、特に日本の商業政策に絞ってその歴史を概観する。次に現在、色々な課題に直面する商業に関して、地域活性化に焦点を絞り、マーケティング、経営管理、および経営戦略の領域からその達成のために必要とされる知識や手法を習得する。その上で、2030 年と 2050 年という具体的な将来を見据えた地域活性化に関して、現在の事例や一般的に各地域に賦存する資源の利用の可能性を検討し、新たな商業政策の姿を考えていく。

◆**学修到達目標** 商業について、歴史や政策、課題などについて理解し、説明できるようにするとともに、現在直面する地域の活性化に取り組み組織における経営学的な知識を持ち、地域活性化に関する提言ができるようにする。

◆**授業方法** 主にパワーポイントで作成した教材をもとに説明する。また必要に応じて資料の配布や紹介も行う。特に学生よりの質問への回答や議論により、授業内容の幅を広げる。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** 丸沼『マーケティング基礎の基礎（改訂新版）』花田哲郎・瀬川順弘著 樫の木書房 2021 年
資料配布（Classroom）都度

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 各回の最後に実施する簡単な授業内レポートと試験の結果を総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）**：Google Classroom、およびメールで行う。尚、このためのメアドは初回に連絡する。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	導入（前期後期を通した本講座の構成、学修に当たっての諸注意など）
	事前学修	不要
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。
2 回	授業内容	世界の商業の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
3 回	授業内容	世界の商業の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
4 回	授業内容	日本の商業の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
5 回	授業内容	日本の商業の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
6 回	授業内容	日本の商業の歴史(3)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
7 回	授業内容	日本の商業の歴史(4)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
8 回	授業内容	日本の商業政策の歴史(1)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
9 回	授業内容	日本の商業政策の歴史(2)
	事前学修	高等学校で使用した世界史や日本史の教科書などの書籍の該当箇所（世界の商業の歴史、日本の商業の歴史、および日本の商業政策の歴史）を事前に読み理解する。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。
10 回	授業内容	街づくり 3 法の歴史と概要
	事前学修	事前に資料を配布するので、熟読すること。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次の授業までに明確にする。

11 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(1)ー従来の販売との違い
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
12 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(2)ーマーケティングミックスと戦略、STP
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
13 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(3)ーマッカーシーの4P
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
14 回	授業内容	地域活性化のためのマーケティング基礎(4)ーブランド
	事前学修	指定する教科書の該当部分を読み理解しておくこと。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。
15 回	授業内容	前期のまとめと期末試験
	事前学修	今までの講義内容を確認したものとする。不明点があれば当日質問できるように準備しておく。
	事後学修	講義内容をノートなどで確認する。不明点があった場合には、Google Classroom、もしくはメールにて質問し、次回の授業までに明確にする。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経営学 B〕

所 伸之

◆**授業概要** 授業では経営学の基本的な理論や考え方を分かり易く解説する。経営学は企業活動を分析対象としており、実践的な性格を有しているが、実際の事象を深く理解するためには理論的なフレームワークを持つことが必要である。経営学では戦略、組織、人的資源等の領域において数多くの理論が構築されており、それらを理解することは現実の企業活動を分析する上で有益である。授業では、具体的な事例を取り上げながら戦略、組織、人的資源等における企業行動を解説する。

◆**学修到達目標** 1. グローバリゼーションにおける企業の行動について、戦略論の理論的なフレームワークを用いて説明することができる。 2. 日本企業が現在、抱えている問題点を組織論や人的資源管理の視点から説明することができる。 3. 企業の社会的責任の問題や企業が何故、社会的課題に取り組む必要があるのか等の問いに対して、抽象的や理念的な答えではなく、具体的、理論的に説明することができる。 4. 企業活動について独自の視点を持つことが出来るようになる。

◆**授業方法** 授業は「オンデマンド」方式で行うため、受講生は毎回、30～40分程度の授業内容に関する「動画」を視聴することになる。「動画」は当該週の授業時間の前に掲載し、原則として1週間後には削除する。受講生は「動画」を視聴した後、「動画」の中で指示された「課題」の作成に取り組むことになる。「課題」の作成にあたっては、授業内容を参考にしながら様々な資料やデータに当たり、論点をきちんと整理した上で指定された文字数でまとめることになる。課題の提出期限については「動画」の中で指定するので、定められた期限までに「課題」を提出すること。

◆**履修条件** なし

◆**教科書** なし

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 本授業では受講生に対して毎回、レポート課題を課し、定められた期限内に提出することを求めている。レポート課題の評価に当たっては、レポートの内容（論理的展開、結論の明瞭さ、適切な資料・データの引用、誤字脱字の少なさ等）および定められた提出期限内に提出されているか否かが評価基準となる。従って成績評価においてはレポート課題が100%の比重を占めることになる。

◆**授業相談（連絡先）**：授業に関する質問は次のメールアドレスにすること。Tokoro.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	ガイダンス
	事前学修	「オンデマンド」方式で授業を行うため、授業の進め方や課題の作成、提出方法等について事前にシラバスで確認しておくこと。また、授業で取り上げる内容についても事前にシラバスで確認しておくこと。
	事後学修	ガイダンスで説明した内容について十分に理解したかどうかの確認作業を行うこと。その上で、疑問点があればシラバスに記載された連絡先に問い合わせを行い、当該授業についての疑問点の解消に努めること。
2 回	授業内容	現代産業社会の特質（経済のソフト化、情報化、国際化、高齢化）
	事前学修	事前に google classroom に掲載された「資料」に目を通し、「動画」を視聴する前に当該週の授業内容についてある程度理解しておくこと。
	事後学修	経済のソフト化、情報化、国際化、高齢化等のキーワードについて復習するとともに、関連事項を調べることでより理解を深めること。
3 回	授業内容	株式会社の仕組み（株主の利益、株主総会、株主と経営者の関係）
	事前学修	インカム・ゲイン、キャピタル・ゲイン、株主総会の権限等、専門的な内容を取り上げるので、これらの事項について事前に調べ理解しておくこと。
	事後学修	株式会社の仕組みについて理解できたかどうかを今一度チェックし、その特徴について整理すること。
4 回	授業内容	所有と経緯の分離
	事前学修	所有と経営の分離は現代企業の重要な特質であり、google classroom に掲載された「資料」に目を通し、その内容について理解しておくこと。
	事後学修	所有と経営の分離について今一度、内容を復習し、その功罪について考察してみることに。
5 回	授業内容	企業の目的と経営目標
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、各ステークホルダーにより企業活動の目的が異なるということを理解しておくこと。
	事後学修	授業内容を今一度整理し、関連事項を調べることで企業活動の目的や企業により経営目標が異なることへの理解をより深めること。
6 回	授業内容	競争戦略
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、独占状態あるいは寡占状態の市場における経営戦略の意味について考えておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、経営戦略の本質は自由競争市場における競争戦略であることを関連資料に当たりながら調べることに。
7 回	授業内容	価格戦略
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、低価格戦略のポイントや価格カルテルについて調べておくこと。
	事後学修	低価格戦略の危険性について、レッドオーシャン、ブルーオーシャンの考え方を参考にしながら整理しておくこと。
8 回	授業内容	市場開拓戦略
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、「現地化」や「イメージ戦略」の考え方について調べておくこと。
	事後学修	海外市場の開拓や新規顧客の獲得における課題について整理しておくこと。
9 回	授業内容	製品開発戦略
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、プロダクト・ライフサイクルの考え方について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を参考にしながら、様々なヒット商品に関してそれらがヒットした要因について考察してみることに。
10 回	授業内容	多角化戦略
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、多角化のための手段にはどのようなものがあるのかを調べておくこと。
	事後学修	PPM や M&A について、関連資料に当たりながら今一度、内容を整理しておくこと。

11 回	授業内容	組織形態
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、組織の基本構成要素について調べておくこと。
	事後学修	ライン、スタッフ、権限と責任、集権型、分権型等、組織の基本的な要素について組織の具体的な事例に基づいて理解を深めておくこと。
12 回	授業内容	動機づけ
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、動機づけ理論の基本的な考え方について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、動機づけ・衛生理論、XY 理論、欲求階層説について今一度、その考え方を整理しておくこと。
13 回	授業内容	意思決定
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、意思決定に関する基本的な考え方について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、意思決定理論について今一度、内容を整理しておくこと。
14 回	授業内容	企業経営の日米比較
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、日本とアメリカの企業経営のスタイルの違いについて基本的な事項を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、日米の企業経営のスタイルの違いを理解するとともに各々の長所、短所について考察してみること。
15 回	授業内容	全体のまとめ
	事前学修	これまでに授業で取り上げた内容について復習し、要点を整理しておくこと。
	事後学修	前期の授業全体を総合的に見返すとともに、重要なポイントについてまとめておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学 C〕

中澤 瞳

- ◆**授業概要** 本授業は、古代ギリシャの哲学者の思想を通して、古代西洋哲学についての一般的な知識を修得することを目的とする。
- ◆**学修到達目標** この授業の目標は、古代ギリシャの哲学者を代表する、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの基本的な考え方を説明することができるようになることである。また、哲学者の考え方を理解し、自分ひとりでも考えることができるようになることも目標とする。授業計画の事後学修の個所に、授業内容に関連する参考文献を挙げているので、自分ひとりで考える際には参照してほしい（なお、授業回の内容と参考文献が直接対応しているわけではない）。
- ◆**授業方法** 本授業は講義形式で行う。受講者は各自で事前に教科書を読んでおくこと。授業計画を目安にして読み、一度に教科書すべてを読まなくてもよい。また、複数回の課題に取り組んでもらう。
- ◆**履修条件** 令和 2 年度昼間スクーリング（前期）『哲学』とは積み重ね不可。
- ◆**教科書** 丸沼『初級者のためのギリシャ哲学の読み方・考え方』左近司祥子 大和書房 1997 年
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 課題の提出（40%）、レポート試験（60%）により総合的に評価する。なお、評価を行う際には、毎回出席票を提出していることを前提とする。
- ◆**授業相談（連絡先）**：授業相談は、Google Classroom にて受け付ける。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス（授業の内容の概要の説明、最終日に行う授業内試験の説明）、哲学とはどのような学問なのかについての説明
	事前学修	教科書 pp. 3-13（プロローグ）に目を通す。また時間に余裕があれば、教科書 pp. 22-44（第 1 章いちばんさいしょの哲学者）にも目を通す。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2 回	授業内容	自然哲学について（自然哲学とはどのような背景のもと生まれたのか、自然哲学者たちにはどのような人たちがいるのか、どのようなことを考えていたのかを説明する。）
	事前学修	教科書 pp. 22-44（第 1 章いちばんさいしょの哲学者）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ギリシア哲学者列伝』や『ソクラテス以前の哲学者』などを読み、自然哲学について説明できるようにする。
3 回	授業内容	ソクラテスについて 1（ソクラテス 1, 2 を通じて、ソクラテスの思想の背景と、その内容を説明する。参考文献はソクラテス 2 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第 2 章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテス』、『ソフィストとは誰か』、『哲学の饗宴』、『ギリシア哲学入門』などを読み、ソフィストやソクラテスの人物像について説明できるようにする。
4 回	授業内容	ソクラテスについて 2（参考文献はソクラテス 1 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 46-97（第 2 章ソクラテスとは何者か）に目を通す。
	事後学修	参考文献『ソクラテスの弁明』や『クリトン』、『パイドン』、『ソクラテスの思い出』などを読み、ソクラテスの思想について説明できるようにする。
5 回	授業内容	プラトンについて 1（プラトン 1～4 を通じて、プラトンの思想の背景、プラトンの徳倫理、イデア論について説明する。参考文献はプラトン 2, 3, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン』やプラトンの著作を読み、ソクラテスとの関係や、プラトンの思想の背景を説明できるようにする。
6 回	授業内容	プラトンについて 2（参考文献はプラトン 1, 3, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『現代思想としてのギリシア哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
7 回	授業内容	プラトンについて 3（参考文献はプラトン 1, 2, 4 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトンの哲学』やプラトンの著作を読み、プラトンの政治思想や徳倫理について説明できるようにする。
8 回	授業内容	プラトンについて 4（参考文献はプラトン 1, 2, 3 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 100-184（第 3 章プラトンの思想的挑戦）に目を通す。
	事後学修	参考文献『プラトン哲学への旅』、『プラトンを学ぶ人のために』やプラトンの著作を読み、プラトンのイデア論について説明できるようにする。
9 回	授業内容	アリストテレスについて 1（アリストテレス 2～6 を通じて、アリストテレスの思想の背景、自然学、倫理学について説明する。参考文献はアリストテレス 2～6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
10 回	授業内容	アリストテレスについて 2（参考文献はアリストテレス 1, 3, 4, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『ヨーロッパ思想入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
11 回	授業内容	アリストテレスについて 3（参考文献はアリストテレス 1, 2, 4, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学の 10 冊』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
12 回	授業内容	アリストテレスについて 4（参考文献はアリストテレス 1, 2, 3, 5, 6 にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第 4 章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。

13 回	授業内容	アリストテレスについて5（参考文献はアリストテレス1, 2, 3, 4, 6にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『西洋哲学史』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスの思想について調べる。
14 回	授業内容	アリストテレスについて6（参考文献はアリストテレス1, 2, 3, 4, 5にも対応する。）
	事前学修	教科書 pp. 186-261（第4章アリストテレスの精密思考「新たに登場した哲学の三つの派」の前まで）にも目を通す。
	事後学修	参考文献『アリストテレス倫理学入門』やアリストテレスの著作を読み、アリストテレスとプラトンの違いについて説明できるようにする。
15 回	授業内容	レポート作成・提出
	事前学修	これまでの授業を振り返り、古代ギリシャの代表的な哲学者たちの考え方を整理する。
	事後学修	古代ギリシャ哲学の概説書を通読し、それぞれの哲学者の要点を復習する。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔社会学 B〕

服部 慶亘

◆**授業概要** 人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。担当者が中学・高校の教員として学校生活や進路選択に悩む生徒たちに触れた経験や、担当者自身の人生経験を理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「人間とストレス」というテーマについて考えてゆく。

◆**学修到達目標** 「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？ そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会（科）学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。

◆**授業方法** GoogleClassroom を介したオンデマンド授業となるが、教科書・プリントなどを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて音楽や映像作品、マンガなど視聴覚資料を別途用意する。また、オンデマンドではあるが、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆**履修条件** 同時期（前期）開講の「社会学 A」との積み重ね履修不可。

◆**教科書** 丸沼『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか）学文社 1999
丸沼『改訂ストレス・スパイラル』服部慶亘 新協（ジャパン・プレス・フォト）2020
※すでに『補強版ストレス・スパイラル』を所有している人は、それを使用します。

◆**参考書** 資料配布（Classroom）プリント配布（GoogleClassroom 使用時）

◆**成績評価基準** オンデマンド授業になるので、講義用動画の配信後に毎回「課題」の提出が求められる。（50%）
15 回の授業後、「最終課題」が提示される。（50%）
なお、「課題」の未提出があると GoogleClassroom のシステム上「相当な」減点処理が為されるので、気をつけること。

◆**授業相談（連絡先）**：オンデマンド授業の際は、GoogleClassroom の「限定公開コメント欄」を使用する。
全期間通じて E メール（hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jp）での対応も可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：前期ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する）
	事前学修：シラバスと講義用資料を読んで、講義の目的・目標を理解する。
	事後学修：テキストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2 回	授業内容：状況（情況）判断① 「レディネス」(readiness) について
	事前学修：前回の講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3 回	授業内容：状況（情況）判断② 疑似環境と状況（情況）的影響
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4 回	授業内容：社会的自我① 鏡に映った自我
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5 回	授業内容：社会的自我② 主我と客我、そして Let It Go
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6 回	授業内容：社会的自我③ 行為と行動
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7 回	授業内容：状況（情況）判断と社会的自我 コロナ禍の世界を生きること
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8 回	授業内容：社会的動物としての人間① 「社会」とは？
	事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
9 回	授業内容：社会的動物としての人間② 「福祉」の早産
	事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10 回	授業内容：社会的動物としての人間③ 生理的早産
	事前学修：これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11 回	授業内容：社会的動物としての人間（特別篇） SNS と社会問題
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12 回	授業内容：ストレスと社会① ストレス (stress) の理解
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13 回	授業内容：ストレスと社会② リセット／リロード、防衛機制
	事前学修：前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修：講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。

14回	授業内容	ストレスと社会③ 日本人が好意的に受け容れる「絆」について考える
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
15回	授業内容	理解度確認（まとめ）
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。
	事後学修	「最終課題」に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。

◆授業概要

本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② 「進行形」の各種用法を知る（文献精読）。
- ③ 疑問点等を整理する。
- ④ 進行形にみられる多彩な特徴を体系的に理解する。

◆学修到達目標

本授業では、次の能力育成を目指します。

- (a) 論文の構成を理解し、説明することができる。
- (b) 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- (c) 疑問を捻出することができる。
- (d) 体裁の整った読みやすいレポートを作成することができる。

◆授業方法

本授業は「オンデマンド授業」となります。Google Classroom 上に公開される授業動画を視聴し、その後、課題に取り組み、期限までに課題を提出してください（課題がない授業回もあります）。授業内容で不明な点がある場合、Google Classroom 上に質問を受け付ける場所を用意しておきますので、そちらに質問を書き込んでください。Google Classroom は定期的に確認するようにしてください。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（前期）『英語学演習』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題（100%）※全課題の3分の2以上提出していることを前提に総合的に評価する。

◆教科書

適宜、Google Classroom で資料を配布します。

◆参考書

大学生・社会人向けの辞書を用意してください。2003 年以降に発行された辞書が望ましいです。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上にて行ないます。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	ガイダンス（講座内容（シラバス）の確認、辞書について、論文とは何かを知る） 依頼表現 Will you ~? / Can you ~? / Would you ~? / Could you ~? についての概要説明
	事 前 学 修	本授業のシラバスを熟読しておくこと 授業資料を Google Classroom から入手し、目を通しておくこと（資料がない回もある）
	事 後 学 修	論文とは何かを正しく理解しておくこと 依頼表現について復習しておくこと
2 回	授 業 内 容	論文を読む 柏野（2002）：「ポライトネスの一側面」
	事 前 学 修	授業資料を Google Classroom から入手し、目を通しておくこと（資料がない回もある）
	事 後 学 修	論文の構成、話の展開、論法などを再度確認しておくこと
3 回	授 業 内 容	進行形の各種用法（§0, §1） 文献の読み方（類似点と相違点の確認）
	事 前 学 修	配布資料の 0 節および 1 節を精読（和訳）しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
4 回	授 業 内 容	進行中の状況（§2.1） 状態動詞 be の進行形（§2.2）
	事 前 学 修	配布資料の 2.1 節、2.2 節を精読（和訳）しておくこと Question 1, 2 を考えておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
5 回	授 業 内 容	Question 1 の解説 思考や知覚を表す状態動詞の進行形（§2.3）
	事 前 学 修	配布資料の 2.3 節を精読（和訳）しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉

◆授業計画

6回	授 業 内 容	N.B. 4 の解説 未完了性 (§2.4)
	事 前 学 修	配布資料の 2.4 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
7回	授 業 内 容	Question 3 の解説 未完了性: 「到着」、「停車」 (§2.4.1) 英語の「be -ing」と日本語の「～ている」の違い
	事 前 学 修	配布資料の 2.4.1 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
8回	授 業 内 容	未来を表す進行形 (§2.5)
	事 前 学 修	配布資料の 2.5 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
9回	授 業 内 容	Question 4, 5 解説一定期間における継続 (§3) 時間幅の付与 (§3.1)
	事 前 学 修	配布資料の 3 節、3.1 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
10回	授 業 内 容	Question 7 解説 時間幅の制限 (§3.2) 感情の表出 (§3.3)
	事 前 学 修	配布資料の 3.2 節、3.3 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	丁寧表現としての進行形 (§3.4) i'm lovin' it. (§3.5)
	事 前 学 修	配布資料の 3.4 節、3.5 節を精読 (和訳) しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
12 回	授 業 内 容	§3.4 解説 「時間枠効果」 (§4) 「時間枠効果」の効用 (§4.2 ~ §4.4)
	事 前 学 修	授業資料を Google Classroom から入手し、目を通しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
13 回	授 業 内 容	アスペクトと動詞の種類 (§5) アスペクト (§5.1)、動詞の種類 (§5.2)、動詞の種類：状態系 (§5.2.1)
	事 前 学 修	授業資料を Google Classroom から入手し、目を通しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
14 回	授 業 内 容	動詞の種類：動態系 (§5.2.2 ~ §5.2.5)
	事 前 学 修	授業資料を Google Classroom から入手し、目を通しておくこと
	事 後 学 修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
15 回	授 業 内 容	参考文献について、文献の調べ方について
	事 前 学 修	これまでの学修を総復習しておくこと
	事 後 学 修	期日までに課題を提出すること

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史特講Ⅱ〕

坂口 太助

◆授業概要 テーマ：「1910～20年代の世界と日本」

明治以降「欧米諸国に追いつくこと」を目標に近代化を進めた日本は、日露戦争（1904～05年）に勝利し「大国」の1つとなり、国際連盟でも中心的役割を果たしていた。しかし、満州事変（1931年）を契機として国際的な孤立へと向かうことになる。本講義では、「大国」となった日本がどのように世界とかわり、なぜ満州事変へと至ることになるのか、その過程を考えていく。

◆学修到達目標 1、近代の日本は様々な戦争（及び事変）にかかわり、その影響は現在でも残っていると言える。それらの戦争のうち、本講義で扱う日露戦争・第一次世界大戦についてその概要を理解する。

2、結果を見るだけではなく「過程」を考えることで、歴史的（実証的）な考え方・分析を行う力を養う。

3、国際環境を把握し、そのうえで日本が選択した進路について考えることで、「世界の中の日本」という視点から物事を見る力を養う。

◆授業方法 オンデマンド型で実施する（グーグルクラスルームにて授業動画とプリントを配信）。クラスルームの機能等を用いての質問は随時受け付けるほか、アンケート等も実施する予定。成績評価は複数回の課題（レポート）が中心となる。受講者数や状況の変化により変更となる場合もある。なお、2019（平成31、令和元）年度昼間スクーリング・前期・坂口担当「日本史特講Ⅱ」と概ね同内容のため受講希望者は注意すること。

◆履修条件 なし

◆教科書 丸沼『もういちど読む山川日本近代史』鳥海靖 山川出版社 2013年

◆参考書 授業内で紹介する。

◆成績評価基準 課題（レポート）80%、授業参画度 20%。授業参画度は授業内アンケートの内容等から判断する。

◆授業相談（連絡先）：グーグルクラスルーム上にて行う。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	ガイダンス及び総論①：この講義の目的・到達目標・評価方法等について解説するとともに、日本の「近代」という時代の概要・特徴を確認する。
	事前学修	これまでに近代史関係の講義を受講していた場合には、その内容を簡単に振り返っておくこと。
	事後学修	歴史は話が続いていくので確認・復習が大切となる。プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
2回	授業内容	総論②：第一次世界大戦という戦争と「総力戦」について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の153～155、167頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
3回	授業内容	明治時代の日本の概観①：日本の「近代化」と日清戦争の概要について確認する。
	事前学修	教科書の86～92、97～102頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
4回	授業内容	明治時代の日本の概観②：日露戦争の概要について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の103～106頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
5回	授業内容	明治時代の日本の概観③：日露戦争後「列強」の一員となった日本の状況について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の108～111頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
6回	授業内容	まとめと課題学習①：ここまでの中間のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	第1～5回のまとめとなるので、その内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じてここまでのポイントを押さえておくこと。
7回	授業内容	日露戦争後の世界と韓国併合：日露戦争後の日本を取り巻く国際環境と韓国併合の過程について考えていく。
	事前学修	第5回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の107～108頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
8回	授業内容	第一次世界大戦と日本：第一次世界大戦と日本との関わりについて考えていく。
	事前学修	第2回授業の内容と関連するためその内容・プリントを確認しておくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
9回	授業内容	辛亥革命と対華21カ条要求：第一次世界大戦中の日本の行動を、中国との問題を中心に考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の156～158頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
10回	授業内容	「5大国」日本と国際連盟：第一次世界大戦後の日本の国際的な地位・立ち位置と、国際連盟という組織について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の167～170頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
11回	授業内容	まとめと課題学習②：ここまでの中間のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	第7～10回のまとめとなるので、その内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じてここまでのポイントを押さえておくこと。
12回	授業内容	ワシントン会議と日本①：会議の概要を確認するとともに、4カ国条約・9カ国条約について考えていく。
	事前学修	第10回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の170～175頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
13回	授業内容	ワシントン会議と日本②：海軍軍縮条約と日米関係について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。

14 回	授業内容	世界恐慌から満州事変へ：世界恐慌発生後の各国の対応を，日本とドイツを中心に考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用了プリントの内容を確認しておくこと。教科書の 205 ～ 207，222 ～ 224 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
15 回	授業内容	まとめと課題学習③：授業全体のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	最後のまとめとなるので，第 12 ～ 14 回を中心にその内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じて授業の要点を再確認しておくこと。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔簿記論Ⅰ〕

青木 隆

- ◆**授業概要** この講義では、主に簿記を初めて学ぶ方を対象として、複式簿記の基礎を学びます。簿記一巡の手続を学修し、特に重要な決算手続に関して理解を深めるとともに、最終的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級の合格を目指します。講義内では可能な限り問題演習に時間を割いて、理解度を深めます。
- ◆**学修到達目標** (1)複式簿記に関する基本的な用語や概念を理解できる。(2)簿記一巡の手続を理解し、各手続において帳簿等への記入ができる。(3)精算表や財務諸表（貸借対照表および損益計算書）が作成できる。(4)日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格できる。
- ◆**授業方法** 講義形式を基本とします。また問題演習を可能な限り取り入れます。また第2回講義以降、講義の冒頭に前回の講義内容をおさらいする確認テストを行います。問題演習においては電卓が必要ですので用意しておいてください。電卓についてはどのメーカーのでも構いませんが、少なくとも 10 桁対応の電卓が望ましいです。
- ◆**履修条件** なし
- ◆**教科書** ①『検定簿記講義3級商業簿記〔最新版〕』 渡部裕巨・片山寛・北村敬子編 中央経済社
②『検定簿記ワークブック3級商業簿記〔最新版〕』 渡部裕巨・片山寛・北村敬子編 中央経済社
③資料配布 (Classroom) 授業で使用するレジュメを用意します。
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 全体の3分の2以上の出席を前提条件として学修到達目標(1)(2)(3)を評価するための試験 80%、確認テスト 20%
- ◆**授業相談（連絡先）**：担当教員の研究室のメールアドレス aoki.takashi36@nihon-u.ac.jp
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	簿記の意義としくみ① 簿記の基本的な意義としくみを説明したうえで貸借対照表の基本的な内容を説明します。
	事前学修	テキスト 1～10 ページを通読
	事後学修	ワークブック 2～4 ページを復習
2 回	授業内容	簿記の意義としくみ② 前回の授業内容を踏まえたうえで損益計算書の基本的な内容および貸借対照表と損益計算書との関係について説明します。
	事前学修	テキスト 10～18 ページを通読
	事後学修	ワークブック 4～5 ページを復習
3 回	授業内容	複式簿記における仕訳と転記① 複式簿記の基本的な構造を説明したうえで複式簿記の最初の手続きである仕訳について説明します。
	事前学修	テキスト 19～29 ページを通読
	事後学修	ワークブック 6～9 ページを復習
4 回	授業内容	複式簿記における仕訳と転記② 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳に続いて行われる転記の手続きについて説明します。
	事前学修	テキスト 29～36 ページを通読
	事後学修	ワークブック 10～13 ページ
5 回	授業内容	仕訳帳と元帳① 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳を行う帳簿である仕訳帳および転記を行う帳簿である総勘定元帳の基本的な構造について説明します。
	事前学修	テキスト 37～43 ページを通読
	事後学修	ワークブック 14～17 ページを復習
6 回	授業内容	仕訳帳と元帳② 前回の授業内容を踏まえたうえで仕訳帳への仕訳および総勘定元帳への転記の問題演習を中心に授業を行います。
	事前学修	テキスト 37～43 ページを通読
	事後学修	ワークブック 14～17 ページを復習
7 回	授業内容	基本的な決算手続① 複式簿記における決算手続のうち試算表の作成および帳簿の締切について説明します。
	事前学修	テキスト 44～60 ページを通読
	事後学修	ワークブック 18～20 ページを復習
8 回	授業内容	基本的な決算手続② 前回の授業内容の復習および精算表の作成について説明します。
	事前学修	テキスト 60～63 ページを通読
	事後学修	ワークブック 21～28 ページを復習
9 回	授業内容	現金取引の処理 現金取引に関する処理を説明するとともに現金過不足の処理についても説明します。
	事前学修	テキスト 64～71 ページを通読
	事後学修	ワークブック 29～32 ページを復習
10 回	授業内容	当座預金取引と小口現金の処理 当座預金取引に関する処理を説明するとともに小口現金の処理についても説明します。
	事前学修	テキスト 71～83 ページを通読
	事後学修	ワークブック 33～37 ページを復習
11 回	授業内容	商品売買取引の処理① 商品売買取引の処理のうち記帳方法である分記法および三分法について説明します。
	事前学修	テキスト 84～94 ページを通読
	事後学修	ワークブック 38～40 ページを復習
12 回	授業内容	商品売買取引の処理② 商品売買取引の処理のうち仕入帳、売上帳および商品有高帳について説明します。
	事前学修	テキスト 94～104 ページを通読
	事後学修	ワークブック 41～45 ページを復習

13 回	授業内容	売掛金と買掛金の処理 主に商品売買取引において生じる債権債務である売掛金および買掛金の処理について説明します。
	事前学修	テキスト 105 ～ 120 ページを通読
	事後学修	ワークブック 46 ～ 55 ページを参照
14 回	授業内容	その他の債権と債務の処理 主たる営業活動以外の活動において生じる債権債務の処理について説明します。
	事前学修	テキスト 121 ～ 137 ページを通読
	事後学修	ワークブック 56 ～ 63 ページを参照
15 回	授業内容	期末試験
	事前学修	テキストおよびレジュメを参照
	事後学修	

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔財政学 / 財政学総論〕

楠谷 清

- ◆**授業概要** 現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。
- ◆**学修到達目標** 財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。それによって財政の三大機能、財政民主主義、予算制度を説明することができる。
- ◆**授業方法** テキスト中心に講義形式の授業を行う。パワーポイント使用による講義資料をオンデマンドによって配信する。必要な資料は講義中に配布する。本授業の事前学修・事後学修は各2時間を目安としている。
- ◆**履修条件** 経済学概論をすでに履修していることが望ましい。また経済学原論を履修中であることが望ましい。
- ◆**教科書** 丸沼『財政学入門』楠谷清他 八千代出版 2020 年
資料配布 (Classroom)
- ◆**参考書** 特になし
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提にして、リアクションペーパー（小テスト）40%、期末試験 60%で評価する。
- ◆**授業相談（連絡先）**：『Classroom 上にて行う』
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	【ガイダンス、導入授業】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
2 回	授業内容	【財政とその機能】 経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、財政の機能の意義について説明できる。
	事前学修	教科書 第1章の「1. 財政と財政学の歴史」「2. 財政と資源配分機能」を読み、財政とは何か、財政学の発展過程、財政の三大機能の1つである資源配分機能の意義を考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、財政の三大機能のうち資源配分機能の意義を市場の失敗との関連づけて、自分なりの説明をまとめる。
3 回	授業内容	【財政の所得再配分機能】 資本主義経済における所得配分の決定メカニズム、所得格差の現状、財政の所得再配分機能を学習し、受講生が財政による所得再配分機能の意義を説明できる。
	事前学修	教科書 第1章の「3. 財政と所得再配分機能」を読み、所得配分の現状と財政の所得再配分機能の意義を考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得格差の推移データを参考に、格差を生じさせる原因は何か、自分なりの説明をまとめる。
4 回	授業内容	【財政の経済安定機能、現代財政の課題】 資本主義経済における景気循環を学習し、財政の経済安定機能の意義を学習する。また、日本の財政の現状を主要経費別分類の会計資料を基に学習し、財政の現状把握から日本の財政の抱える課題を考察し、経済安定機能と日本の財政の現状について説明できる。
	事前学修	教科書 第1章の「4. 財政と経済安定機能」「5. 現代財政の課題」を読み、経済安定機能の意義と日本の財政が抱える課題について、考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、財政の経済安定機能とその意義、プライマリー・バランスの黒字化目標について、自分なりの説明をまとめる。
5 回	授業内容	【予算制度1】 税や予算などの財政活動を規定する法制度を学習し財政民主主義の考え方を学習し、どのような法制度の枠組みの中で財政が営まれることによって財政民主主義が保証されているのかを考察し、受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第2章の「1. 財政民主主義」「2. 予算制度」を読み、財政民主主義の概念、税や予算などの財政活動を規定する法制度、予算の種類を考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、税や予算が法律で規定されているのはなぜかについて、自分なりの説明をまとめる。
6 回	授業内容	【予算制度2】 予算過程の仕組みを学習して、受講生はそれらを説明できる。予算作成の意義と予算編成に求められる原則について法規定との関連性を学習し、これらの意義について受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第2章の「2. 予算制度の3）予算過程」「3. 予算原則」を読み、予算過程の仕組みと予算原則について考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、予算過程の構造、通説的予算原則の内容を整理し、予算原則の意義について自分なりの説明をまとめる。
7 回	授業内容	【政府支出の理論と実際1】 政府の支出には効率性が求められるが、どのような意味で効率的と判断されるのかを学習し、どのような条件が満たされれば、政府支出は効率的となるのかに関連する経済学理論を用いて学習し、受講生が政府支出の経済的効率の意義を説明できる。
	事前学修	教科書 第3章の「1. 政府支出の理論」を読み、政府支出に求められる経済効率の意義について考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、公共財の最適供給と地方分権の関係について、自分なりの説明をまとめる。
8 回	授業内容	【政府支出の理論と実際2】 わが国の一般会計予算における経費の分類方法、経費構造、主要経費の構造の特徴を学習し、これらを受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第3章の「3. 政府支出の構造」「4. 主要な経費 1）～3）」を読み、わが国の経費の分類及び経費の特徴と問題点について考察する。
	事後学修	わが国の政府支出の構造と歴史的な移り変わり（戦中→戦後→現在）を、予算の主要経費別分類に基づいて自分なりの説明をまとめる。

9回	授業内容	【政府支出の理論と実際3】 主要経費の構造の特徴を学習し、これらを受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第3章の「4. 主要な経費 4) その他の経費」を読み、わが国の経費の特徴と問題点について考察する。
	事後学修	財政の機能と日本財政の経費との関係について自分なりの説明をまとめる。
10回	授業内容	【租税の役割と租税原則】 租税の果たす役割、現代の租税原則について学習し、それらの意義を受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「1. 税の役割と租税原則」を読み、その意義について考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、スミスとワグナーの租税原則の相違点を指摘し、相違点を両者の活躍した時代背景から捉え、自分なりの説明をまとめる。
11回	授業内容	【公平な税とは】 租税の根拠論から導かれる税負担配分の応益原則及び応能原則の意義について学習し、公平な課税を実施する際、受講生が課税には応益原則に基づくものと応能原則に基づく思想の違いがあることを説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則」を読み、その意義について考察する。
	事後学修	講義ノートや講義資料を確認して、消費税を応益原則と応能原則から評価考察する。
12回	授業内容	【累進税・比例税・逆進税／水平的公平・垂直的公平／累進税の理論的根拠】 累進税・比例税・逆進税／水平的公平・垂直的公平の各概念と累進税の理論的根拠を学習し受講生がそれらの概念を具体的に説明でき、また、累進税の理論的根拠を説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則」を読み、累進税の理論的根拠とされる均等犠牲の理論について考察する。
	事後学修	講義ノートや講義資料を確認して、垂直的公平が累進税によって確保されることを自分なりの説明をまとめる。
13回	授業内容	【転嫁と帰着】 間接税（消費税）の転嫁と帰着を学習し、税の実際の負担が市場の状況によって異なることを考察し、受講生が完全転嫁と部分転嫁の違いが需要の価格弾力性に起因することを説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 2) 租税の帰着と転嫁 3) 消費税と転嫁」を読み、その意義について考察する。
	事後学修	1989年に、日本が消費税を導入した際、物品税が廃止された。このような間接税の改革は経済効率の改善につながるといわれるが、この点について自分なりの説明をまとめる。
14回	授業内容	【日本の税制（所得税）】 日本の租税構造を主要国の構造と比較して日本の租税構造の特徴を学習する。さらに、わが国の所得税の仕組みと特徴について学習し、受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「4. 日本の租税構造」「5. 所得税」を読み、その構造と特徴について考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得税の特徴を税率構造、課税最低限、超過累進税などの点から自分なりの説明をまとめる。 初回からの授業ノートや配布資料事後学修を見直して整理し、期末試験に向けた準備をする。
15回	授業内容	【日本の税制（消費税）】 わが国の消費税の仕組み及びメリット・デメリットを学習し、受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第4章の「6. 消費税」を読み、その構造と特徴、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化、格差拡大の現状等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。